長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

ETTYŪKUBO－SITE

越中久保遺跡

中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2002.3
長坂町教育委員会
峡北地域振興局農務部

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

ETTYŪKUBO—SITE

越中久保遺跡

中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2002.3

長坂町教育委員会

峡北地域振興局農務部

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所以上遺跡のある密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は、平成11年度に中山間地域総合整備事業に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した越中久保遺跡の発掘調査報告書です。越中久保遺跡では縄文時代の住居跡、土坑などが発見されました。発掘調査事例の少ない中丸地内において縄文集落の一部が調査されたことは、この地域の歴史を解明する上で貴重な報告となりました。

最後に、越中久保遺跡の調査にあたり、格別なご理解をいただいた中丸地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2002年３月

長坂町教育委員会
教育長　瀬戸龍徳

例　　言

1．本書は、1999（平成11）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町中丸字越中久保地内に所在する越中久保遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、中山間地域総合整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北土地改良事務所（当時、現在は山梨県峡北地域振興局農務部）より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。

3．本書の執筆・編集は小宮山隆・吉田光雄が行った。

4．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関に委託した。

基準点測量　㈱新生測量
空中写真測量　㈱シン技術コンサル
自然科学分析　㈱パリノ・サーヴェイ

5．遺構の写真撮影は小宮山が行い、遺物の撮影は吉田が行った。

6．本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

7．発掘調査および報告書作成にあたっては、多くの方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。

凡　　例

1．掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構　調査区全体図：1/100
　　住居跡：1/60
　　土　坑：1/30
遺物　縄文土器：1/3または1/4
　　石鏃・石錐・石匙・楔形石器・二次加工剥片・石製品・古銭：2/3
　　磨製石斧・打製石斧・敲石等・石皿・石棒：1/3

2．遺構図版中の遺物分布図のマークは各図版中に示してある。

3．遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

4．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

5．図1は、株式会社写測2000年調整、1/25,000長坂町全図（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの）を基に作成した。

6．調査区のグリッド方眼は、旧座標値を基に設定している。

越中久保遺跡　目次

序
例言・凡例
本文目次
図版目次
表目次
写真図版目次
付編１表他目次
付編２表他目次
第１章　調査の経過と概要……1
　第１節　発掘調査に至る経過……1
　第２節　発掘調査の概要……1
　第３節　発掘調査組織……1
第２章　遺跡の立地と環境……2
　第１節　地理的環境……2
　第２節　歴史的環境……2
　第３節　基本層序……2
第３章　遺構と遺物……2
　第１節　竪穴住居跡……2
　第２節　掘立柱建物跡……3
　第３節　集　　石……4
　第４節　土　　坑……4
　第５節　溝……5
　第６節　遺物集中区……5
　第７節　遺構外出土遺物……5
第４章　ま　と　め……6
参考文献……6
付編１：越中久保遺跡の自然科学分析……7
付編２：越中久保遺跡出土土器の胎土分析……22

表　目　次

表１　周辺遺跡一覧表……27
表２　竪穴住居跡一覧表……125
表３　掘立柱建物跡一覧表……125
表４　土坑一覧表……125
表５　ピット一覧表……126
表６　土器観察表……127
表７　土製円盤一覧表……130
表８　土製品一覧表……130
表９　石器観察表……131
表10　鉄製品……130
表11　煙管……130
表12　木製品……130
表13　磁器・陶器……130
表14　銭貨……130
表15　簪……130

図 版 目 次

図１　周辺遺跡……27
図２　遺跡の位置と周辺地形……28
図３　調査区全体図……29・30
図４　調査区地形図……31
図５　基本層序……32
図６　１号住居跡実測図……33
図７　１号住居跡炉検出状況、遺物分布……34
図８　２号住居跡実測図、炉検出状況……35
図９　２号住居跡遺物・炭化材出土状況……36
図10　２号住居跡埋甕出土状況、遺物分布……37
図11　３号住居跡実測図……38
図12　３号住居跡遺物分布……39
図13　３号住居跡遺物出土状況、時期別土器分布……40
図14　４号住居跡実測図　埋甕出土状況、炉検出状況……41
図15　４号住居跡遺物出土状況……42
図16　１・２号掘立柱建物跡……43
図17　１号集石……44
図18　１～８号土坑……45
図19　14号土坑……46
図20　14・15号土坑……47
図21　14・15・17・18号土坑……48
図22　18～20号土坑……49
図23　21～24号土坑……50
図24　24・25号土坑……51
図25　25・26号土坑……52
図26　27～31・39号土坑……53
図27　32・34・40号土坑、ピット１～12……54
図28　１号溝、１号遺物集中区出土状況……55
図29　１・２号遺物集中区出土状況……56
図30　１号遺物集中区全遺物分布……57
図31　１号遺物集中区時期別土器分布(1)……58
図32　１号遺物集中区時期別土器分布(2)……59
図33　２号遺物集中区全遺物分布……60
図34　２号遺物集中区時期別土器分布(1)……61
図35　２号遺物集中区時期別土器分布(2)……62
図36　Ｉ－３・Ｉ－４・Ｉ－５グリッド周辺遺物分布…63
図37　１号～３号住居跡出土土器……64
図38　３号住居跡出土土器……65
図39　４号住居跡、土坑出土土器(1)……66

図40　土坑出土土器(2)……67
図41　土坑出土土器(3)……68
図42　土坑出土土器(4)……69
図43　土坑出土土器(5)……70
図44　土坑出土土器(6)……71
図45　土坑出土土器(7)……72
図46　土坑出土土器(8)、ピット出土土器
　　1号遺物集中区出土土器(1)……73
図47　1号遺物集中区出土土器(2)……74
図48　1号遺物集中区出土土器(3)……75
図49　1号遺物集中区出土土器(4)……76
図50　1号遺物集中区出土土器(5)……77
図51　1号遺物集中区出土土器(6)、
　　2号遺物集中区出土土器(1)……78
図52　2号遺物集中区出土土器(2)……79
図53　2号遺物集中区出土土器(3)……80
図54　2号遺物集中区出土土器(4)……81
図55　2号遺物集中区出土土器(5)、
　　遺構外出土土器(1)……82
図56　遺構外出土土器(2)……83
図57　遺構外出土土器(3)……84
図58　遺構外出土土器(4)……85
図59　遺構外出土土器(5)……86
図60　遺構外出土土器(6)……87
図61　遺構外出土土器(7)……88
図62　遺構外出土土器(8)……89
図63　遺構外出土土器(9)……90
図64　遺構外出土土器(10)……91
図65　遺構外出土土器(11)……92
図66　遺構外出土土器(12)……93
図67　遺構外出土土器(13)……94
図68　遺構外出土土器(14)……95
図69　遺構外出土土器(15)……96
図70　遺構外出土土器(16)……97
図71　遺構外出土土器(17)……98
図72　遺構外出土土器(18)……99
図73　遺構外出土土器(19)……100
図74　遺構外出土土器(20)……101
図75　遺構外出土土器(21)……102
図76　遺構外出土土器(22)……103
図77　遺構外出土土器(23)……104
図78　土製円盤、土製品、石製品……105
図79　出土石器(1)……106
図80　出土石器(2)……107
図81　出土石器(3)……108
図82　出土石器(4)……109
図83　出土石器(5)……110
図84　出土石器(6)……111
図85　出土石器(7)……112
図86　出土石器(8)……113
図87　出土石器(9)……114
図88　出土石器(10)……115
図89　出土石器(11)……116
図90　出土石器(12)……117
図91　出土石器(13)……118
図92　出土石器(14)……119
図93　出土石器(15)……120
図94　出土石器(16)……121
図95　鉄製品、煙管、木製品、磁器、陶器、銭貨、簪……122
図96　時期別土器分布(1)……123
図97　時期別土器分布(2)……124

写真図版目次

図版1　越中久保遺跡調査区全景
図版2　1号住居跡
図版3　1号住居跡上層遺物出土状況
図版4　1号住居跡炉
図版5　2号住居跡（東から）
図版6　2号住居跡炭化材・遺物出土状況（東から）
図版7　2号住居跡炉（東から）
図版8　2号住居跡埋甕
図版9　2号住居跡炭化材
図版10　3号住居跡（南から）
図版11　3号住居跡遺物出土状況
図版12　3号住居跡上層遺物出土状況
図版13　3号住居跡1号土坑
図版14　4号住居跡（東から）
図版15　4号住居跡炉
図版16　4号住居跡埋甕
図版17　1号掘立柱建物跡（北から）
図版18　2号掘立柱建物跡
図版19　トータルステーション作業風景
図版20　1号土坑
図版21　2号土坑
図版22　3号土坑
図版23　7号土坑
図版24　8号土坑
図版25　13号土坑
図版26　14号土坑

図版27　14号土坑礫出土状況
図版28　14号土坑遺物出土状況
図版29　15号土坑
図版30　15号土坑礫出土状況
図版31　15号土坑遺物出土状況
図版32　14・15・17号土坑
図版33　16号土坑
図版34　17号土坑
図版35　18号土坑
図版36　18号土坑上層礫出土状況
図版37　19号土坑
図版38　20号土坑
図版39　21号土坑
図版40　22号土坑
図版41　23号土坑
図版42　24号土坑
図版43　24号土坑遺物出土状況
図版44　25号土坑
図版45　25号土坑遺物出土状況
図版46　26号土坑
図版47　27号土坑
図版48　28号土坑
図版49　29号（下）・30号（上）土坑
図版50　31号土坑
図版51　32号（上）・37号（下）土坑
図版52　40号土坑
図版53　40号土坑礫出土状況
図版54　1号溝
図版55　1号遺物集中区
図版56　1号遺物集中区出土状況
図版57　2号遺物集中区出土状況(1)
図版58　2号遺物集中区出土状況(2)
図版59　2号遺物集中区出土状況(3)
図版60　秋田小学校体験発掘
図版61　英和中学・高校体験発掘
図版62　発掘調査作業員一同
図版63　1号住居跡上層出土土器
図版64　2号住居跡埋甕
図版65　3号住居跡上層出土土器
図版66　3号住居跡出土土器
図版67　4号住居跡埋甕
図版68　14号土坑出土土器(1)
図版69　14号土坑出土土器(2)
図版70　14号土坑出土土器(3)
図版71　25号土坑出土土器
図版72　1号遺物集中区出土土器(1)
図版73　1号遺物集中区出土土器(2)
図版74　1号遺物集中区出土土器(3)
図版75　2号遺物集中区出土土器(1)
図版76　2号遺物集中区出土土器(2)
図版77　2号遺物集中区出土土器(3)
図版78　2号遺物集中区出土土器(4)
図版79　遺構外出土土器(1)
図版80　遺構外出土土器(2)
図版81　遺構外出土土器(3)
図版82　遺構外出土土器(4)
図版83　遺構外出土土器(5)
図版84　遺構外出土土器(6)
図版85　遺構外出土土器(7)
図版86　遺構外出土土器(8)、土製品
図版87　土製品、軽石製品
図版88　土製円盤
図版89　出土石器(1)
図版90　出土石器(2)
図版91　出土石器(3)
図版92　出土石器(4)
図版93　出土石器(5)
図版94　出土石器(6)
図版95　出土石器(7)
図版96　出土石器(8)
図版97　出土石器(9)
図版98　出土石器(10)
図版99　出土石器(11)
図版100　出土石器(12)
図版101　出土石器(13)
図版102　出土石器(14)
図版103　出土石器(15)
図版104　出土石器(16)
図版105　出土石器(17)
図版106　出土石器(18)
図版107　出土石器(19)
図版108　出土石器(20)
図版109　出土石器(21)
図版110　出土石器(22)
図版111　出土石器(23)
図版112　鉄製品、煙管、銭貨、簪

付編1
表1　放射性炭素年代測定結果……15
表2　テフラ分析結果……15

表３　珪藻分析結果……16
表４　花粉分析結果……17
表５　植物珪酸体分析結果……17
表６　樹種同定結果……21
表７　炉址内試料の植物珪酸体分析結果……20
表８　木製品の樹種同定結果……21
表９　土壌理化学分析結果……21
図１　主要珪藻化石群集……17
図２　東側堰壁の植物珪酸体群集……17
図３　炉試料の植物珪酸体群集……20
図版１　テフラ……15
図版２　珪藻化石・花粉分析プレパラート内の状況…18
図版３　植物珪酸体……19
図版４　炭化材・種実遺体……20

付編２

表１　重鉱物分析結果……23
表２　土器の分類と胎土……24
図１　胎土重鉱物組成……24
図版１　胎土中の重鉱物(1)……25
図版２　胎土中の重鉱物(2)……26

第１章　調査の経過と概要

第１節　発掘調査に至る経過

山梨県峡北土地改良事務所（当時：以下、土地改良事務所）は、八ヶ岳南麓における農村環境基盤整備を目的とした中山間地域総合整備事業（以下、中山間事業）を推進しており、1998（平成10）年、長坂町に対し事業案を提示した。事業案では複数の埋蔵文化財包蔵地が含まれていることから、土地改良事務所と町産業課の事業サイドと県および町の教育委員会とで、これら埋蔵文化財の保護策について協議した。その中において、同町中丸字越中久保地内に予定された鳥久保地区圃場整備事業予定地で、埋蔵文化財包蔵地の可能性があるため、試掘調査をする必要があるとし、同年試掘調査を実施し、包蔵地であることが確認された。そして翌年の1999(平成11)年に発掘調査を町教委が実施することとなった。

1999（平成11）年４月に土地改良事務所から県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘の通知が提出されるとともに、土地改良事務所と長坂町との間に発掘調査費に関する負担協定を締結し、同年４月に発掘調査を開始した。発掘調査は約７ヶ月を要し1999（平成11）年11月20日に県教育長あてに調査終了報告、長坂警察署長あてに埋蔵物発見届をそれぞれ提出した。整理作業は2000（平成12）年度実施し、報告書は2001（平成13）年度末の2002（平成14）年３月をもって刊行した。

第２節　発掘調査の概要

今回の調査区は、越中久保溜池の東側にある田んぼが圃場整備事業対象地であり、試掘調査で遺構が確認されたところに設定した。中央やや南寄りに水路が流れており、それより北側をⅠ区、南側をⅡ区とし、発掘調査を行った。圃場整備事業のため調査面積は広く、Ⅰ区が3,969㎡、Ⅱ区が379㎡、合計4,348㎡である。

調査区に発掘調査・遺構測量の基準として10m間隔のグリッド細部杭を設定した。グリッドの南から北へA～K、西から東へ０～10の番号をそれぞれ付けた。

調査は、表土を大型重機で除去したのち、人力で包含層を掘り下げていった。出土遺物は原位置のまま光波測量機で記録し、必要に応じて写真撮影を行った。

遺構は平面形を確認した後、土層観察用の畦を残しながら人力で掘り下げ、土層断面図や遺構平面図･立面図･遺物出土状況図などを光波測量機で測量したり、平板あるいは簡易遣り方で手実測したりした。また、作業工程に合わせ遺構の写真撮影を行った。全体図作成は㈱シン技術コンサルに委託し、空中撮影及び図化を行った。

Ⅰ区から、多くの遺構と遺物が出土した。縄文時代中期後半の竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡２棟、土坑30基、ピット202基、溝２条が発見され、縄文時代早期～後期の土器・土製品・石器等が出土した。

Ⅱ区からは縄文時代中期後半の竪穴住居跡１軒が発見され、縄文時代中期～後期の土器・石器が出土した。Ⅰ区と比べると遺構・遺物とも少なかった。両調査区の出土遺物は合わせて整理箱約80箱分にも上り、膨大な量であった。また、近代以降の陶磁器・煙管・簪が出土した。

第３節　発掘調査組織

事業主体　長坂町教育委員会

事務局　教育長　小松清寿（～平成12年９月）
　　瀬戸龍徳（平成12年10月～）
　　教育課長　植松　忠（～平成12年３月）
　　三井　茂（平成12年４月～）
　　教育係長　小松武彦（～平成12年７月）
　　坂本美男（平成12年７月～）
　　社会教育係長　望月和夫（平成13年４月～）

調査担当　小宮山隆

調査補助員　吉田光雄・松田拓也

発掘作業員　秋山かつゑ　浅川喜恵　井出於ぎん
　　井出ケサコ　井出庄子　井出仁美
　　井出文江　井出美那子　井出るい子
　　稲次啓允　大柴富子　小沢きよみ
　　小野寿美子　小尾トヨ子　国府田孝吉
　　小林敏恵　小林　裕　小林立枝
　　小林松男　三宮　健　清水純代
　　清水徳雄　清水三恵　清井ゆき枝
　　清井義雄　田中和幸　田中玲子
　　塚原袈裟重　仲山たけの　名取初子
　　奈良裕子　畑梅子　日向登茂子　平井愛子
　　深沢憲子　堀内さ多子　増田亀三
　　宮原征人　宮本光代　守屋春美
　　山本元樹　山本米子　横山幸男
　　吉田浩之　渡辺早月

整理作業員　有野（旧姓大木）明子　石川昭江
　　井出仁美　長田加代子　小澤恒子
　　小林広美　清水純代　清井ゆき枝
　　奈良裕子　橋本　彩　橋本はるみ
　　日向登茂子　深沢憲子　山本理奈
　　吉田浩之

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

越中久保遺跡の所在する北巨摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する。南北約18㎞、東西約６㎞の南北に細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった韮崎火砕流によって形成された台地上にあり、標高は北端の八ヶ岳権現岳が頂点で2,786mを測り、南端はJR日野春駅の南側で約490mである。標高1,200m以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称「七里岩」と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した潅漑用水や灌漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水稲耕作が行われ、古くから八ヶ岳南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

越中久保遺跡の所在する長坂町中丸地区は、JR中央線の西側で小淵沢町と白州町に接した町の西部に位置する。中丸地区には東端に白井沢宮川、中央に大深沢川、やや西部に小深沢川の３本の河川が平行して南流している。それぞれの河川は台地を浸食し、大深沢川や小深沢川の下流部では比高50mほどの浸食崖が発達している。越中久保遺跡は白井沢宮川と大深沢川とに挟まれた台地上に立地する。

遺跡の中央は窪地になっており、宮川へ注ぐ支谷がかつて存在していた。現在、この支谷は遺跡の西側でせき止められ、農業用水池（越中久保溜池）が1981年に造られている。この窪地の部分は「ドジョウ田」と地元で呼ばれる湿田で、現在までに大半は耕作が放棄され湿原化している。窪地である谷地形（低湿地）を挟むように、調査区の南北端それぞれに微高地があり、縄文時代の竪穴住居跡などの主な遺構は、この微高地に集中する。遺物の分布も微高地を主体に調査区全面にわたるが、低湿地部分では農業用水池方面からの流れ込みと推測できる、非常に摩滅した遺物が多くみられた。白井沢宮川の現河床との比高は低湿地部でおよそ２m、微高地で２～５mである。

第２節　歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の濃い地域である。その中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに208ヶ所の遺跡が確認されている。越中久保遺跡が位置する中丸地区にも多くの遺跡が分布しているが、縄文時代あるいは平安時代の遺跡が特に目立つ。

そのなかでも、越中久保遺跡からみて小深沢川の対岸（左岸）で大深沢川の段丘崖にはさまれた台地上に立地する新宿区健康村遺跡では、東京都新宿区立区民健康村建設にともない約８万㎡もの発掘調査が行われ、縄文時代前・中・晩期、平安時代、中世にわたる遺構と遺物が多数発見されている（板倉1994）。同じく大深沢川右岸には中世・戦国期の砦址と伝えられる天白砦址がある。やや東へ離れるが、大深沢川と白井沢宮川にはさまれた台地上には、これまでの発掘調査で縄文時代中期の遺構と遺物が検出された東蕪４遺跡や高松遺跡がある（小宮山・山下1999、小宮山2000）。

第３節　基本層序

今回の調査区は低湿地部にあたるため、町内の他の遺跡と比べ比較的堆積が厚い。現地表面から約1.6m下がったところで遺構確認面となる（図５）。水田耕作土・水田床土の下に砂礫を含む灰褐色土があり、その下にローム粒子を含む褐色土・暗褐色土・黒褐色土が堆積し、その下で遺構確認面の黄褐色土になる。褐色土・暗褐色土・黒褐色土が遺物包含層となり、約30～60㎝の厚さで遺跡内を被っている。その中から出土する土器は摩滅が激しく西側の農業用水地の方から流れ込んできたものと思われる。というのも、発見された遺構は主に縄文時代中期後半～後期のものであるが、その上の包含層からは縄文時代早期～後期の土器が混ざった状態で出土しているからである。

第３章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

１号住居跡

（位置）Ｉ－４グリッドに位置する。

（形状）円形である。

（規模）長軸3.3m、短軸3.07m、深さ0.18mである。

（施設）住居中央北西寄りに石囲炉が作られている。方形で、西側は２つの礫を、それ以外は１つの偏平で細長い礫を配置している。ピット１～９が柱穴であろうか。

（遺物）図37。縄文時代中期の小片が出土している。また、図68－82も出土している。82①を正面とすると、口縁部に３本の沈線による弧文が、この面のみに施されている。胴部には渦巻文が沈線で施文されている。左面の

82②には胴部に渦巻文があり、その上に浅い沈線が何本も引かれている。文様は土器正面と左面のみにしか施されず、裏面及び右面には文様はない。底部に木葉痕がある。曽利Ⅱ式と考えられる。

（遺物出土状況）散在している状況である。遺物出土量は少ない。

（時期）図68－82から縄文時代中期後半・曽利Ⅱ式期と考えられる。

2号住居跡

（位置）K－5グリッドに位置する。

（形状）住居跡南側が削られ壁が確認できなかったが、円形であろう。

（規模）残存値で、長軸4.44m、短軸3.88m、深さ0.44mである。

（施設）住居中央やや北寄りに炉が作られている。方形を呈しており、各辺は板状の礫を1つあるいは2つ、ほぼ垂直に立て構築されている。南側の隅に石棒（図94－322）が置かれていた。

炉の周辺には、炭化材が広がっていた。板状の材が多く、その中に孔を空けられているような部分があり、ホゾ孔の可能性がある。炭化材は炉から1mぐらいに集中し、その外側にはほとんど確認されなかった。この材を住居構築材とすると、焼失した場合住居跡全面に確認されてもいいと思われるが、今回の調査の出土状況はそうではないので、構築材とは断定しきれない部分もある。石囲炉の西側にも炉が確認され、この炉は炭化材に覆われていた。

住居南東隅に埋甕が埋設されていた。周溝は東側に一部確認された。住居北西側には段差があり、壁際が住居中央より高くなっている。

ピット1・5・7・8が主柱穴であろうか。

（遺物）図37。23は埋甕である。縄文地文の上から2本の垂下沈線と縦位波状沈線を施している。胴部上半は欠損している。曽利Ⅱ式と思われる。図84－235の磨製石斧も出土している。

（遺物出土状況）残りの良い住居北側から多く出土している。埋甕は曽利Ⅱ式であるが、覆土中からは曽利Ⅳ～Ⅴ式の小片が多く出土している。

（時期）図37－23の埋甕から縄文時代中期後半・曽利Ⅱ式期と思われる。

3号住居跡

（位置）I－4・5、J－4・5グリッドに位置する。

（形状）住居跡の半分が撹乱を受けている。おそらく円形であろう。

（規模）残存値で、長軸6.44m、短軸5.78m、深さ0.36mである。

（施設）炉は撹乱を受けているため、確認できなかった。周溝はほぼ全周巡っている。ピット5・8・11・19が主柱穴であろうか。

（遺物）図37・38。22は曽利Ⅲ式の肥厚口縁土器である。口縁部に粘土紐を貼り付け肥厚させ下方中央が開いている楕円文を巡らしている。胴部は2本の垂下沈線で区画し、その中を半截竹管の内側による横位沈線で充填している。44は刺突文地文のX字状把手付大型深鉢である。

（遺物出土状況）遺構が残存している部分から比較的多く出土している。図37－22が横たわるようにして出土した。前期初頭の繊維土器や前期後半の諸磯b式、中期中葉の狢沢・新道式等の土器片も出土している。

（時期）図38－22が住居覆土上層から出土し、44がピット19と床面近くから出土しているので、縄文時代中期後半・曽利Ⅱ式期と考えられる。

4号住居跡

（位置）D－7・8グリッドに位置する。

（形状）円形である。

（規模）長軸4.38m、短軸3.9m、深さ0.26mである。

（施設）中央やや南寄りに炉が作られていた。8個の礫を円形に配置している。

ピット2・3・5・7・8・9・10が主柱穴であろうか。

（遺物）図39。1は住居東側に埋設された埋甕である。底部からほぼ直線的に広がる器形をしており、口縁部文様帯は省略され1本の横位沈線のみである。胴部は沈線で区画され、その中央に縦位波状沈線を施す。地文は間延びした綾杉文である。曽利Ⅳ式と考えられる。

（遺物出土状況）覆土中の出土は見られなかった。

（時期）図39－1の埋甕から縄文時代中期後半・曽利Ⅳ式期であろう。

第2節　掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

（位置）H－2・3、I－2・3グリッドに位置する。

（形状）方形。柱穴は6つの2間3間の建物跡である。

（規模）長軸5.3m、短軸2.84mである。

（備考）ピット1・2から加曽利EⅣ式の小片が少数出土した。

2号掘立柱建物跡

（位置）H－2、I－2グリッドに位置する。

（形状）方形。一部調査区外にあたるため、柱穴4本のみ確認できた。1号掘立柱建物跡と同様に、柱穴6つをもつ2間3間の建物跡であろう。

（規模）長軸5.76m、短軸3.7mで、1号掘立柱建物跡よりやや大きい。

（備考）ピット2から加曽利EⅣ式の小片が出土した。

第3節　集　　石

1号集石

（位置）H－2・3グリッドに位置する。

（規模）南北約10m、東西約12mの範囲に大小さまざまな大きさの礫が集中していた。

（備考）調査区内で、このH－2・3グリッドに極めて集中的に礫が出土したので、集石としてあつかった。調査区の一部に遺構確認面の層に礫が多量に含まれることもあり、また、西側の台地からの流れ込みが想定されるので、縄文時代より前の時代に流れ込んだ礫が、この付近に比較的多くまとまった可能性もある。

第4節　土　　坑

各土坑の詳細は表4を参照されたい。ここでは、特筆すべき土坑を述べる。

1号土坑

H－3グリッドに位置する。底部の立ち上がりのところに礫が出土した。

2号土坑

H－3・4、I－3・4グリッドに位置する。途中に段が付く土坑で、小礫が少量出土した。

3号土坑

G－3グリッドに位置する。一部撹乱されていた。打製石斧1点が出土している。

8号土坑

I－2グリッドに位置する。曽利Ⅴ式期に属する。口縁部に弧文を施した曽利Ⅴ式土器が出土し、縄文地文の土器も出土している。

14号土坑

F－2グリッドに位置する。曽利Ⅴ式期に属する。図40－6・11が出土している。11は隣の15号土坑からも出土し、接合する。拳大から人頭大の礫が密集している。台付土器が出土している。

6は口縁部文様帯が省略されたハの字文地文の曽利Ⅴ式である。11は口縁部に弧文を配する曽利Ⅴ式で、口縁部は緩やかに波状を呈する。地文のハの字文は6とほぼ同じである。9は小型の台付土器である。

15号土坑

F－2グリッドに位置する。曽利Ⅴ式期に属する。図40－11が出土している。曽利Ⅴ式と加曽利EⅣ式が共伴している。拳大から人頭大の礫が密集している。

14号土坑と近接し、図40－11が両土坑から出土し、接合している。

17号土坑

F－2グリッドに位置する。縄文時代中期末に属する。14・15号土坑と近接する。拳大の礫とともに、縄文時代中期末の土器片が出土している。

18号土坑

I－3グリッドに位置する。称名寺式期に属する。土坑の上層に大型の礫を、土坑をふさぐように配置し、その周辺から称名寺式土器が出土している。上部の礫と土坑との標高差があるが、それは、地山と遺構覆土の色の差がほとんどなく、遺構の平面形がかなり掘り下げてからでないとはっきりと確認できなかったからである。石の敷き詰め方から墓坑の可能性が考えられる。

23号土坑

K－5グリッドに位置する。曽利Ⅳ式期に属する。2号住居跡を切っている。曽利Ⅳ式の小片が拳大の礫と供に出土している。図では土層断面が下膨れのようになっているが、おそらく5層は地山であろう。

24号土坑

F－5・6グリッドに位置する。称名寺式期に属する。曽利Ⅴ式～称名寺式まで出土するが、称名寺式の大片が出土していることもあり、その時期であると判断した。拳大から人頭大の礫が多量に出土している。図44－32は注口をもつ浅鉢の口縁部片である。

25号土坑

F－5グリッドに位置する。称名寺式期に属する。図44～46。曽利Ⅴ式～称名寺式まで出土するが、称名寺式の大片が出土していることもあり、その時期であると判断した。図46－58は称名寺式である。胴部が張り出し、口縁部がやや直線的な器形をしている。口縁部は無文である。胴部にやや大きめのJ字状モチーフが磨り消し縄文により施文されている。

29号土坑

H－5グリッドに位置する。39号土坑に切られる。曽利Ⅴ式や磨り消し縄文をもつ土器片が出土しているので、中期末から後期初頭に属するものと考えられる。

31号土坑

H－5グリッドに位置する。曽利Ⅴ式期に属する。櫛歯状工具で施文したハの字文をもつ土器片が、拳大から

人頭大の礫と供に出土している。

第５節　溝

１号溝

G－３・４グリッドに位置する。ほぼ直線で、約18.5m確認された。幅は一定せず、広いところで1.4m、狭いところで0.6mである。時期は不明である。

第６節　遺物集中区

１号遺物集中区

18号土坑を中心として遺物が集中的に出土した地点を１号遺物集中区とした。５～７号焼土があり、それらの間から加曽利EⅣ式から称名寺式が出土している。

図46－１は粘土紐を貼付した上から櫛歯状工具で縦位に施文した木島式である。図47－12は前期初頭の繊維土器で、尖底である。口縁部に１条の隆線を貼付し、その上に「×」状に刻みを巡らしている。低い隆線であることから下吉井式に並行すると考えられる。

189は縄文のみを施した筒型の土器である。口縁部には縄文を施文していない。205は直線的に開く器形をした称名寺式である。胴部にJ字状と思われる文様を磨り消し縄文により施している。

縄文時代中期末から後期初頭にかけての土器が多く出土している。

２号遺物集中区

３号住居跡上層から西側にかけて、遺物の集中が見られた範囲を２号遺物集中区とした。図51～55。図53－91は口縁部文様帯を省略した曽利Ⅳ式である。口唇部に１本の沈線を引き、胴部は沈線で10区画され、区画内を縦位条線で充填している。埋甕のような状態で出土している。

92は曽利Ｖ式のX字状把手付大型深鉢である。把手の間は方形の窓枠状に区画され胴部には隆線による垂下文が施されている。隆線脇は沈線を施文している。地文はハの字文である。97は櫛歯状工具による条線地文の曽利Ⅳ式である。条線を短く施文しているので、曽利Ｖ式と考えてもいいであろう。

図54－149は称名寺式である。口縁部文様帯は省略されている。口縁部から胴部上半にかけて２段のJ字状文が磨り消し縄文により施文されている。150は口縁部が無文の称名寺式である。

第７節　遺構外出土遺物

ここでは、特筆すべき遺構外出土遺物の概要を述べる。

図61－22は、口縁部に２本の沈線をもち、胴部に櫛歯状工具による短い条線が施されている。曽利Ｖ式であろう。図62－58は藤内式の小型土器である。キャリパー形の器形で、口縁部は縦長の蓮華文が施されている。

図74－10は押型文土器である。山形文で縦位に施し、密に施文するのではなく、少し間隔を置いている。これ以外に同様の押型文土器が３点出土している。

図76－１は曽利Ｖ式である。口縁部に１条の横位沈線を引き、胴部を５区画し、その中に櫛歯状工具で短い条線を施している。

図77の下段は注口土器の把手部片である。大きさは大小さまざまであるが、全てに共通することは、螺旋状の装飾か、あるいはそれを模したであろう斜方向の沈線が施されていることである。また半分以上に円形刺突文が側面に付けられている。弧の状態が円弧1/4以下なので、深鉢に半円状に付く把手ではないと思われる。

図78－１は焼成粘土塊である。図78－２・３は土製品である。形態は、あたかも磨石のようである。それぞれ欠損している。２の片面は、焼成後にもう一度火を受けたせいであろうか、ひどく荒れており、一部剥落している。３の表面は特に荒れていることもなく、平滑である。何に使用されたかは不明である。

図78－４は土製の装飾品であろう。三脚形をしており、その一脚に横方向から穴が空けられている。正面には沈線で模様が書かれている。図78－５は軽石製品である。方形に形を整え、中央に穴が空けられている。下端部は摩耗痕が良く残っている。図94－322は石棒である。２号住居跡の石囲炉の隅に埋められていた。胴部が欠損している。段をもち胴部にかけて膨らみが強くなっている。図94－323は小型の石棒で、両頭である。それぞれに２本の沈線で頭部が表現されている。

図94－324は玉である。偏平な円形をしており、中央に穴が空けられている。図94－325は玉の未製品である。穿孔途中のまま残されていた。この穴以外の所に穿孔しようとして直ぐ止めたと思われる窪みが表に１箇所、裏に２箇所残っている。左側が欠損しているので、穿孔途中でこの部分が欠け、使い物にならないと判断し、製作を止めてしまった可能性があるが、折れ面の周辺も少し磨かれている。ヒスイ製である。図94－326はカギ状石器である。両面に調整加工を施し整形している。軸部で欠損していたが、接合した。黒曜石製である。

図94－326は磨製石鏃である。先端部から脚部にかけて欠損しており、全体の大きさは不明である。粘版岩製で、基部付近が穿孔されている。弥生時代の土器は出土しておらず、磨製石鏃だけの単独出土である。

第4章　ま　と　め

今回の調査は、台地の裾部から低地にかけてのところで行われ、縄文時代中期後半～後期初頭の住居跡・掘立柱建物跡・土坑等が発見された。また、遺物は、縄文時代早期押型文・前期初頭から後期中葉の土器・石器、近代の陶磁器・木製品等が出土した。以下、注目すべき成果について述べていく。

縄文時代中期末～後期初頭の土坑

今回の調査では、中期末～後期初頭にかけての土坑が発見された。出土遺物から確実にその時期と判断できるものは、8・14・15・17・18・23・24・25・31号土坑の9基である。その内、8・18・23・31号土坑の4基が北側の微高地上にあり、14・15・17・24・25号土坑の5基が低地にある。

グリッドのE･Fラインを中心とした範囲にかつて支谷が形成されていた。調査中でも雨の翌日はその範囲から水が湧き出てきて、調査が困難になったことが多くあった。そういう場所なので、縄文時代には湿地か、あるいは河川が流れていた可能性が高い。その場所に作られた14・15・17・24・25号土坑はどのような性格のものであろうか。

各土坑に共通することは、拳大から人頭大の礫が見られることである。24号土坑覆土の珪藻化石分析の結果、水生珪藻より陸生珪藻のほうが多い傾向があり、24号土坑内に常時水があることは考えにくいという推定がなされている（付編1参照）。常時水に浸ってないが、時々水に浸かるというような場所での機能は何であろうか。

長野県中野市栗林遺跡では、水場遺構と供に貯蔵穴が100基発見され、その内の後背低地に71基作られていた（関他1994）。後背低地では、想定される流水を避けた若干微高地上に構築し、一つには地表が半乾燥状態で地下の含水量が高い地が選択されるようである。1.5～2.0のほぼ円形を呈し、土坑上部あるいは底部に礫があるものもある。立地や土坑形態・出土礫など本遺跡の土坑と共通するものが多い。本遺跡の特に14・15・17・24・25号土坑は、堅果類こそ出土しなかったが、低湿地貯蔵穴の可能性が高い。1・23・31・40号土坑も大きさこそ小さいが、土坑形態・出土礫から貯蔵穴であると思われる。

18号土坑は礫の組み方から、墓坑の可能性が強い。その周辺からも、図50－150･図53－91がほぼ正位で出土しているので、埋甕と見てよいであろう。各遺構の時期は中期末で、貯蔵穴と思われる土坑と並行するので、貯蔵穴区域と墓域の明確な区別はなかったと思われる。

縄文時代中期後半の集落

発見された住居跡は、全て縄文時代中期後半の曽利式期のものであった。曽利Ⅱ式期が3軒、曽利Ⅳ式期が1軒という内訳である。

曽利Ⅱ式期が調査区北側の微高地に、曽利Ⅳ式期は南側の微高地にそれぞれ展開している。縄文時代中期の集落は、主に台地上に展開していることが多く、本遺跡でも調査区西側に台地が広がっているので、そこに集落が展開していると思われるが、今回の調査で谷部をおりた低地部付近にも集落を構えていることが分かった。

曽利Ⅳ式の集落が南側の微高地に移った後、北側の微高地では、貯蔵穴や墓坑と思われる土坑が作られるようになる。後期初頭・称名寺式期になると調査区内では土坑だけになるが、調査区外に住居跡が展開している可能性がある。また、調査区内のH－3・5、G－3グリッドにまとまっているピット群が、その範囲の大きさが住居の大きさとほぼ同じなので、住居の柱穴群である可能性も否定できない。しかし、もし住居跡であったとしても時期が特定できないので、該期の集落の可能性だけ指摘しておく。

【参考文献】

板倉歓之　1994『健康村遺跡』　新宿区区民健康村遺跡調査団

小宮山隆･山下大輔　1999「高松遺跡」『八ヶ岳考古』平成10年度年報　北巨摩市町村文化財担当者会

小宮山隆　2000「越中久保遺跡」『八ヶ岳考古』平成11年度年報　北巨摩市町村文化財担当者会

知多古文化研究会編　1997『愛知県南知多町の考古資料』

小野正文　1999「第2章山梨県の考古学編年　2縄文時代の編年　⑶早期･⑷前期」『山梨県史』資料編2　原始・古代2　考古（遺構・遺物）

三田村美彦　1999「第2章山梨県の考古学編年　2縄文時代の編年　⑽後期初頭（称名寺式土器）」『山梨県史』資料編2　原始･古代2　考古（遺構･遺物）

古谷健一郎　1984「神之木台式・下吉井式土器の変遷」『丘陵』第11号　甲斐丘陵考古学研究会

宮里　学　1998「縄文時代の「カギ形石器」の県内出土事例」『森和敏氏退職記念　山梨県考古学資料集Ⅰ』森和敏氏退職記念刊行委員会

関　孝一他　1994『栗林遺跡・七瀬遺跡』㈶長野県埋蔵文化財センター

岡村秀雄　1995「貯蔵穴と水さらし場―長野県栗林遺跡―」『季刊考古学』第50号　雄山閣出版

付編１：越中久保遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

越中久保遺跡では、縄文時代の住居跡等の遺構が検出されている。このうち、２号住居跡はいわゆる火災住居跡であり、住居構築材などと考えられる炭化材が出土している。また、２号住居跡と４号住居跡からは、埋甕が出土している。一方、低地部では時期不明の木製品なども出土している。

今回は、数回の協議を経て以下の課題を設定し、それぞれ自然科学分析調査を行う。

Ⅰ．調査課題

1．遺構・層序の年代

火災住居跡である２号住居跡の構築・使用年代を知るため、出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行う。また、東壁の遺物包含層等のテフラ分析を行い、各層の堆積年代について確認する。

2．古植生および堆積環境

各層堆積時の古植生や堆積環境を知るために、東壁や遺構覆土から採取された土壌試料について、花粉分析、植物珪酸体分析、珪藻分析を行う。

3．住居構築材および燃料材の用材

２号住居跡における住居構築材の用材、および各住居跡の炉で使用された燃料材の種類を明らかにするために、炭化材の樹種同定と炉内から採取された土壌試料の植物珪酸体分析を行う。

4．木製品の用材

低地部から採取された時期不明の木製品について樹種同定を行い、それらの用材に関する資料を得る。

5．植物利用について

各住居跡の炉内から採取された土壌資料の水洗選別で得られた種実の同定を行い、植物利用に関する資料を得る。

6．埋甕への遺体埋納の可能性

２号住居跡および４号住居跡から出土した埋甕内の土壌試料について土壌化学分析を行い、遺体埋納の可能性を検討する。なお、分析項目は、リン酸含量、カルシウム含量、腐植含量の３項目を選択した。

Ⅱ．分析方法

1．放射性炭素年代測定

⑴　前処理

乾燥、粉砕したものを水に入れて、浮上してきたものを除去した。試料が少量であったため、水酸化ナトリウムによる処理を省略し、濃硝酸の代わりに塩酸で煮沸した。室温まで冷却した後、傾斜法により除去した。充分水で洗浄した後、乾燥して蒸し焼き（無酸素状態で400℃に加熱）にした。蒸し焼きにした試料は、純酸素中で燃焼して二酸化炭素を発生させた。発生した二酸化炭素は捕集後、純粋な炭酸カルシウムとして回収した。

⑵　測定試料の調整

前処理で得られた炭酸カルシウムから真空状態で二酸化炭素、アセチレン、ベンゼンの順に合成した。最終的に得られた合成ベンゼン３mℓ（足りない場合は、市販の特級ベンゼンを足して３mℓとした）に、シンチレイターを含むベンゼン２mℓを加えたものを測定試料とした。

⑶　測定

測定は、１回の測定時間50分間を20回繰り返す、計1000分間行った。未知試料の他に、値が知られているスタンダード試料と自然計数を測定するブランク試料を一緒に測定した。

⑷　計算

放射性炭素の半減期として、LIBBYの半減期5,570年を使用した。

2．テフラ分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象として観察し、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

3．珪藻分析

湿重で７g前後秤量し、過酸化水素、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に、200個体以上固定・

計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の固定は、Krammer, K. and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b)、Krammer, K. (1992) などを用いる。

同定結果は、海水～汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出固体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集図を作成する。また、産出した化石が現地性か異地性かを判断する目安として完形殻の出現率を求め、考察の際参考にした。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。堆積環境の解析にあたって、淡水生種については安藤 (1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性については、Asai, K. &, Watanabe, T. (1995) 環境指標種、生活型などについては、VOS, P.C. & DE WOLF, H. (1993) を参考とする。

4. 花粉分析

試料を湿重で約10g秤量し、水酸化カリウム処理、篩別、重液分離 (臭化亜鉛, 比重2.3)、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理 (無水酢酸：濃硫酸＝９：１) の順に物理・化学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入して、プレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数を行う。結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。なお、表中で複数の種類をハイフォン (－) で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

5. 植物珪酸体分析

湿重５g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理 (70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)、および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤・佐瀬 (1986) の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生や稲作について検討するために、植物珪藻酸体群集と珪化組織片の分布図を作成した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

なお、炉試料については、珪化組織片の産状に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となるが、植物遺体や植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い (例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993 a)。そのため、珪化組織片の産状により当時の構築材や燃料材などの種類が明らかになると考えられる。

6. 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クローラル (抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

炭化材は、３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

7. 水洗選別および種実同定

試料１kgを秤量し、数%の水酸化ナトリウム水溶液に入れて一昼夜放置し、試料の泥化を行った。これを0.5㎜の篩を通して水洗し、それぞれ残渣を集めた。残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、種実遺体を抽出・同定する。これらは、種類ごとに瓶に入れて、ホウ酸とホウ砂を混合した水溶液中に保存する。

8. 土壌化学分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解—バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素分解—原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行った (土壌養分測定法委員会, 1981)。以下に各項目の操作工程を示す。

(1) リン酸、カルシウム

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00㎜の篩を通過させる (風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を、加熱減量法 (105℃、５時間) により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸 (HNO_3) 約５㎖を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸 ($HClO_4$) 約10㎖を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100㎖に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計により、リン酸 (P_2O_5) 濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子

吸光光度計によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

⑵　腐植含量

風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5㎜Φのふるいを全通させる。(微粉砕試料)。

微粉砕試料0.100～0.500gを100㎖三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10㎖を正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0. 2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて、腐植含量（%）を算出する。

Ⅲ．遺構・層序の年代

1．試　料

⑴　放射性炭素年代測定

試料は、2号住居跡から出土した炭化材2点（試料番号7,52）である。

⑵　テフラ分析

基本土層である東側堰壁における土層の堆積時期を推定するため、テフラ分析を行う。テフラ分析を行う試料は、試料番号1・2・3・7の計4点である。

2．結　果

⑴　放射性炭素年代測定

測定結果を表1に示す。炭化材の年代値は、4300BPと4710BPであった。

⑵　テフラ分析

分析を行った試料には、スコリアと火山ガラスが認められ、軽石は、どの試料にも認められなかった（表2）。試料番号2に少量、試料番号1・3に微量、試料番号7にきわめて微量含まれている。黒色を呈し発泡が不良であるスコリアが全点に認められ、灰色を呈し発泡がやや不良～不良であるスコリアが試料番号1・2に認められる。これらのスコリアは、その特徴と遺跡の地理的位置を考慮すると富士火山の完新世の活動により噴出したテフラ（新期富士テフラ）に由来すると考えられる。新期富士テフラは、泉ほか（1977）や上杉　（1990）などにより、富士山東麓を中心に最上位の宝永スコリア層（S－25）から最下位の富士黒土層（S－0）まで詳しく記載されている。また宮地（1988）により、東麓を含めた富士山全域におけるテフラの層序も明らかとなってきている。しかし、富士山のこれらのテフラは噴出年代が異なっていても給源が同じであるため、特徴が類似しているものが多い。そのため、今回のように富士火山より遠方の地域において、テフラが累層となってそれぞれ単層で認められない場合には、テフラの対比は困難である。なお、宮地（1988）の記載を参考にすれば、縄文時代中期以降に噴出したテフラのなかで、富士火山より北方の地域に飛来している可能性のあるものとして、約2800～3000年前に噴出した大室スコリアや約2200年前に噴出した湯船第2スコリア、富士山北西斜面に分布する側火山群より主に約2000年前以降に噴出したテフラなどが考えられる。

火山ガラスは試料番号1に少量、試料番号2・3・7に中量含まれている。これら全ての試料に、無色透明のバブル型、中間型、軽石型と、褐色を呈するバブル型の、特徴の異なる4つの火山ガラスが認められる。これらの中で褐色を呈するバブル型火山ガラスは、その特徴から鬼界―アカホヤ火山灰（K－Ah：町田・新井，1978）に由来するものである。K－Ahは、約6300年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した広域テフラである（町田・新井，1992)。なお、無色透明のバブル型火山ガラスにも、K－Ahに由来するものが含まれていると考えられるが、姶良Tn火山灰（AT：町田・新井，1976）に由来するものも混在していると考えられる。ATは南九州の姶良カルデラを給源とし、約2.2－2.5万年前に噴出した広域テフラである（町田･新井，1992)。無色透明の中間型および軽石型の火山ガラスは、その特徴と遺跡の地理的位置から立川ローム層最上部ガラス質火山灰（UG：山崎，1978)に由来すると考えられている。UGは浅間火山の軽石流期の噴出物の細粒部と考えられており、噴出年代は約1. 2万年前とされている（町田・新井，1992)。

3．考　察

⑴　2号住居跡の年代

2号住居跡は、発掘調査所見から縄文時代中期頃と考えられている。得られた年代値は、関東地方や中部地方における縄文時代中期の年代測定値（キーリ・武藤，1982）に一致しており、調査所見とも調和的である。2点の試料は、年代測定値に約400年の差がある。このような差は、各試料の樹齢の差（東村，1990）を反映した可能性がある。しかし、試料が少量あるために分析処置を簡略化しており、それによって年代値に多少のズレが生じている可能性もある。今後、さらに複数の試料について年代測定を行うことで、より詳細な年代のズレを把握し、遺構の構築年代を明らかにしたい。

⑵　テフラ分析

テフラ分析の結果、AT、UG、K－Ahの３つのテフラに由来する火山ガラスが全試料に混在して認められた。試料番号７が採取された暗褐色土層は、縄文時代中期と推定される遺物包含層であり、今回検出された上記３つのテフラはこれより古い時代に降灰したものである。これらのテフラは、一旦堆積したものが風によって舞い上がり、再び堆積することが繰り返されテフラの降灰層準より上位に混入したものであると考えられる。したがって、試料番号７より上位の上層の詳細な堆積時期の推定は、テフラ分析のみでは困難である。なお、耕作土下位の褐色シルト層は、耕作を受けた可能性が考えられているが、火山ガラスが下位まで同量程度に比較的多く含まれていることから、人為的な撹乱すなわち耕作を受けた可能性もある。

Ⅳ．古植生および堆積環境

1．試　料

⑴　珪藻分析

試料は、東側堰壁から採取された２点（試料番号１・８）、24号土坑覆土の１点、J－４深堀の１点（試料番号３）の合計４点である。

⑵　花粉分析

試料は、東側堰壁から採取された１点（試料番号８）、24号土坑覆土の１点、J－４深堀の１点（試料番号３）の合計３点である。

⑶　植物珪酸体分析

試料は、東側堰壁の基本土層より採取された４点（試料番号１・２・３・７）である。

2．結　果

⑴　珪藻分析

結果を表３・図１に示す。珪藻化石の産出に乏しく、東側堰壁の試料番号１から産出したに過ぎない。それ以外の３試料は34個体以下と少ない。とくに、J－４深堀の試料番号３は無化石である。化石が産出した試料の完形殻の出現率は、約50％である。産出分類群数は、合計で18属45種類である。東側堰壁の試料番号１は、水域に生育する水生珪藻と陸上の好気的環境に耐性にある陸生珪藻とがほぼ同率で産出する。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩不定性種（多少の塩分であれば耐えられ、流水にも止水にも普通に生育する種）が優占する。水生珪藻の産出種の特徴は流水性種で中～下流性河川指標種群（安藤，1990：河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現し、その環境を指標する可能性の大きい種群）の*Achnanthers lanceolata*、*Fragilaria vaucheriae*、流水不定性の*Gomphoneme parvulum*、止水性種（止水域に生育する種）の*Fragilaria crotonensis*が10％前後産出する。このうち*Fragilaria crotonensis*は、貧栄養～富栄養の水域に生育する広域適応性種（Asai, K. and Watanabe, T., 1995）、真＋好アルカリ性種　（pH7.0以上のアルカリ性水域に生育する種）、流水不定性種とされるものである。また、陸生珪藻の主なものは、分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の強いA群（伊藤・堀内，1991）の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Pinnularia borealis*が10～20％産出する。なお、珪藻化石の産出の少なかった東側堰壁の試料番号８も、産出種の傾向が試料番号１に似ている。24号土坑覆土は、水生珪藻と陸生珪藻とが混在するが、陸生珪藻が多い傾向がある。

⑵　花粉分析

分析結果を表４に示す。花粉化石は、３試料ともほとんど検出されない。僅かに検出される化石も保存状態が極めて悪く、外膜が溶けて薄くなっている。検出される種類は、木本花粉がマツ属・コナラ属コナラ亜属・エノキ属―ムクノキ属、草本花粉がイネ科･カヤツリグサ科･ヨモギ属・キク亜科、シダ類胞子の合計８種類である。

⑶　植物珪酸体分析

分析結果を表５および図２に示す。東側堰壁の縄文時代包含層から採取された試料番号７では、タケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族（ススキ属を含む）やヨシ属も認められる。試料番号３・２・１も同様にタケ亜科の産出が目立つが、上方に向かってウシクサ族（ススキ属を含む）やシバ属の産出も顕著になる。また、試料番号２・１では、栽培植物のイネ属も検出される。

3．考　察

⑴　堆積環境について

東側堰壁の試料番号１は、生育環境を異にする水生珪藻と陸生珪藻がほぼ同率で産出する。水生珪藻の中には、川や池などに由来する種、陸生珪藻の中には分布が陸域に限られる種を含む。このような種類構成は、いわゆる混合群集（堀内ほか，1996）の特徴であり、周辺や上流部の様々な環境に生育していた珪藻が堆積していることが推定される。試料番号８についても、産出化石が少ないがほぼ同様の種類構成であり、同様の指摘ができる。

土坑覆土は、珪藻化石自体が少なかったが、水生珪藻と陸生珪藻とが混在し、陸生珪藻の方が多い傾向が認められた。この結果から、土坑内には常時水があるような環境ではなかったと考えられる。

J－４深堀の試料番号３は、無化石であった。そのため、珪藻分析から堆積環境について検討することは困難

である。珪藻化石が産出されなかった理由としては、化石が溶解・消失したことや、堆積物中に元々含まれていなかったことが考えられる。今後、深堀内の他の試料についても珪藻分析を行い、堆積環境について検討したい。

⑵　古植生について

花粉化石は、3試料ともほとんど検出されない、僅かに検出される花粉化石は、当時、遺跡周辺に生息していた母植物に由来している可能性がある。しかし、検出される化石の保存状態が極めて悪いことから、花粉化石は何らかの要因により分解・消失したと考えられる。このため今回の花粉化石の産状から、当時の周辺植生を検討することはできない。したがって、植物珪酸体の結果から、周辺植生について検討を加えたい。縄文時代包含層では、保存状態の悪い中でタケ亜科の産出が目立ち、他にススキ属、ヨシ属などが検出された。この結果から、タケ亜科、ススキ属、ヨシ属などのイネ科植物が周辺に生息していたことが推定される。しかし、タケ科亜科の植物珪酸体は、他のイネ科植物と比較して風化に強く、また生産量が多いことがこれまでの研究から指摘されている（近藤ほか，1986;杉山ほか，1986)。そのため、植物珪酸体の残留する割合の低い土壌中でも、タケ亜科の植物珪酸体が検出されやすいことが推定される。タケ亜科以外の植物が占める割合は、実際には分析結果よりも高かったことが推定される。

上位でも同様の植生が推定されるが、ススキ属やシバ属の割合が高くなっていることから、これらの植物が生育範囲を広げた可能性がある。また、周囲で稲作が行われるようになり、その影響を受けていることがうかがえる。

Ⅴ．住居構築材および燃料材の用材

1．試　料

⑴　炭化材

2号住居跡で使用された、住居構築材および燃料材とみられる床面出土炭化材と炉内出土炭化材計100点である（表6）。

⑵　植物珪酸体分析

分析試料のうち、炉試料は3点（1号・2号・4号住炉跡）である。

2．結　果

⑴　樹種同定

樹種同定結果を表6に示す。炭化材は全て落葉広葉樹のクリであった。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・クリ(*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*)　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。同管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

⑵　植物珪酸体分析

分析結果を表7・図3に示す。炉跡覆土の最下層に当たる3層では、珪化組織片が全く認められない。単体のタケ亜科の産出が目立ち、ウシクサ族やヨシ属も認められる。

2号住居跡で検出された炉跡覆土の最下層に当たる6層（焼土）でも、珪化組織片が全く認められない。また、単体のタケ亜科の産出が目立つ。

4号住居跡で検出された炉跡覆土の最下層に当たる4層（焼土）でも、同様に珪化組織片は認められない。単体の植物珪酸体の検出個数は少ないが、その中ではタケ亜科の産出が目立つ。

3．考　察

⑴　住居構築材の用材

住居構築材と考えられる炭化材は、2号住居跡の炉周辺の床面上から出土している。垂木や板材等の部材が推定されている試料もあるが、細片で部位の詳細が不明な試料もある。樹種は全てクリであった。このことから、住居構築材は、基本的にクリを主とした用材が行われたことが推定される。同様の例は、隣接する関東地方でも確認されている。(千野，1983，1991;高橋・植木，1994)。山梨県では、白州町上北田遺跡や社口遺跡などで、縄文時代の炭化材にクリが確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社，1993b;植田，1997)。これらの結果から、本地域においても。縄文時代中期頃の住居構築材にクリが多く利用されていたことが推定される。このようにクリが多用された背景には、クリが植物食料としても重要な種類であることから、安定した収量を確保するために栽培されていた可能性が指摘されている（千野，1983)。現在栽培されているクリは、9年生～10年生以後から20年生前後の樹齢が成果期であり、一般に20年生以後は年毎に収量が減少する（志村，1984)。若木を保護・管理して収量を安定させ、収量の落ちた老木は伐採して若木に替え伐採した木材は用材として利用した可能性が考えられている（千野，1983)。本遺跡についても同様の可能性があるが、現時点では詳細は不明である。

⑵　燃料材の用材

2号住居跡では、住居の中央付近に構築された炉内からも炭化材が出土している。これらも住居構築材と同様に、全てクリであった。このことから、クリが住居構築材以外に燃料材としても利用されていたことがうかがえる。同様に、クリ材が容易に入手できたことを示した結

果といえる。クリは、比較的堅い材質を有することから、燃料材として利用するためには、火を付けるために草本類を利用していたことが推定される。草本類ではイネ科植物が代表的であるが、炉内の土壌試料で行った植物珪酸体分析では珪化組織片が全く認められず、イネ科草本類の利用については確認できなかった。なお、珪化組織を持たない他の草本類などが利用されていた可能性もあるが、今後の検討課題である。

Ⅵ．木製品の用材

1．試　料

低地部から採取された時期不明の木製品３点である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表８に記した。

2．結　果

樹種同定結果を表８に示す。試料は、針葉樹２種類（モミ属・ヒノキ属）と広葉樹１種類（ハンノキ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・モミ属（*Abies*）　マツ科

試料は保存が悪く、年輪界で割れている。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やか。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で１～４個。放射組織は単列、１～20細胞高。

・ヒノキ属（*Chamaecyparis*）　ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、１～15細胞高。

・ハンノキ属（*Alnus*）　カバノキ科

試料は保存状態が悪い。散孔材で、管孔は単独または放射方向に２～４個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は同性、単列、１～30細胞高。

3．考　察

曲物の底板あるいは蓋は、２点とも針葉樹材であり、ヒノキ属とモミ属が確認された。このうち、ヒノキ属については、同様の例が全国各地で確認されている（島地・伊東，1988）。これは、民俗事例（成田，1996）とも一致している。この背景には、ヒノキが木理が通直で均質なために薄い板をとりやすいこと、耐水性・防虫性などに優れていること等考えられる。一方モミ属は、加工は容易であるが、ヒノキ属に比較すると材質が劣る。しかし、本地域では扇状地や山地斜面などに普通にみられる種類である。このことから、周辺で入手できる木材を利用したことが推定される。これがヒノキ属の代用としての利用か、地域的な特徴なのか現時点では不明である。

一方、椀はハンノキ属であった。民俗事例では、ケヤキ、トネリコ属、ブナ属、トチノキなどが代表的であるが、その他にも多くの種類が利用されている（橋本，1979）。長野県内では、ハンノキが利用される地域もある。これらのことから、本地域でも椀の材料としてハンノキ属が普通に利用されていた可能性がある。しかし、現時点では詳細は不明であり、今後さらに資料を蓄積したい。

Ⅶ．植物利用について

1．試　料

試料は、いずれも縄文時代の住居跡の覆土で、Ⅱ区４号住居炉の４層、Ⅰ区２号住居炉の６層、Ⅰ区１号住居炉の３層の３点である。

2．結　果

種実遺体はⅡ区４号住居炉の４層からニワトコが１個体、Ⅰ区１号住居炉の３層からタデ属が１個体検出されたのみである。残渣のほとんどが薬品処理で泥化できなかった暗赤褐色の土塊が多く、その他細礫や鉱物粒なども含む。以下に検出された種類の形態的特徴を示す。

・ニワトコ（*Sambucus rasemosa* L. subsp *sieboldiana (Miquel)* Hara）　スイカズラ科ニワトコ属

種子が検出された。黒色。長楕円形で、大きさは２㎜程度。下側に臍があり、表面には横軸に平行なしわ状の模様が存在する。

・タデ属（*Polygonum* sp.）　タデ科

果実が検出された。大きさは２㎜程度。３陵形で表面は薄くて堅く、平滑で光沢がある。

3．考　察

検出された種実はいずれも炭化していなかった。このことから、今回検出された種実は炉が機能していた時のものではなく、遺構が廃絶後の埋積過程で混入したものと考えられる。すなわち、当時の状況を直接反映しているものではないと思われる。ニワトコは林縁部に生育する低木類であり、タデ科は人里近くの草地に多くみられることから、いずれの種類も遺跡付近の植生に由来すると思われる。

Ⅷ．埋甕への遺体埋納の可能性

1．試　料

住居跡内で検出された埋甕について、遺体痕跡の検証を目的とし、覆土の残留成分の測定を行った。分析項目は、遺体成分として多量に含有されるリン酸、カルシウム（骨の主成分）および腐植含量を選択した。なお、対

象とした試料は、Ⅰ区２号住埋甕内の土およびⅡ区４号住埋甕内の土の２点である。

2. 結　果

分析結果を表９に示した。対象とした試料の土性はSiCL（シルト質埴壌土）～CL（埴壌土）と、基本的に細粒質であり、火山灰土壌の特徴を有す。また土色は10YR3/2～3/3と黒褐色から暗褐色を呈し、これまでに有機物が供給されたことが指摘される。分析結果では、腐植含有量はⅠ区２号住埋甕内の土で3.12%、Ⅱ区４号住埋甕内の土で5.42%であり、基本的には土色の黒色度と対応した関係にある。リン酸含量については、Ⅰ区２号住埋甕内の土で2.07P_2O_5mg/g，Ⅱ区４号住埋甕内の土で2.31P_2O_5mg/gであり、腐植含量の推移と類似した増減を示す傾向にある。一方、カルシウム含量については、3.78～4.59CaOmg/gにあったが、土壌中に含まれるカルシウムの総量を考慮すれば全体的に低い傾向にあると考えられる。

3. 考　察

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen, 1983；Bolt・Bruggenwert, 1980；川崎ほか, 1991；天野ほか, 1991)、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では、5.5P_2O_5mg/g（川崎ほか, 1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例で、骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5mg/gを超える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通１～50CaOmg/g（藤貫, 1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きいことから、ここでは補助的なものとして結果を示した。分析結果をこのリン酸、カルシウムの天然賦存量と比較した場合、リン酸、カルシウム含量ともに両試料とも天然賦存量の範囲内にあることが明らかであり、遺体埋葬の痕跡を支持するものとは考えにくい。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p. 73－88.

Asai, k. and Watanabe. T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.

千野裕道（1983）縄文時代のクリと集落周辺植生　―南関東地方を中心に―．東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅱ，p. 25－42.

千野裕道（1991）縄文時代に二次林はあったか　―遺跡出土の植物製遺物からの検討―．東京都埋蔵文化財センター研究論集，X，p. 215－249.

橋本鉄男（1979）ものと人間の文化史31　ろくろ．444p.，法政大学出版局.

堀内誠示・高橋　敦・橋本真紀夫（1996）珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について．―混合群集の認定と堆積環境の解釈―，日本文化財科学会，第13回大会研究発表要旨集，p. 62－63.

伊東良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p. 23－45.

泉　浩二・木越邦彦・上杉　陽・遠藤邦彦・原田昌一・小島泰江・菊原和子（1977）富士山東麓の沖積世ローム層．第四紀研究，16，p. 84－87

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p. 31－64.

キーリC. T.・武藤康弘（1982）縄文時代の年代．加藤晋平・小林達雄・藤本　強編「縄文文化の研究１　縄文人とその環境」，p. 246－275，雄山閣.

Krammer, K. and Lange-Bertalot,H.（1986）Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1988）Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa,536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991a）Bacillariophyceae, Teil3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991b）Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K.（1992）PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DI-

ATOMOLOGICA BAND 26, p.1-353., BERLIN・STUTTGART.

Lange-Bertalot, H. unter Mitarbeit von A. Steindorf (1995) Rote Liste der Kieselalgen (Bacillariophyceae) Deutschlands. Sche.-R. F. Vegetationskde. H. 28 000-000 BfN, Bonn-Bad Godesberg p.1-31.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰―姶良Tn火山灰の発見とその意義―．科学，46，p．339－347．

町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ―アカホヤ火山灰．第四紀研究，17，p．143－163．

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．276p.，東大出版．

宮地直道（1988）新富士火山の活動史．地質学雑誌，94，433－452．

成田壽一郎（1996）曲物・箍物．205p.，理工学社．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1993a）自然化学分析からみた人々の生活(1)．慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡第1巻　総論」，p．347－370，慶應義塾．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1993b）上北田遺跡から出土した炭化材および炭化種子の同定．「山梨県北巨摩郡白州町　上北田遺跡　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」，p．1－5，白州町教育委員会・峡北土地改良事務所．

島地　謙・伊藤隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣．

志村　勲（1984）クリの生育特性．「農業技術体系　果樹編5 クリ基礎編」，p．11－16，社団法人農山漁村文化協会．

高橋　敦・植木真吾（1994）樹種同定からみた住居構築材の用材選択．PALYNO，2，p．5－18，パリノ・サーヴェイ株式会社．

植田弥生（1997）社口遺跡から出土した炭化材の樹種．「社口遺跡第3次調査報告書」，p．194－198，山梨県北巨摩郡高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団．

上杉　陽（1990）富士火山東方地域のテフラ標準柱状図―その1：S－25～Y－114―．関東の四紀，16，p．3－28．

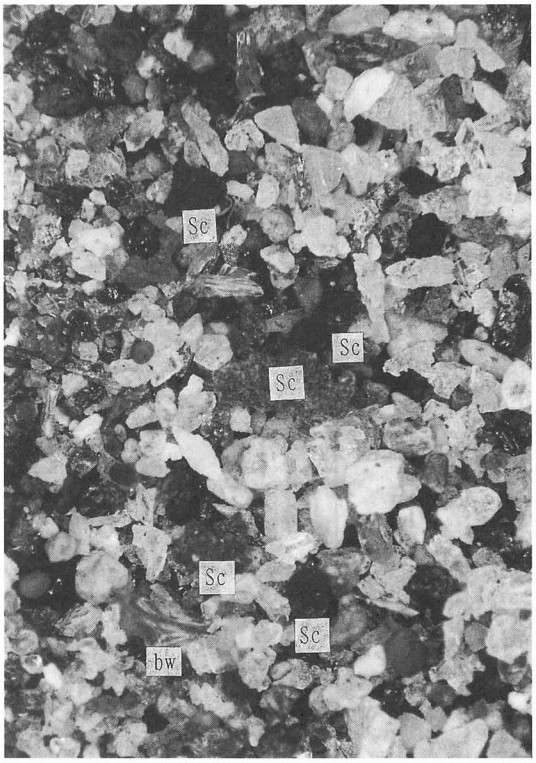
Vos, P. C. and H. de Wolf (1993) Reconstruction of sedimentary environments in Holosene Costal deposits of the southwest Netherlands; the Poortvliet boring, a case study of Palaeoenvironmental diatom research. Twelfth International Diatom Symposium, p.297-296.

山崎晴雄（1978）立川断層とその第四紀後期の運動．第四紀研究，16，p．231－246．

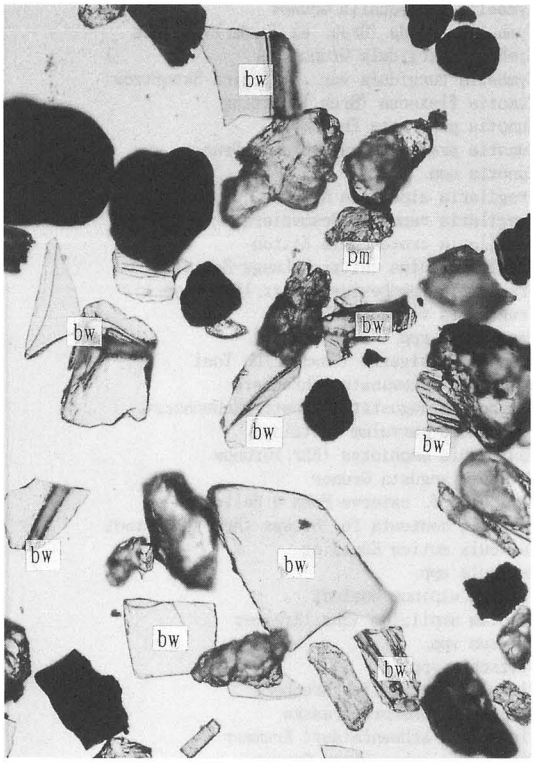
表１　放射性炭素年代測定結果

遺構名	出土位置	番　号	試料の質	年代値	誤　差		Code No.
					＋２σ	－２σ	
２号住居跡	床　面	7	炭化材	4300	260	260	PAL－627
		52	炭化材	4710	700	640	PAL－628

１）年代は、1950年を基点とした年数。
２）放射性炭素の半減期は、5570年を使用した。



1. 新期富士テフラのスコリア（東側堰壁；２）



2. 火山ガラス（東側堰壁；７）

1 ㎜　　0.5㎜

Scスコリア．bw：バブル型火山ガラス．pm：軽石型火山ガラス．

図版１　テフラ

表２　テフラ分析結果

試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石	由来するテフラ
	量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量	
1	＋	G·sb～b, B·b	2.2	＋＋	cl·bw, cl·pm, cl·md, br·bw	—	新期富士テフラ, K－Ah, UG, AT
2	＋＋	B·b, G·sb～b	1.5	＋＋＋	cl·bw, cl·pm, cl·md, br·bw	—	新期富士テフラ, K－Ah, UG, AT
3	＋	B・b	1.3	＋＋＋	cl·bw, cl·pm, cl·md, br·bw	—	新期富士テフラ, K－Ah, UG, AT
7	(+)	B・b	1.0	＋＋＋	cl·bw, cl·pm, cl·md, br·bw	—	新期富士テフラ, K－Ah, UG, AT

凡例　—：含まれない．(+)：きわめて微量．＋：微量．＋＋：少量．＋＋＋：中量．＋＋＋＋：多量．
B：黒色．G：灰色．g：良好．sg：やや良好．sb：やや不良．b：不良．最大粒径は㎜．
cl：無色透明．br：褐色．bw：バブル型．md：中間型．pm：軽石型

表3　珪藻分析結果

種　　類	生態性			環境	東側堰壁		J-4深堀	24号土坑
	塩分	pH	流水	指標種	1	8	3	覆土
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	1	-	-
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	-	2
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	13	1	-	-
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	6	1	-	-
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	2	-	-
Anomoeoneis brachysira (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,T	1	-	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	5	-	-	-
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	-	-	-
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	-
Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	-	-	-	3
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1	-	-
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	-	1	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	-
Eunotia flexuosa (Breb.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	1
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	-	-	-	1
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	1	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2
Fragilaria alpestris Krasske	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	-
Fragilaria crotonensis Kitton	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	16	22	-	-
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		3	-	-	1
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	19	-	-	-
Fragilaria virescens Ralfs	Ogh-ind	ac-il	l-ph	U	-	-	-	1
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	1
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	1
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	17	-	-	1
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	14	1	-	5
Navicula angusta Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	T	1	-	-	-
Navicula cf. caterva Hohn & Hellerman	Ogh-unk	unk	unk		-	2	-	-
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	3	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	43	-	-	7
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	1	-	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		1	-	-	-
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	-	-	1
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	23	-	-	1
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	-	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	9	1	-	1
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	1	-	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	3
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	-
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind		2	-	-	-
Sellaphora rectangularis (Greg.)Lange-B.& Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	4	-	-	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	-	-
海水生種合計					0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0
淡水～汽水生種合計					0	1	0	2
淡水生種合計					206	33	0	32
珪藻化石総数					206	34	0	34

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性
Ogh-Meh　：淡水ー汽水生種
Ogh-hil　：貧塩好塩性種
Ogh-ind　：貧塩不定性種
Ogh-hob　：貧塩嫌塩性種
Ogh-unk　：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
al-il　：好アルカリ性種
ind　：pH 不定性種
ac-il　：好酸性種
unk　：pH 不明種

C.R.：流水に対する適応性
l-ph　：好止水性種
ind　：流水不定性種
r-ph　：好流水性種
unk　：流水不明種

環境指標種群
K:中～下流性河川指標種，O:沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）
S:好汚濁性種，U:広域適応性種，T:好清水性種（以上はAsai，K. & Watanabe，T.，1986）
R:陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI 群、伊藤・堀内，1991）

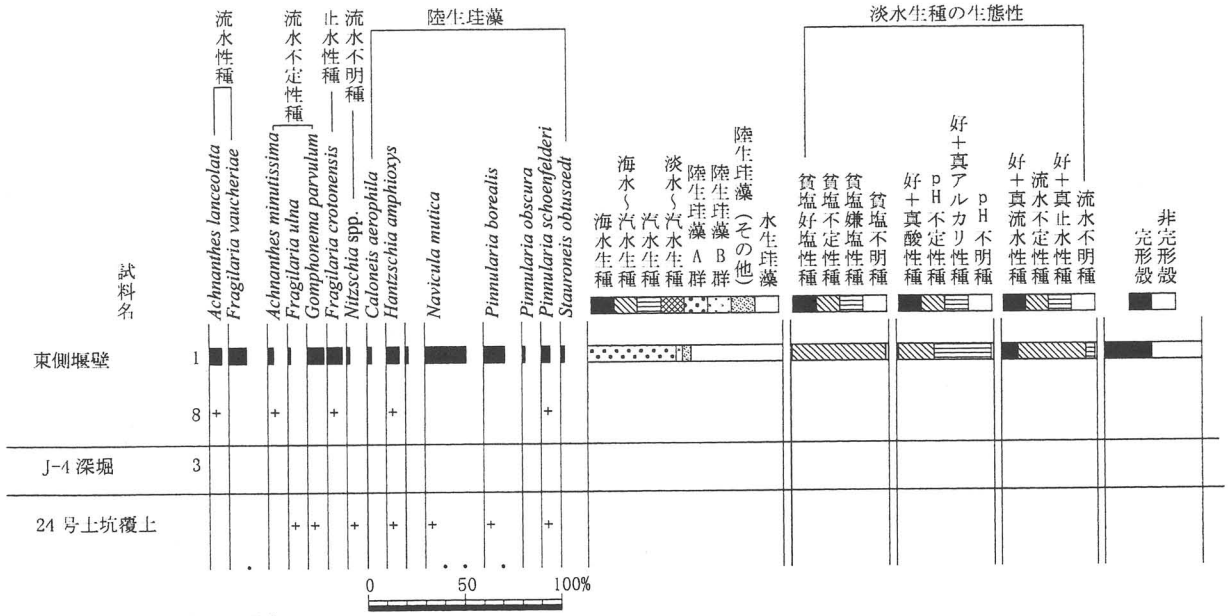


図1　主要珪藻化石群集

淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

表4　花粉分析結果

種類　試料番号	東壁堰壁 8	J－4深堀 3	24号土坑 覆土
木本花粉			
マツ属	—	1	1
コナラ属コナラ亜属	1	—	—
エノキ属－ムクノキ属	1	—	—
草本花粉			
イネ科	6	2	—
カヤツリグサ科	1	—	—
ヨモギ属	1	—	—
キク亜科	1	1	—
不明花粉	2	1	2
シダ類胞子			
シダ類胞子	4	7	10
合計			
木本花粉	2	1	1
草本花粉	9	3	0
不明花粉	2	1	1
シダ類胞子	4	7	10
総　計（不明を除く）	15	11	12

表5　植物珪酸体分析結果

種　類　試料番号	東壁堰壁 1	2	3	7
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属	1	1	—	—
タケ亜科	54	58	103	119
ヨシ属	3	9	5	9
ウシクサ族ススキ属	38	48	18	13
イチゴツナギ亜科	15	23	14	5
不明キビ型	53	38	33	33
不明ヒゲシバ型	33	30	27	30
不明ダンチク型	32	30	28	22
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	1	4	—	—
タケ亜科	22	30	62	44
ヨシ属	1	2	1	—
ウシクサ族	20	63	20	29
シバ属	31	21	—	—
不　明	33	54	39	41
合　計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	229	237	228	231
イネ科葉身機動細胞珪酸体	108	174	122	114
総　計	337	411	350	345

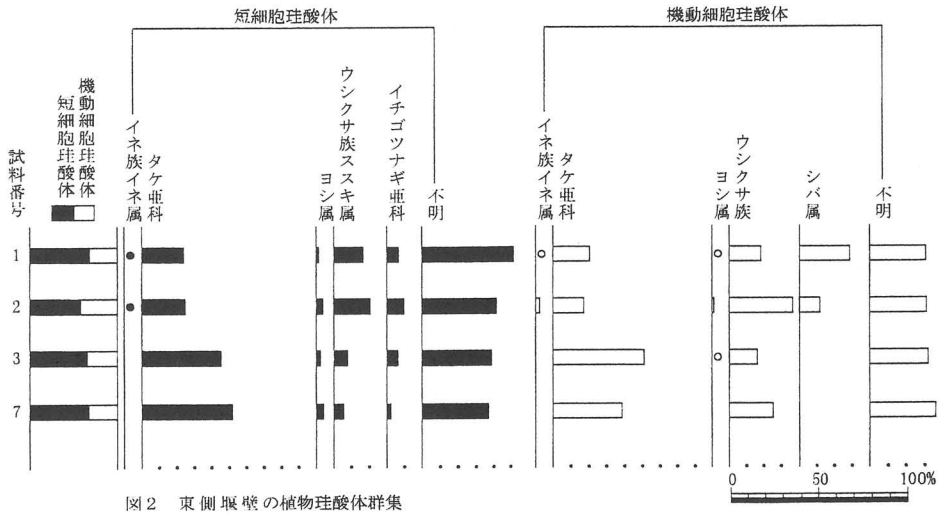
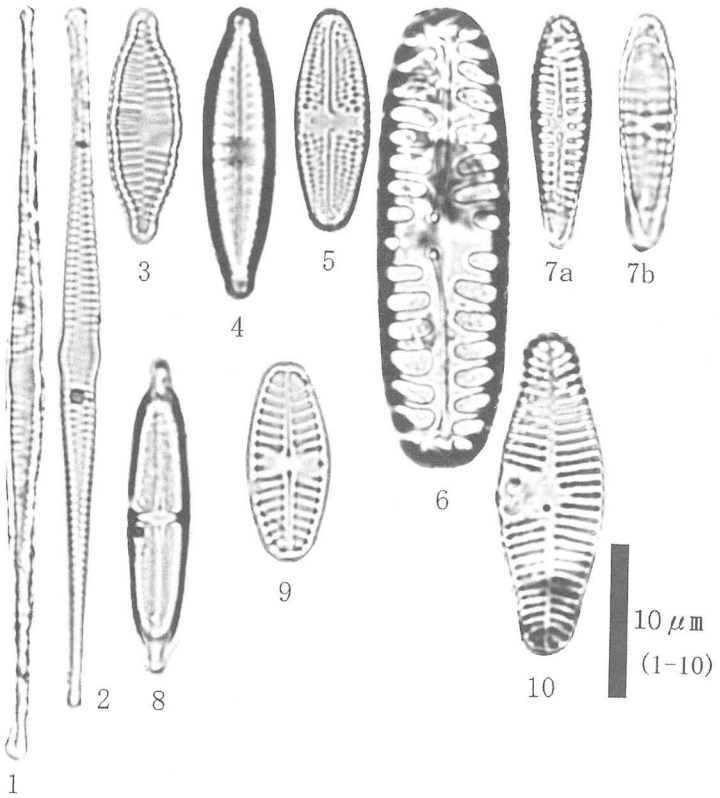
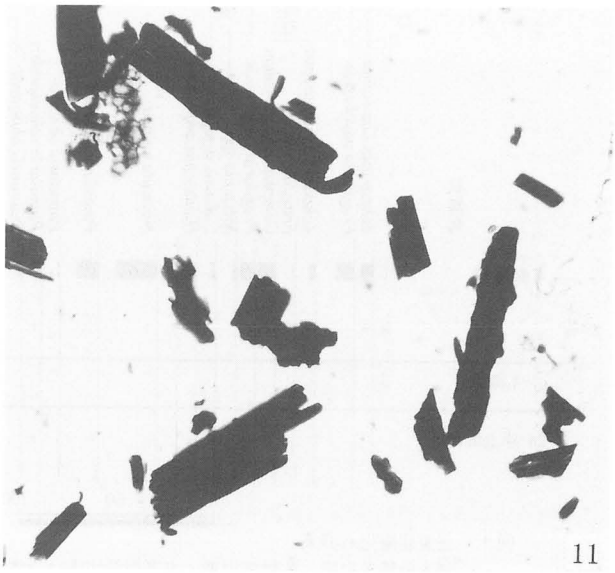
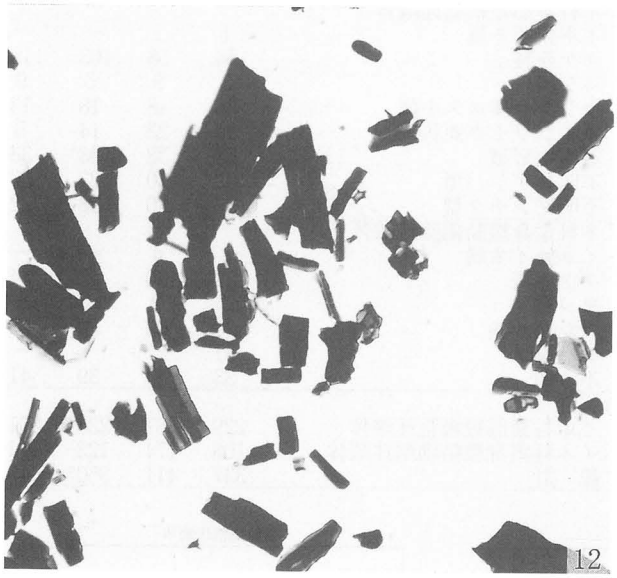


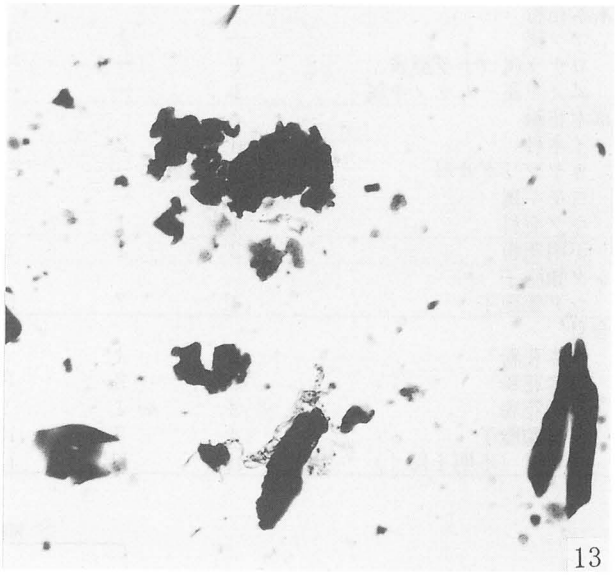
図2　東側堰壁の植物珪酸体群集

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1％未満の種類を示す。





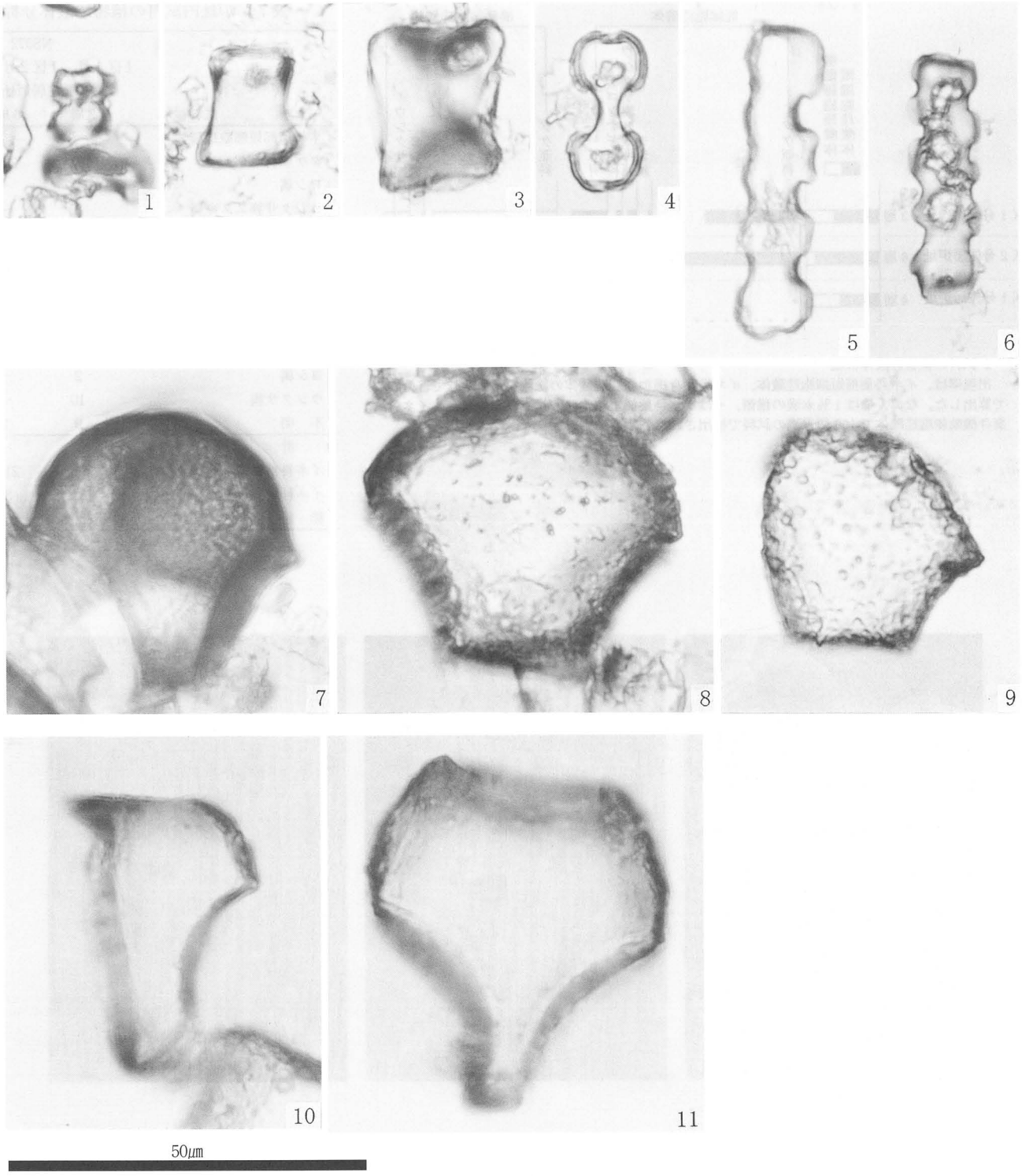




100μm
(11－13)

1. *Fragilaria crotonensis* Kitton（東側堰壁；8）
2. *Fragilaria crotonensis* Kitton（東側堰壁；1）
3. *Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.) Petersen（東側堰壁；1）
4. *Gomphonema parvulum* Kuetzing（東側堰壁；1）
5. *Navicula mutica* Kuetzing（東側堰壁；1）
6. *Pinnularia borealis* Ehrenberg（東側堰壁；1）
7. *Rhoicosphenia abbreviata* (Ag.) Lange-B（東側堰壁；1）
8. *Stauroneis tenera* Hustedt（東側堰壁；1）
9. *Achnanthes lanceolate* (Breb.) Grunow（東側堰壁；1）
10. *Achnanthes lanceolate* (Breb.) Grunow（東側堰壁；8）
11. 花粉分析プレパラート内の状況写真（J－4深堀；3）
12. 花粉分析プレパラート内の状況写真（東側堰壁；8）
13. 花粉分析プレパラート内の状況写真（24号土坑覆土）

図版2　珪藻化石・花粉分析プレパラート内の状況



1. イネ属短細胞珪酸体（東側堰壁；2）
2. タケ亜科短細胞珪酸体（Ⅰ区2号住居炉址；6層）
3. タケ亜科短細胞珪酸体（東側堰壁；7）
4. ススキ属短細胞珪酸体（東側堰壁；6）
5. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（東側堰壁；3）
6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（東側堰壁；6）
7. イネ属機動細胞珪酸体（東側堰壁；2）
8. タケ亜科機動細胞珪酸体（東側堰壁；7）
9. タケ亜科機動細胞珪酸体（Ⅰ区2号住居炉址；6層）
10. ウシクサ属機動細胞珪酸体（東側堰壁；6）
11. シバ属機動細胞珪酸体（東側堰壁；6）

図版3　植物珪酸体

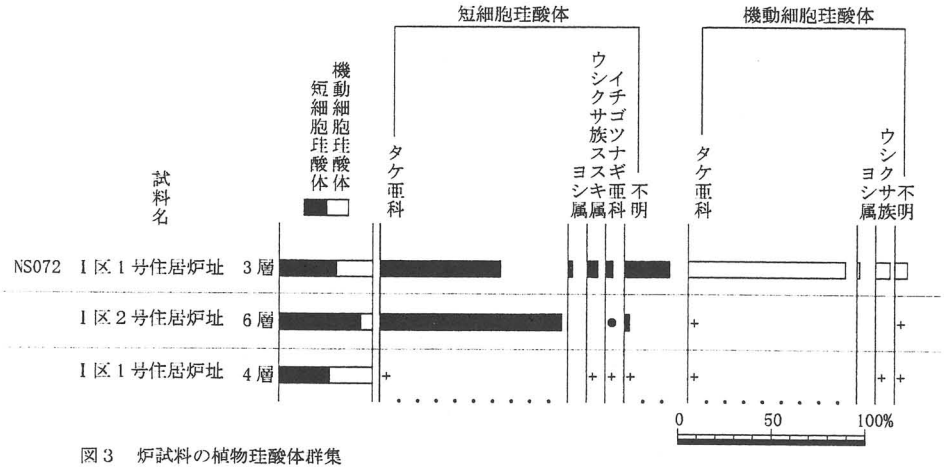
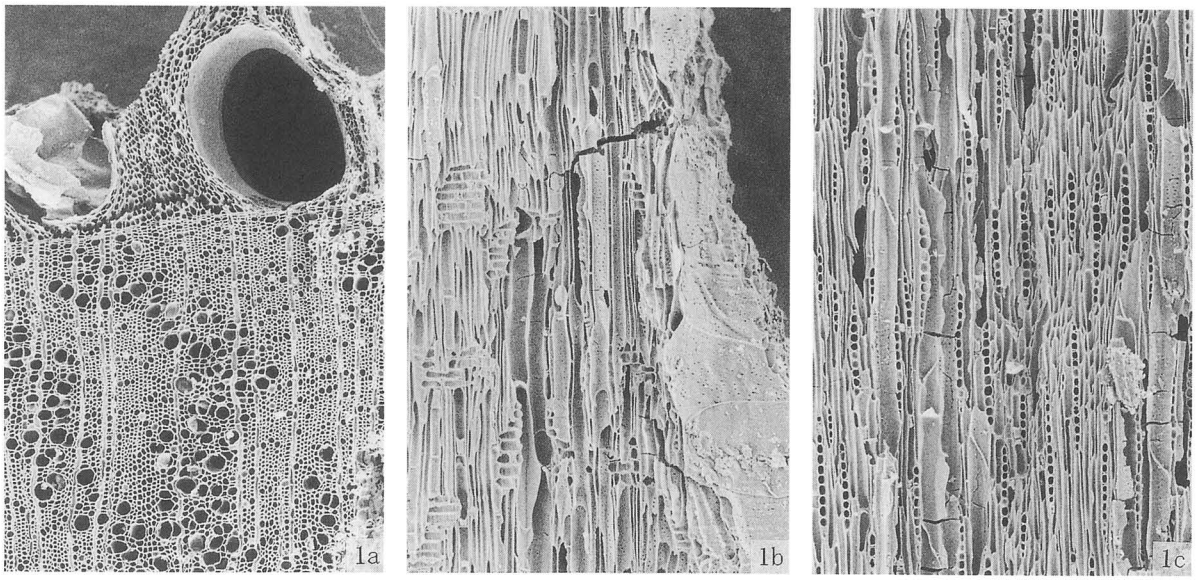


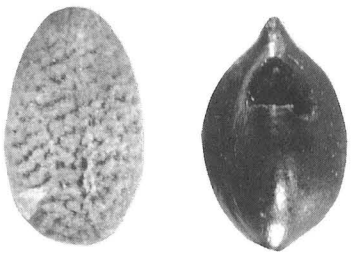
図3　炉試料の植物珪酸体群集

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は1％未満の種類、＋はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の試料で検出された種類を示す。

表7　炉址内試料の植物珪酸体分析結果

種　類	NS072 Ⅰ区1号	Ⅰ区2号	Ⅱ区4号
	住居炉址		
試料番号	3層	6層	4層
イネ科葉部短細胞珪酸体			
タケ亜科	131	221	38
ヨシ属	5	—	—
ウシクサ族ススキ属	12	—	3
イチゴツナギ亜科	8	1	5
不明キビ型	17	5	14
不明ヒゲシバ型	15	—	1
不明ダンチク型	17	1	5
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
タケ亜科	110	31	49
ヨシ属	2	—	—
ウシクサ族	10	—	1
不　明	9	2	7
合　計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	205	218	66
イネ科葉身機動細胞珪酸体	131	33	57
総　計	336	251	123





200μm：1a

200μm：1b，c

2mm

(2，3)

1. クリ（2号住居炉内；7）　　a：木口，b：柾目，c：板目
2. ニワトコ（Ⅱ区4号住居炉；4層）
3. タデ属（Ⅰ区1号住居炉；3層）

図版4　炭化材・種実遺体

表6　樹種同定結果

遺構名	採取位置	用途	番号	樹種	遺構名	採取位置	用途	番号	樹種
2号住居跡	床面	住居構築材	1	クリ	2号住居跡	床面	住居構築材	51	クリ
			2	クリ				52	クリ
			3	クリ				53	クリ
			4	クリ				54	クリ
			5	クリ				55	クリ
			6	クリ				56	クリ
			7	クリ				57	クリ
			8	クリ				58	クリ
			9	クリ				59	クリ
			10	クリ				60	クリ
			11	クリ				61	クリ
			12	クリ				62	クリ
			13	クリ				63	クリ
			14	クリ				64	クリ
			15	クリ				65	クリ
			16	クリ				66	クリ
			17	クリ				67	クリ
			18	クリ				68	クリ
			19	クリ				69	クリ
			20	クリ				70	クリ
			21	クリ				71	クリ
			22	クリ				72	クリ
			23	クリ				73	クリ
			24	クリ				74	クリ
			25	クリ				75	クリ
			26	クリ				76	クリ
			27	クリ				77	クリ
			28	クリ				78	クリ
			29	クリ				79	クリ
			30	クリ				80	クリ
			31	クリ		炉内	燃料材	1	クリ
			32	クリ				2	クリ
			33	クリ				3	クリ
			34	クリ				4	クリ
			35	クリ				5	クリ
			36	クリ				6	クリ
			37	クリ				7	クリ
			38	クリ				8	クリ
			39	クリ				9	クリ
			40	クリ				10	クリ
			41	クリ				11	クリ
			42	クリ				12	クリ
			43	クリ				13	クリ
			44	クリ				14	クリ
			45	クリ				15	クリ
			46	クリ				16	クリ
			47	クリ				17	クリ
			48	クリ				18	クリ
			49	クリ				19	クリ
			50	クリ				20	クリ

表8　木製品の樹種同定結果

地区	グリッド	番号	用途	樹種
Ⅰ区	F－4	72	曲物の底板	ヒノキ属
	F－4		底or蓋	モミ属
	G－5	15942	椀	ハンノキ属

表9　土壌理化学分析結果

地区	遺構名	試料名	土性	土色	腐植含量（%）	P205（mg/g）	Cao（mg/g）
Ⅰ区	2号住居跡	埋甕内の土	SiCL	10YR 3／3　暗褐	3.12	2.07	3.78
Ⅱ区	4号住居跡	埋甕内の土	CL	10YR 3／2　黒褐	5.42	2.31	4.59

1）　土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修,1967）による。
2）　土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編,1984）の野外土性による。
SiCL・・・シルト質埴壌土（粘土15～25%、シルト45～85%、砂0～40%）
CL・・・埴壌土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）

付編２：越中久保遺跡出土土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県長坂町に所在する越中久保遺跡では、縄文時代とされる住居跡等の遺構が検出されており、土器を中心とした該期の遺物も出土している。出土した土器は、縄文時代早期・前期初頭～後期初頭に至るまでの比較的長い期間にわたる様々な型式が認められている。これらの型式の中には、文様等の特徴から、南関東や東海地域あるいは信州地域に分布の中心があるとされているものがあり、越中久保遺跡の地理的位置を考慮すると、これらの地域との関係が示唆される。その関係をさらに具体的に検証する方法として、土器の胎土分析がある。

土器の胎土を構成するものは砂や粘土であり、砂や粘土を構成している鉱物や岩石片の種類構成を比較することにより、出土した土器間の異同を認識することができる。ある遺跡において胎土の異なる土器が混在したり、逆に単一の胎土ばかりであるというような状況は、その遺跡における土器の製作や移動に関する何らかの事情を反映しているということがいえる。さらに、胎土の鉱物組成や岩石種構成は、砂や粘土が土器の材料として採取された場所の地質学的背景を反映しているから、周辺地域における既存の地質情報との比較により、土器の地域性についても考えることができる。

今回の分布調査では、越中久保遺跡から出土した縄文時代前期、中期、後期の各時期にわたる土器について胎土の特徴を捉え、施文や型式などの分類と胎土との対応関係を検証する。また、胎土から推定される地質学的背景と遺跡周辺の地質との比較も行い、出土した土器の地域性についても考える。

1. 試　　料

試料は、越中久保遺跡から出土した縄文土器片30点である。試料には試料番号１～25までの番号が付けられているものと、①～⑤までの番号が付けられているものとがある。試料とした縄文土器の時期は、前期初頭、前期後半、前期末、中期初頭、中期前半、中期後半、後期初頭の各時期にわたる。各試料の出土地点、時期、施文や型式などは、分析結果を呈示した図１に併記する。

2. 分析方法

粘土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は重鉱物分析や薄片作製などが主に用いられており、後者では蛍光X線分析がよく用いられている。本分析では、重鉱物分析を用いる。この方法は、縄文土器のような比較的祖粒を含む胎土の分析において、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点がある。以下に処理過程をのべる。

試料は、適量をアルミ製乳鉢で粉砕、水を加え超音波洗浄装置により分散、＃250の分析篩により水洗、粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4㎜－1/8㎜の粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物のプレパラートを作製した後、偏光顕微鏡下にて同定した。鉱物の同定粒数は、250個を目標とした。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」として、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

3. 結　　果

各試料の分析結果を表１および図１に示す。胎土は、斜方輝石の多い組成、単斜輝石の多い組成および角閃石の多い組成に大きく分けられるが、それらの鉱物の量比関係と他に少量伴う鉱物の種類とから、本分析結果は、以下に述べるa～kまでの11種類に分けることができた。

a類：斜方輝石が非常に多く、少量の単斜輝石、角閃石、不透明鉱物を伴う。

b類：斜方輝石が最も多いが、角閃石も中量含まれる。単斜輝石と不透明鉱物は、少量である。

c類：b類に似るが、単斜輝石が微量しか含まれない。

d類：斜方輝石、単斜輝石、角閃石の３鉱物がほぼ同量程度ずつ含まれる。

e類：斜方輝石が最も多いが、単斜輝石も中量含まれる。角閃石と不透明鉱物は少量である。

f類：単斜輝石が最も多く、中量の斜方輝石が含まれ、少量～微量の角閃石および不透明鉱物を伴う。

g類：角閃石が非常に多く、少量の斜方輝石と不透明鉱物を伴う。

h類：角閃石が最も多いが、中量の不透明鉱物が含まれ、少量の斜方輝石を伴う。

i類：ほとんど角閃石からなり、微量の斜方輝石を伴う。

j類：ほとんど角閃石からなり、微量の斜方輝石と酸化角閃石および緑レン石を伴う。

k類：角閃石が非常に多く、少量のザクロ石と不透明鉱物および微量の電気石を伴う。

上記の分類のうち、a～c類は斜方輝石の多い胎土、d～f類は単斜輝石が最も多いか、a～c類に比べて相対的

に多い胎土、g～j類は角閃石の多い胎土、k類は角閃石の多い胎土ではあるがザクロ石が特徴となる胎土といえる。

各試料の胎土分類を図１に示すとともに、試料の時期および型式などの分類と胎土分類とを対応させた表を表２に示す。30点という点数の中での傾向としては、a類は前期と後期に、b類は前期と中期にみられ、d類とf類は中期、g～i類は前期に多い傾向がある。また、k類は木島式の土器に限定される。

4. 考　　察

長坂町の位置する八ヶ岳南麓地域周辺の地質については、甲府盆地第四紀研究グループ（1969）などの資料がある。また、河西他（1989）では、縄文時代中期末の土器胎土分析のために、八ヶ岳南麓地域周辺の河川砂について岩片組成および重鉱物組成を明らかにしている。同文献によれば、八ヶ岳南麓地域周辺の河川砂は、釜無川右岸側の釜無川地域、釜無川と塩川に挟まれた八ヶ岳南麓地域、塩川左岸側の塩川地域の３地域でそれぞれ特徴が把握されている。具体的には、釜無川地域では花崗岩類とその構成鉱物（重鉱物では黒雲母や角閃石）が優勢であり、八ヶ岳南麓地域では安山岩とそれに由来する単斜輝石と斜方輝石が多く、塩川地域ではデイサイトが検出されることが特徴であり、重鉱物では単斜輝石と角閃石が比較的多いとされている。この分析結果は、薄片作製によるモード組成であり、本分析結果とは単純には比較することができないが（例えば、黒雲母については、本分析方法では重鉱物の中に入らない）、傾向として参考になるデータである。今回の分析で分類した胎土のうち、g～j類は、おそらく釜無川地域に相当する可能性があり、f類は八ヶ岳南麓地域、d．e類はおそらく塩川地域に相当するのではないだろうか。a～c類のように斜方輝石が多い砂は、上記の河西ほか（1989）の分析例では認められず、河西（1089）による甲府盆地内の各河川砂にも認めることはできない。k類についても同様にザクロ石を特徴的に含む分析例は、上記文献で認められない。したがって、a～c類およびk類は、八ヶ岳南麓から甲府盆地までの地域以外の地域に由来が求められる可能性がある。

現時点で上記の地域性を表２に当てはめてみると、以下のことが言える。まず、縄文前期初頭の土器は、越中久保遺跡とは釜無川を挟んで対岸の地域からの土器と八ヶ岳南麓～甲府盆地外の地域からの土器が混在し、前期後半から中期初頭までの土器は釜無川地域からの土器からなり、中期前半から後期初頭までの土器は八ヶ岳南麓地域と八ヶ岳南麓～甲府盆地外の地域とが混在するという状況になる。なお、k類については、角閃石とザクロ石という組み合わせ、さらに電気石や紅柱石などの鉱物も含まれることと、愛知県から静岡県にかけての東海地域に分布の中心がある木島式に限定されることを考慮すると、花崗岩および片麻岩などから構成される領家帯と呼ばれる地質に由来する可能性がある。領家帯の分布は、天竜川沿いから愛知県東部に伸びており、k類の地域性としてこの地域を想定することができる。

以上に述べた各胎土の地域性は、まだ検証資料に乏しく、今後のさらなる分布例を必要とする。特にa～c類については、八ヶ岳南麓～甲府盆地までの地域内に本当に認められないのか、今回と同様の分析手法により確かめなければならない。しかし、少なくとも表２に示したように、越中久保遺跡の縄文土器は、製作事情の異なる土器が混在し、その混在状況は時期によって変化していることは明らかである。また、木島式のように異地性の非常に高い土器の混在も確かめられた。周辺域における土器および自然堆積物の分析例が蓄積されることがあれば、各胎土の地域性はより確実となり、八ヶ岳南麓地域における縄文土器の動態に迫れるものと期待される。

引用文献

河西　学(1989)　甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成―土器胎土分析のための基礎データ。山梨考古学論集Ⅱ、p505－523.

河西　学・櫛原功一・大村昭三（1989）　八ヶ岳南麓とその周辺地域の縄文時中期末土器群の胎土分析。帝京大学山梨文化財研究所研究報告第1集、p1―64。

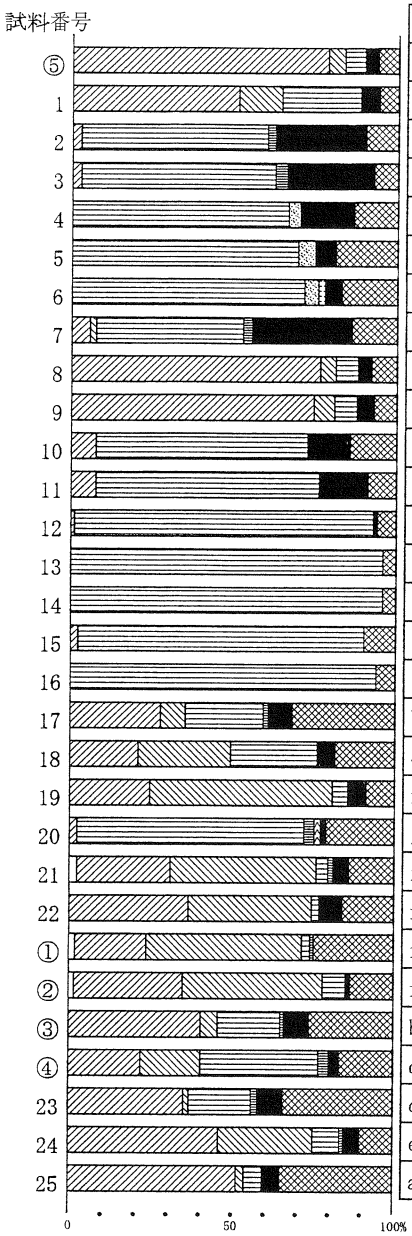
甲府盆地第四紀研究グループ(1969)　八ヶ岳南麓の地質、75、p401―416。

表１　重鉱物分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	紅柱石	不透明鉱物	その他	合計
⑤	0	196	13	15	1	0	0	0	0	0	10	15	250
1	0	127	33	61	2	0	0	1	2	0	14	10	250
2	0	7	1	142	6	2	0	0	1	0	70	21	250
3	0	7	0	148	9	0	0	0	1	0	67	18	250
4	0	0	0	92	2	1	5	2	1	1	23	12	139
5	0	0	0	173	0	1	13	1	2	1	16	43	250
6	0	1	1	178	1	1	11	1	5	1	13	37	250
7	0	14	5	112	7	0	0	1	1	0	77	33	250
8	0	191	12	17	0	0	0	0	0	0	10	20	250
9	0	186	16	17	0	0	0	0	0	0	13	18	250
10	0	19	0	162	0	0	0	0	1	0	33	35	250
11	0	19	0	171	0	0	0	0	0	0	38	22	250
12	0	3	0	229	0	0	0	0	0	0	3	15	250
13	0	2	0	240	0	0	0	0	0	0	1	7	250
14	0	1	1	240	0	0	0	0	0	0	1	7	250
15	0	6	0	220	0	0	0	2	0	0	2	20	250
16	0	2	0	235	0	0	0	0	1	0	2	10	250
17	0	69	19	60	4	1	0	2	1	0	18	76	250
18	0	52	71	67	0	0	0	2	1	0	14	43	250
19	1	61	141	12	2	0	0	0	1	0	14	18	250
20	0	6	0	174	8	0	0	5	0	0	4	53	250
21	6	71	113	9	4	0	0	0	2	0	12	33	250
22	0	91	95	6	1	0	0	0	0	0	18	39	250
①	5	54	120	6	3	0	0	0	0	0	1	61	250
②	4	83	108	18	1	0	0	0	0	0	3	33	250
③	0	101	13	48	3	1	0	0	0	0	19	65	250
④	0	55	46	91	8	0	1	0	0	0	8	41	250
23	0	88	4	48	5	0	0	1	0	0	19	85	250
24	0	115	73	21	3	0	0	0	0	0	12	26	250
25	0	129	6	14	1	0	0	0	0	0	13	87	250

表２　土器の分類と胎土

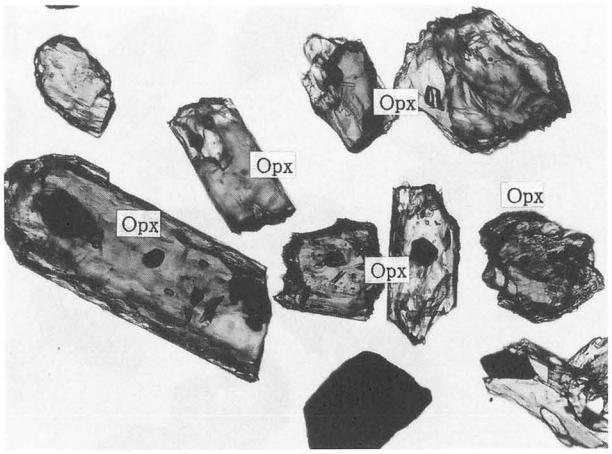
時　期	型式など	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
縄文前期初頭	―	1										
	含繊維、縄文施文		1						2			
	木島式											3
	含繊維、縄文施文沈線施文	2							1			
縄文前期後半	諸磯式							2		1		
縄文前期末	十三菩提式									2		
縄文中期初頭	五領ヶ台式									2		
縄文中期前半	狢沢式		1		1							
	新道式						1				1	
	藤内式						2					
縄文中期後半	曽利系						2					
	加曽利E系		1		1							
縄文後期初頭	称名寺式	1		1		1						



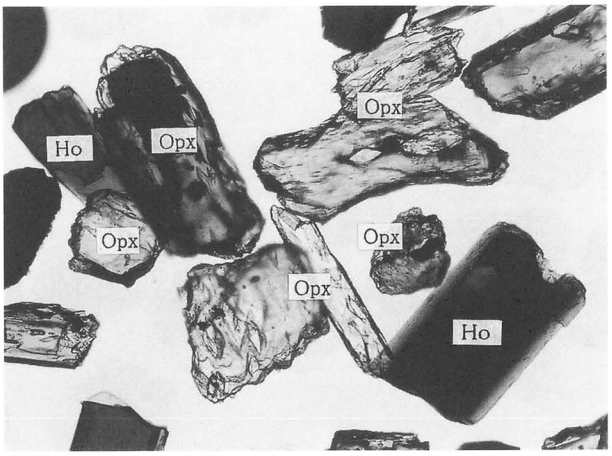
胎土	出土地点	時期	備考
a	Ⅰ区 1-4, 12424	縄文前期初頭	
b	Ⅰ区 J-5CH15568	縄文前期初頭	含繊維、縄文施文
h	Ⅰ区 J-3CH5849	縄文前期初頭	含繊維、縄文施文
h	Ⅰ区 00	縄文前期初頭	含繊維、縄文施文
k	Ⅰ区 J-5CH14591	縄文前期初頭	木島式
k	Ⅰ区 I-3CH4340	縄文前期初頭	木島式
k	Ⅰ区 J-3CH7960	縄文前期初頭	木島式
h	Ⅰ区 J-4AN83	縄文前期初頭	含繊維、縄文施文沈線施文
a	Ⅰ区 J-5NI16756	縄文前期初頭	含繊維、縄文施文沈線施文
a	Ⅰ区 J-5CH15806	縄文前期初頭	含繊維、縄文施文沈線施文
g	Ⅰ区 J-5CH15582	縄文前期後半	諸磯式
g	Ⅰ区 I-4.7213	縄文前期後半	諸磯式
i	Ⅰ区 J-3	縄文前期後半	諸磯式
i	Ⅰ区 I-2	縄文前期末	十三菩提式
i	Ⅰ区 Y01.164	縄文前期末	十三菩提式
i	Ⅰ区 J-4AN	縄文中期初頭	五領ヶ台式
i	Ⅰ区 I-3 一括	縄文中期初頭	五領ヶ台式
b	Ⅰ区 Y02.247	縄文中期前半	狢沢式
d	Ⅰ区 Y02.125	縄文中期前半	狢沢式
f	Ⅰ区 Y01.KI.438	縄文中期前半	新道式
j	Ⅰ区 Y02.232	縄文中期前半	新道式
f	Ⅰ区 J-5KI16811	縄文中期前半	藤内式
f	00	縄文中期前半	藤内式
f	Ⅰ区 1-4p24	縄文中期曽利系	
f	Ⅰ区 F-2 １０５６５	縄文中期曽利系	
b	Ⅰ区 Y02,313	縄文中期加曽利Ｅ系	
d	Ⅰ区 Y01,B,6	縄文中期加曽利Ｅ系	
c	Ⅰ区 Y01.C2.29	縄文後期初頭	称名寺式
e	Ⅰ区 Y02.139	縄文後期初頭	称名寺式
a	Ⅰ区 Y01.14	縄文後期初頭	称名寺式

凡例　カンラン石　斜方輝石　単斜輝石　角閃石　酸化角閃石　ザクロ石　電気石　不透明鉱物　その他

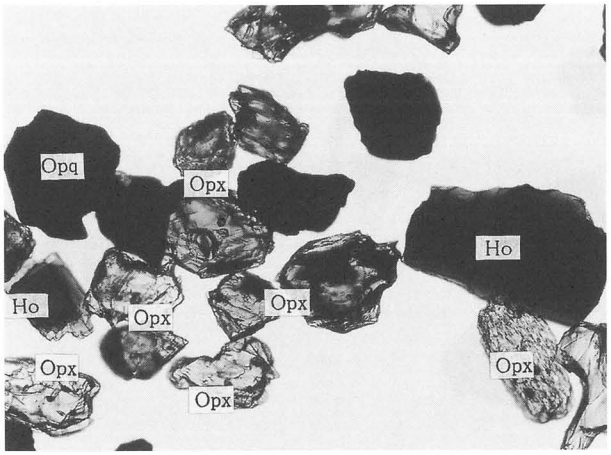
図１　胎土重鉱物組成



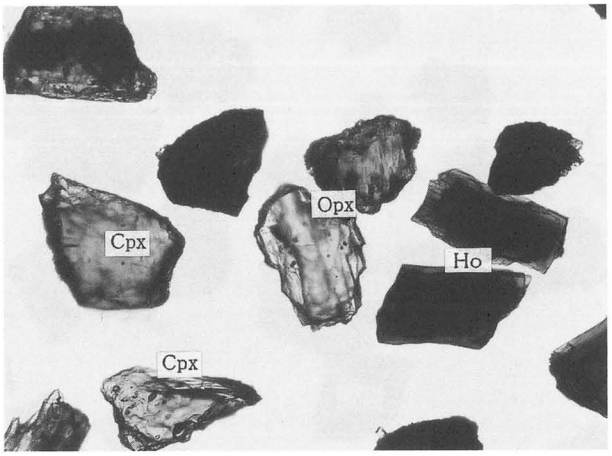
1. a類（Ⅰ区J－5 NI16756縄文前期初頭　含繊維、縄文施文沈線；8）



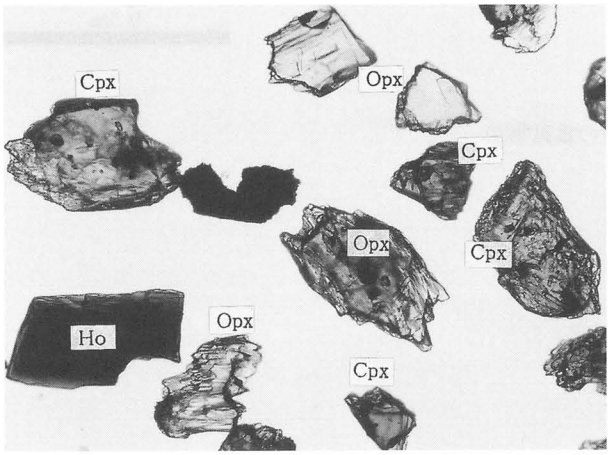
2. b類（Ⅰ区J－5 CH5568縄文前期初頭　含繊維、縄文施文；1）



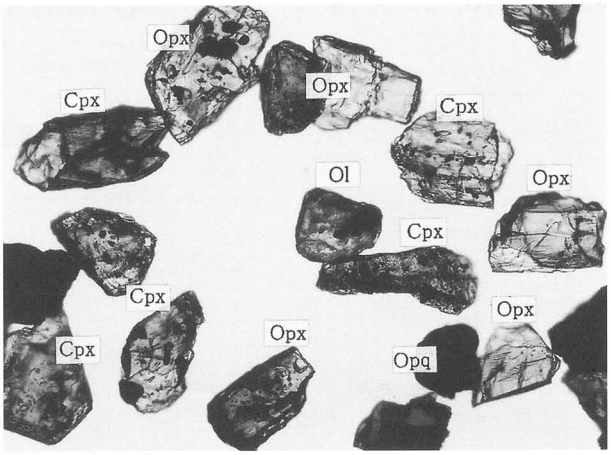
3. c類（Ⅰ区Y01. C2. 29　縄文後期初頭　称名寺式；23）



4. d類（Ⅰ区Y01, B, 6　縄文中期加曽利E系；④）



5. e類（Ⅰ区Y02. 139　縄文後期初頭　称名寺式；24）

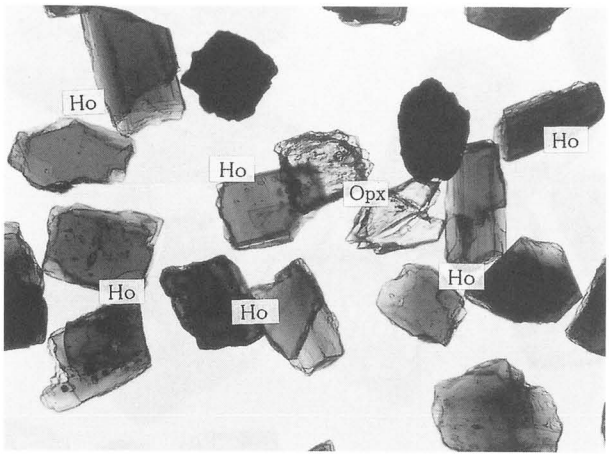


6. f類（Ⅰ区J－5 KI16811　縄文中期前半　藤内式；21）

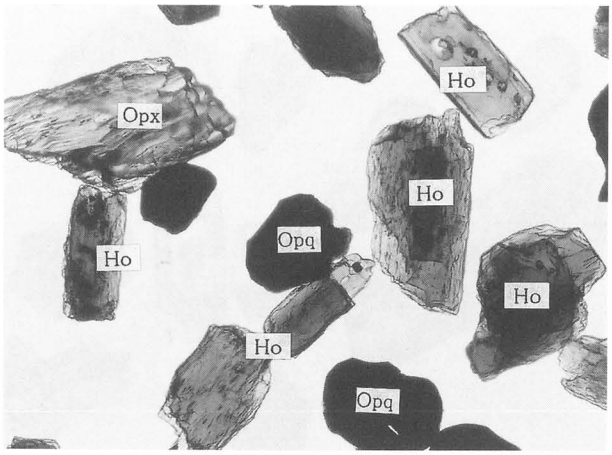
01：カンラン石. Opx：斜方輝石. Cpx：単斜輝石. Ho：角閃石. Opq：不透明鉱物.

0.5mm

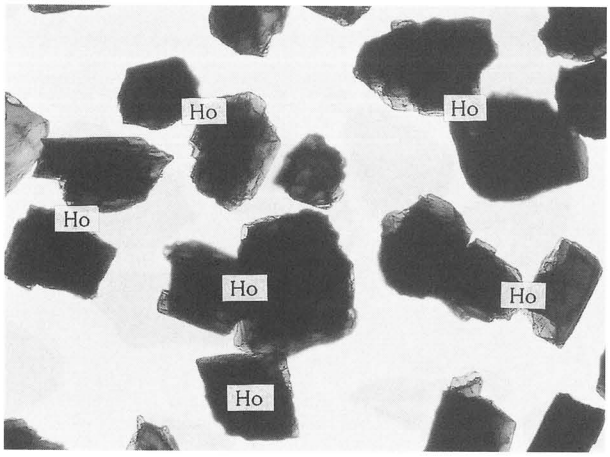
図版1　胎土中の重鉱物(1)



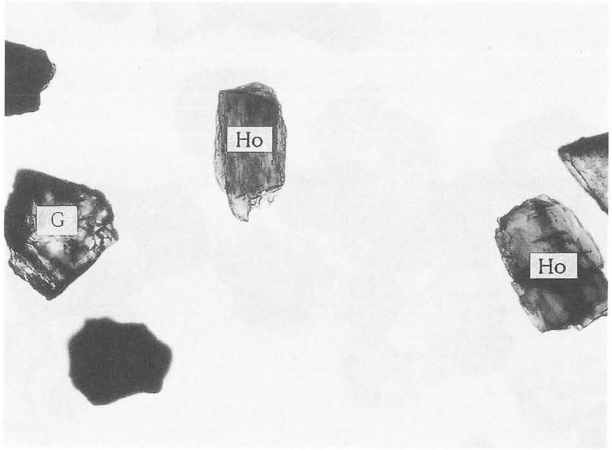
7. g類（Ⅰ区Ⅰ－4. 7213　縄文前期後半　諸磯式；11）



8. h類（Ⅰ区00　縄文前期初頭　含繊維、縄文施文；3）



9. i類（Ⅰ区J－3　縄文前期後半　諸磯式；12）



10. k類（Ⅰ区Ⅰ－3 CH4340　縄文前期初頭　木島式；5）

Opx：斜方輝石．Ho：角閃石．G：ザクロ石．Opq：不透明鉱物．

0.5㎜

図版2　胎土中の重鉱物(2)

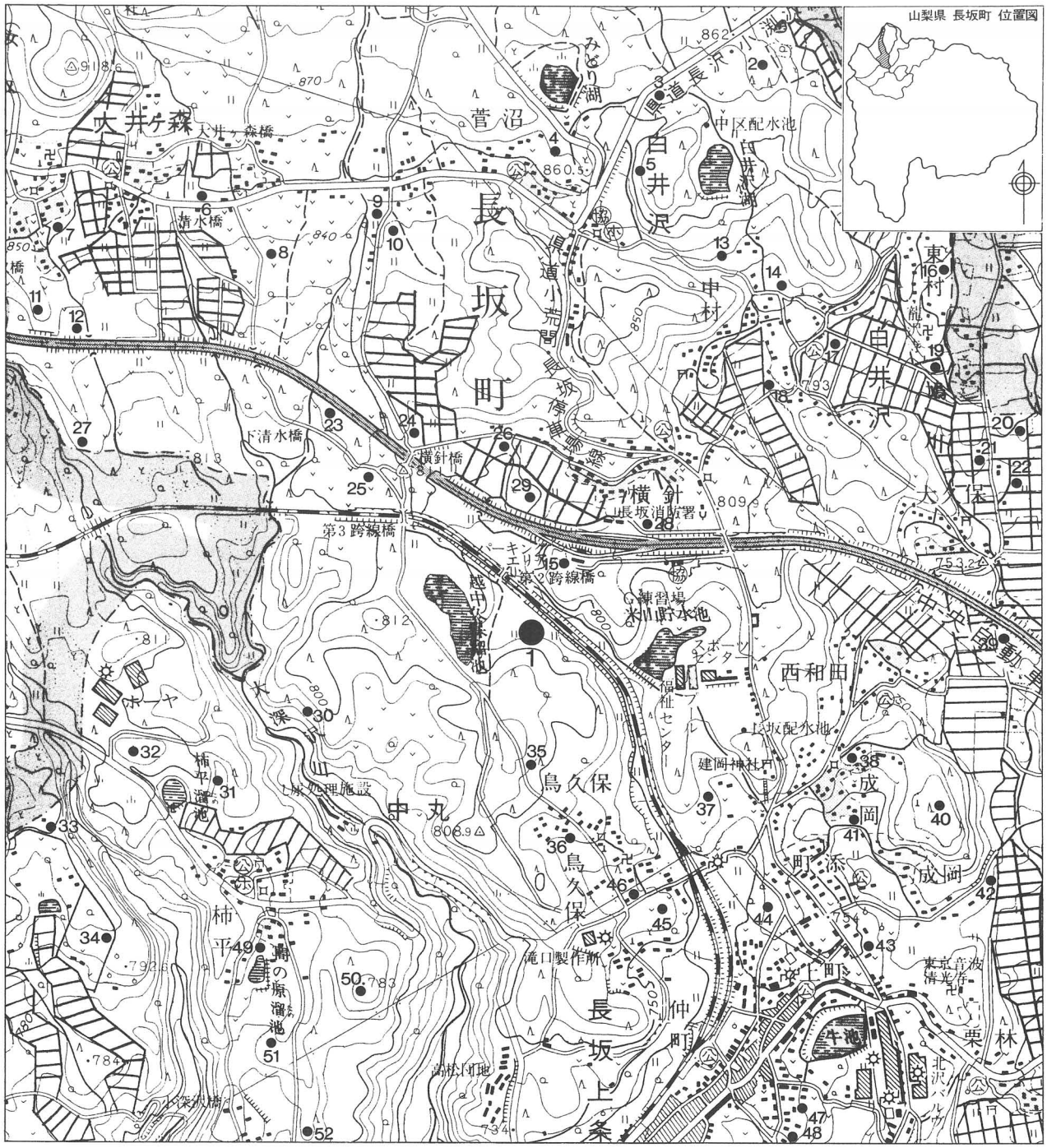


図1　周辺遺跡

表1　周辺遺跡一覧表

1	越中久保遺跡	縄 平 中
2	牛久保遺跡	縄
3	苧干平遺跡	縄 中
4	沢入遺跡	縄 中
5	苧干平の土塁	
6	横山平南遺跡	縄 平
7	上フノリ平遺跡	縄
8	葛原北遺跡	縄 平
9	西下屋敷遺跡	縄
10	東下屋敷遺跡	縄
11	下フノリ平北遺跡	縄
12	下フノリ平遺跡	縄 中
13	横手遺跡	縄 中
14	十郎林遺跡	縄
15	米山遺跡	縄 弥
16	屋敷附遺跡	縄 中
17	阿原遺跡	平
18	中尾根遺跡	縄
19	内城遺跡	中
20	別当遺跡	縄
21	別当西遺跡	縄
22	別当十三塚	
23	葛原遺跡	縄 弥
24	新田森遺跡	縄
25	西下屋敷南遺跡	縄
26	横針遺跡	弥 中
27	下フノリ平南遺跡	平
28	横針前久保遺跡	旧 縄
29	横針中山遺跡	中
30	竹原遺跡	縄 中
31	天白城址	中
32	池の平遺跡	縄
33	東蕪3遺跡	平
34	東蕪4遺跡	縄 平
35	久保遺跡	縄
36	下鳥久保遺跡	縄
37	房屋敷遺跡	縄
38	成岡遺跡	縄 弥 平
39	小和田館跡	中
40	成岡・藤塚	
41	成岡新田遺跡	弥 平
42	久保地遺跡	縄
43	曲田遺跡	平
44	大林遺跡	縄
45	高松遺跡	縄
46	鳥久保遺跡	縄
47	上町遺跡	縄 平
48	上町南遺跡	縄
49	小尾平遺跡	旧 縄
50	中丸・藤塚	
51	間の原遺跡	縄
52	新宿区健康村遺跡	縄 平

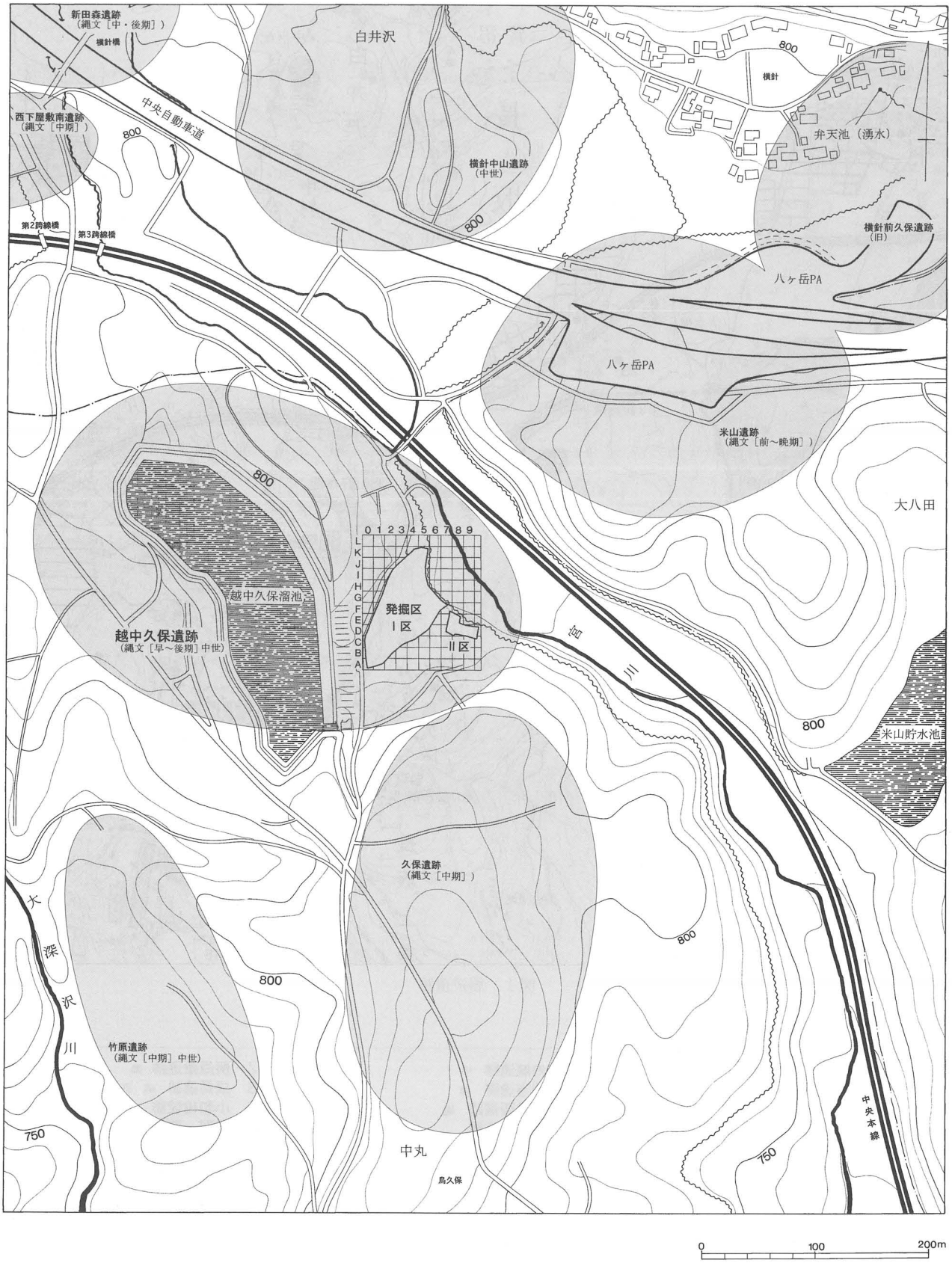


図２　遺跡の位置と周辺地形

図3　調査区全体図

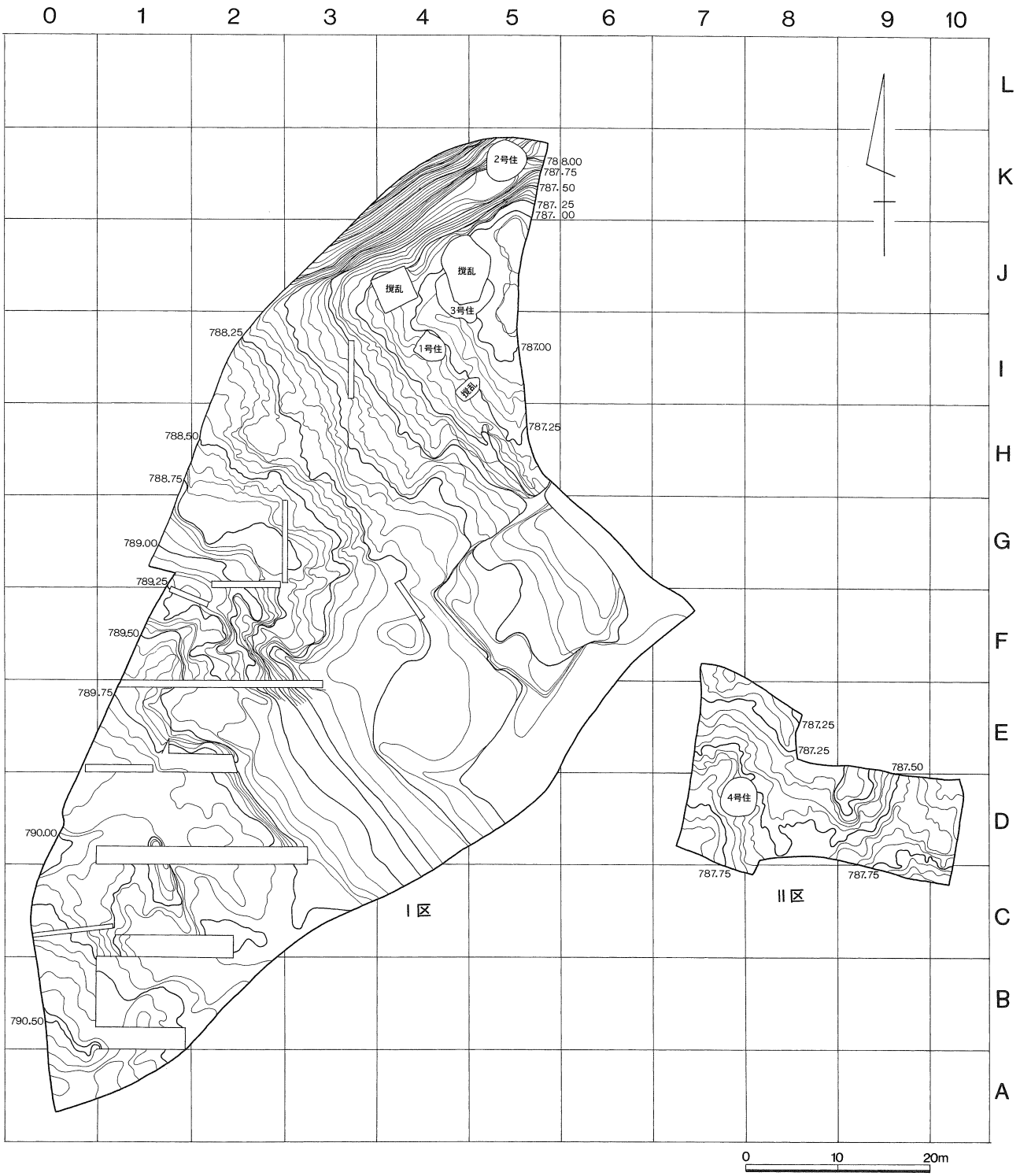
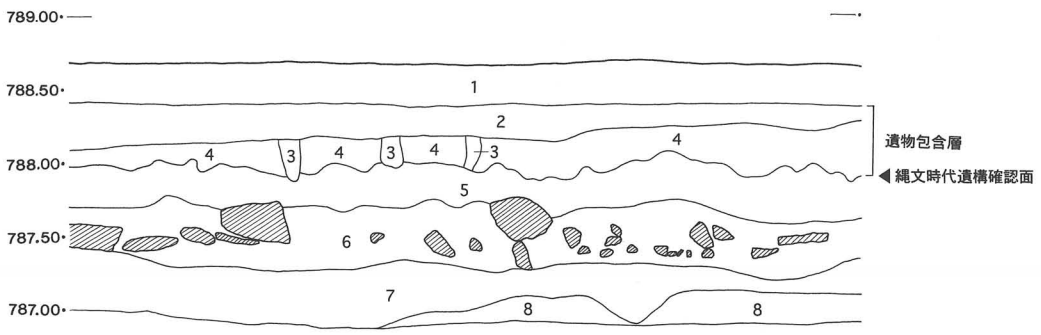

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
2号住
3号住
1号住
4号住
撹乱
撹乱
撹乱
788.00
787.75
787.50
787.25
787.00
787.00
787.25
788.25
788.50
788.75
789.00
789.25
789.50
789.75
790.00
790.50
787.25
787.25
787.50
787.75
787.75
I区
II区
0
10
20m

図4　調査区地形図

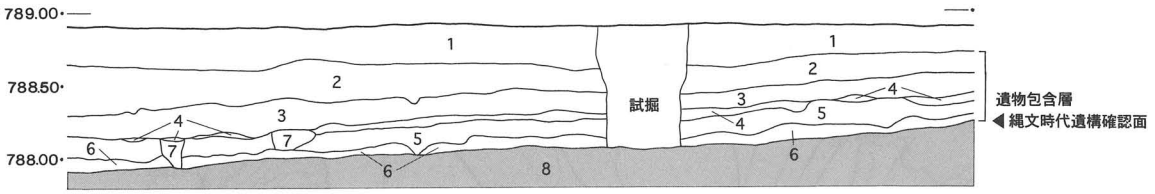
1



1 水田耕作土
2 暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
3 暗黄褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
4 黒色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
5 暗黄褐色土層　ローム粒子少量、粘性あり。地山
6 明黄褐色土層　ローム、10～40cm大礫含む。
7 明黄褐色土層　ローム、5cm大礫多量。
8 灰白色土層　礫多量。

2

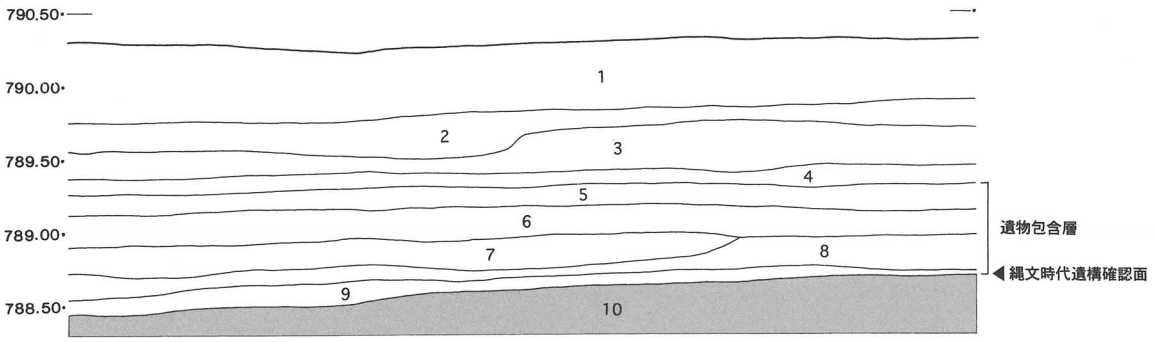
I-3グリット――I-4グリット



1 水田耕作土
2 暗黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
3 暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
4 暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
5 黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
6 暗黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。黒褐色土多量に混入。
7 黒褐色土層　ローム粒子微量。
8 黄褐色土層　地山

3

発掘区東壁面（水路添）



1 水田耕作土
2 水田床土
3 暗灰褐色土層　砂礫多量（川砂）。
4 灰褐色土層　砂礫少量。
5 暗褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
6 褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
7 暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
8 黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
9 褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
10 黄褐色土層　地山

0　1　2m

図5　基本層序

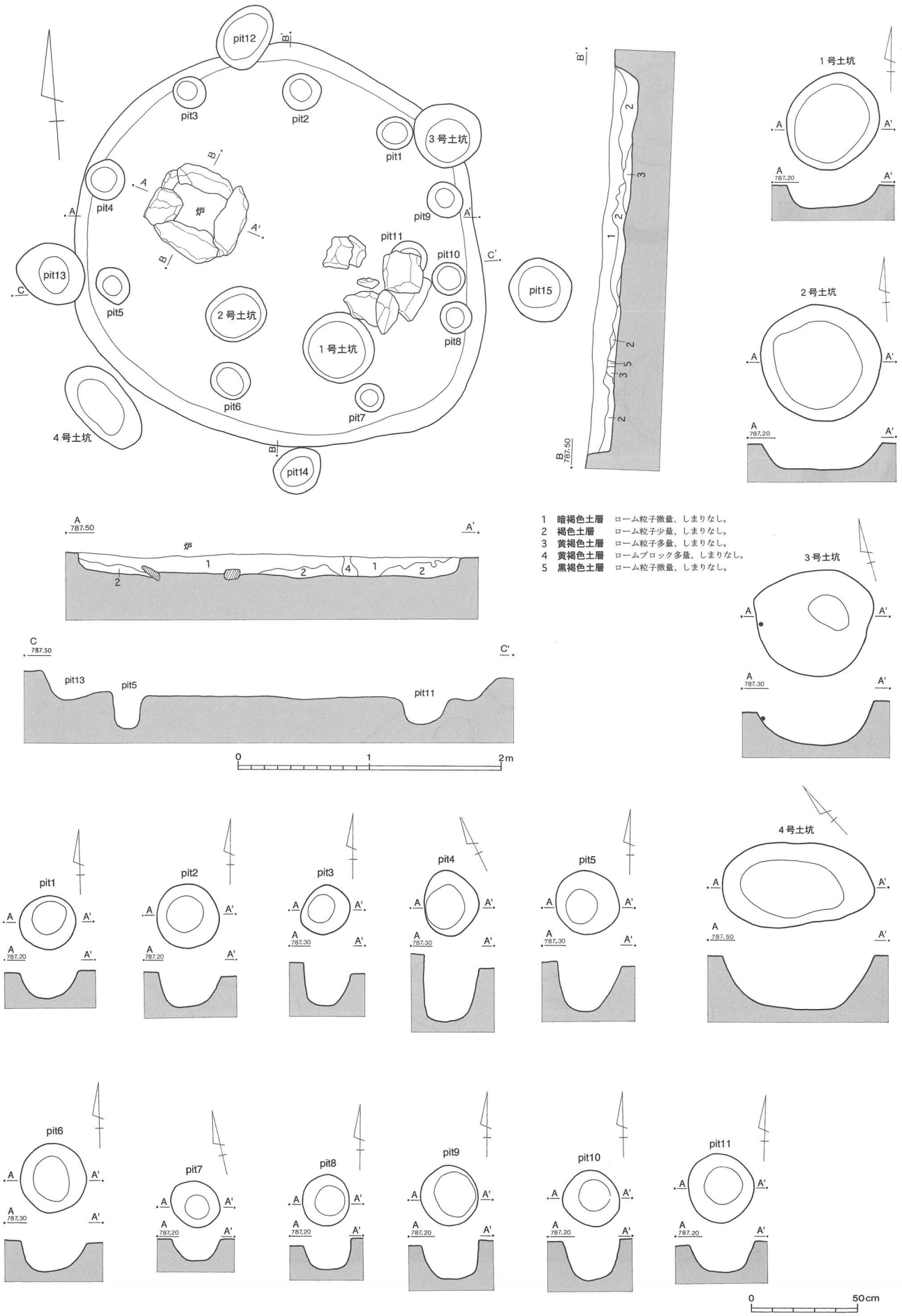
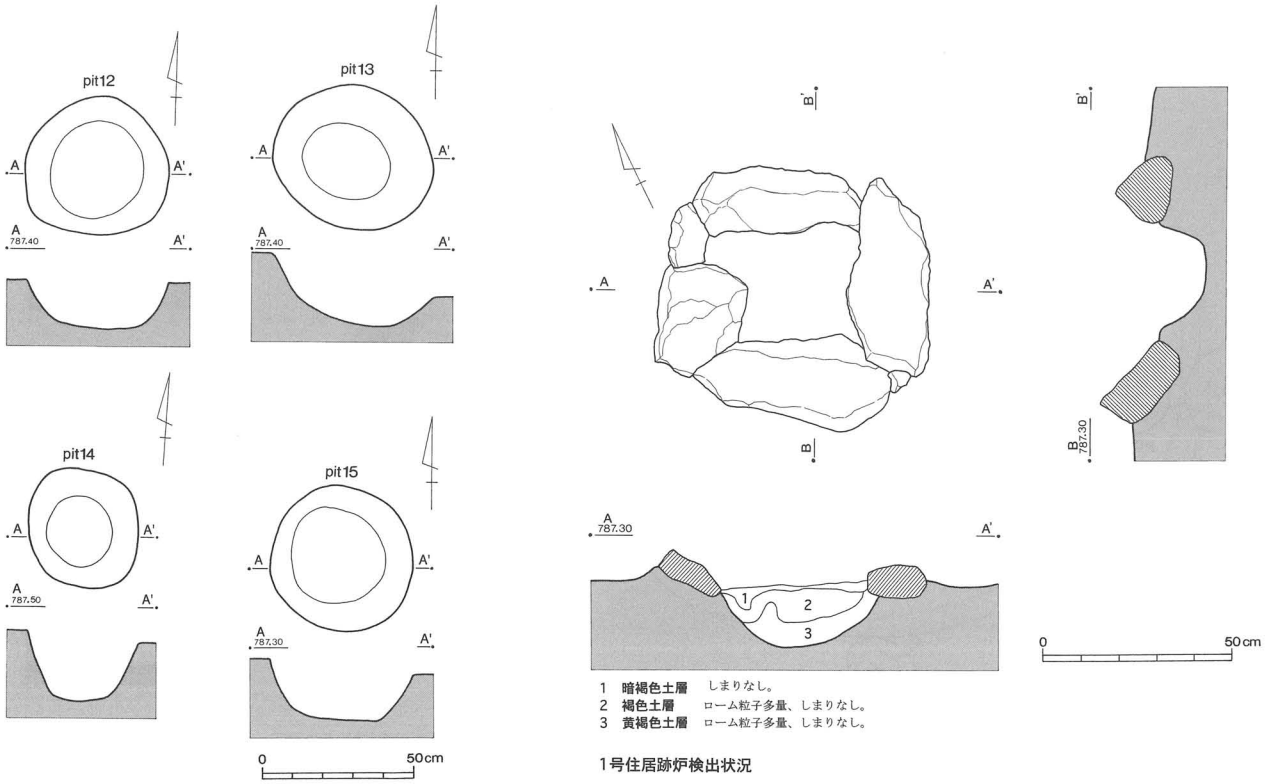
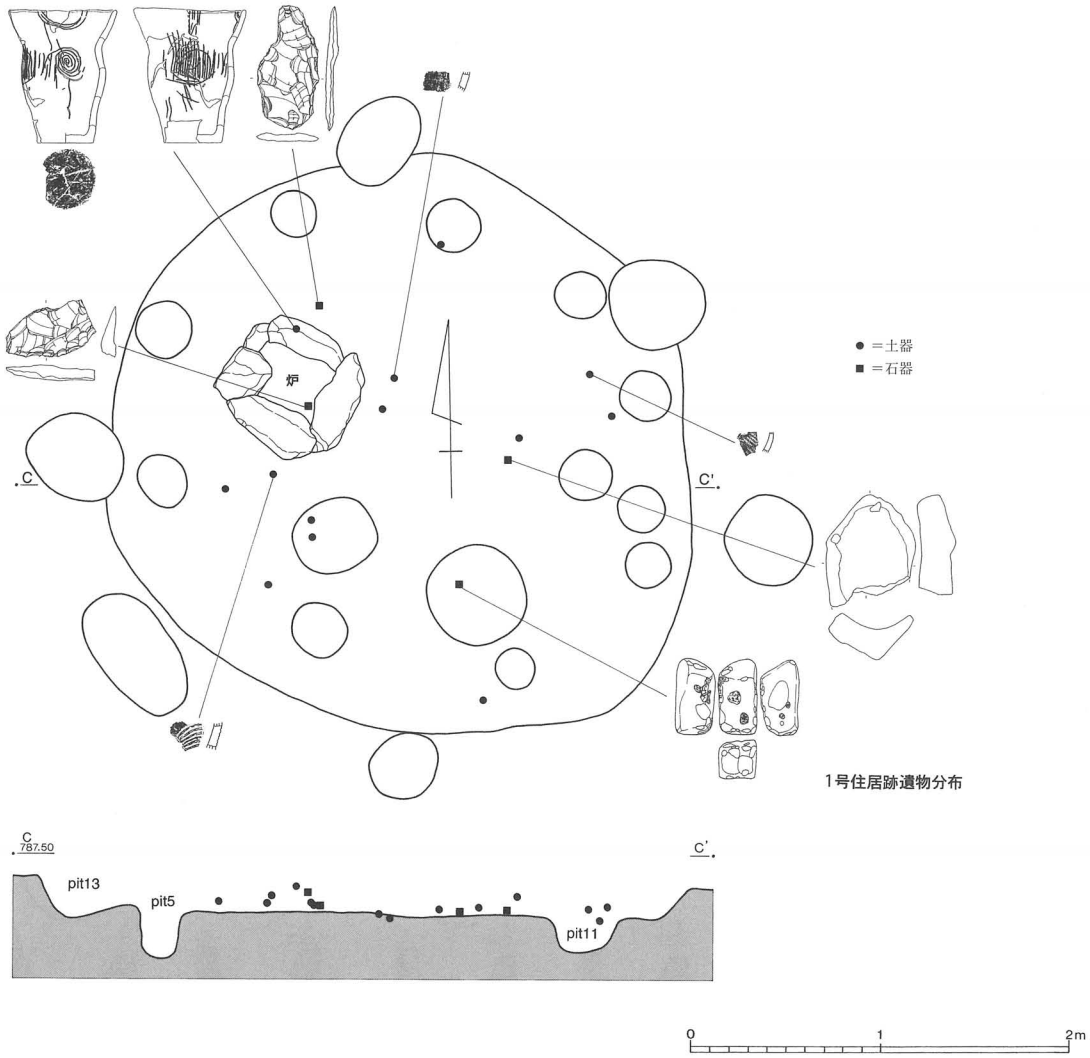

pit12
pit3
pit2
pit1
3号土坑
pit4
炉
pit9
pit11
pit10
pit13
pit5
2号土坑
1号土坑
pit8
pit6
pit7
4号土坑
pit14
pit15
1号土坑
2号土坑
3号土坑
4号土坑
787.50
787.20
787.30
1 暗褐色土層 ローム粒子微量、しまりなし。
2 褐色土層 ローム粒子少量、しまりなし。
3 黄褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
4 黄褐色土層 ロームブロック多量、しまりなし。
5 黒褐色土層 ローム粒子微量、しまりなし。
0 1 2m
0 50cm

図6　1号住居跡実測図



1号住居跡炉検出状況



1号住居跡遺物分布

図７　１号住居跡炉検出状況、遺物分布

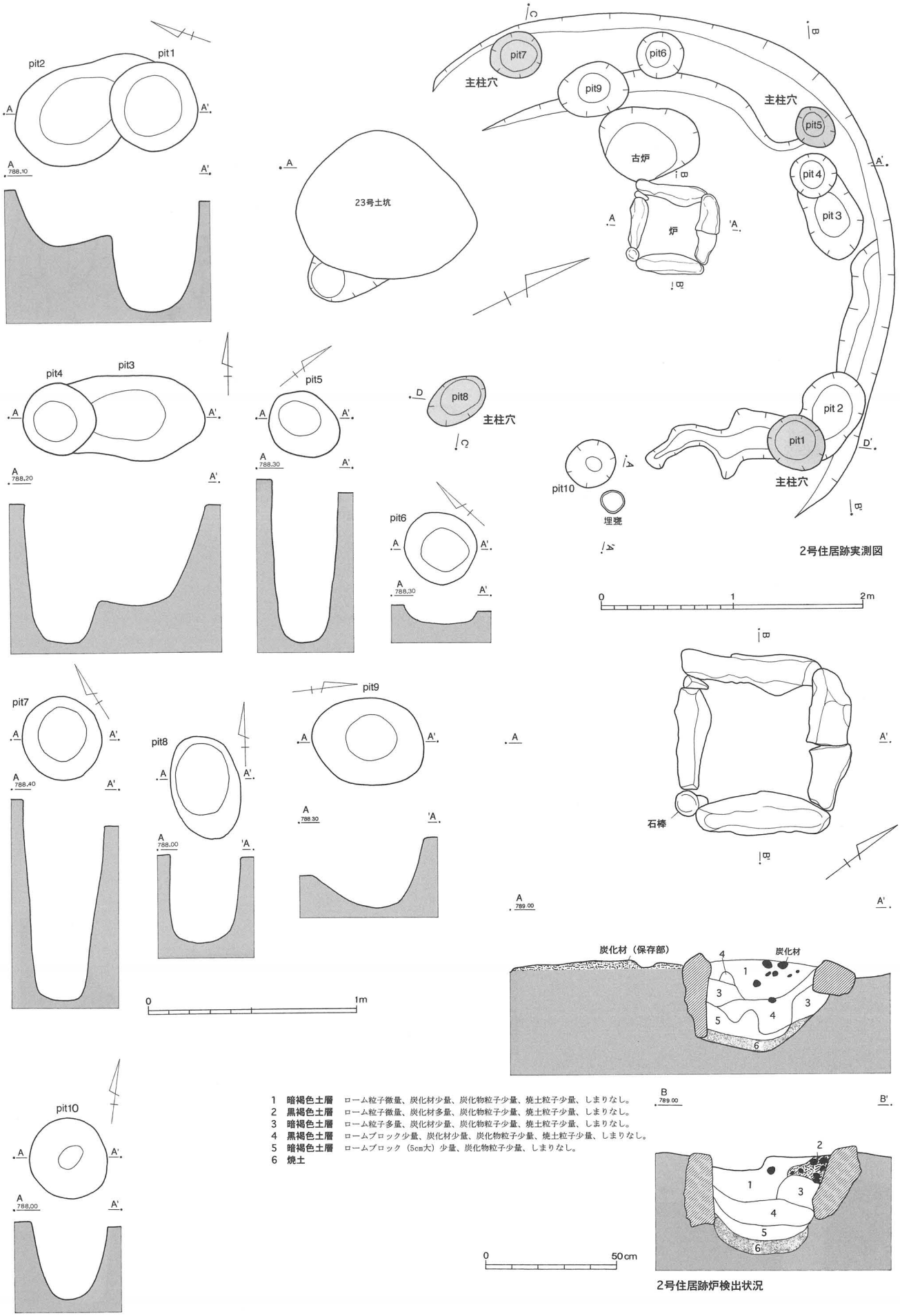


図８　２号住居跡実測図、炉検出状況

図９　２号住居跡遺物・炭化材出土状況

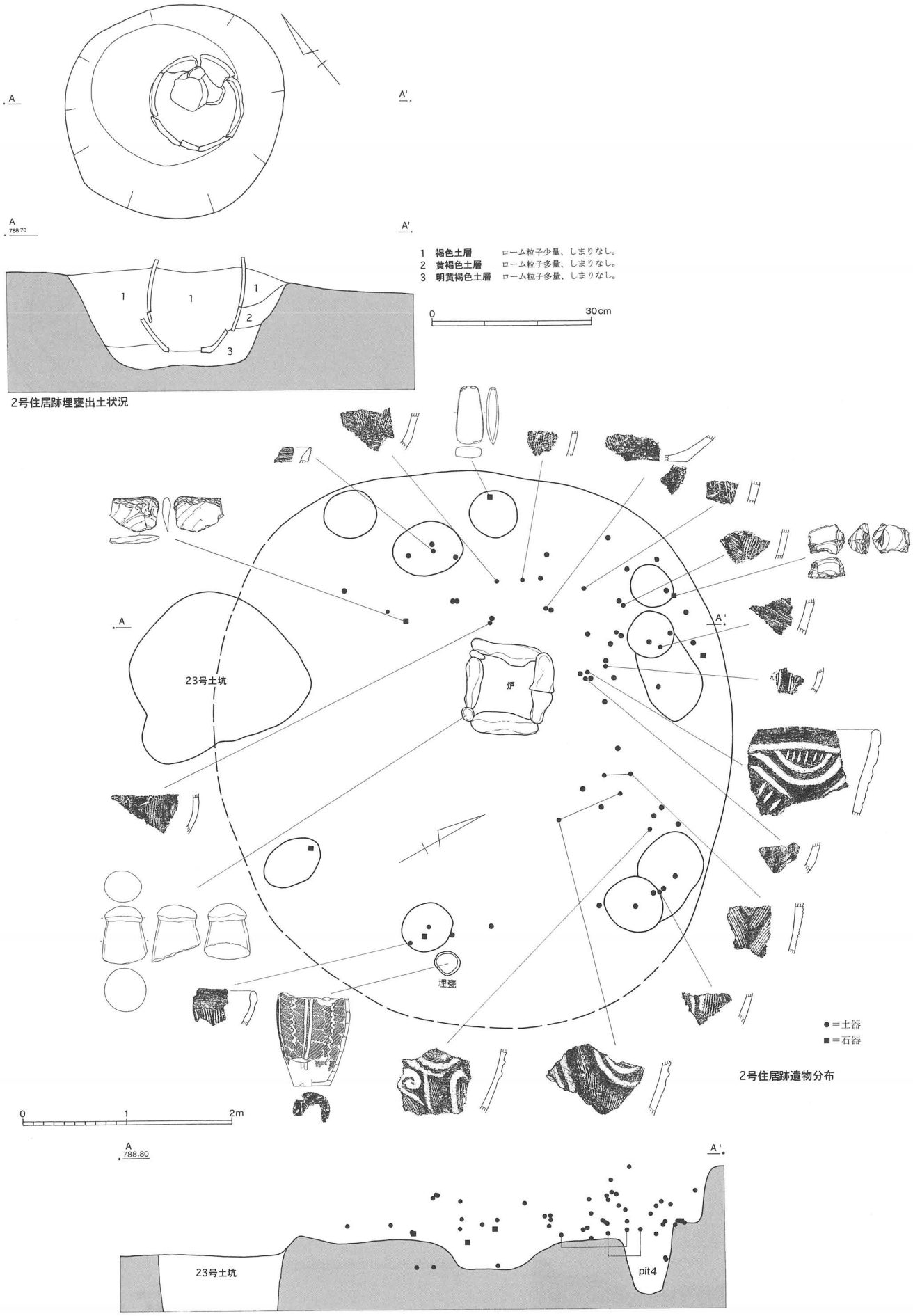


図10　2号住居跡埋甕出土状況、遺物分布

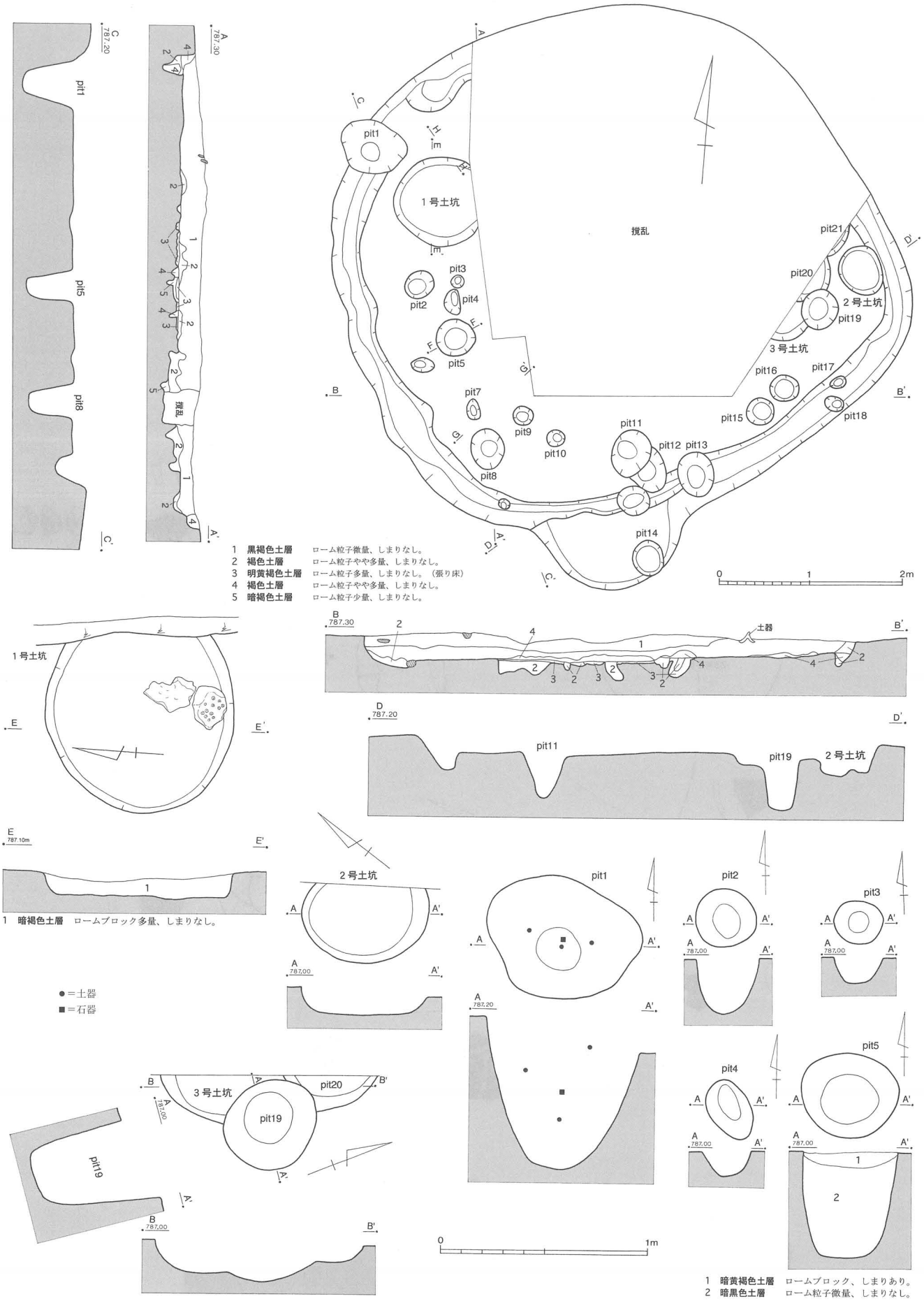


図11　3号住居跡実測図

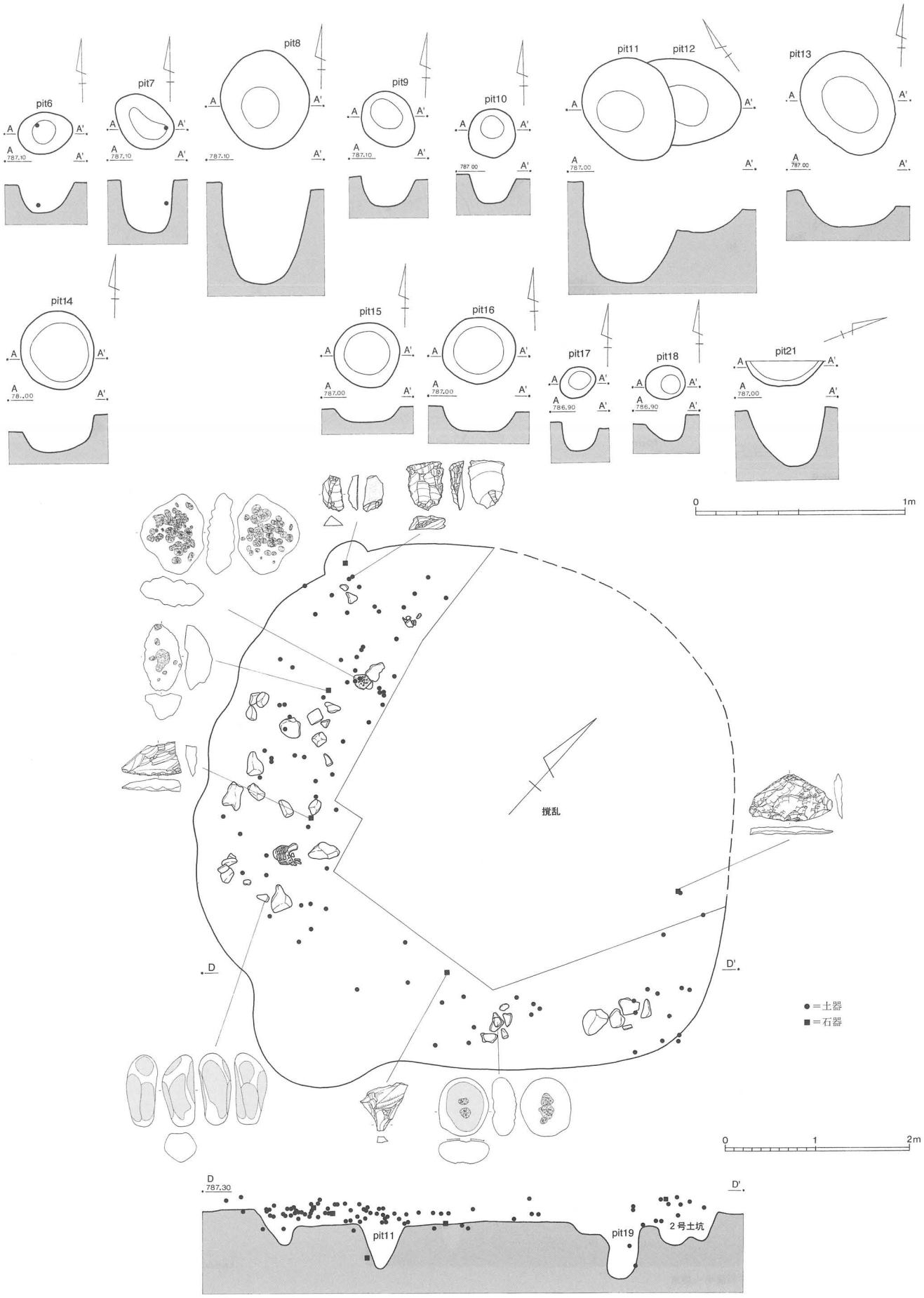


図12　3号住居跡遺物分布

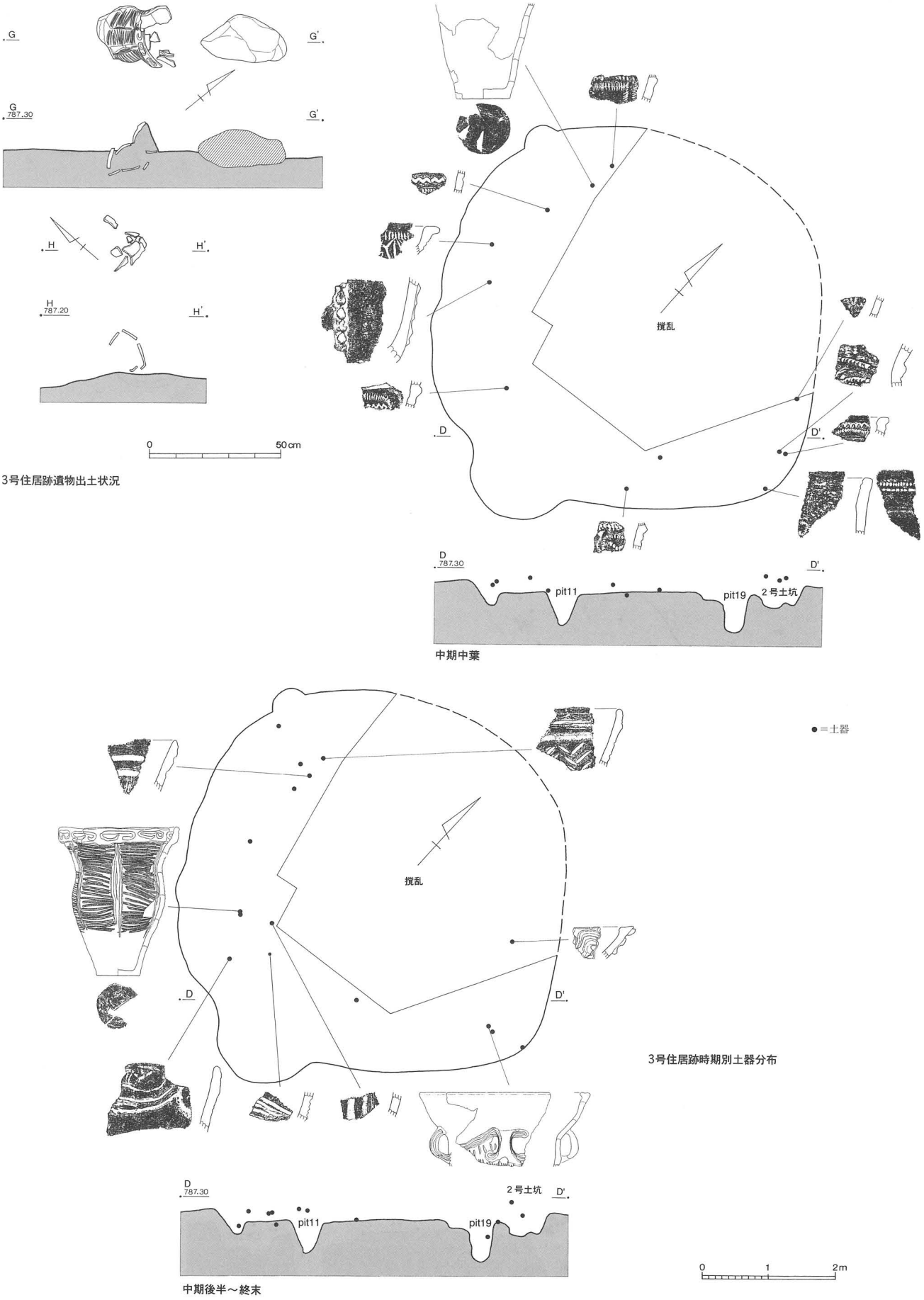


図13　3号住居跡遺物出土状況、時期別土器分布

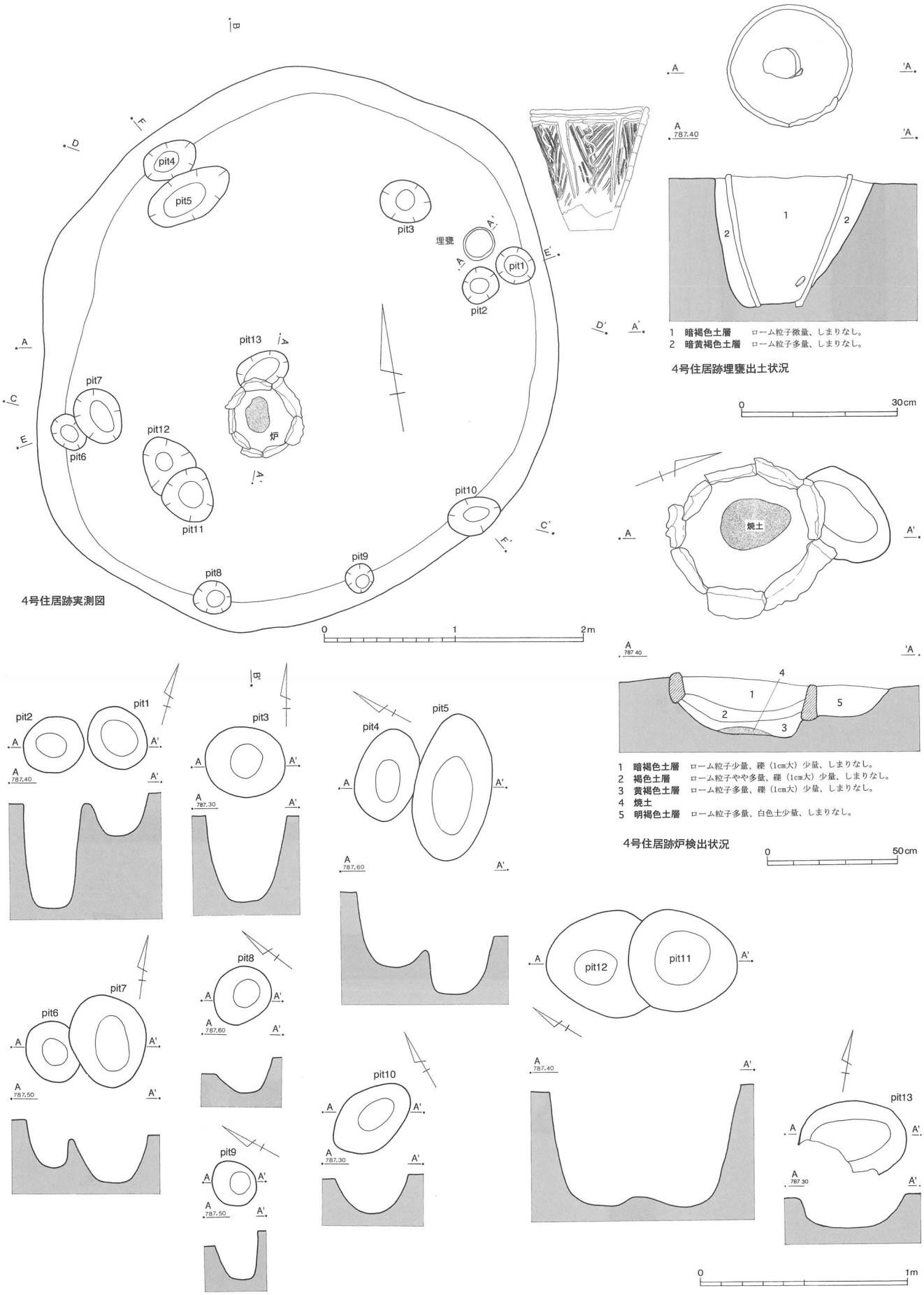


図14　4号住居跡実測図　埋甕出土状況、炉検出状況

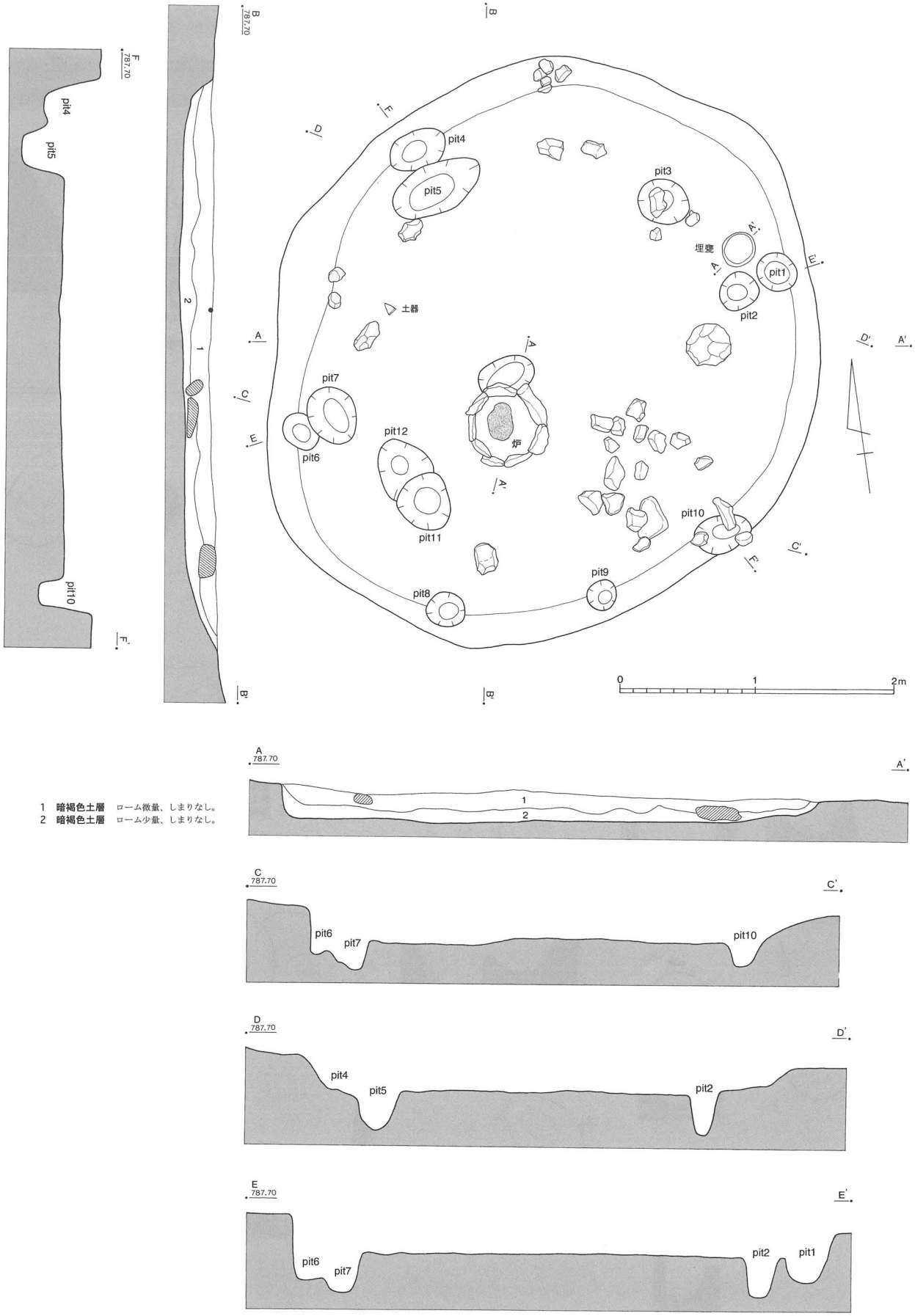


図15　4号住居跡遺物出土状況

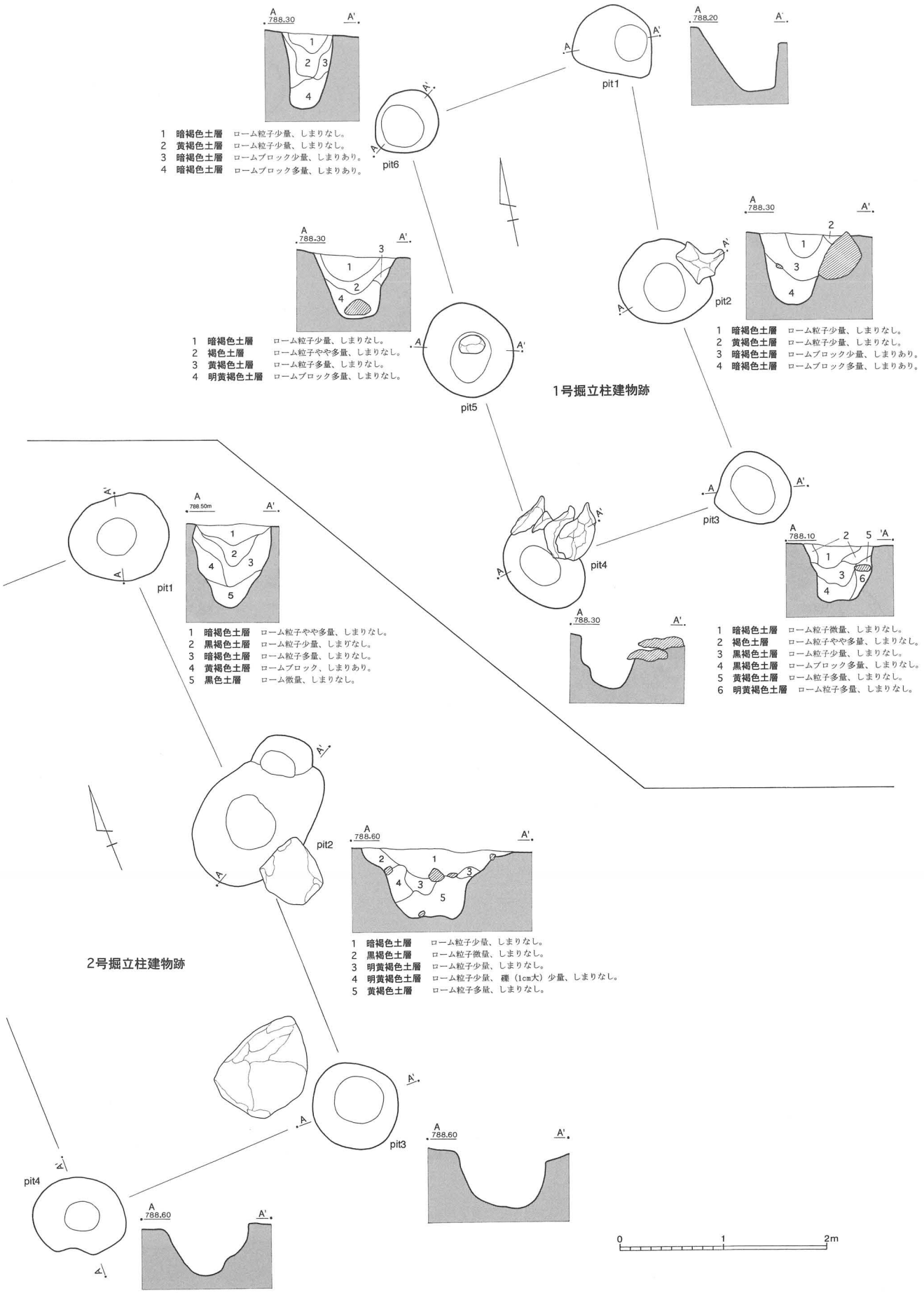


図16　1・2号掘立柱建物跡

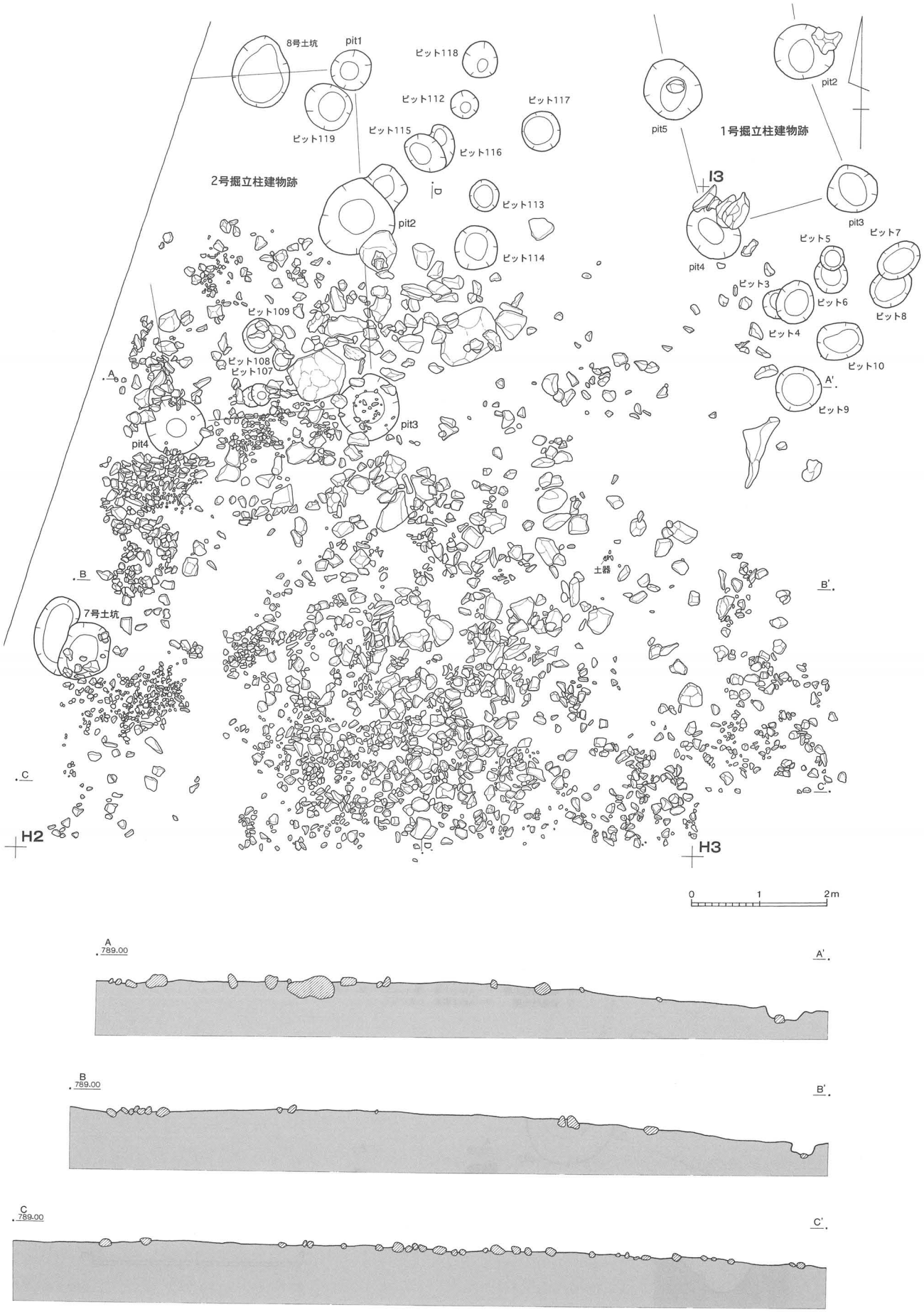
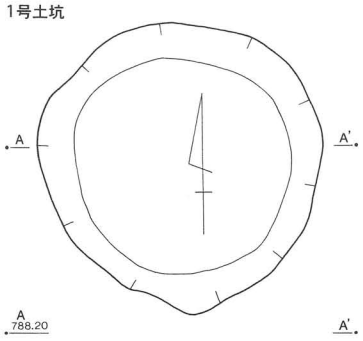
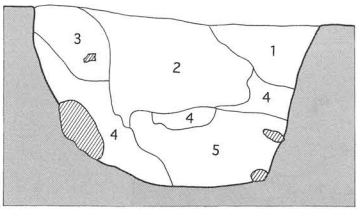

8号土坑
pit1
ピット118
ピット112
ピット117
ピット119
ピット115
ピット116
2号掘立柱建物跡
pit2
ピット113
ピット114
ピット109
ピット108
ピット107
pit3
pit4
A
B
C
7号土坑
H2
pit5
1号掘立柱建物跡
pit2
I3
pit3
pit4
ピット5
ピット7
ピット3
ピット6
ピット8
ピット4
ピット10
A'
ピット9
土器
B'
C'
H3
0
1
2m
A
789.00
A'
B
789.00
B'
C
789.00
C'

図17　1号集石

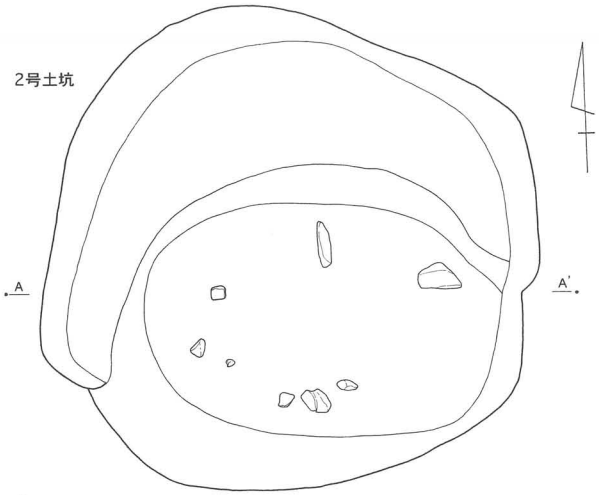
1号土坑

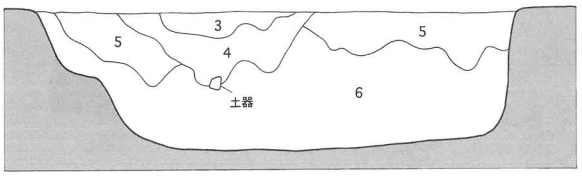




1　黒褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
2　黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
3　暗褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
4　黒褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
5　黒黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。

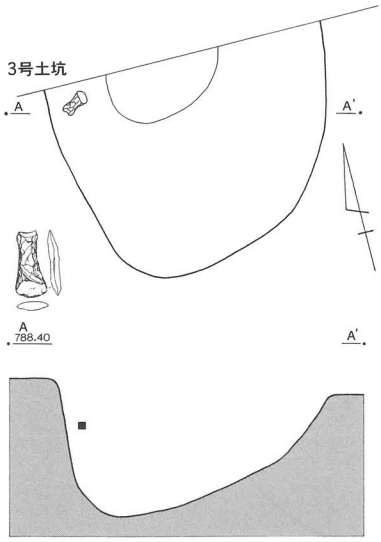
2号土坑





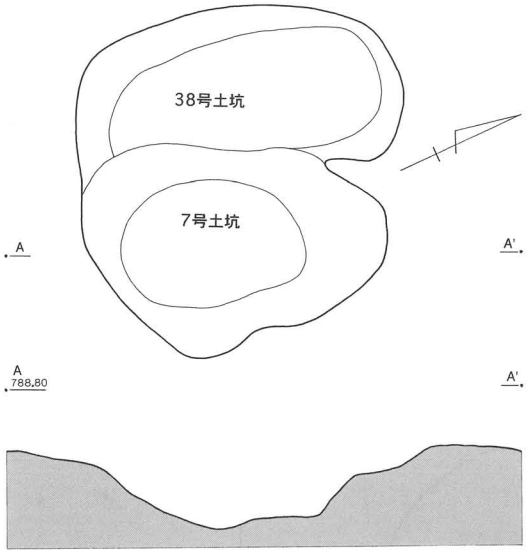
1　黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2　暗黄褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
3　暗黄褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
4　黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。

3号土坑

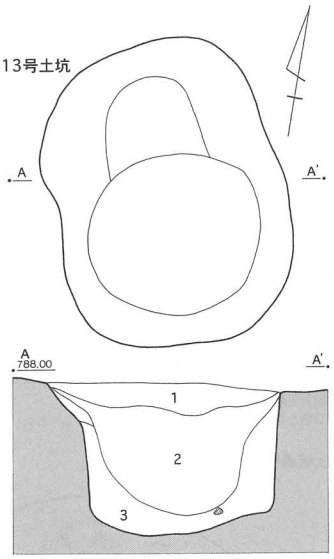


38号土坑

7号土坑

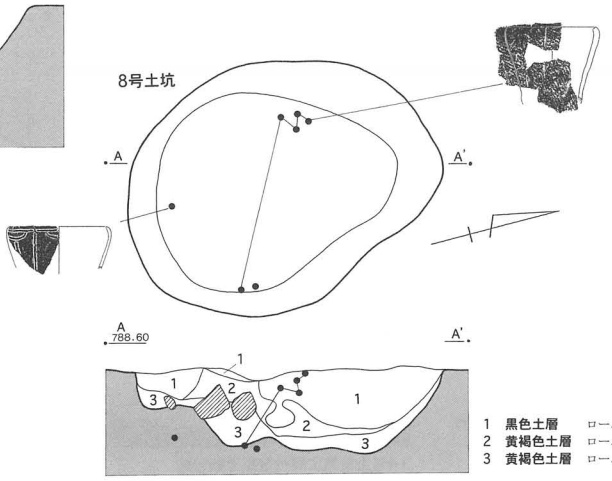


13号土坑



1　暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2　暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
3　黄褐色土層　ロームブロック多量、しまりあり。

8号土坑

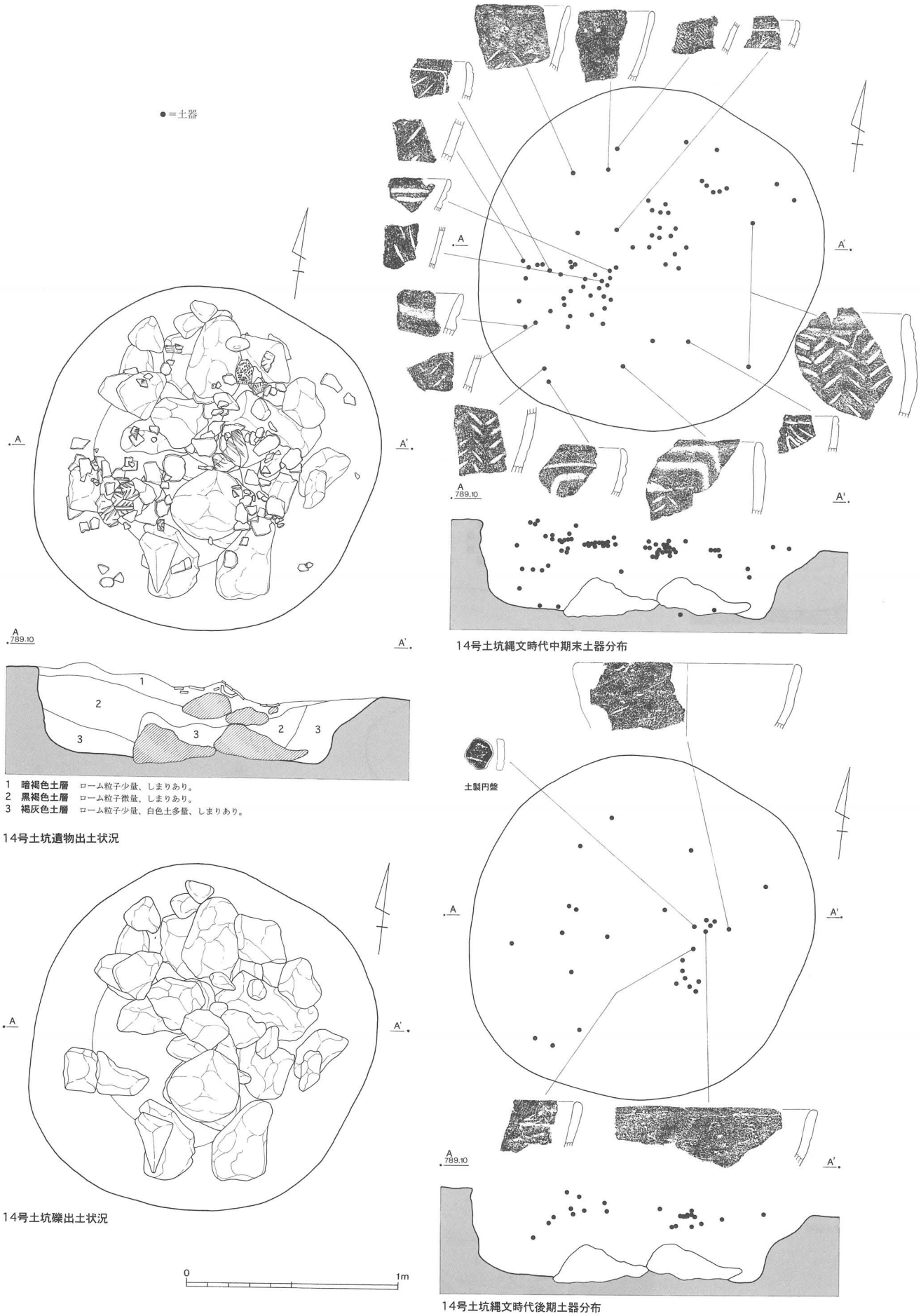


1　黒色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2　黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
3　黄褐色土層　ロームブロック多量、しまりあり。

0　1m

●＝土器
■＝石器

図18　1～8号土坑



1　暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりあり。
2　黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりあり。
3　褐灰色土層　ローム粒子少量、白色土多量、しまりあり。

14号土坑遺物出土状況

14号土坑礫出土状況

14号土坑縄文時代中期末土器分布

14号土坑縄文時代後期土器分布

図19　14号土坑

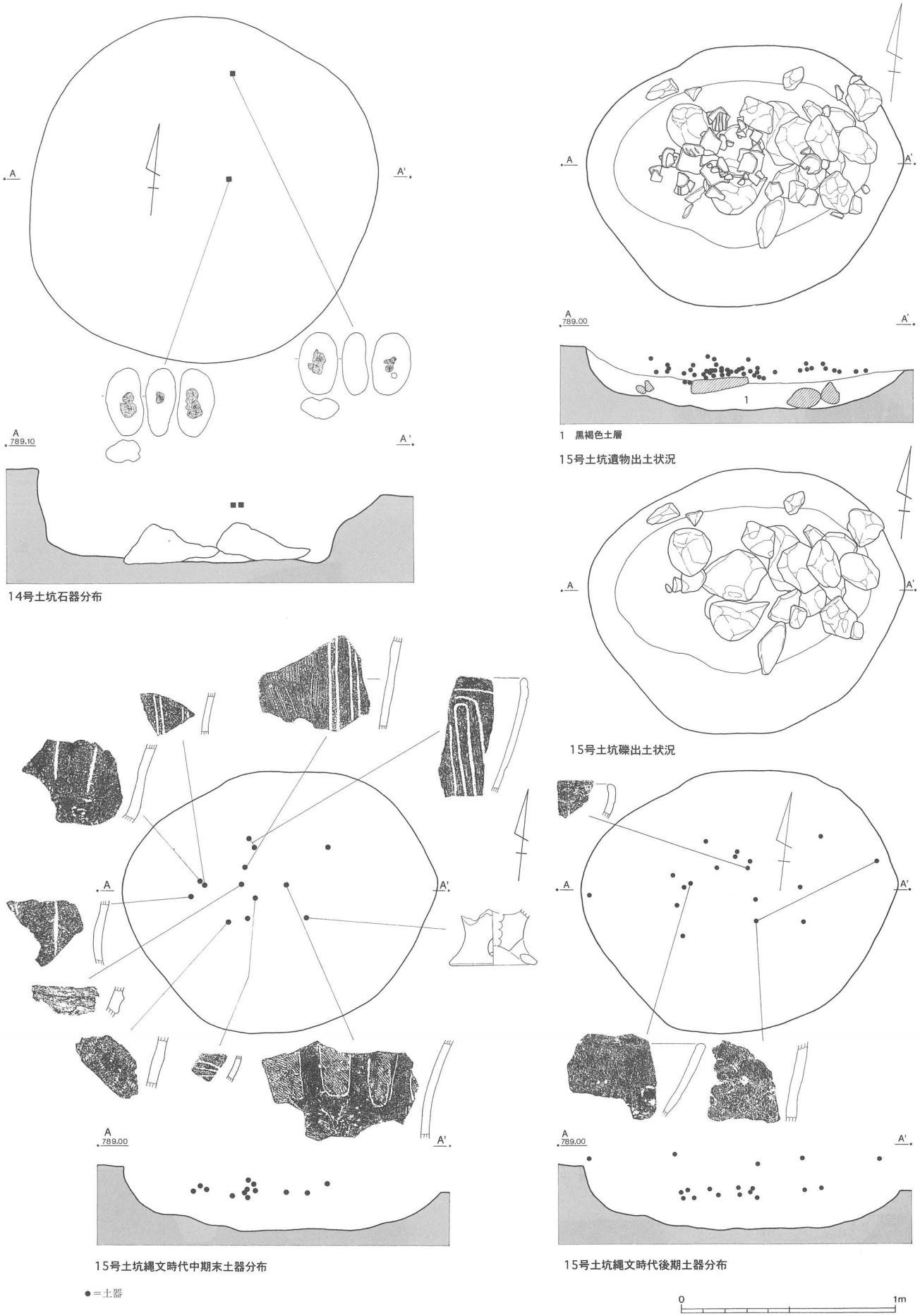

A
A'
A
789.10
A'
14号土坑石器分布
A
A'
A
789.00
A'
1
1　黒褐色土層
15号土坑遺物出土状況
A
A'
15号土坑礫出土状況
A
A'
A
789.00
A'
15号土坑縄文時代中期末土器分布
●＝土器
A
A'
A
789.00
A'
15号土坑縄文時代後期土器分布
0
1m

図20　14・15号土坑

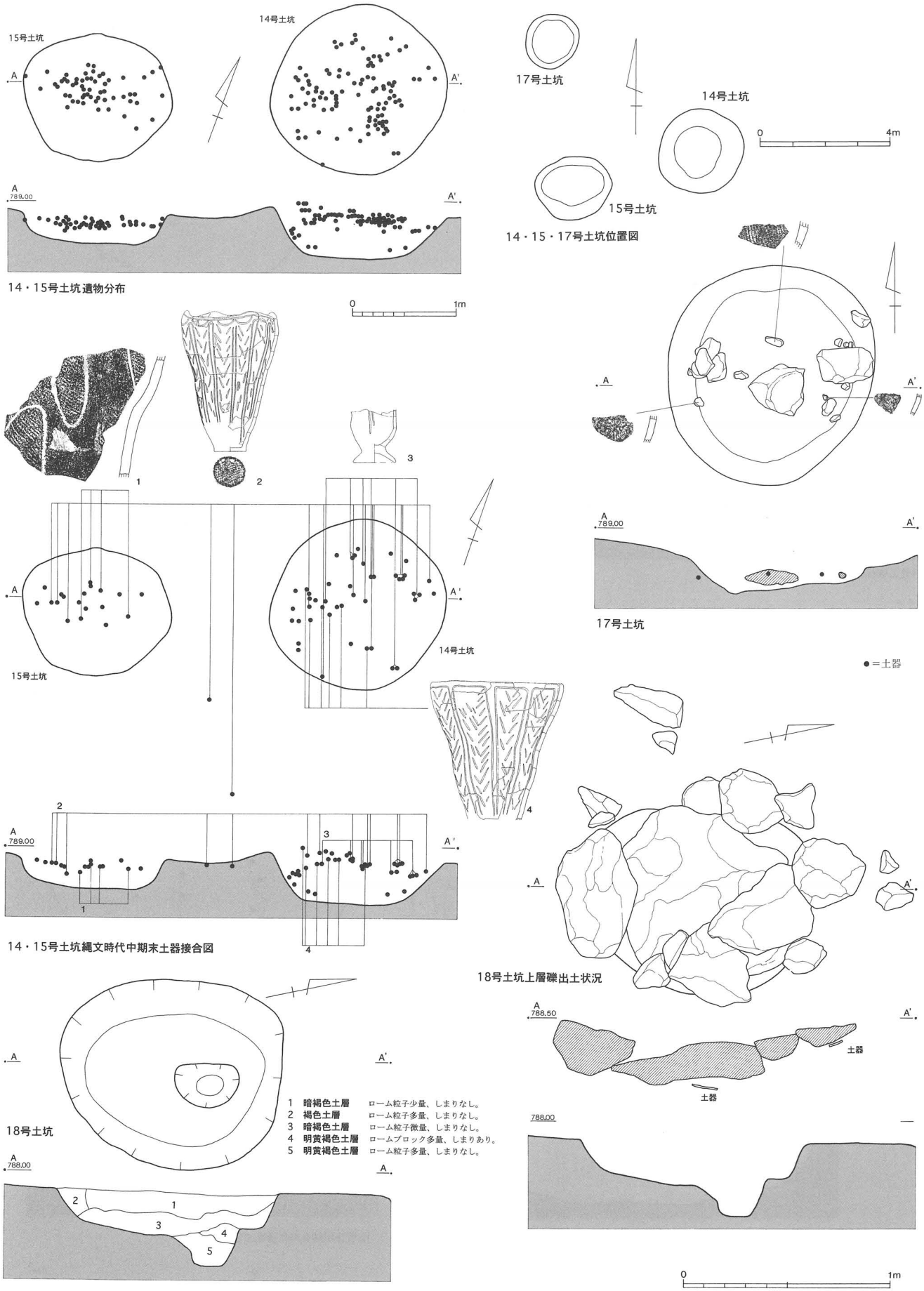
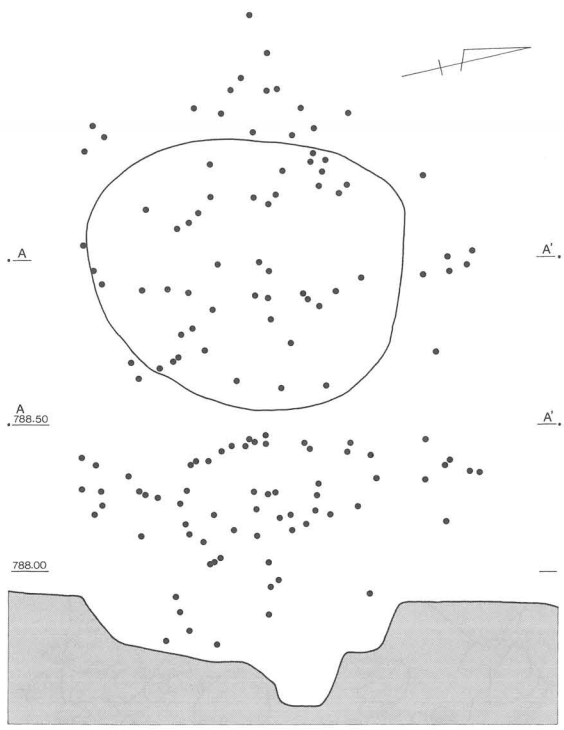
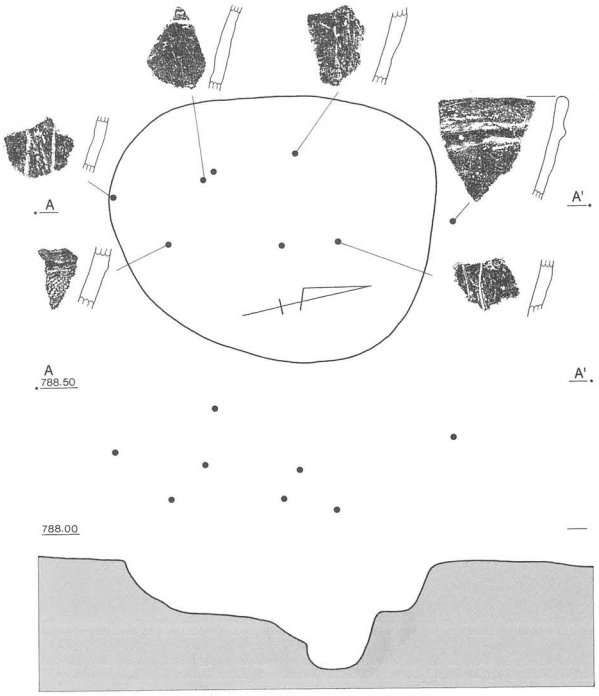


図21　14・15・17・18号土坑



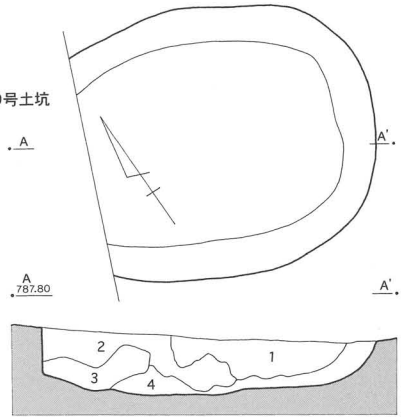
18号土坑遺物分布



18号土坑縄文時代中期末土器分布

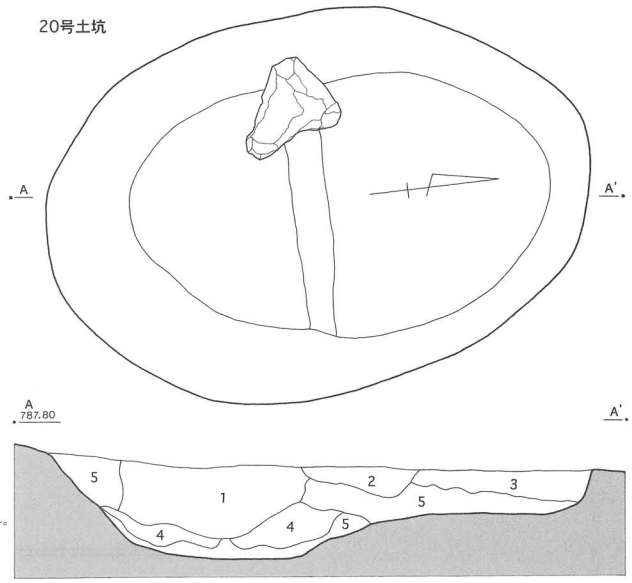
18号土坑縄文時代後期土器分布

19号土坑



1 暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2 褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
3 褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
4 明黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。

20号土坑



●＝土器

0　1m

1 暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
2 黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
3 褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
4 暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
5 明黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。

図22　18～20号土坑

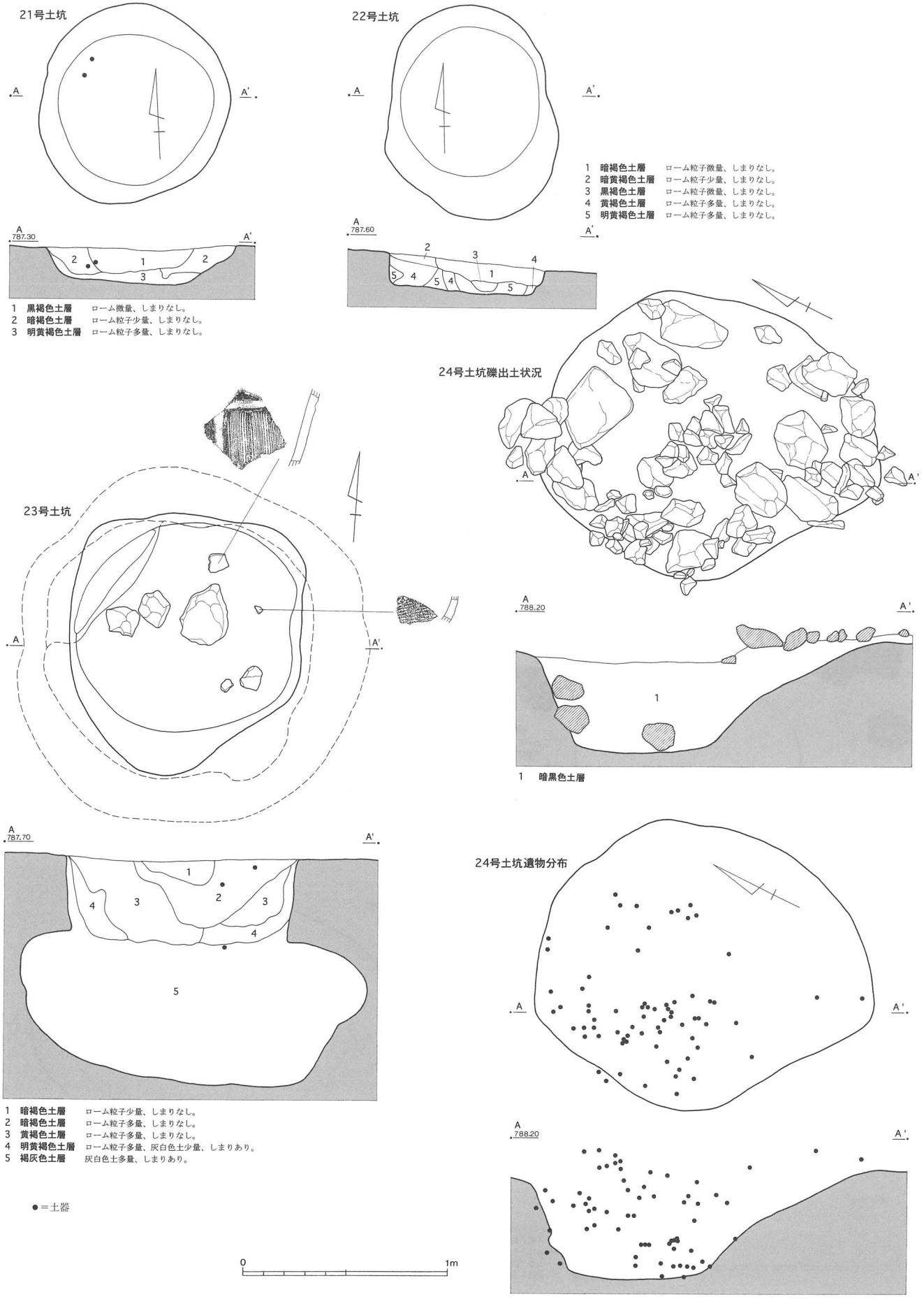

21号土坑
A
A'
A
787.30
A'
1 黒褐色土層 ローム微量、しまりなし。
2 暗褐色土層 ローム粒子少量、しまりなし。
3 明黄褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
22号土坑
A
A'
A
787.60
A'
1 暗褐色土層 ローム粒子微量、しまりなし。
2 暗黄褐色土層 ローム粒子少量、しまりなし。
3 黒褐色土層 ローム粒子微量、しまりなし。
4 黄褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
5 明黄褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
24号土坑礫出土状況
A
A'
23号土坑
A
A'
A
787.70
A'
1 暗褐色土層 ローム粒子少量、しまりなし。
2 暗褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
3 黄褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
4 明黄褐色土層 ローム粒子多量、灰白色土少量、しまりあり。
5 褐灰色土層 灰白色土多量、しまりあり。
●＝土器
A
788.20
A'
1 暗黒色土層
24号土坑遺物分布
A
A'
A
788.20
A'
0
1m

図23 21～24号土坑

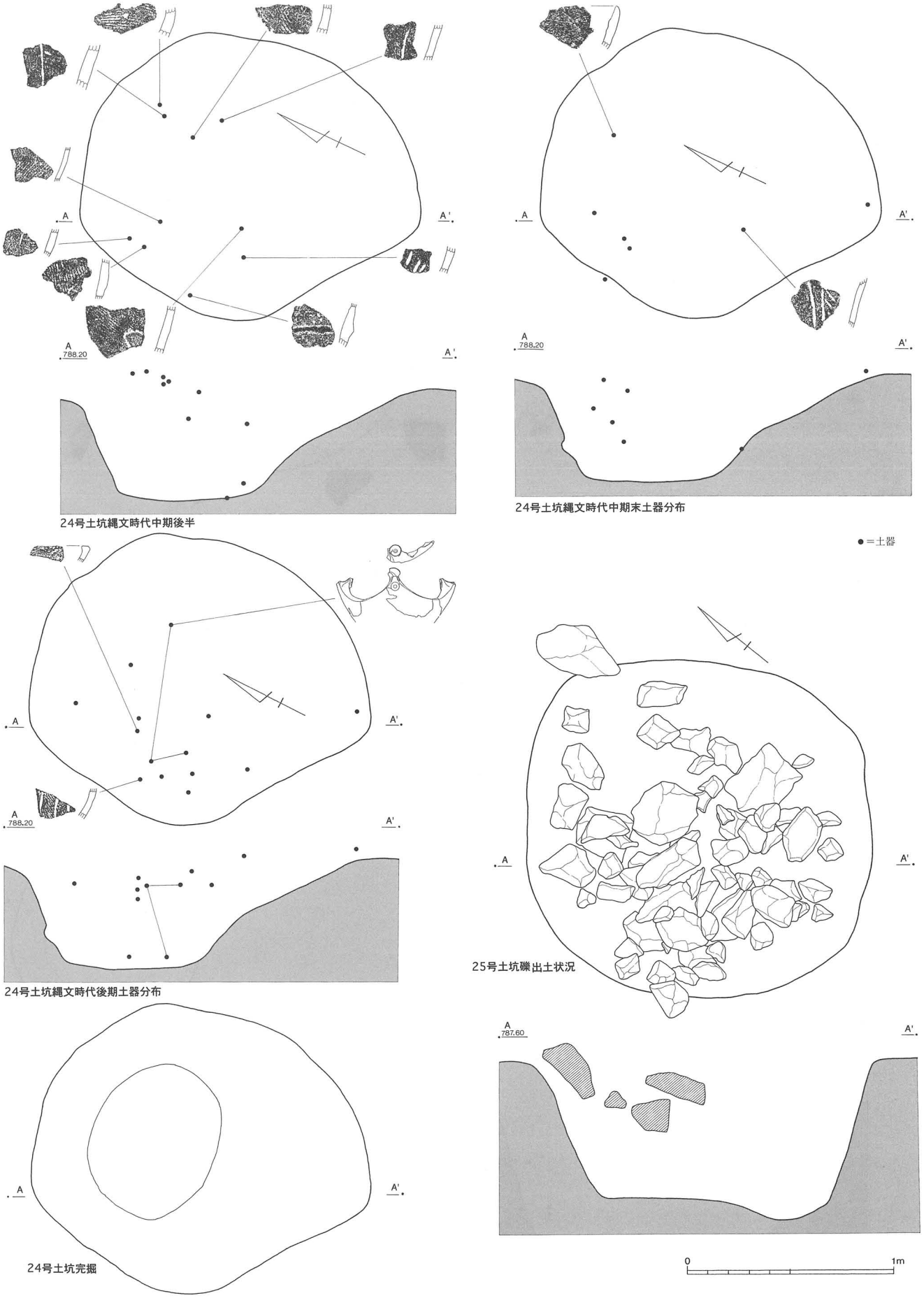

A
A'
A
788.20
24号土坑縄文時代中期後半
24号土坑縄文時代中期末土器分布
●＝土器
24号土坑縄文時代後期土器分布
25号土坑礫出土状況
787.60
24号土坑完掘
0
1m

図24　24・25号土坑

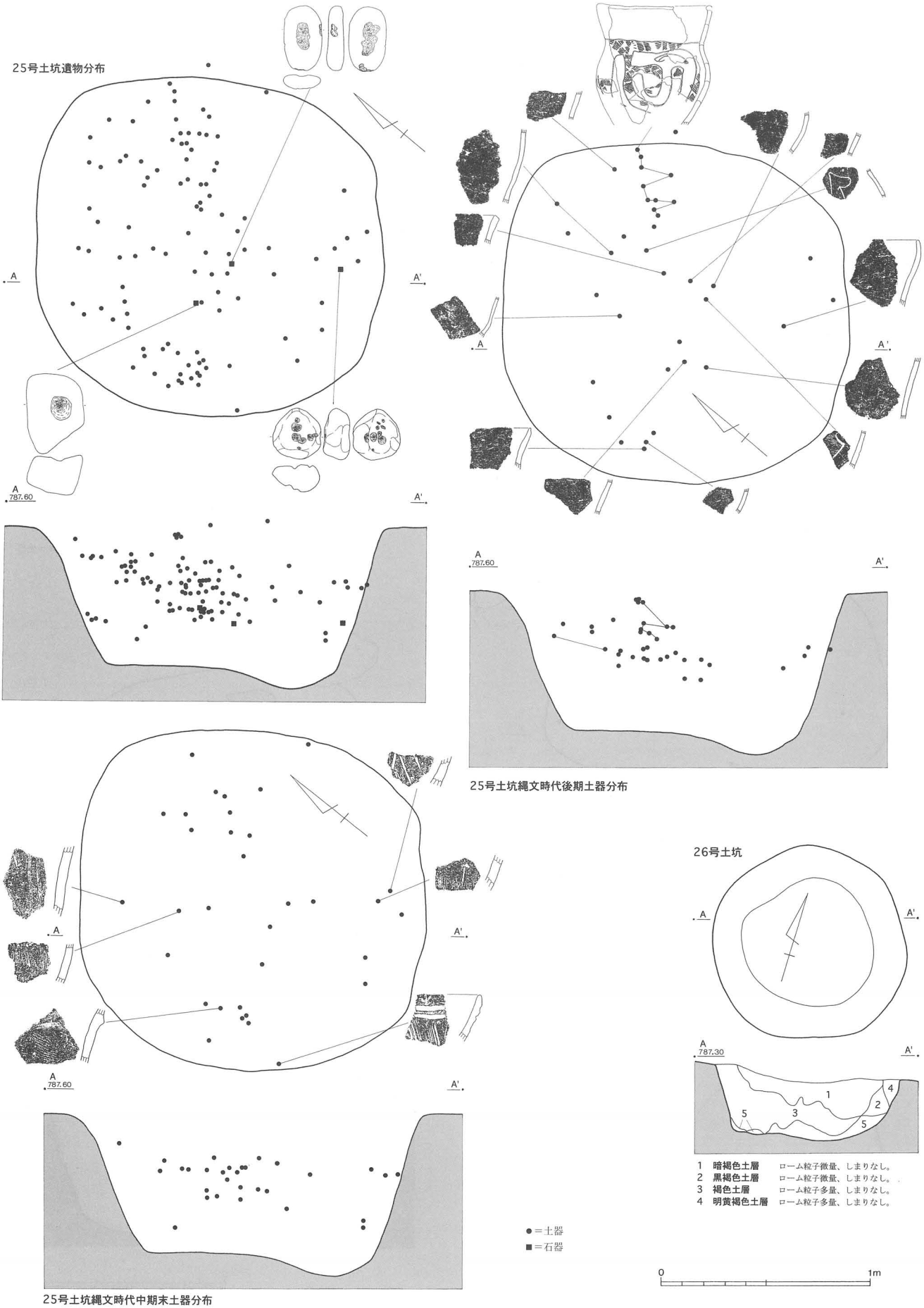
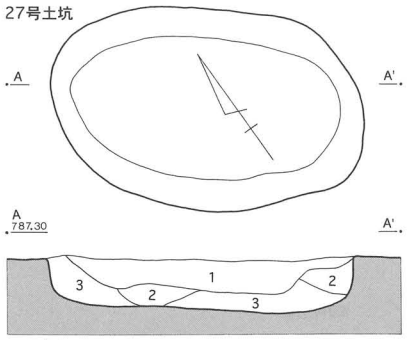

25号土坑遺物分布
A
A'
A
787.60
A'
A
A'
A
787.60
A'
25号土坑縄文時代後期土器分布
A
A'
A
787.60
A'
25号土坑縄文時代中期末土器分布
●＝土器
■＝石器
26号土坑
A
A'
A
787.30
A'
1
2
3
4
5
1 暗褐色土層 ローム粒子微量、しまりなし。
2 黒褐色土層 ローム粒子微量、しまりなし。
3 褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
4 明黄褐色土層 ローム粒子多量、しまりなし。
0
1m

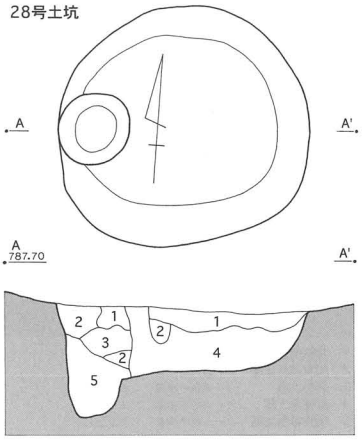
図25 25・26号土坑

27号土坑



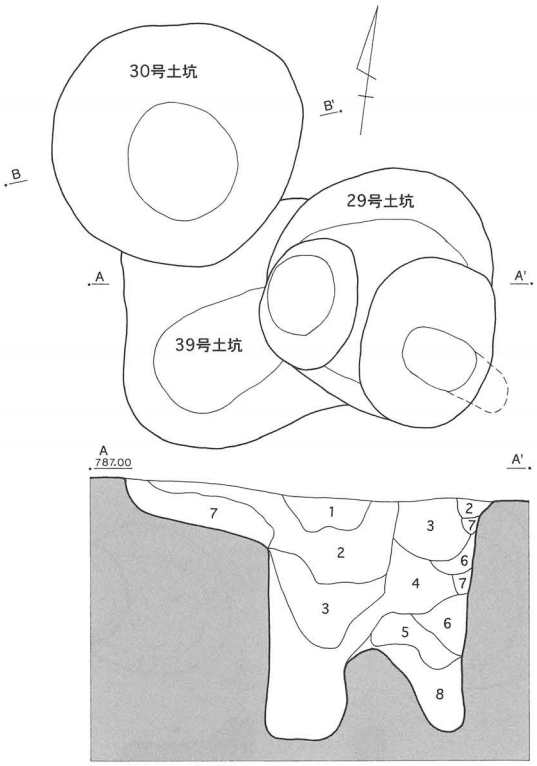
1 黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2 暗褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
3 明暗褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。

28号土坑

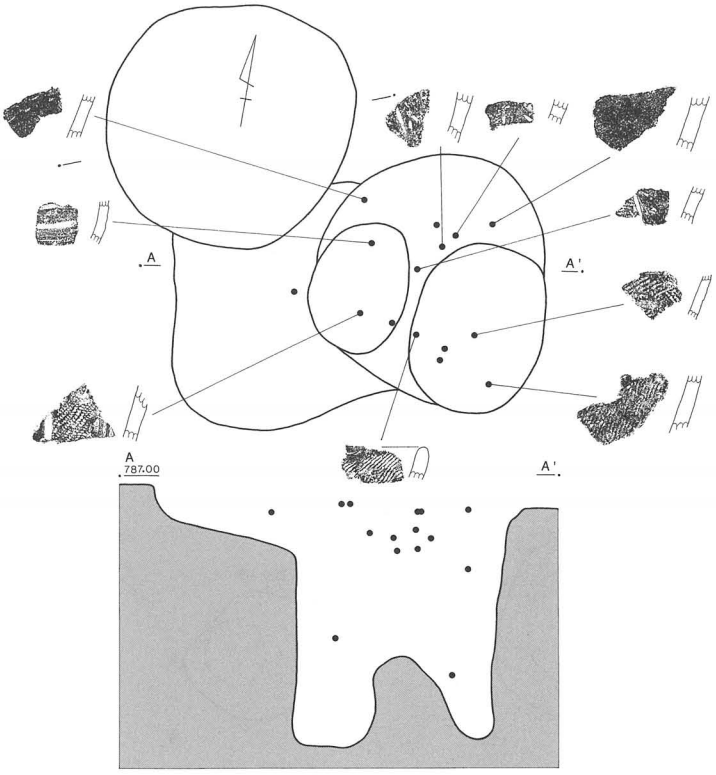


●＝土器

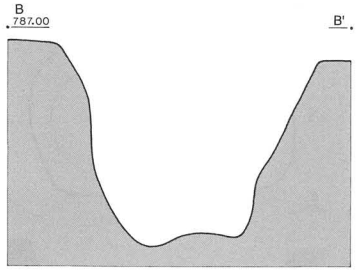
1 黒褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2 暗褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
3 褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
4 黄褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
5 暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。

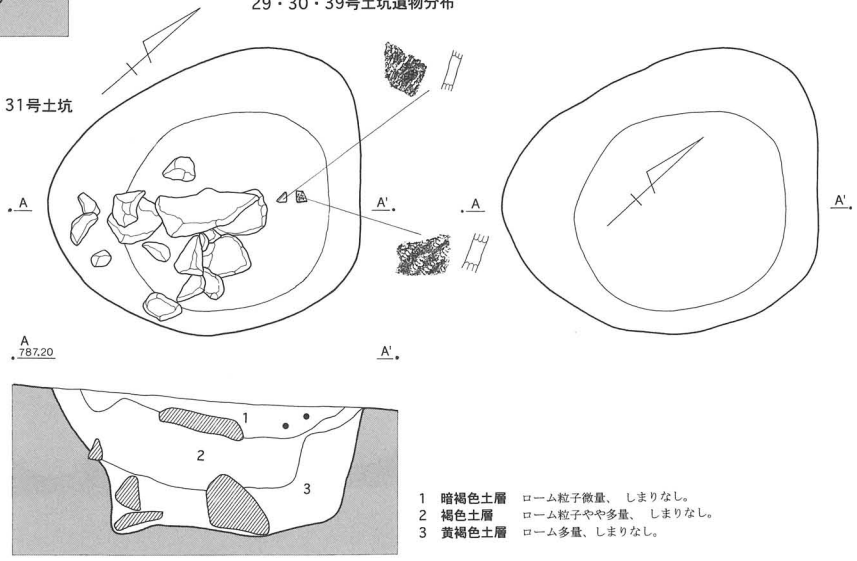


1 黒褐色土層　しまりなし。
2 暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
3 褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
4 黄褐色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
5 暗褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
6 褐色土層　ローム粒子少量、しまりなし。
7 褐灰色土層　ローム粒子多量、しまりなし。
8 灰白色土層　しまりあり。



29・30・39号土坑遺物分布





1 暗褐色土層　ローム粒子微量、しまりなし。
2 褐色土層　ローム粒子やや多量、しまりなし。
3 黄褐色土層　ローム多量、しまりなし。

0　1m

図26　27～31・39号土坑

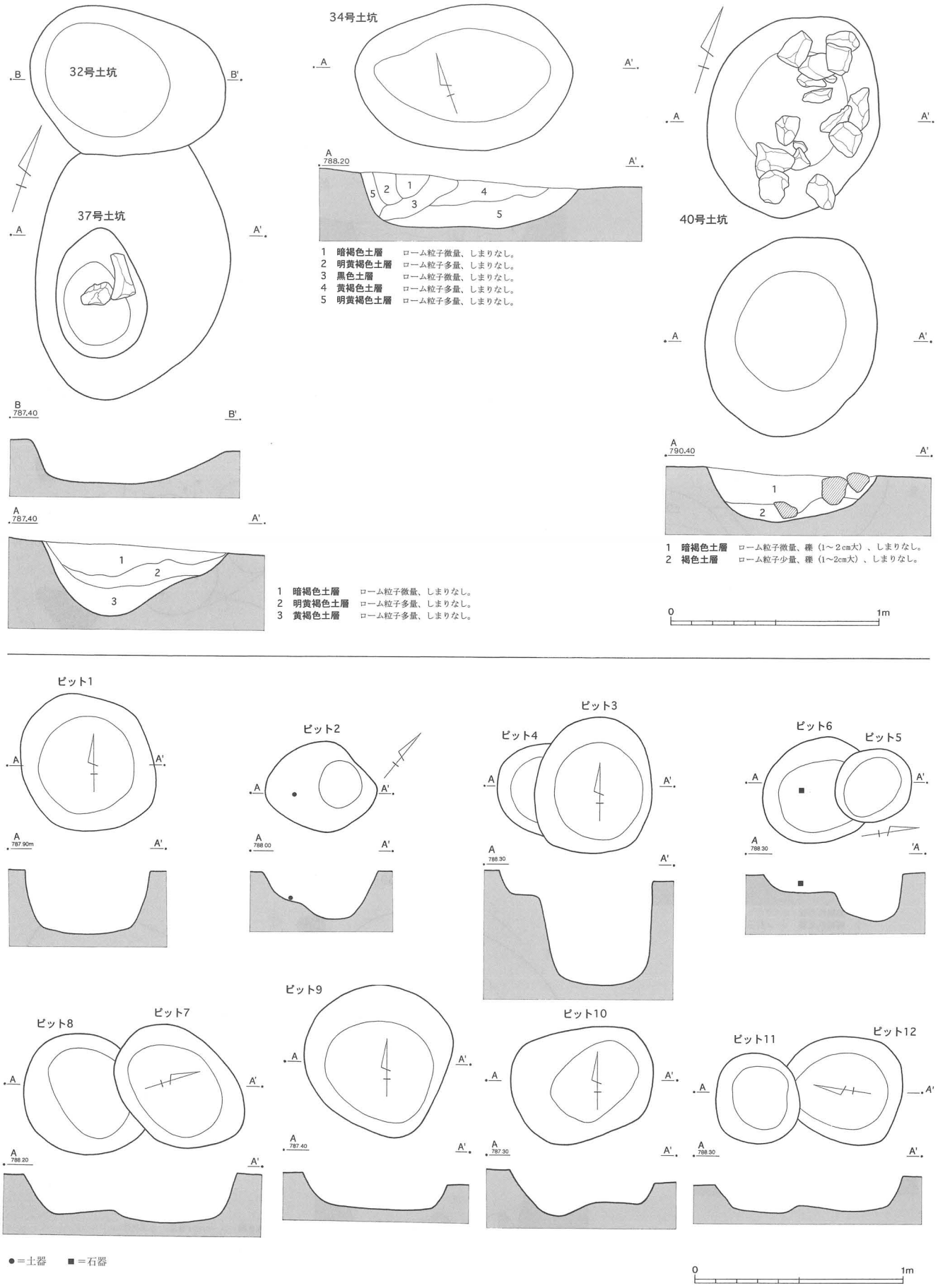


図27 32・34・40号土坑、ピット1～12

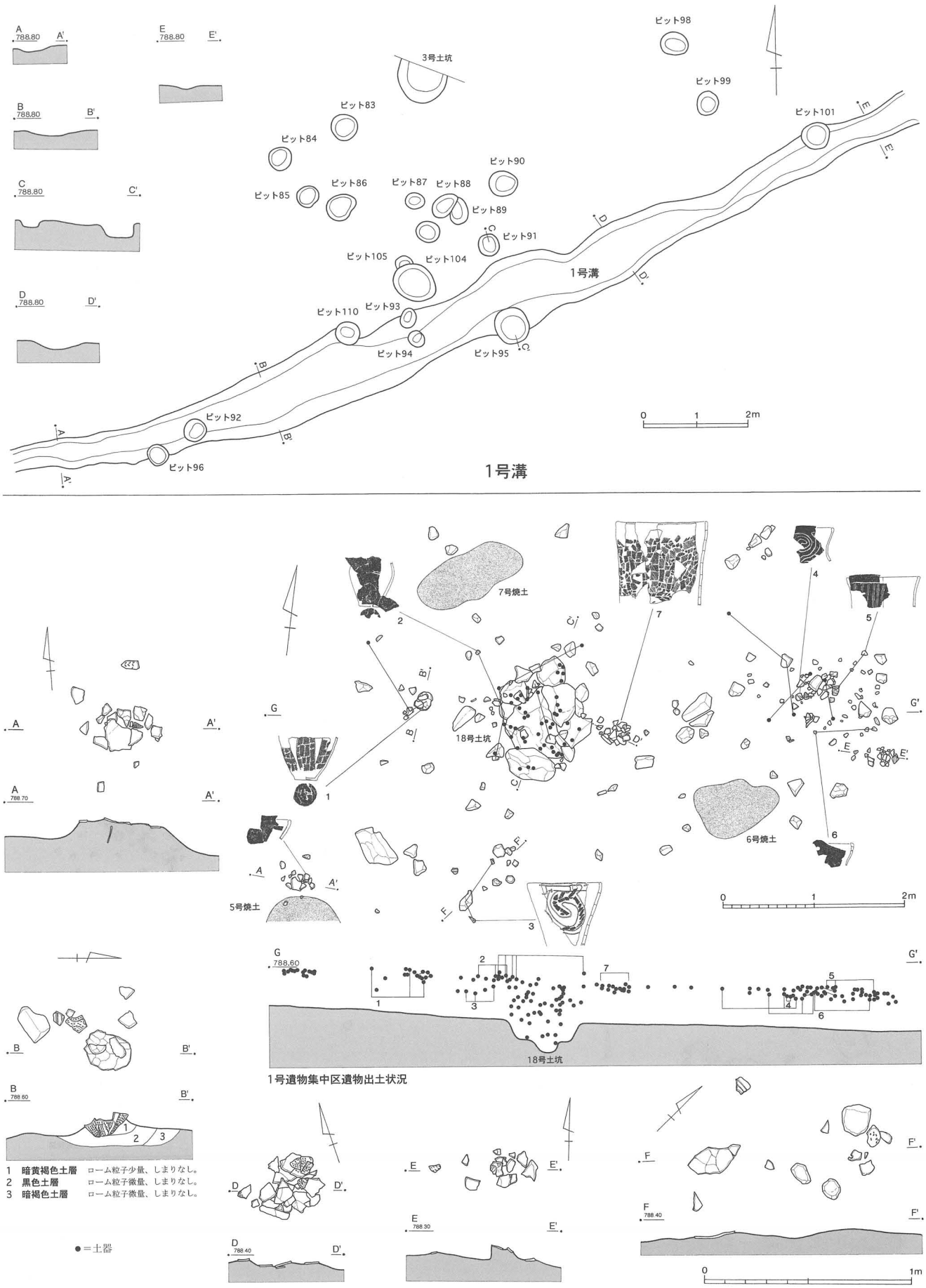


図28　1号溝、1号遺物集中区出土状況

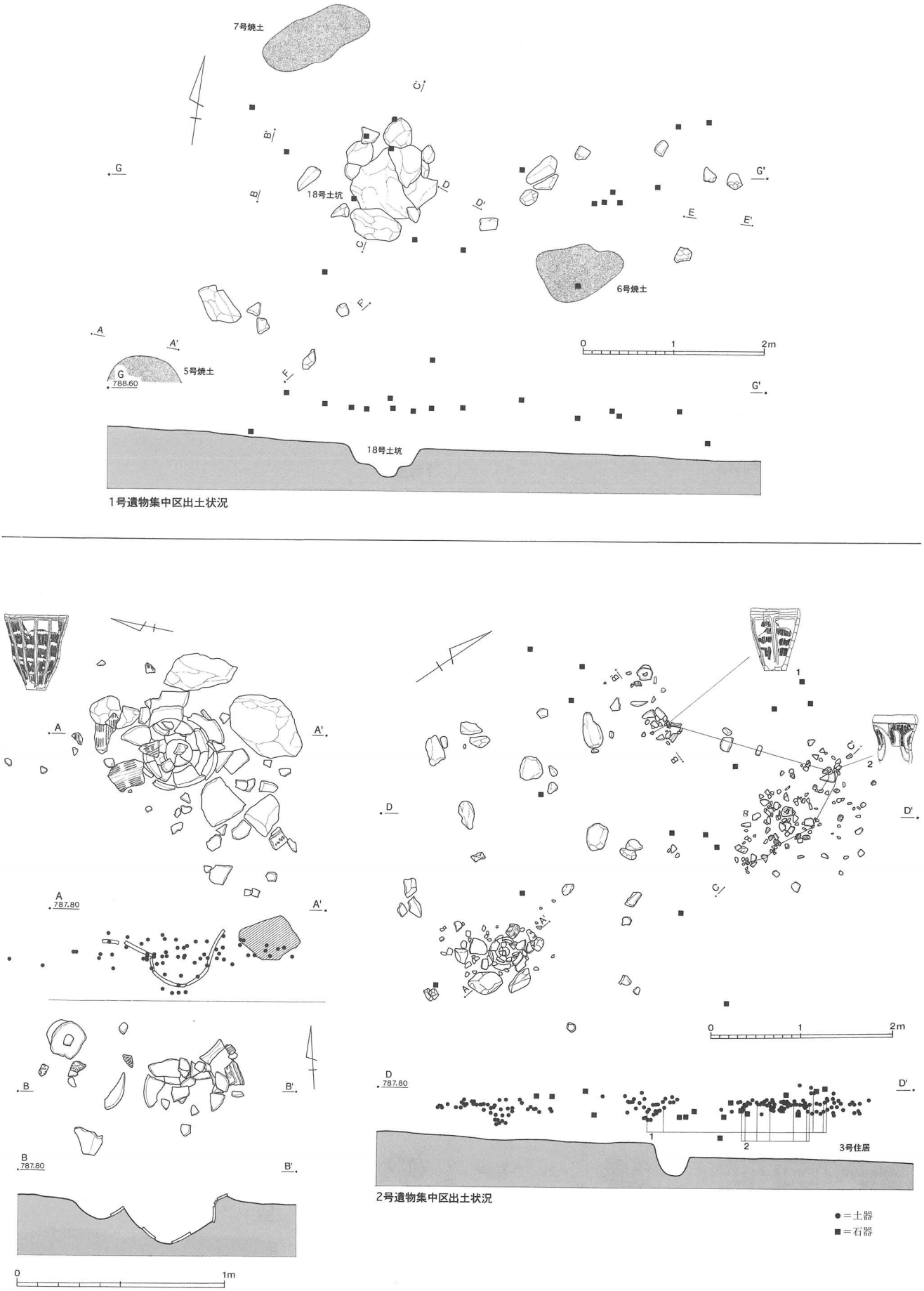


図29　1・2号遺物集中区出土状況

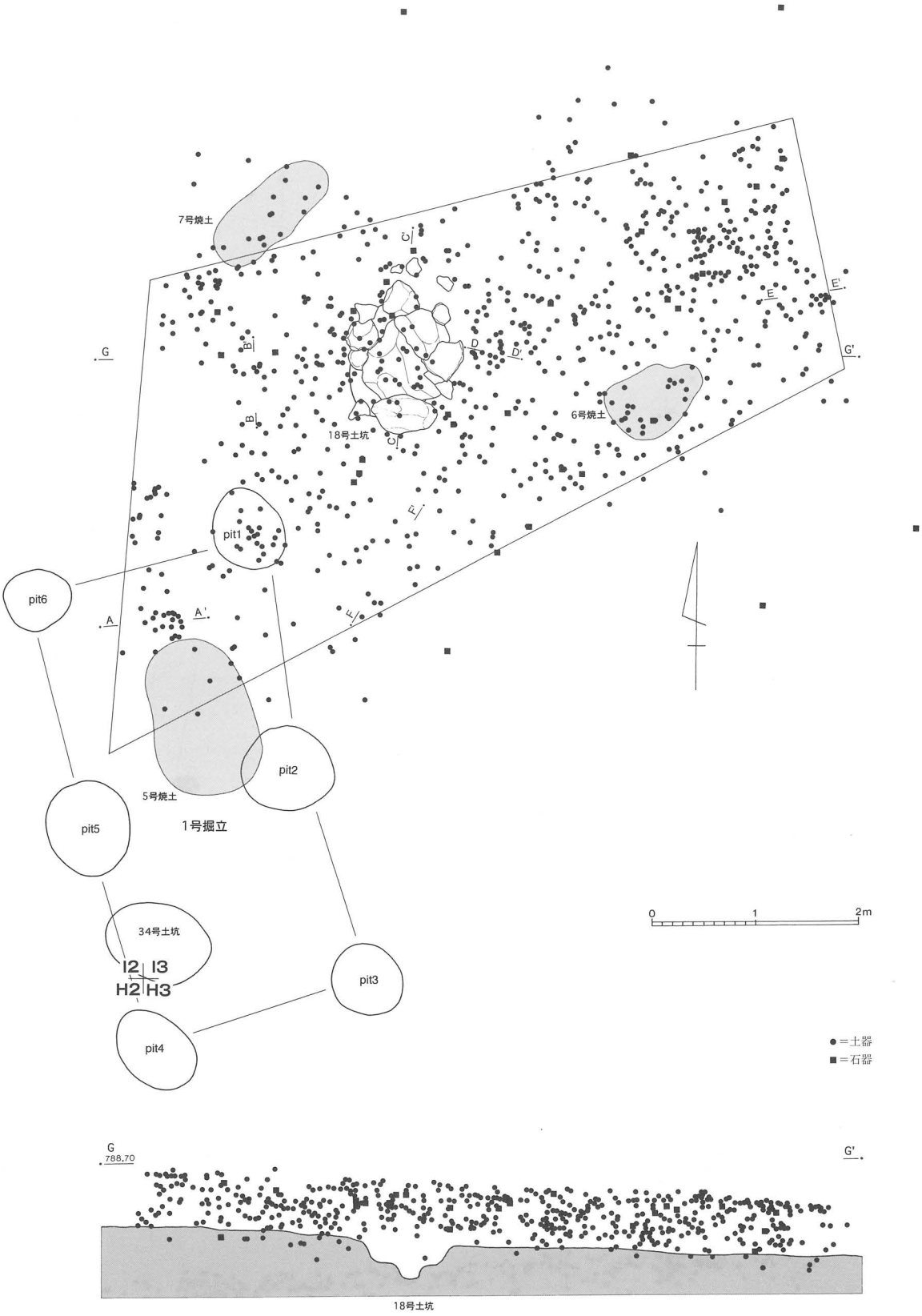


図30　1号遺物集中区全遺物分布

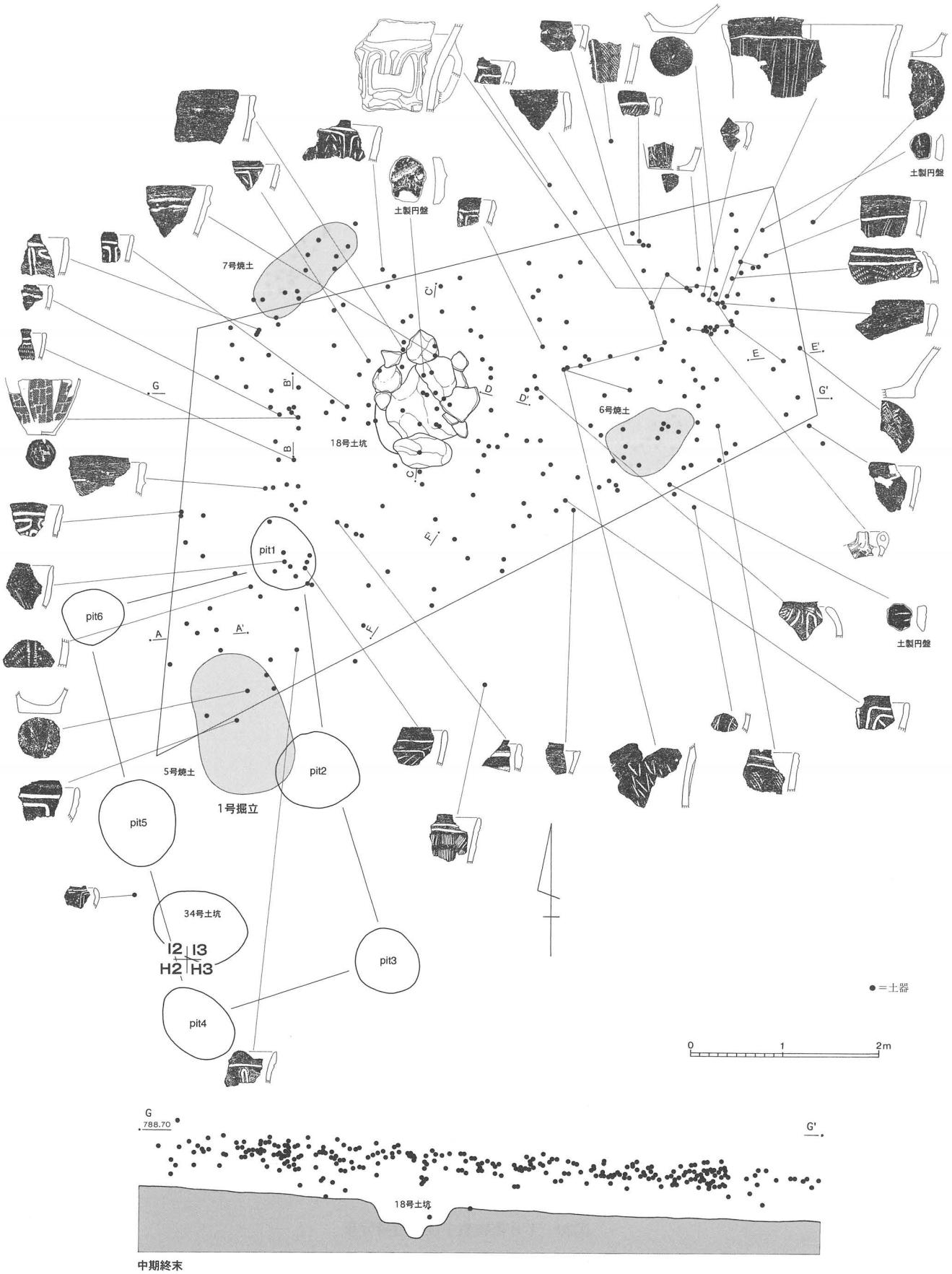


図31　1号遺物集中区時期別土器分布(1)

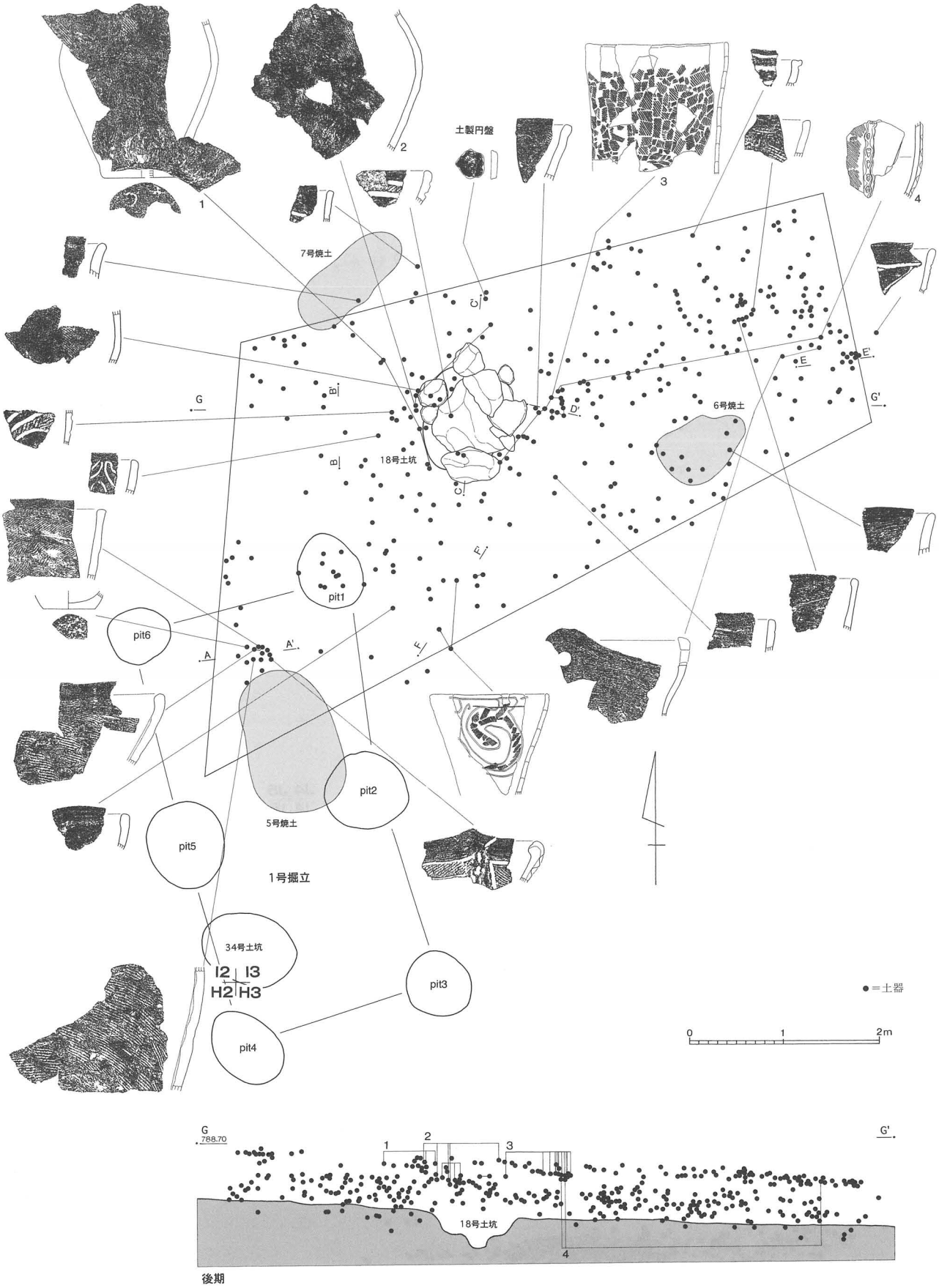


図32　1号遺物集中区時期別土器分布(2)

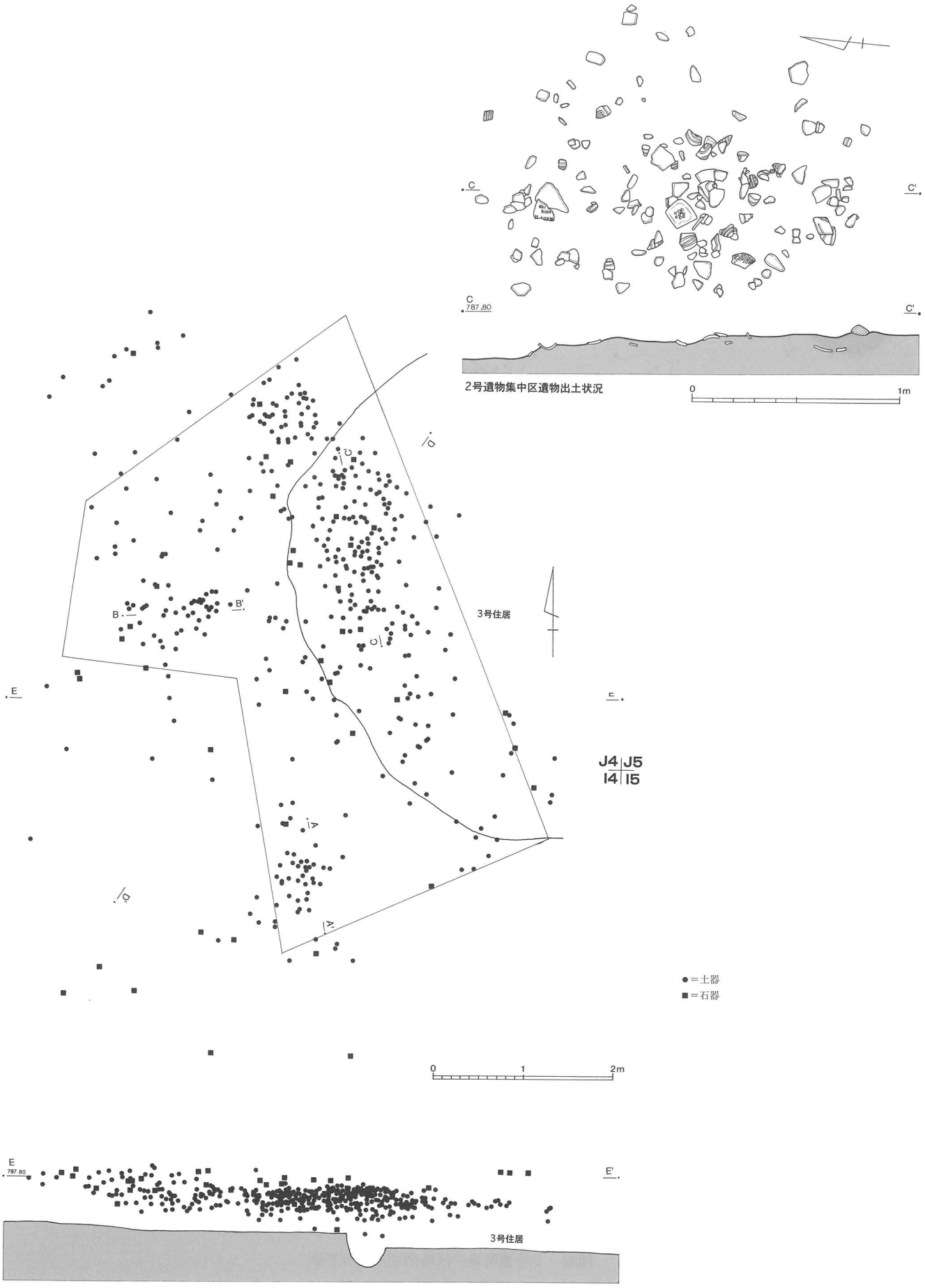


図33　2号遺物集中区全遺物分布

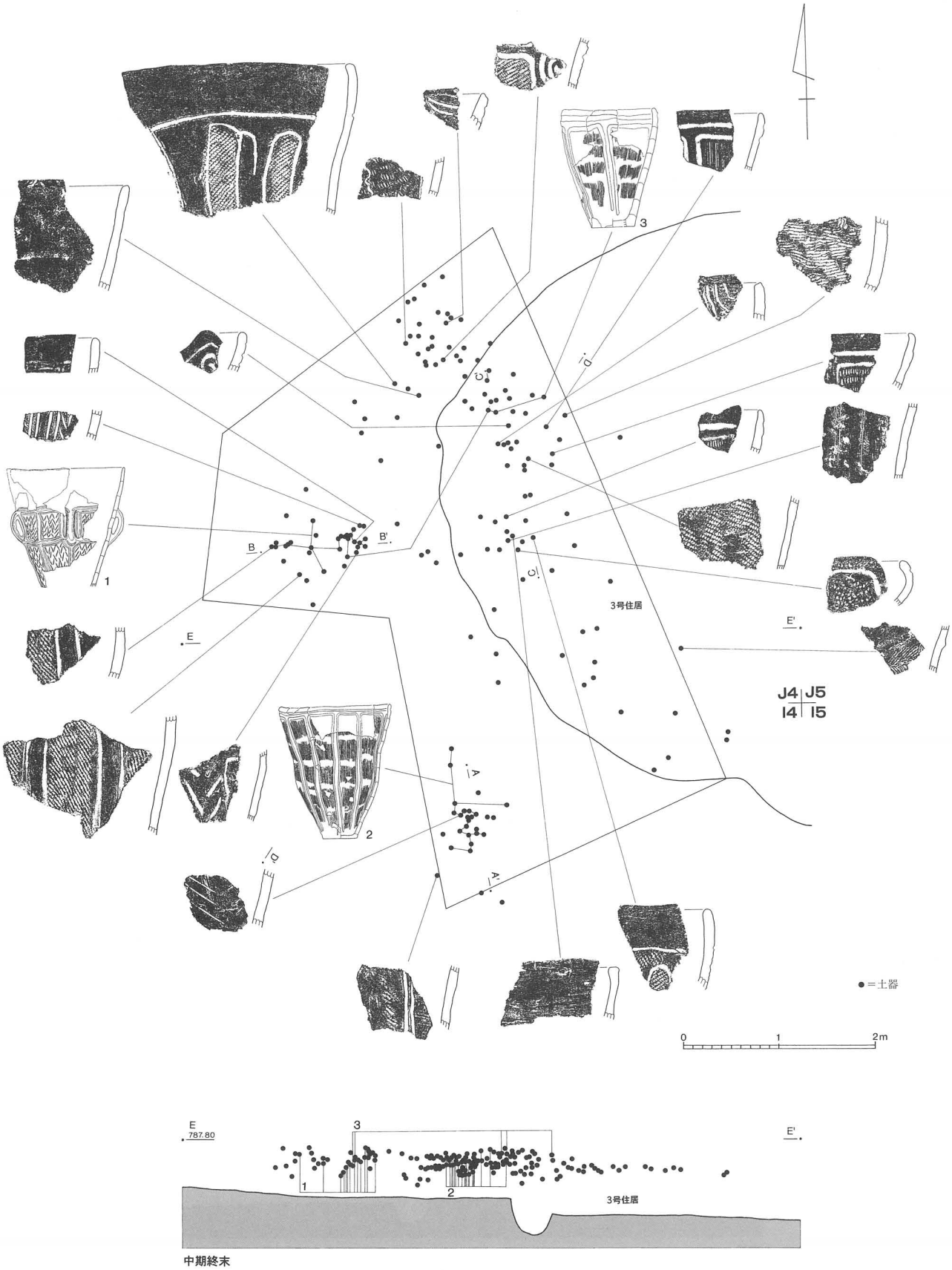


図34　2号遺物集中区時期別土器分布(1)

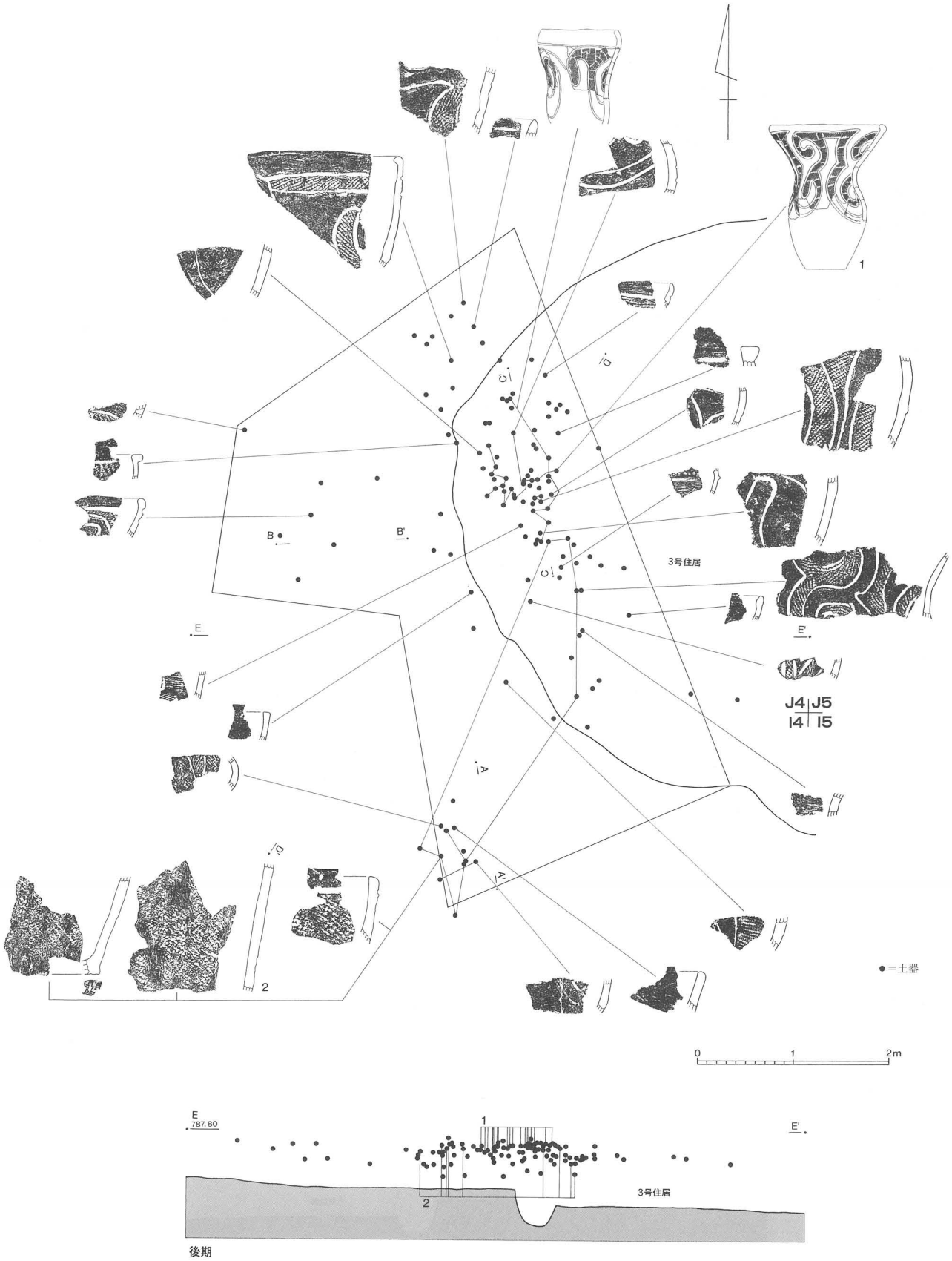


図35　2号遺物集中区時期別土器分布(2)

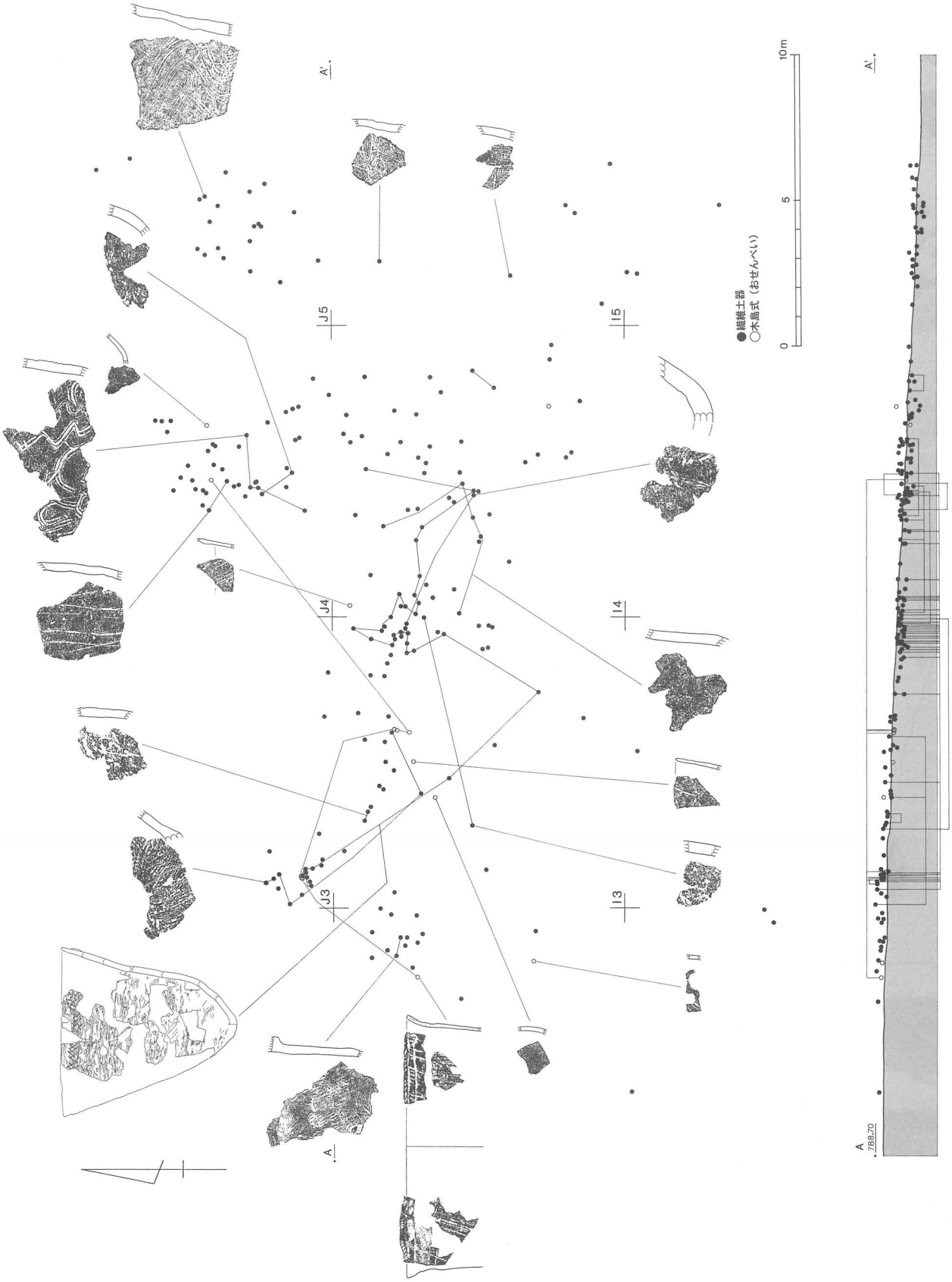


図36　Ⅰ－3・Ⅰ－4・Ⅰ－5グリッド周辺遺物分布

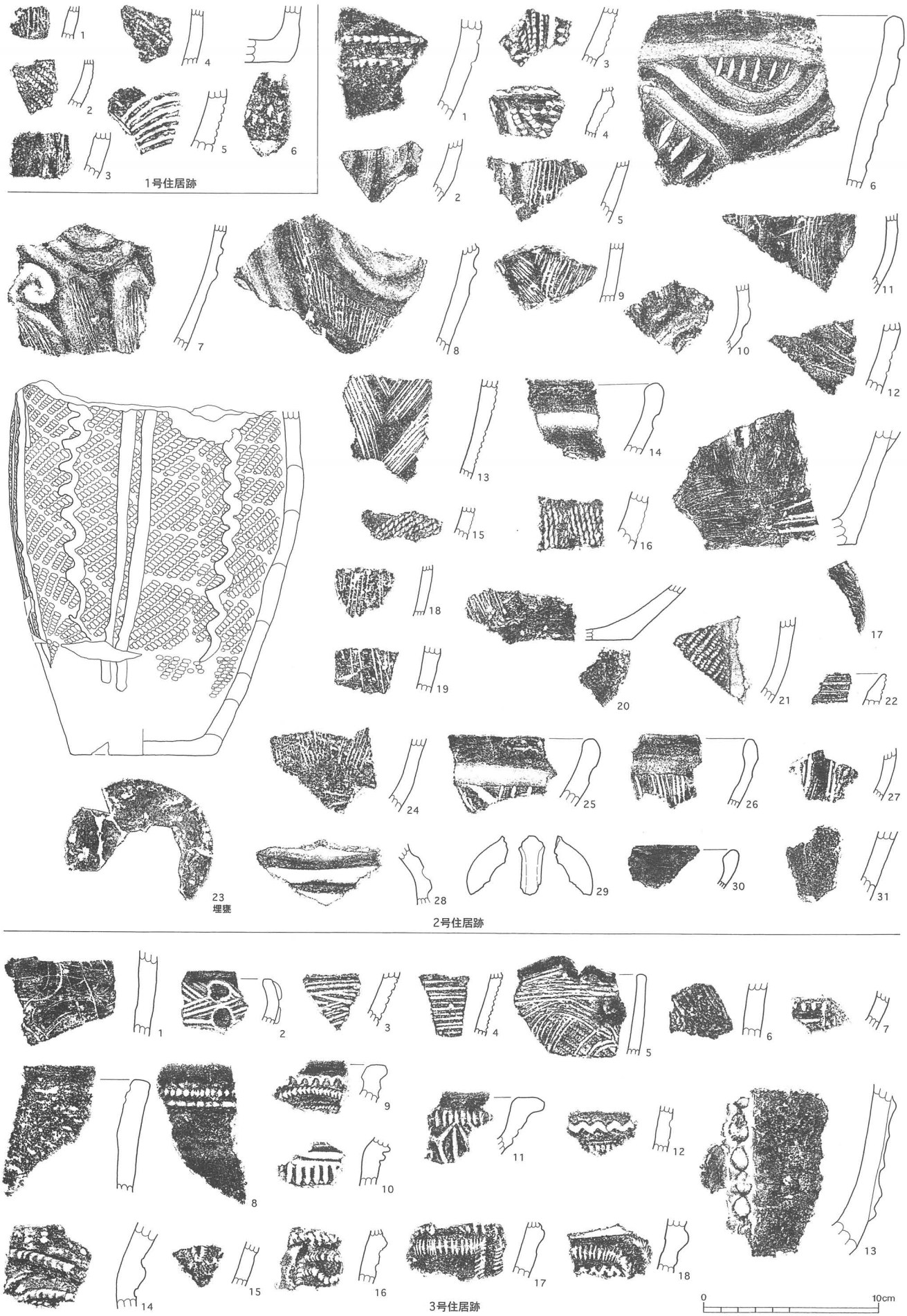


図37　1号～3号住居跡出土土器

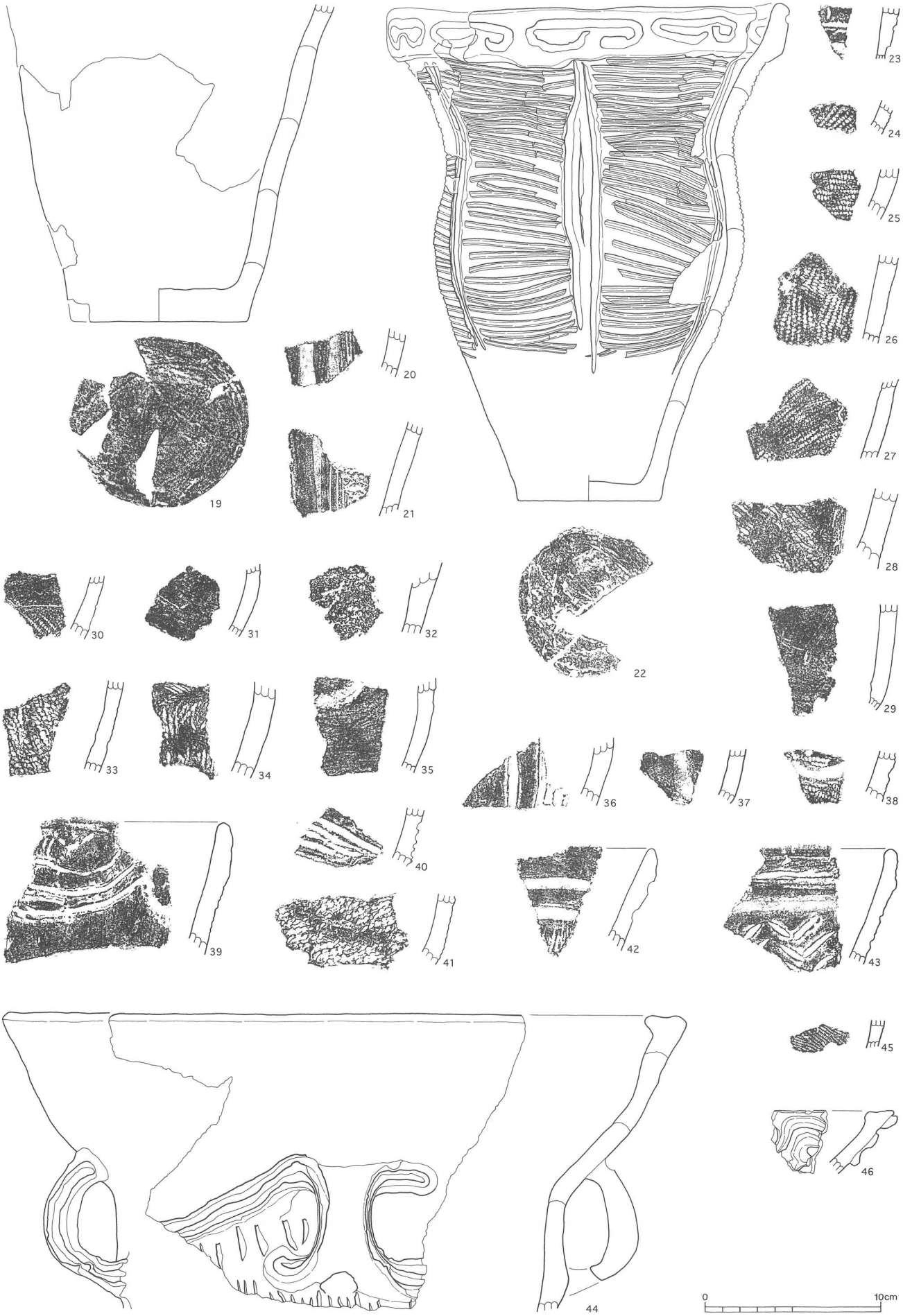


図38　3号住居跡出土土器

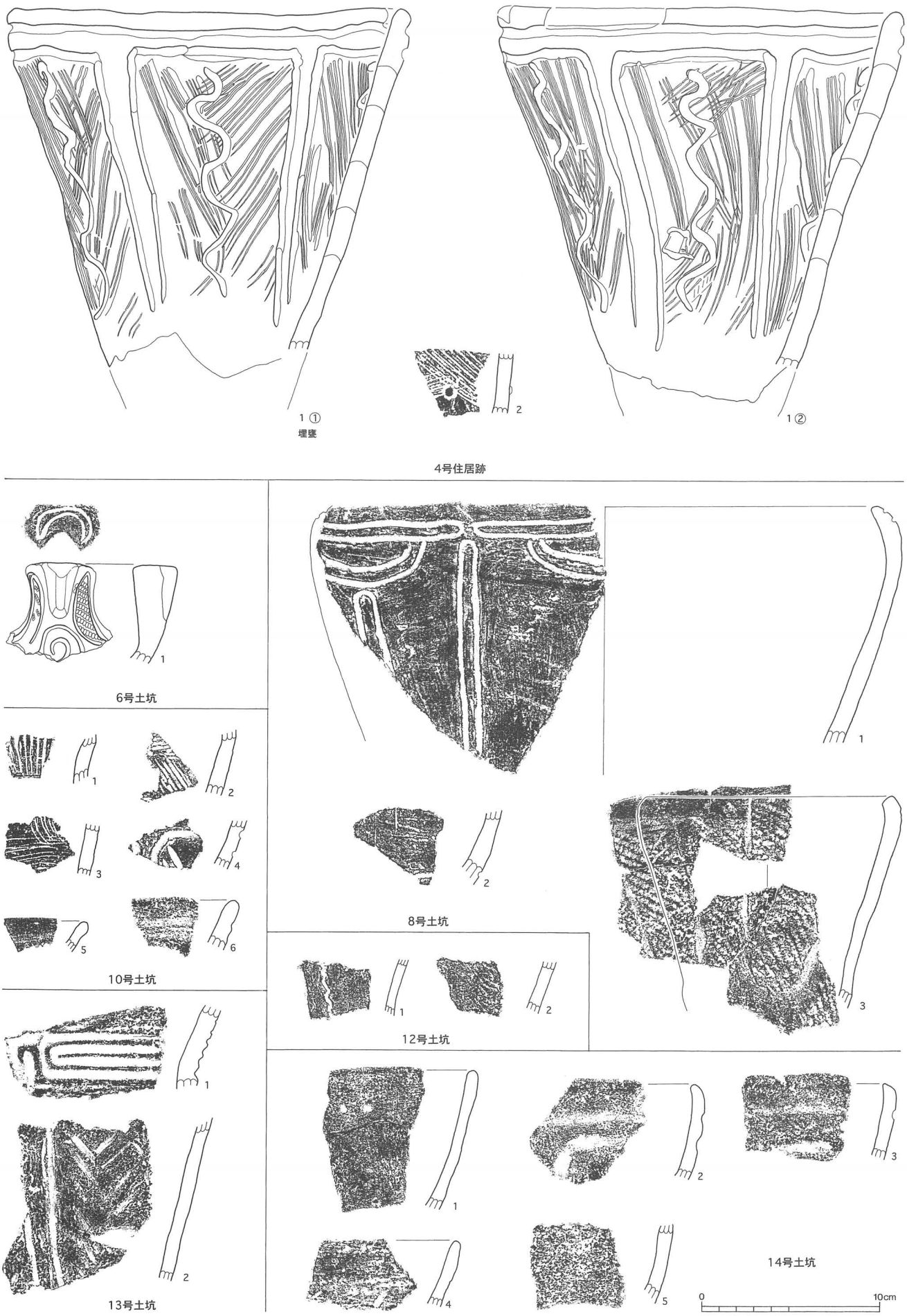


図39　4号住居跡、土坑出土土器(1)

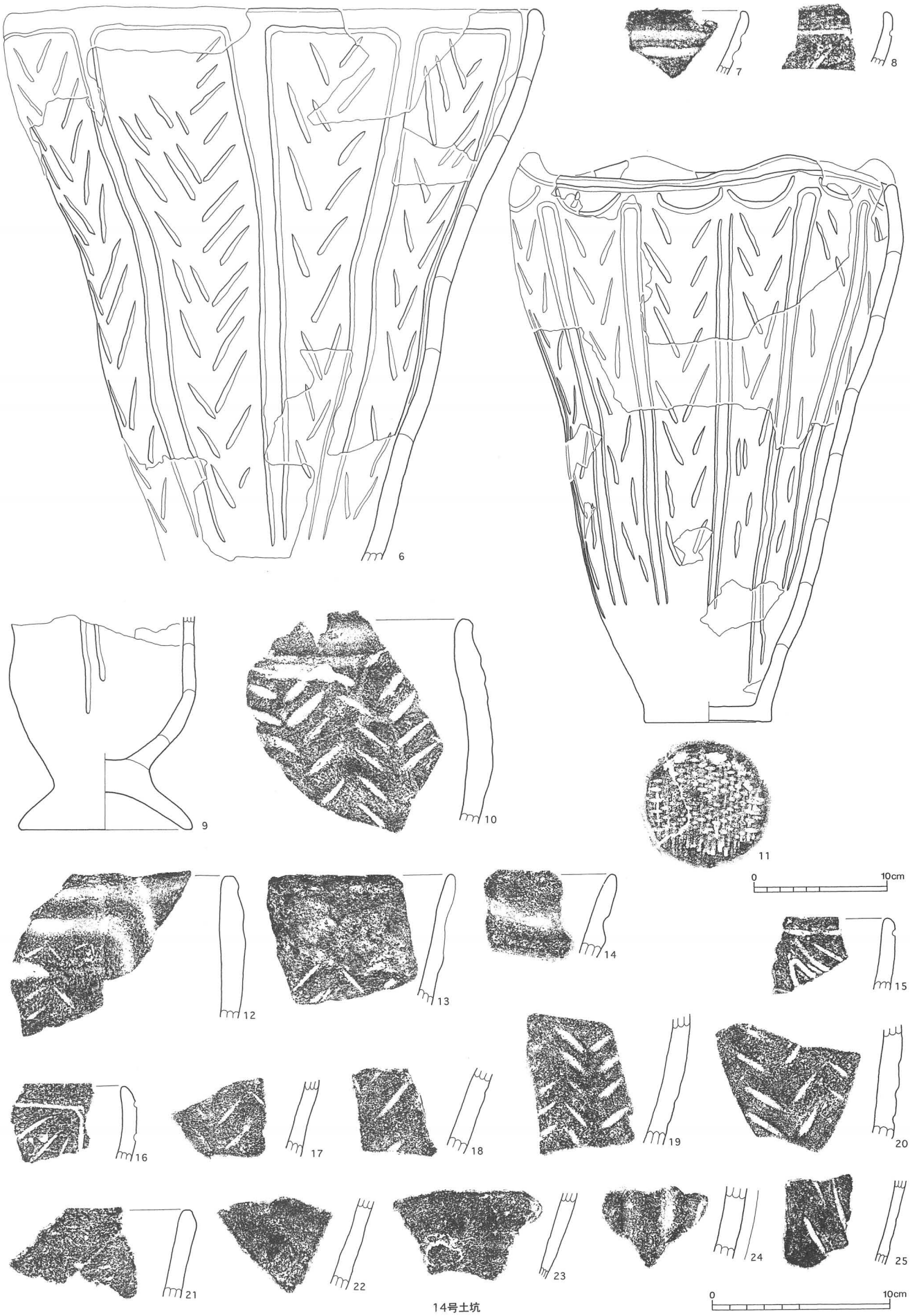

6
7
8
9
10
11
0
10cm
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
0
10cm
14号土坑

図40　土坑出土土器(2)

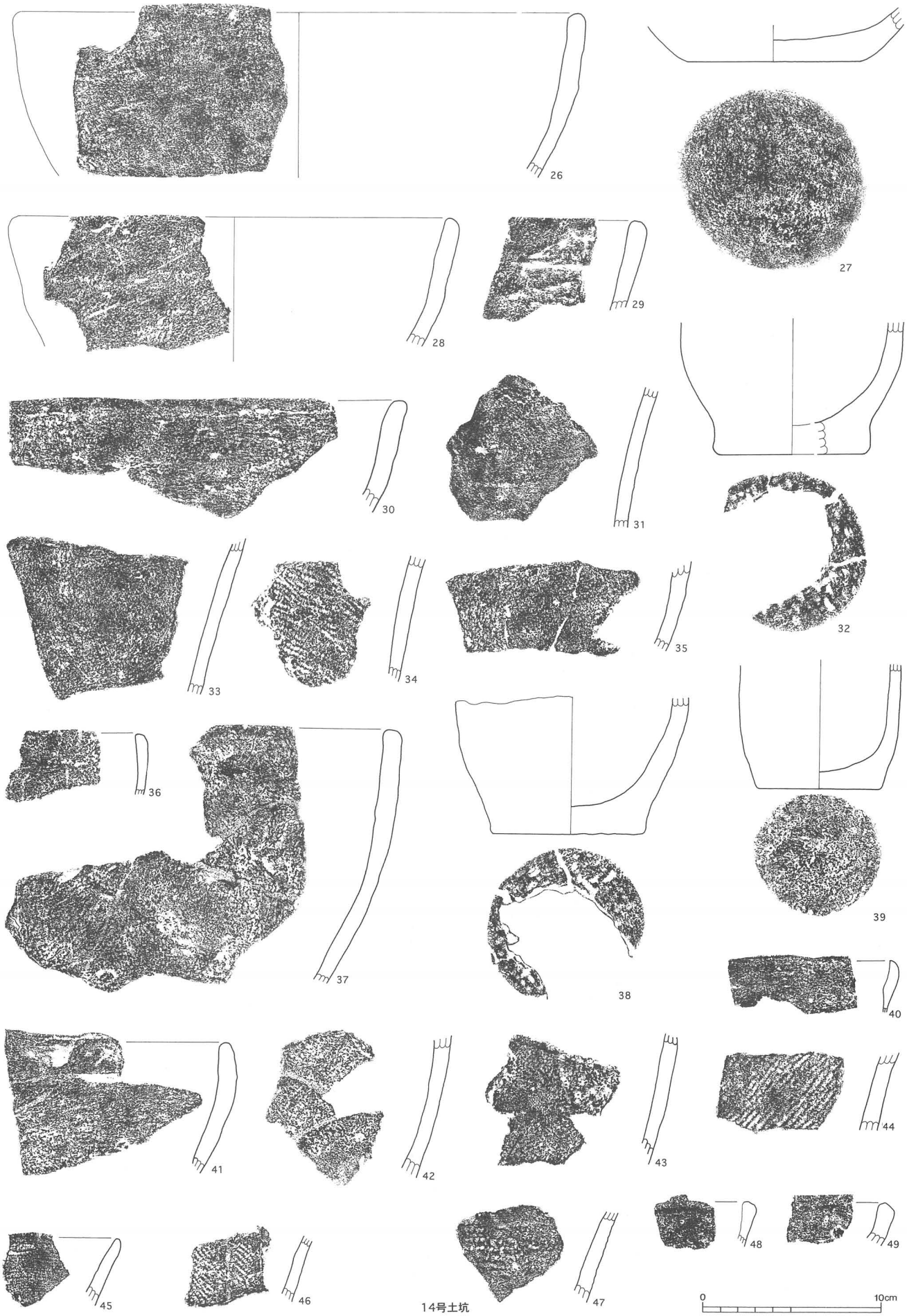

26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
14号土坑
0
10cm

図41　土坑出土土器(3)

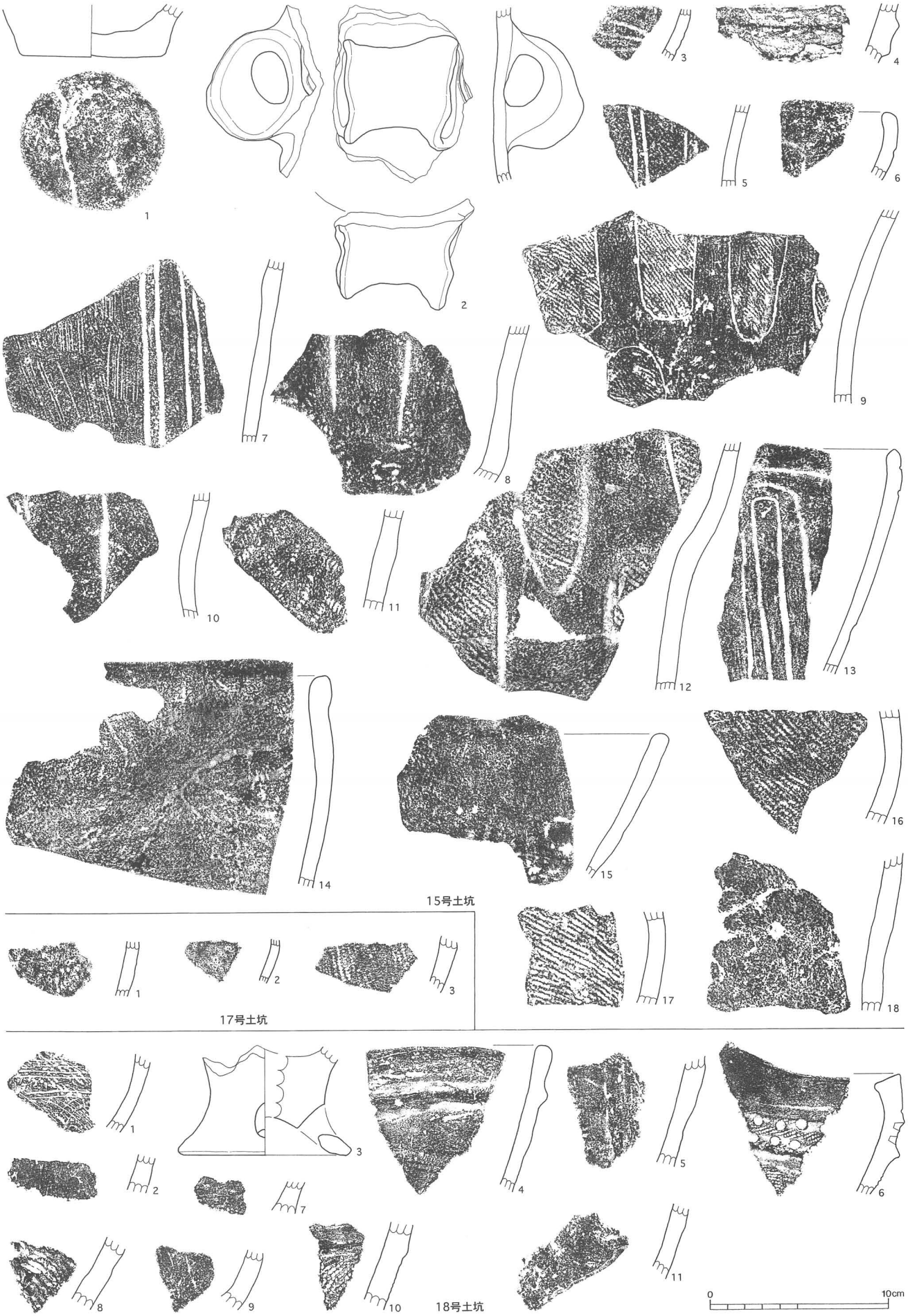


図42　土坑出土土器(4)

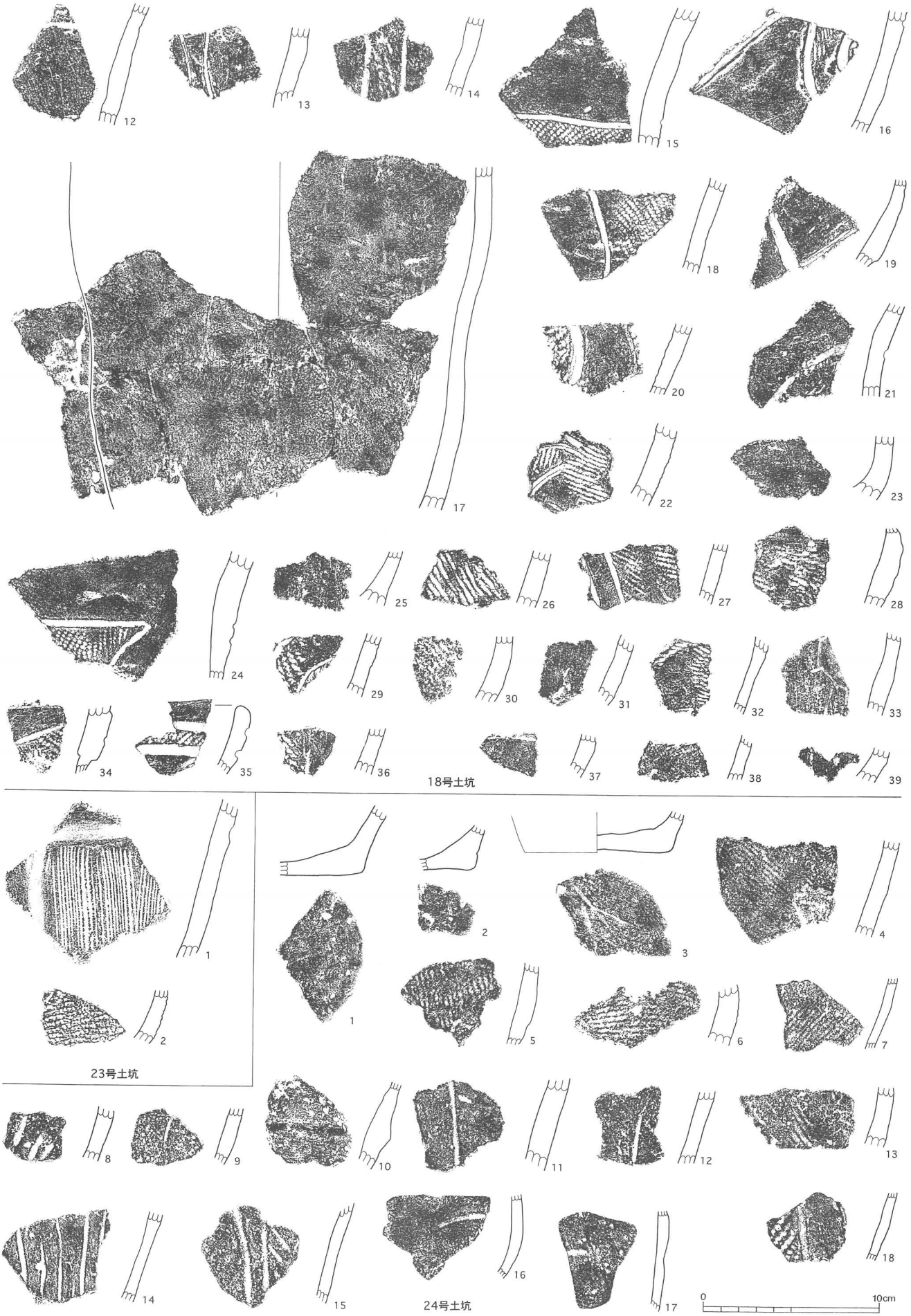


図43　土坑出土土器(5)

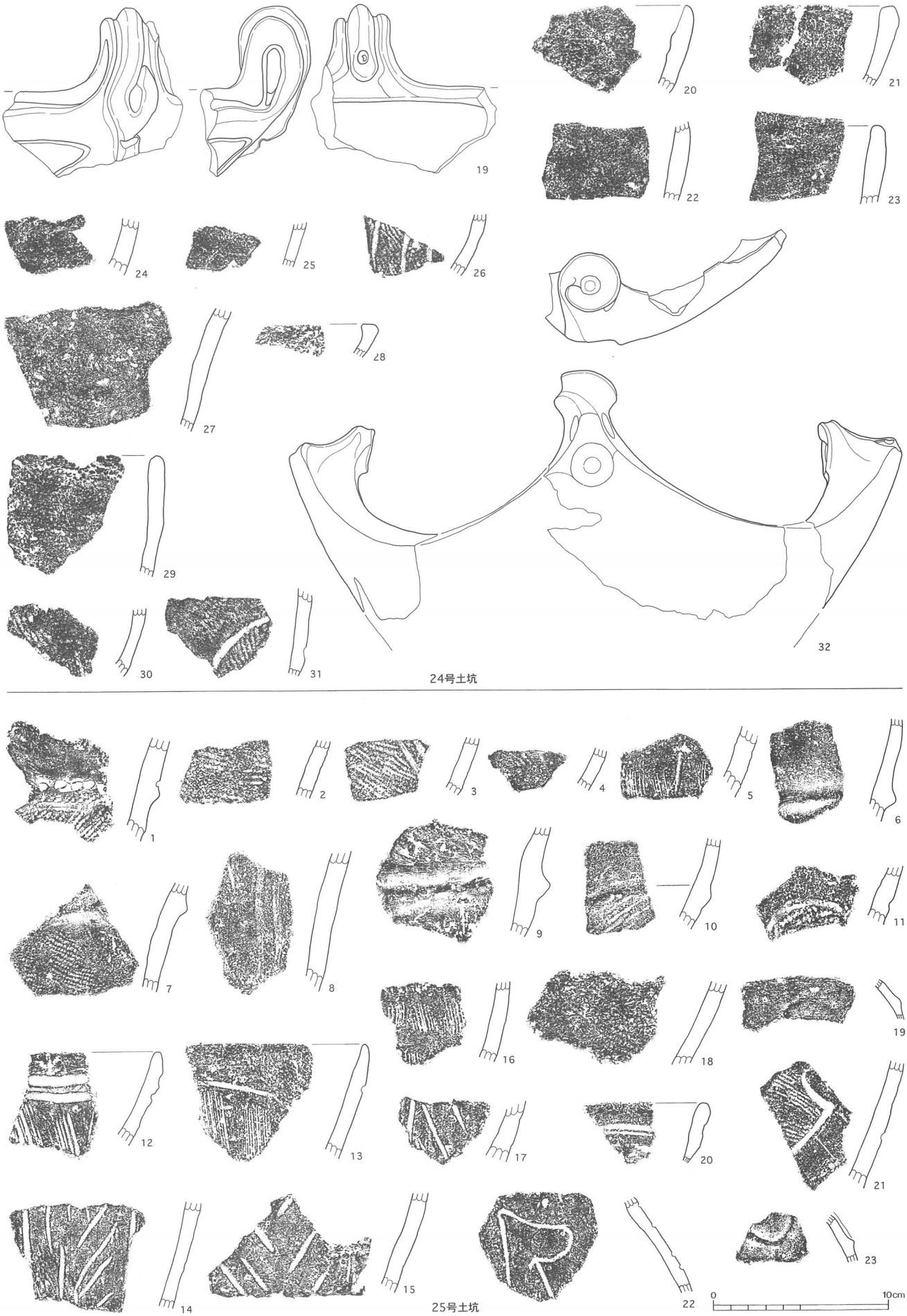


図44　土坑出土土器(6)

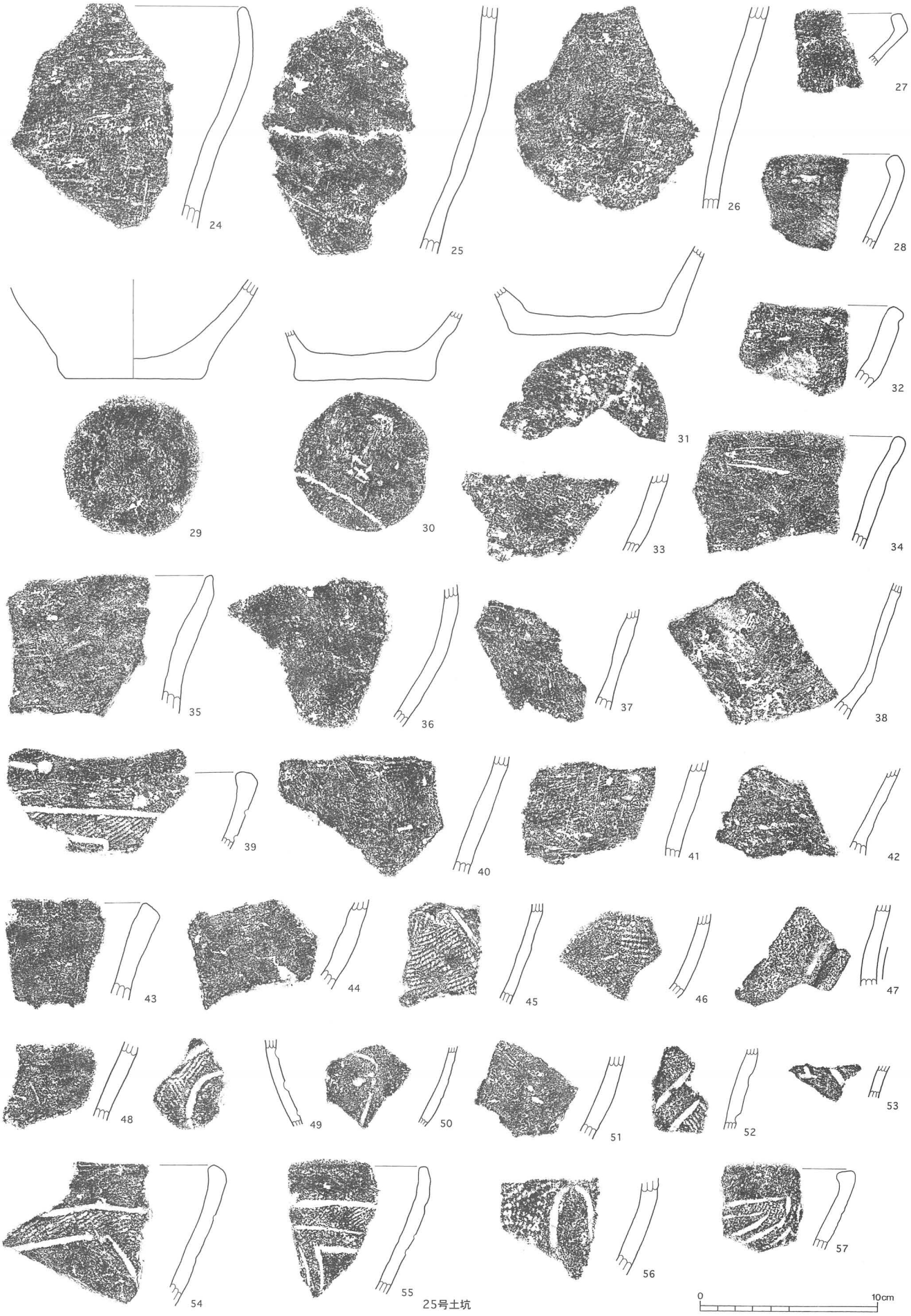

24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
25号土坑
0
10cm

図45　土坑出土土器(7)

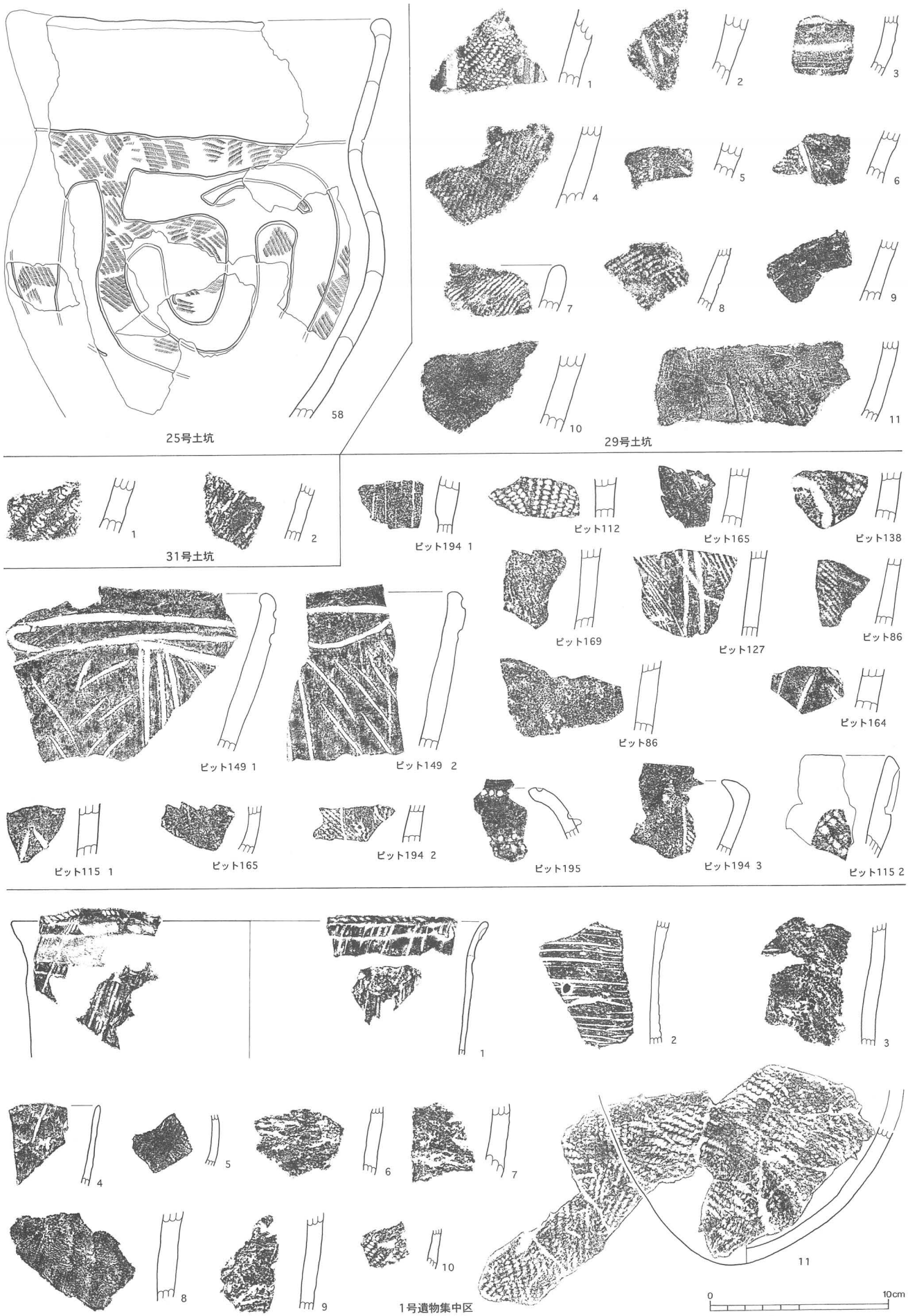


図46　土坑出土土器(8)、ピット出土土器、１号遺物集中区出土土器(1)

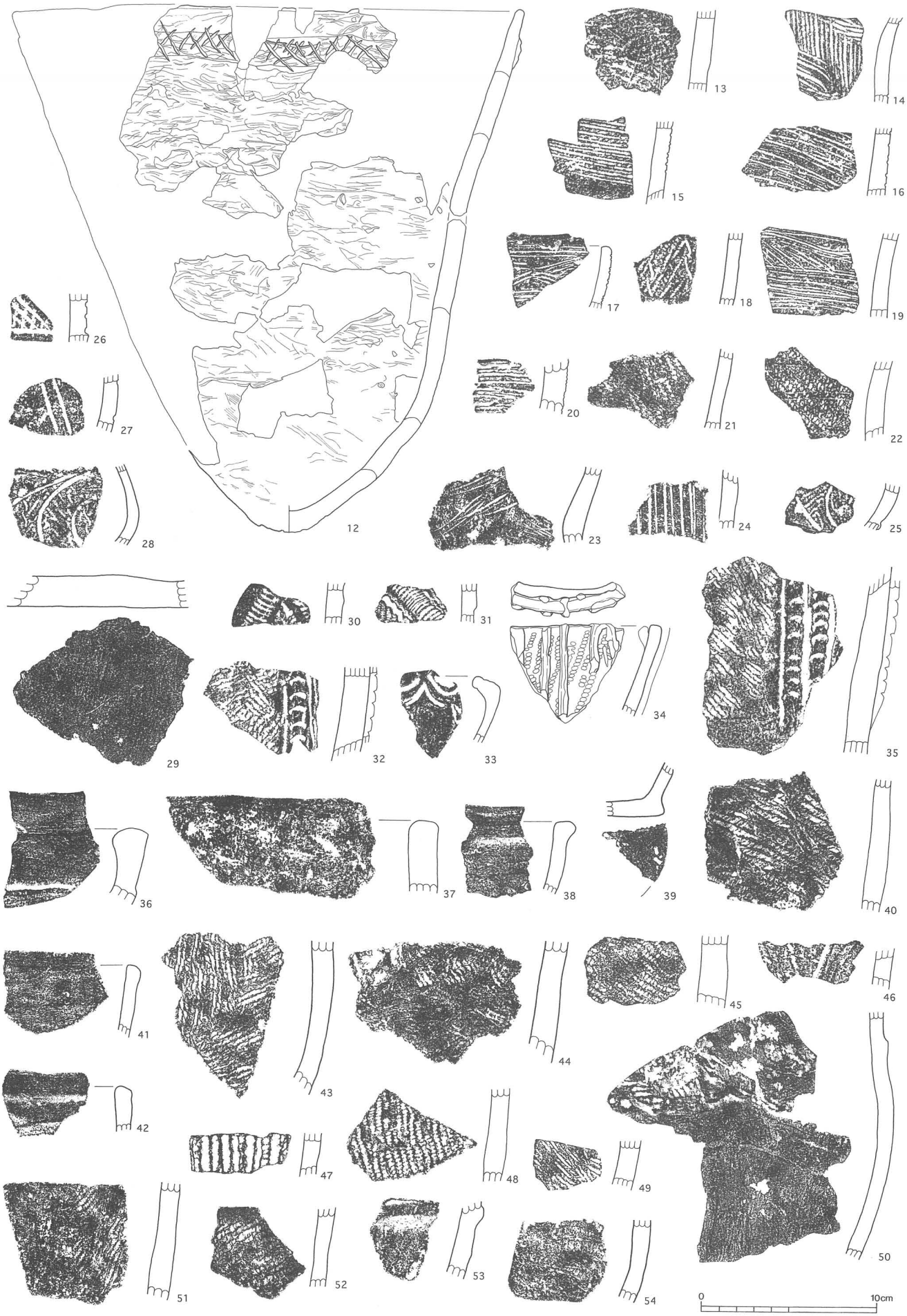


図47　1号遺物集中区出土土器(2)

図48　1号遺物集中区出土土器(3)

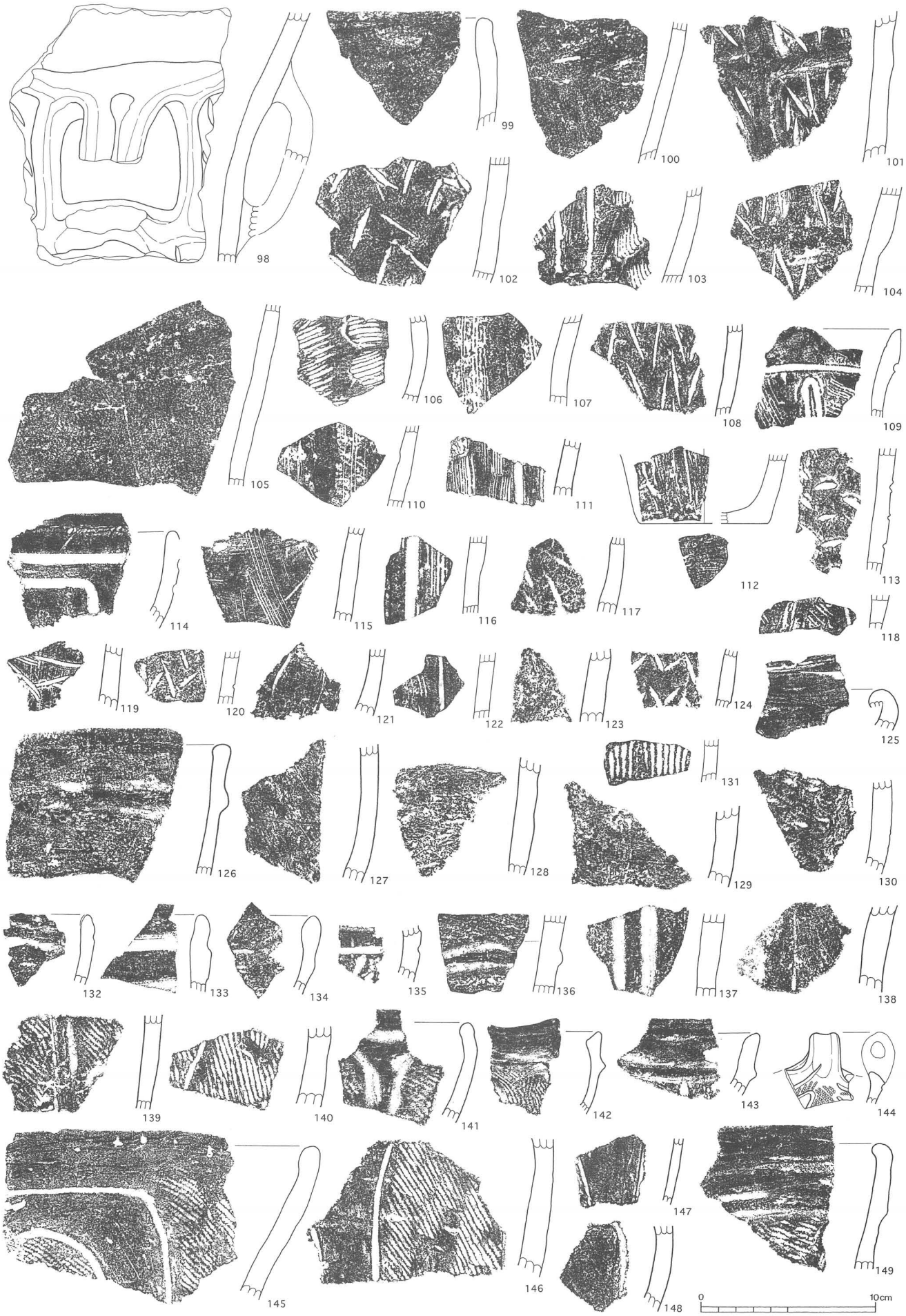


図49　1号遺物集中区出土土器(4)

図50　1号遺物集中区出土土器(5)

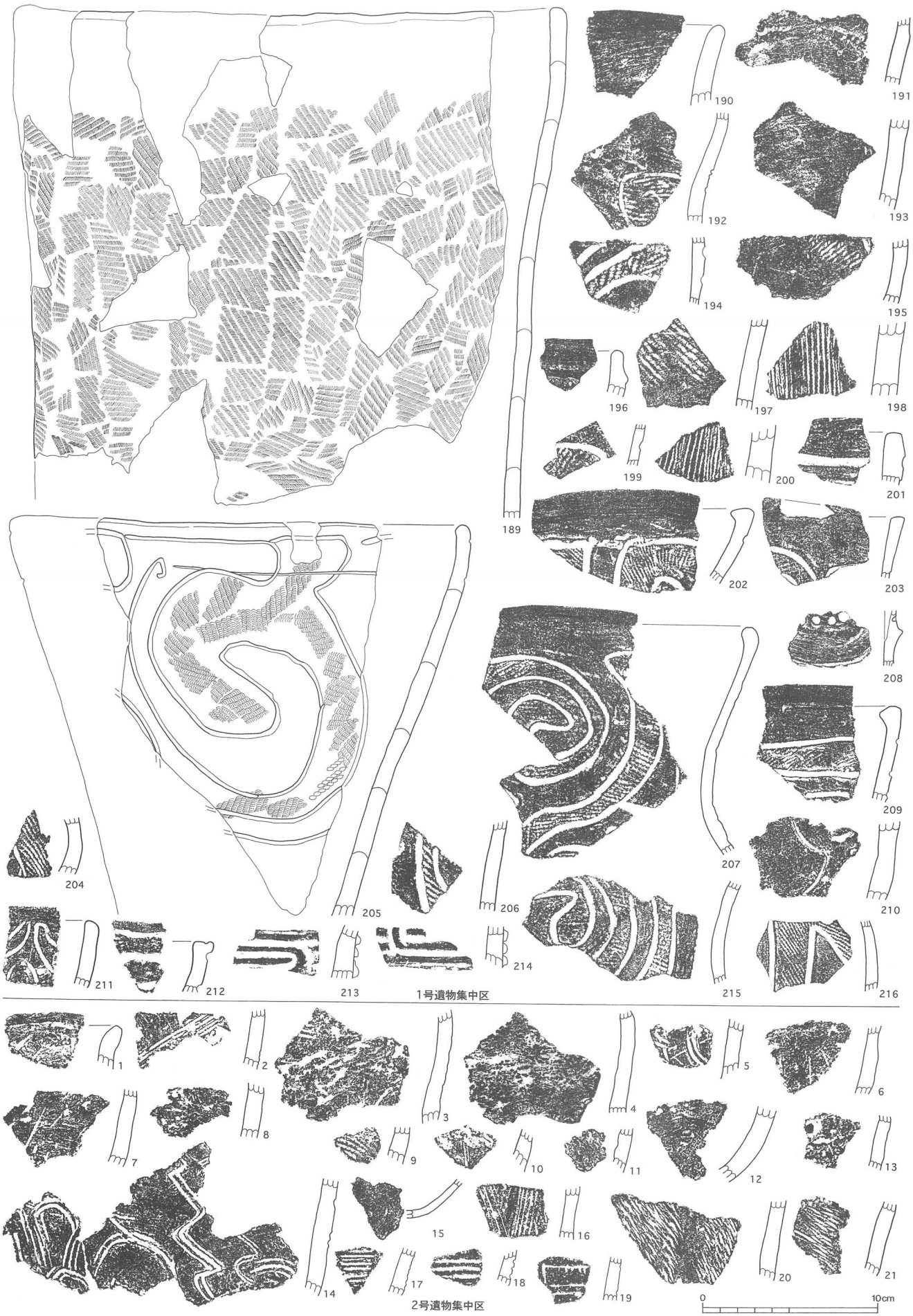


図51　1号遺物集中区出土土器(6)、2号遺物集中区出土土器(1)

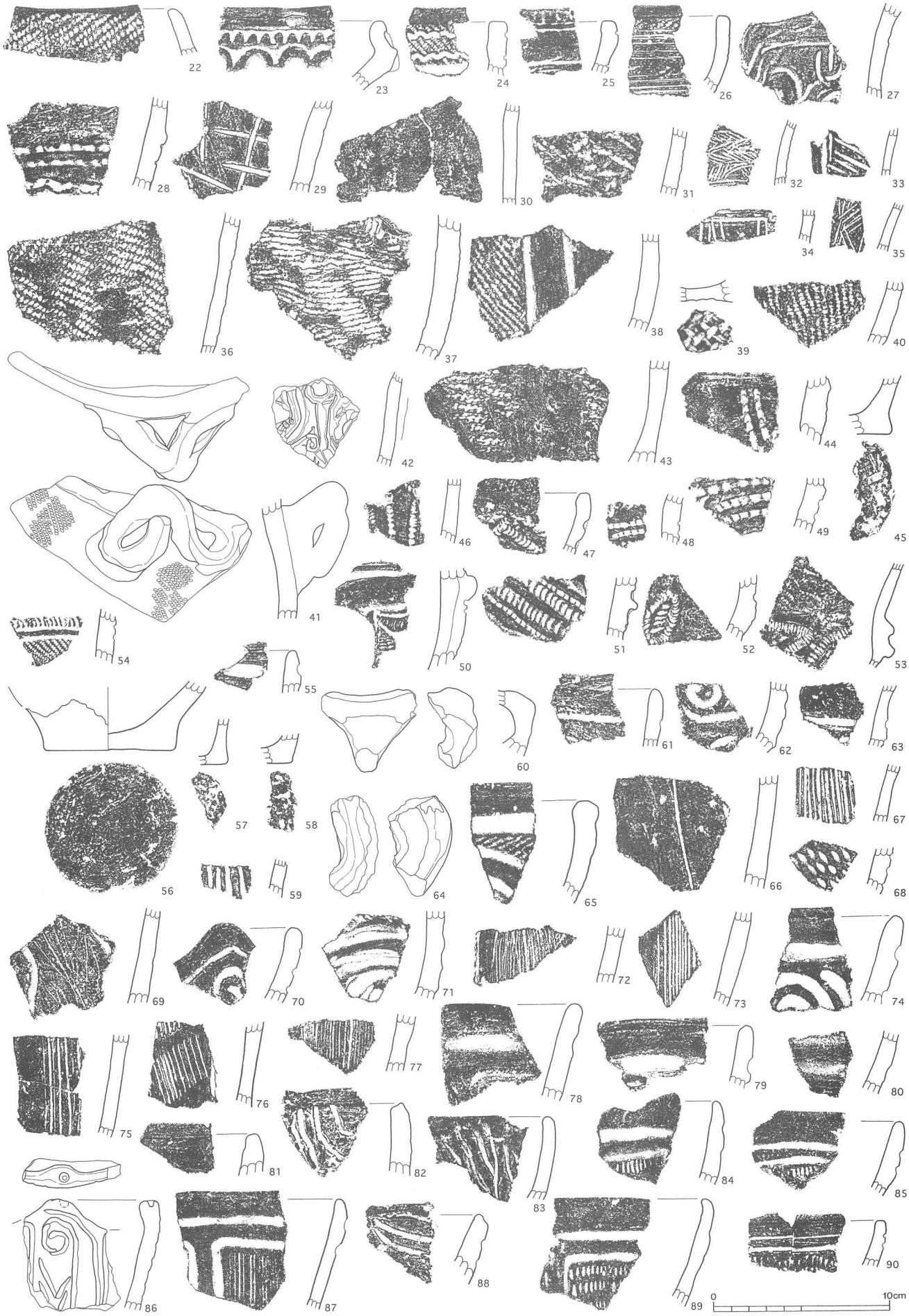


図52　2号遺物集中区出土土器(2)

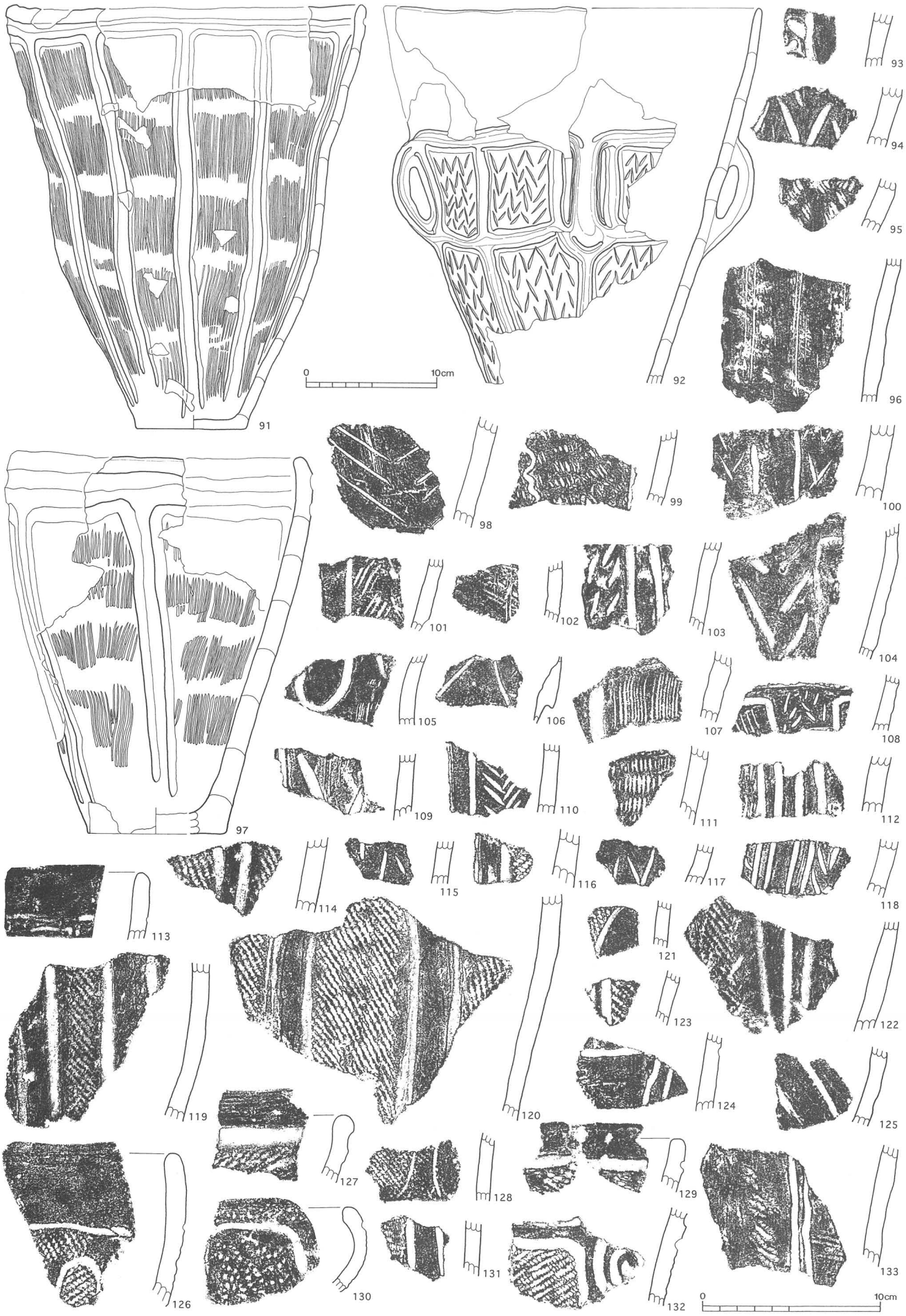


図53　2号遺物集中区出土土器(3)

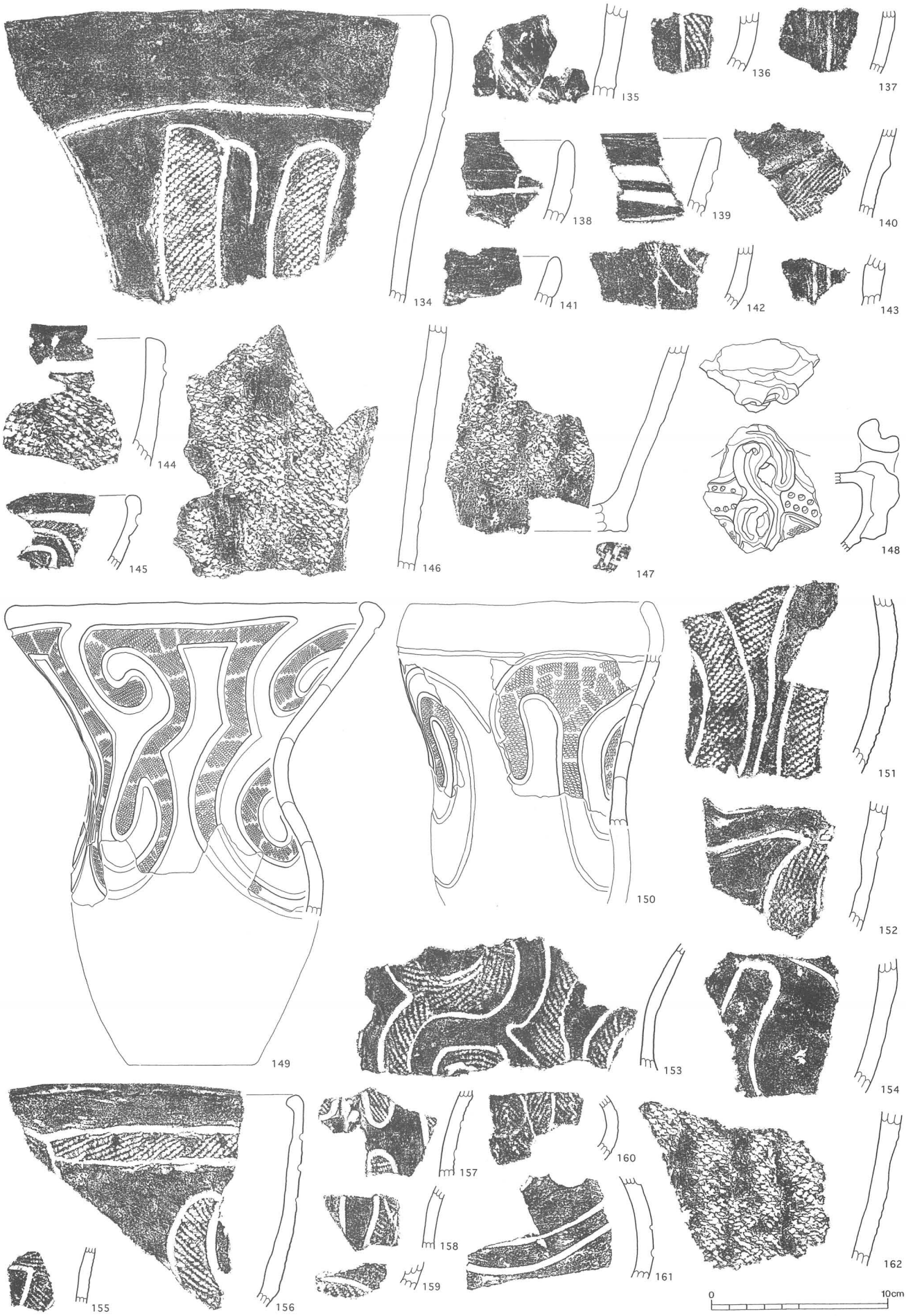


図54　2号遺物集中区出土土器(4)

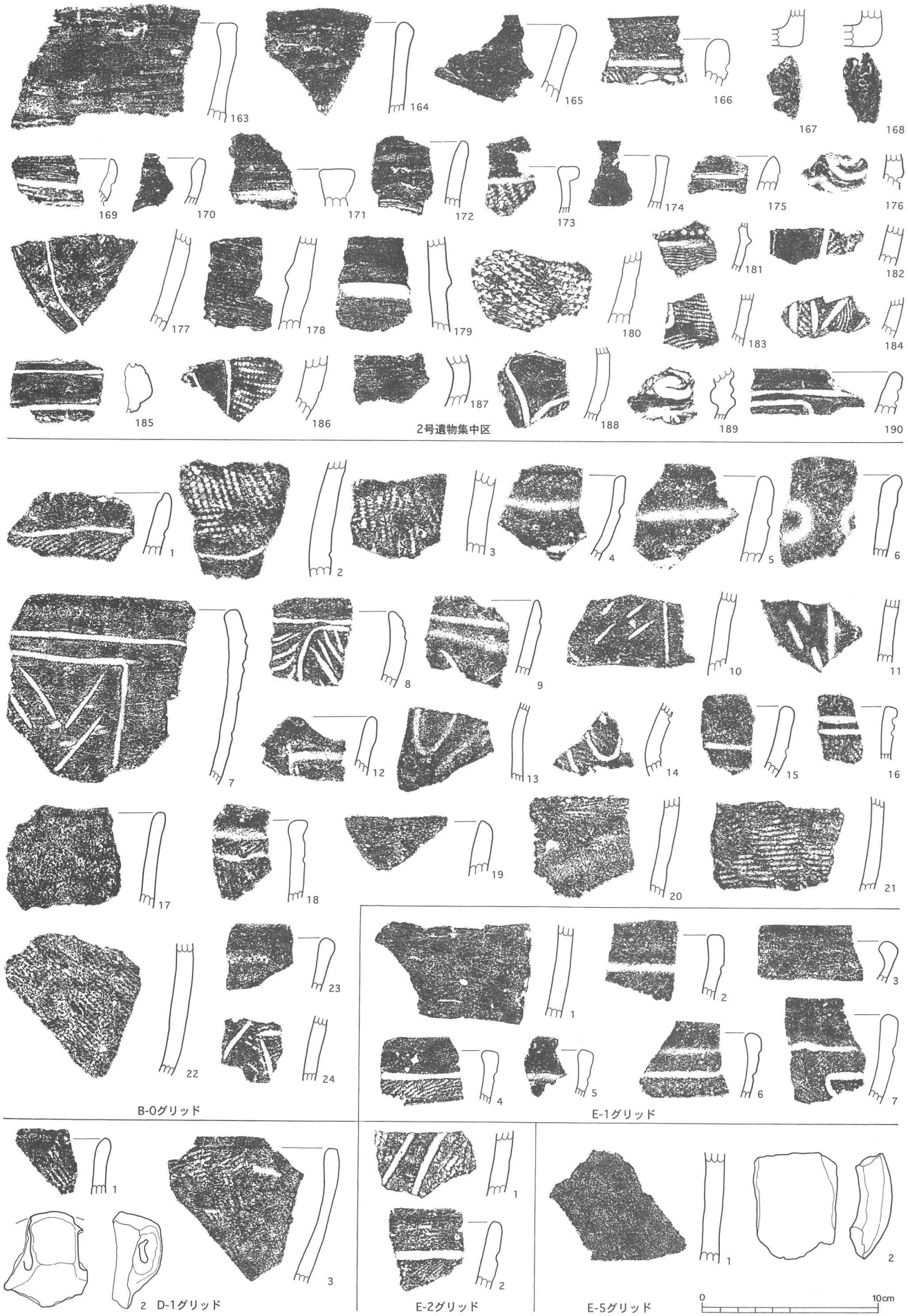


図55　2号遺物集中区出土土器(5)、遺構外出土土器(1)

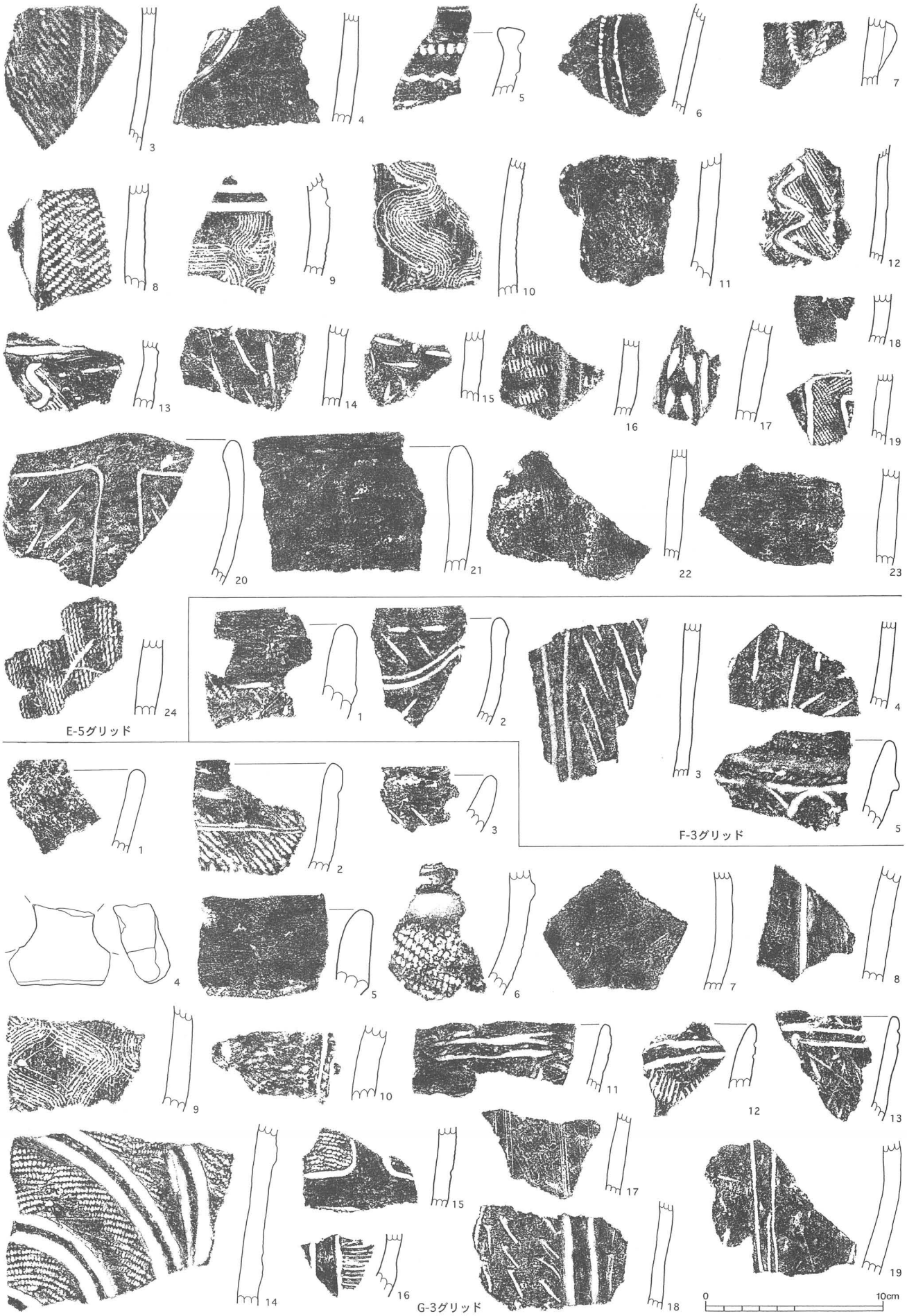


図56　遺構外出土土器(2)

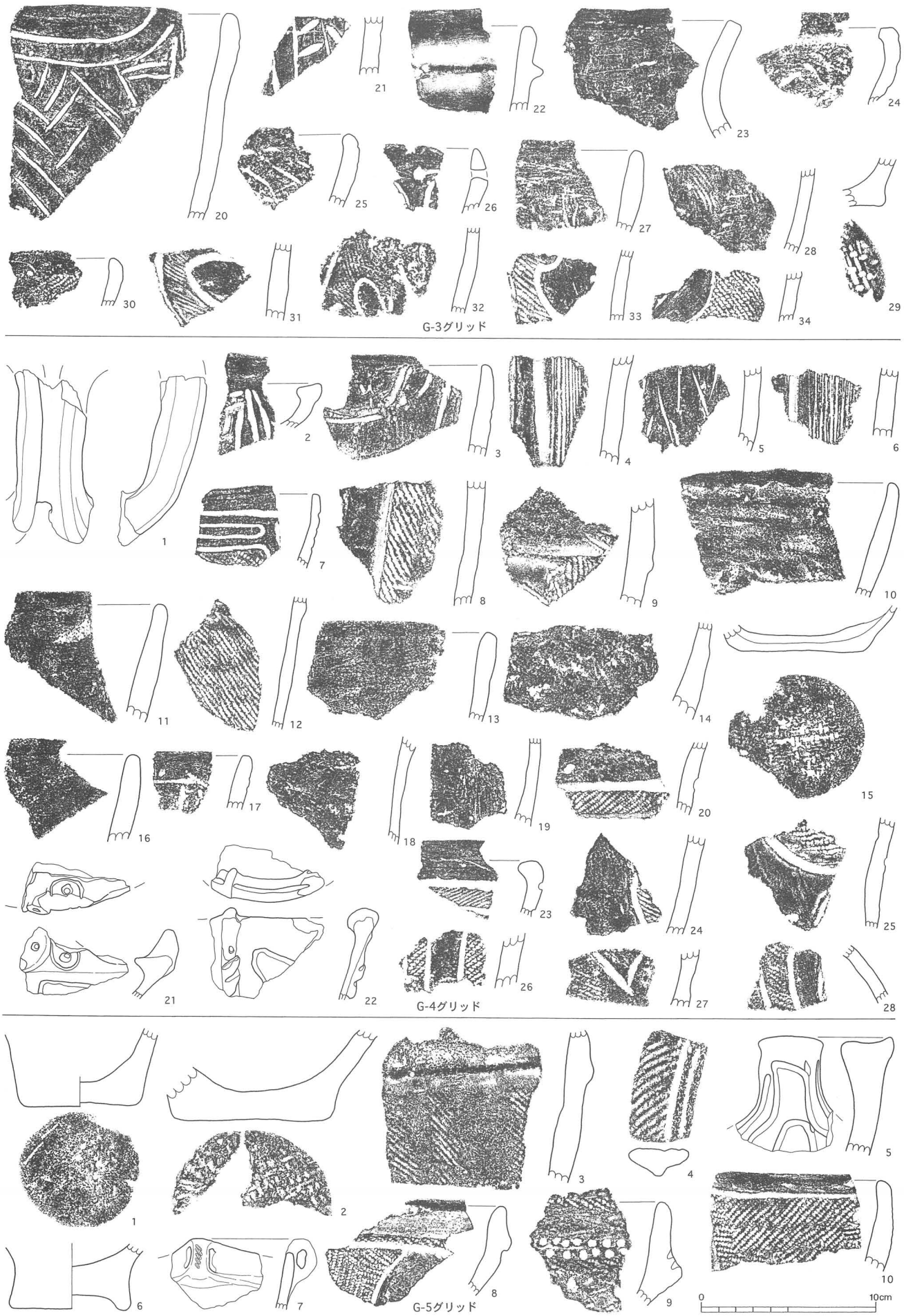


図57　遺構外出土土器(3)

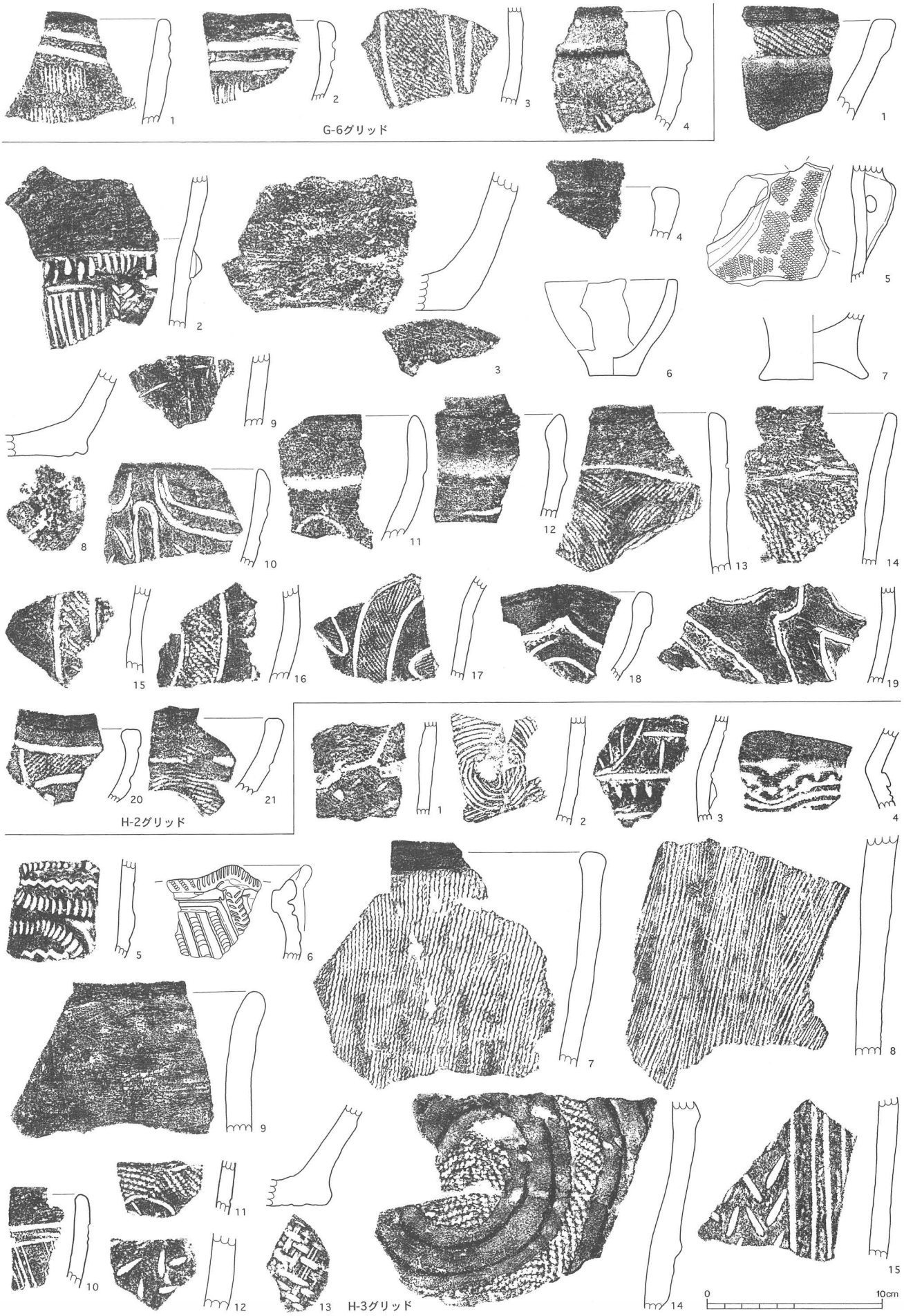


図58　遺構外出土土器(4)

図59　遺構外出土土器(5)

図60　遺構外出土土器(6)

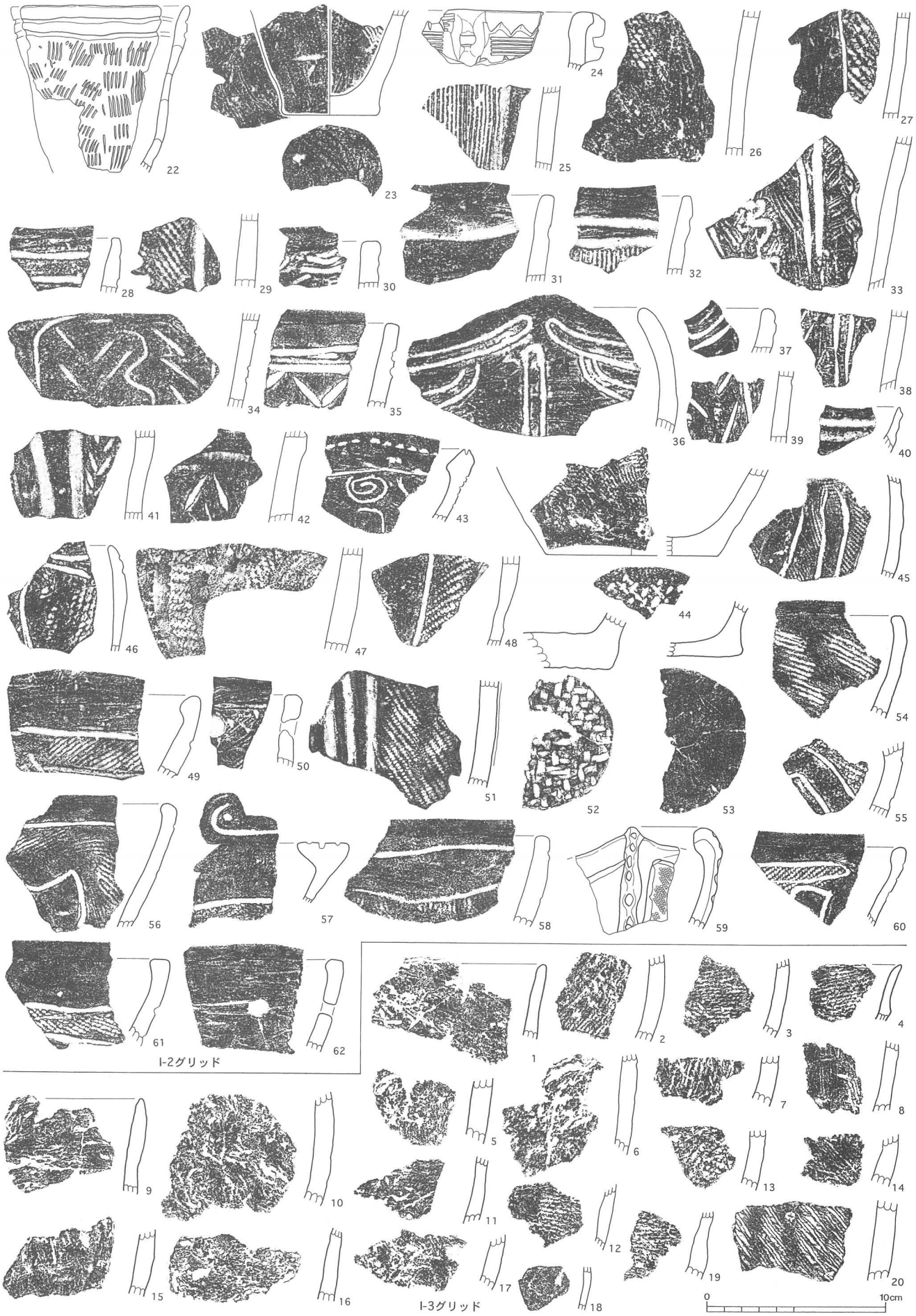


図61　遺構外出土土器(7)

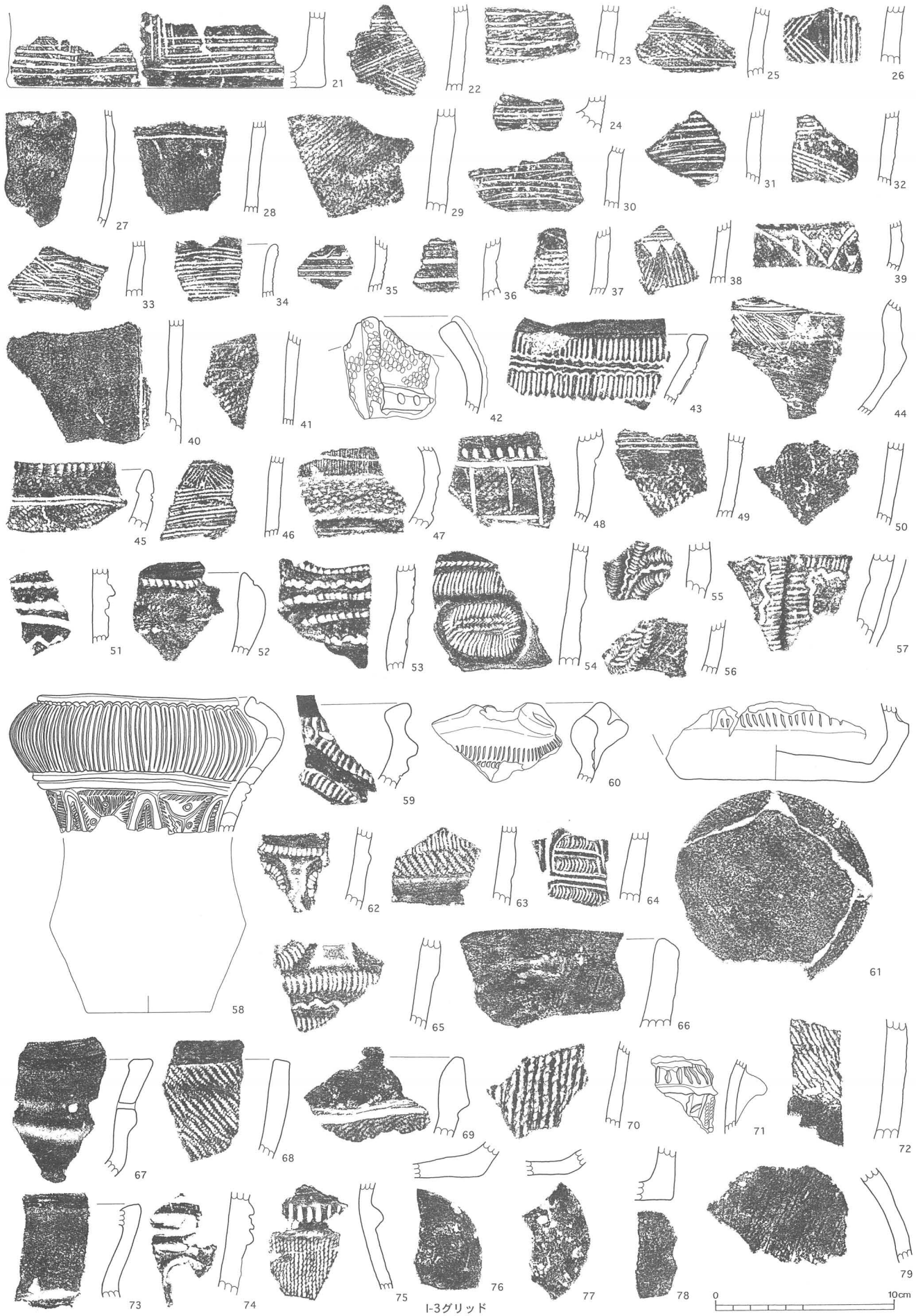


図62　遺構外出土土器(8)

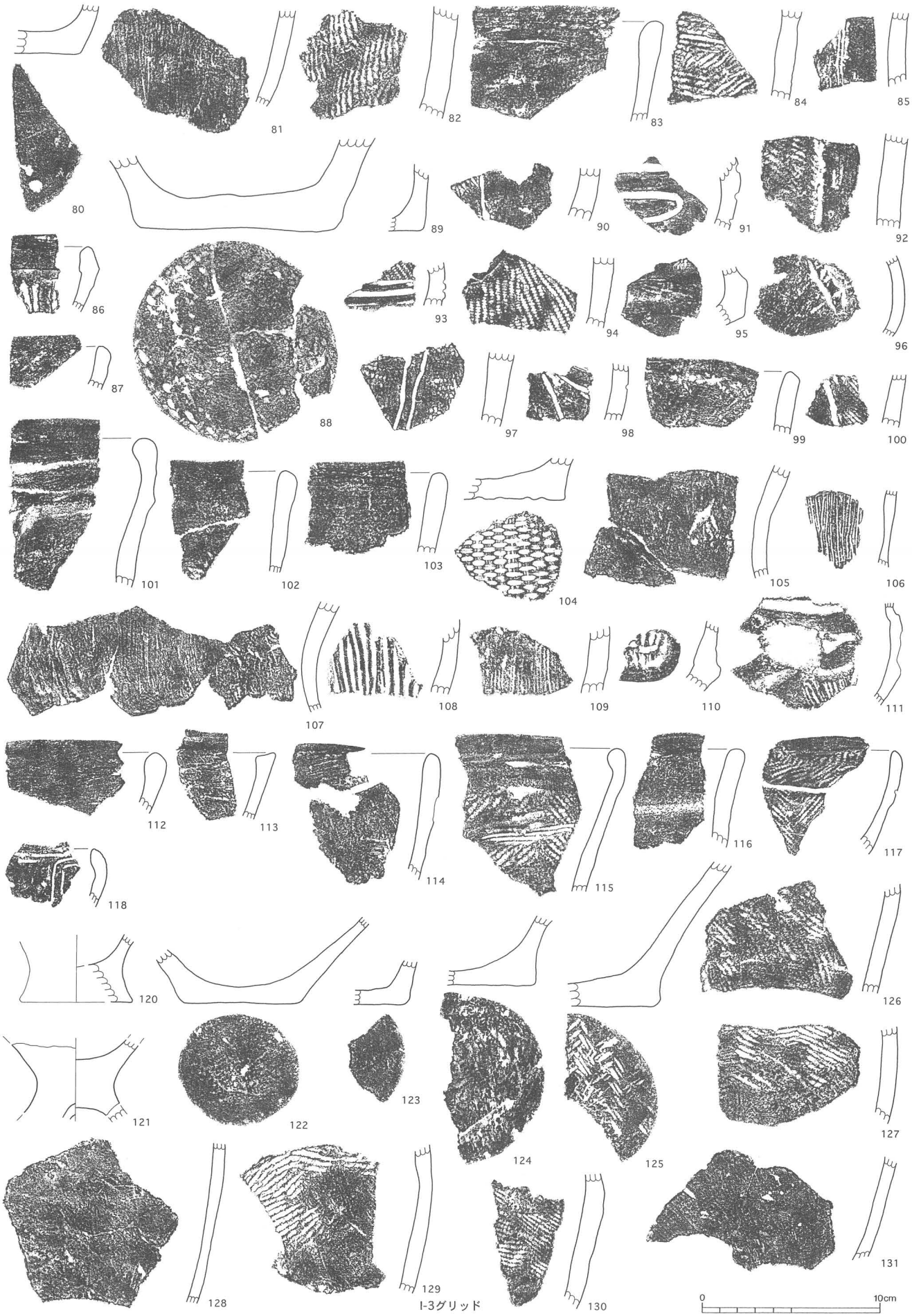


図63　遺構外出土土器(9)

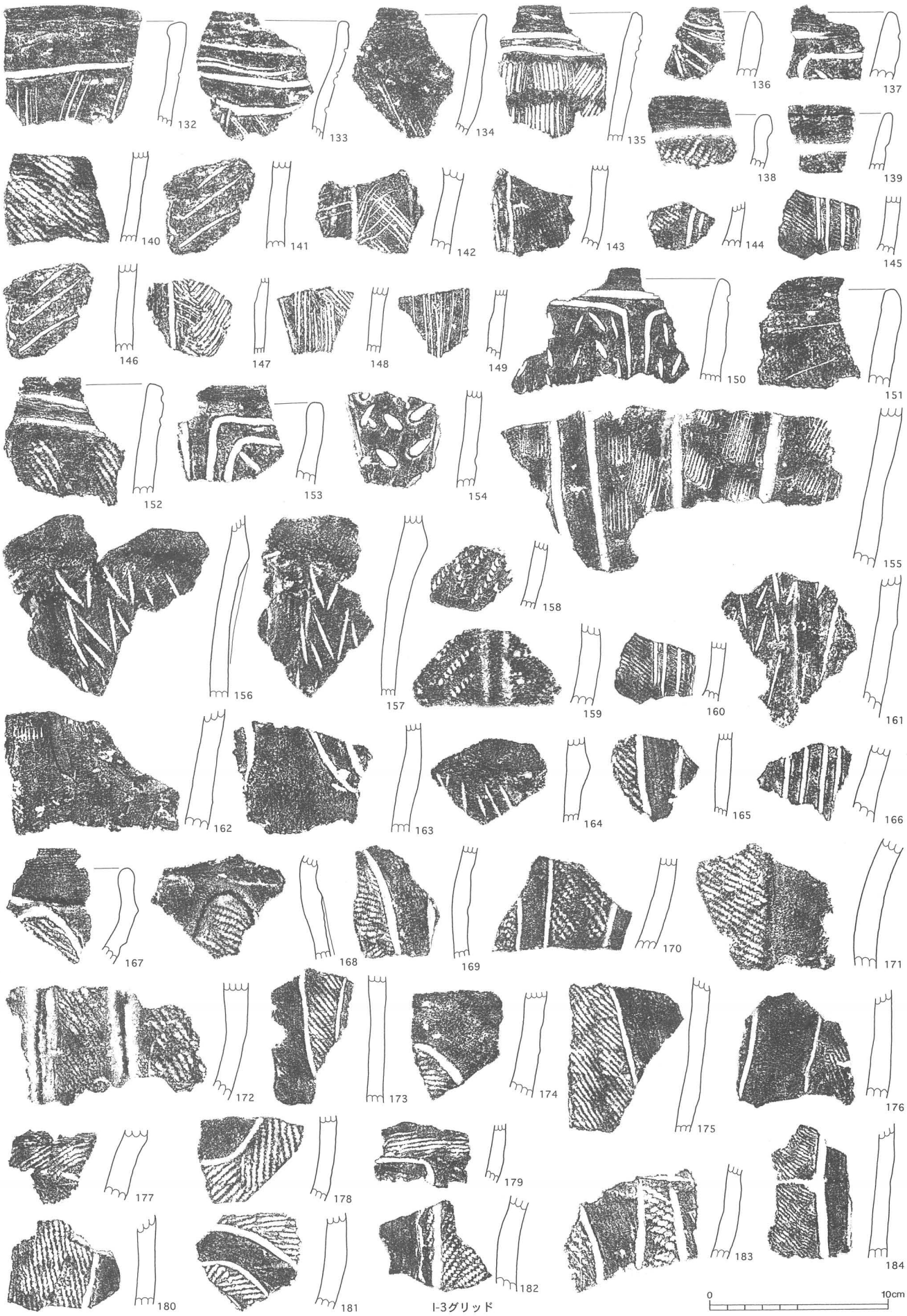


図64　遺構外出土土器(10)

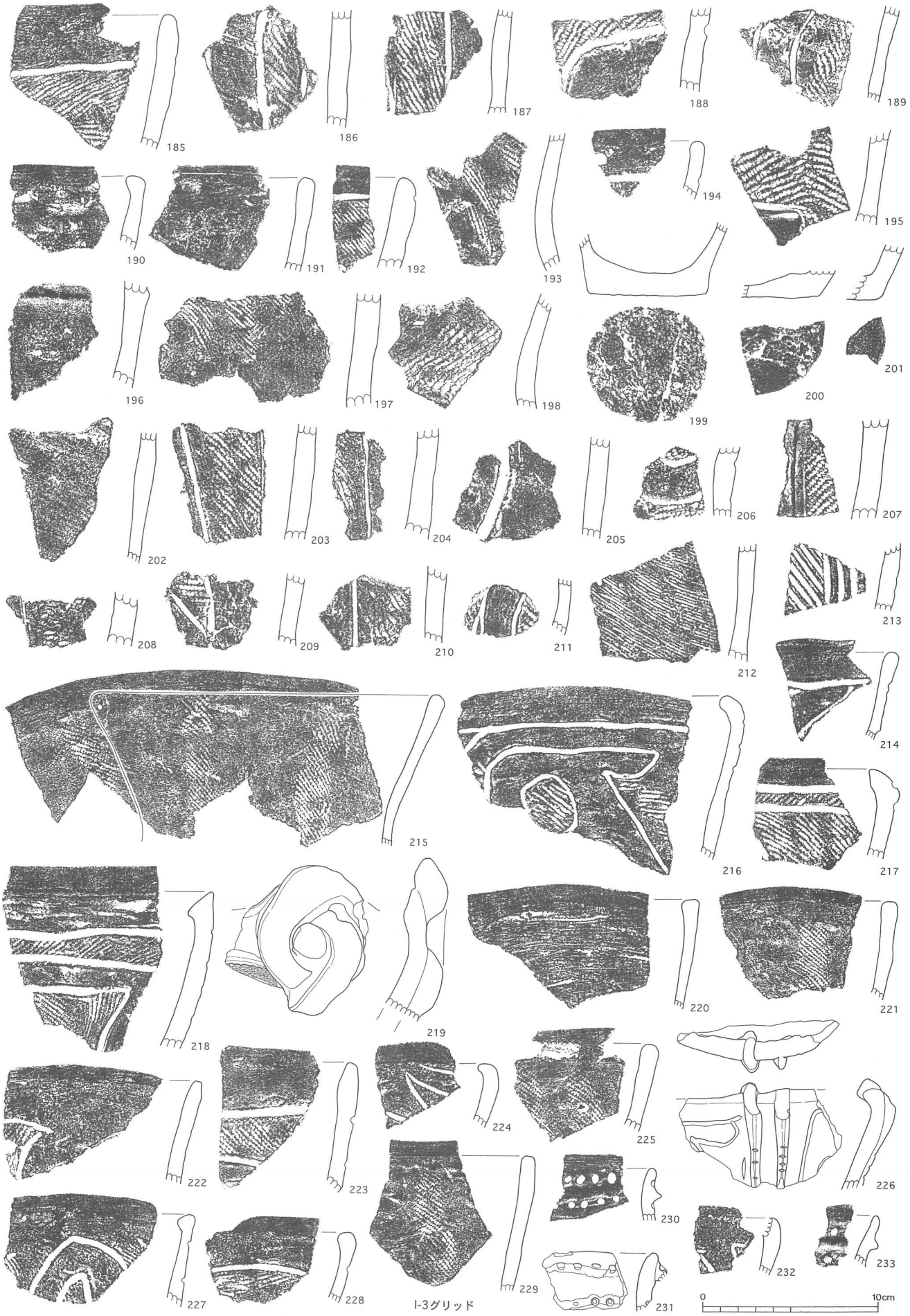


図65　遺構外出土土器(11)

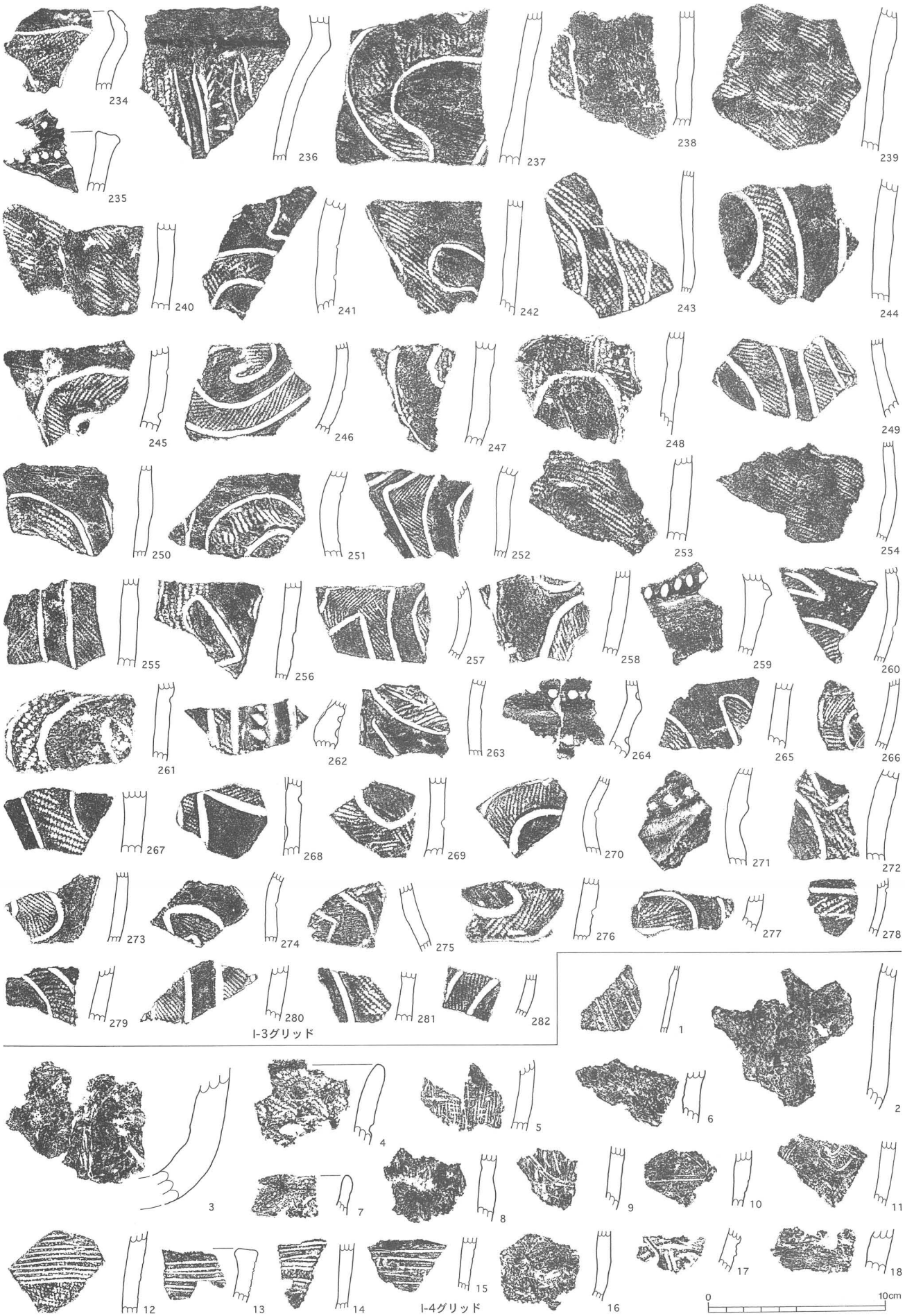


図66　遺構外出土土器(12)

図67　遺構外出土土器(13)

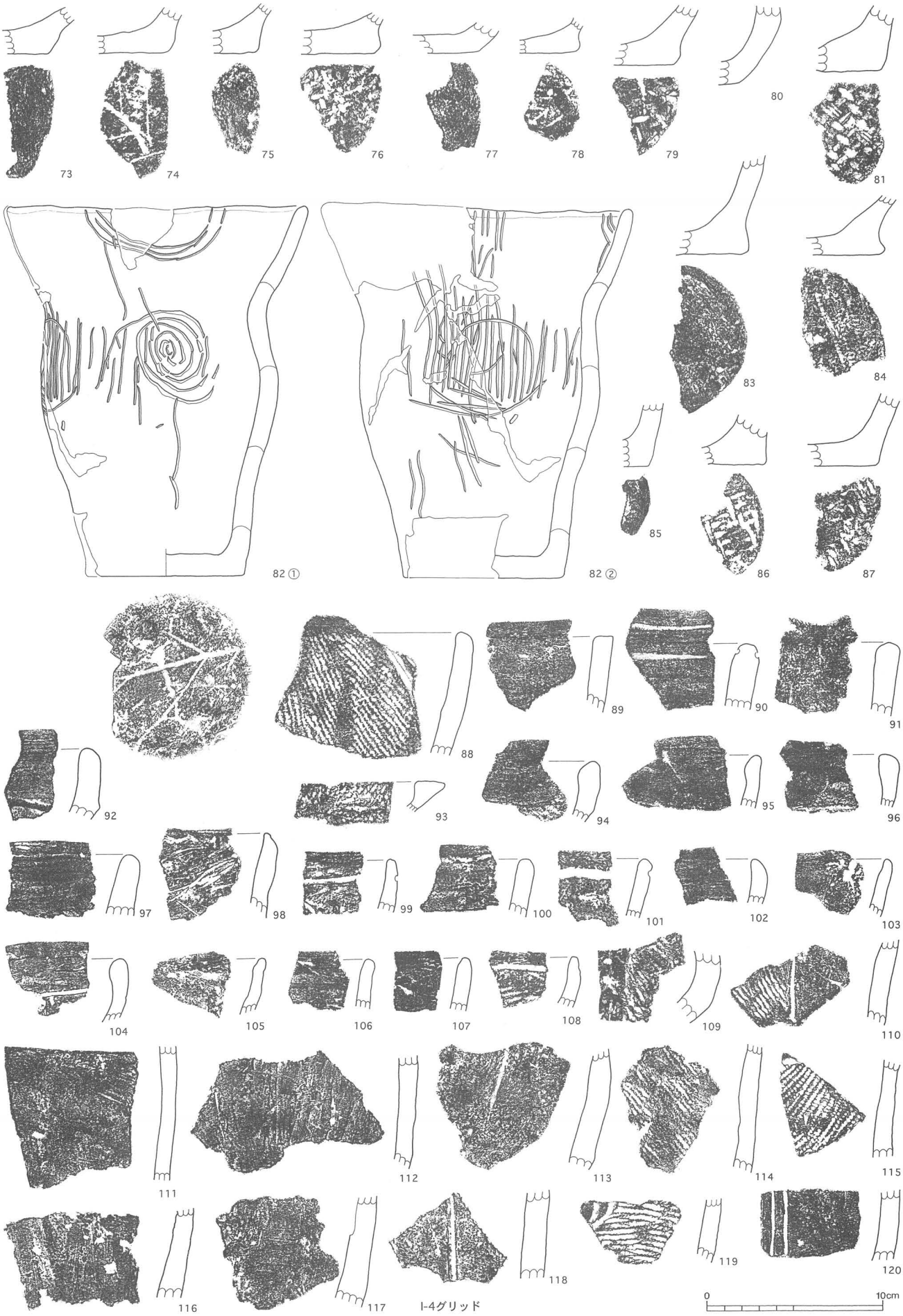


図68　遺構外出土土器(14)

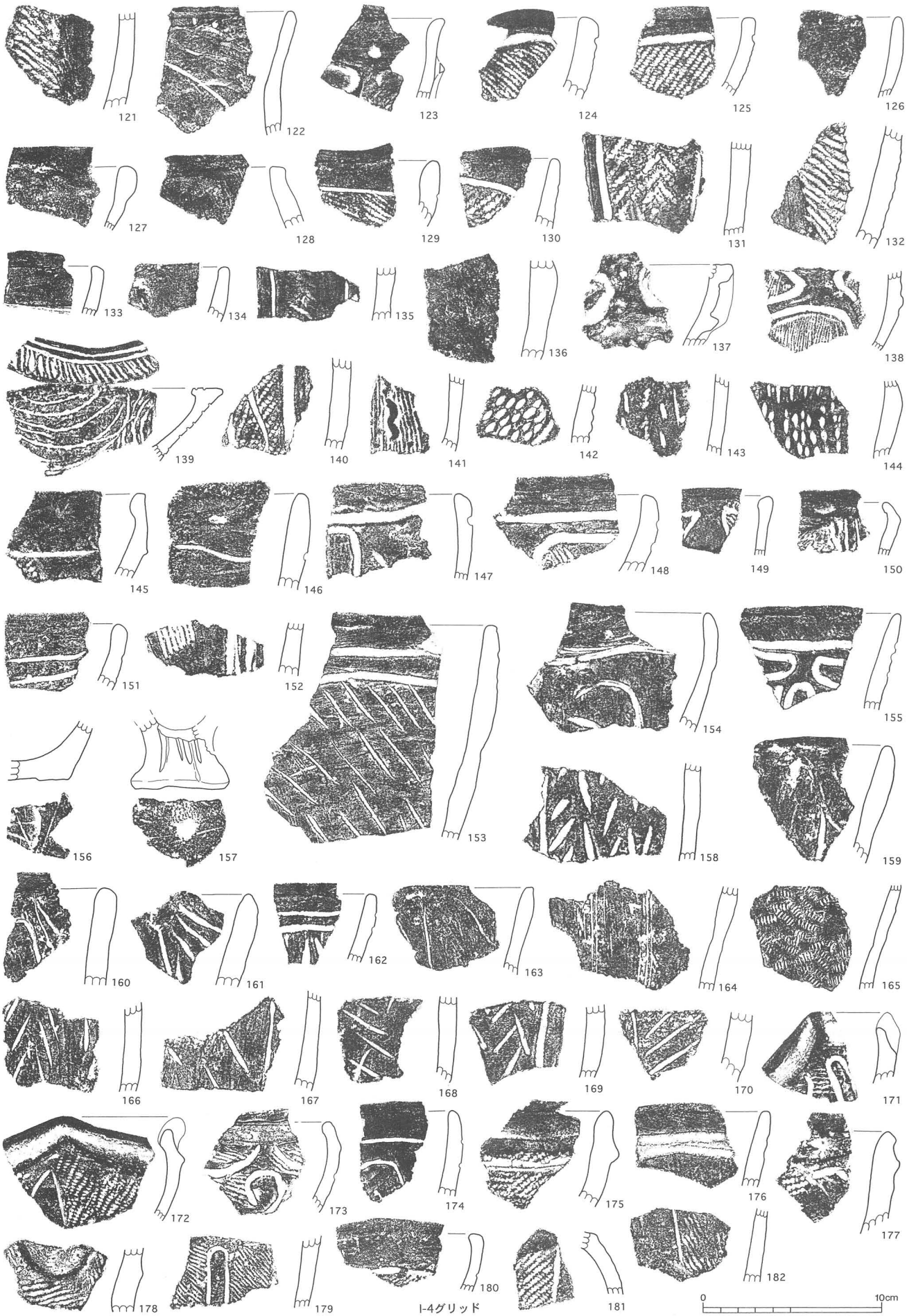


図69　遺構外出土土器(15)

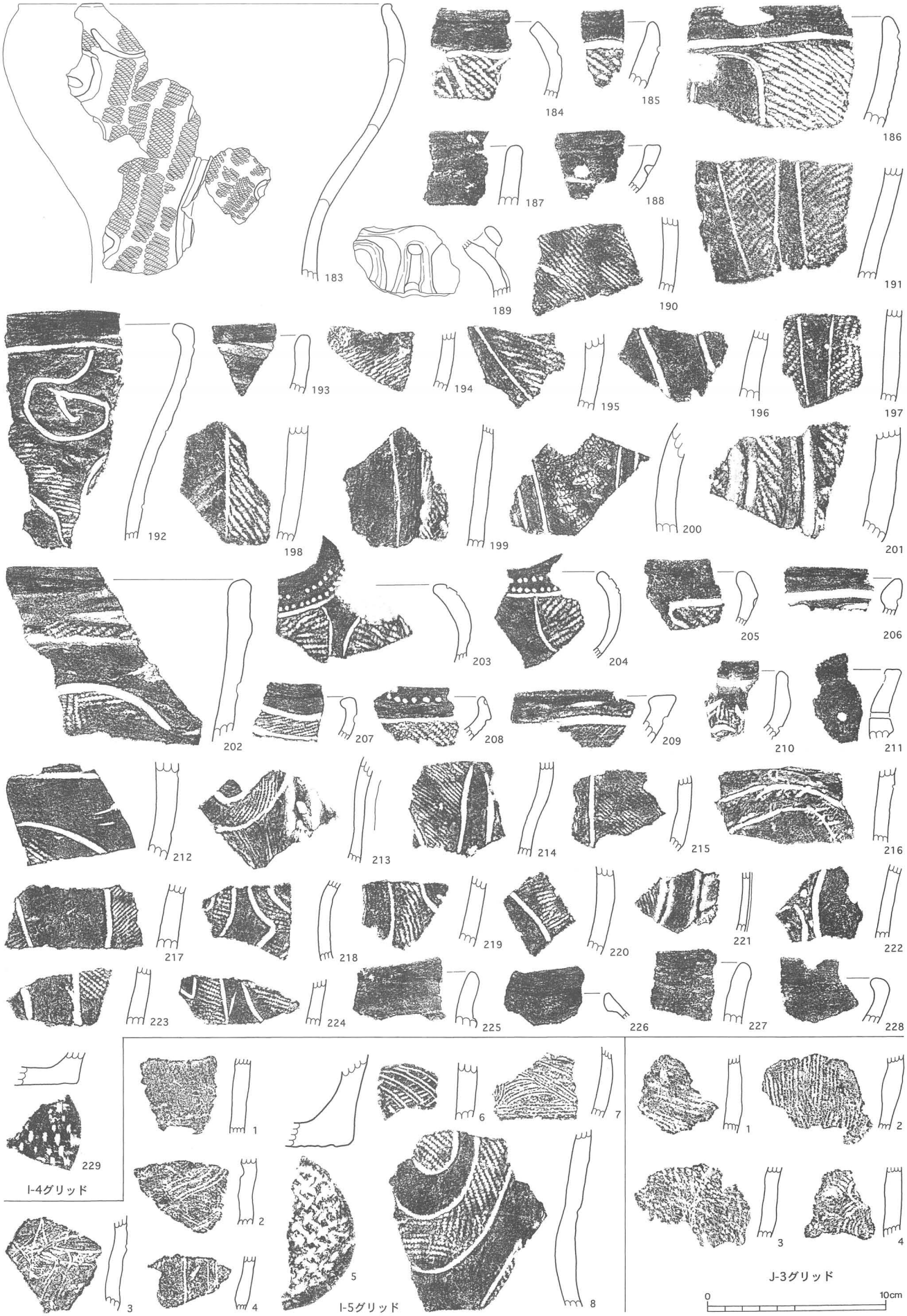


図70　遺構外出土土器(16)

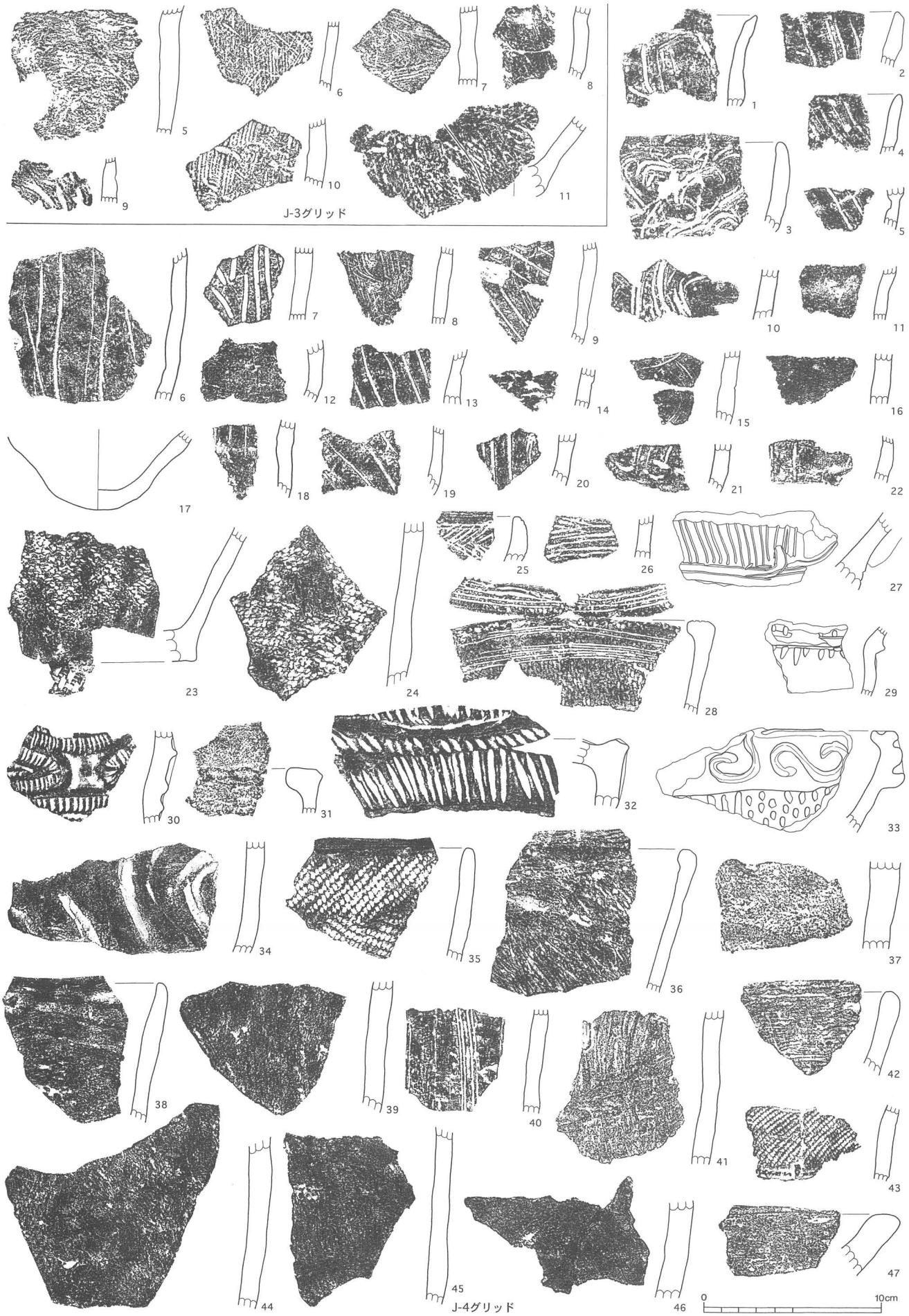


図71　遺構外出土土器(17)

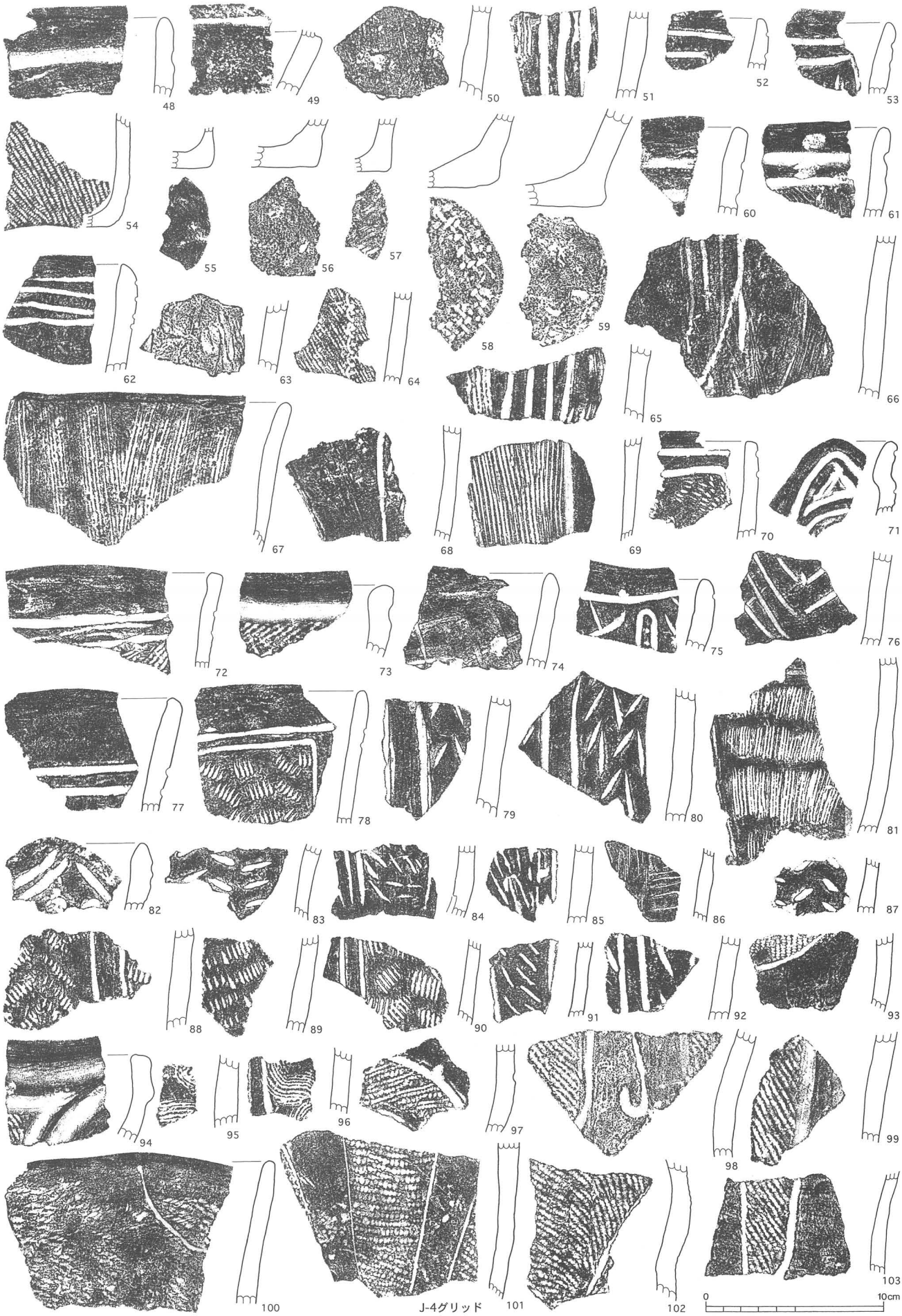


図72　遺構外出土土器(18)

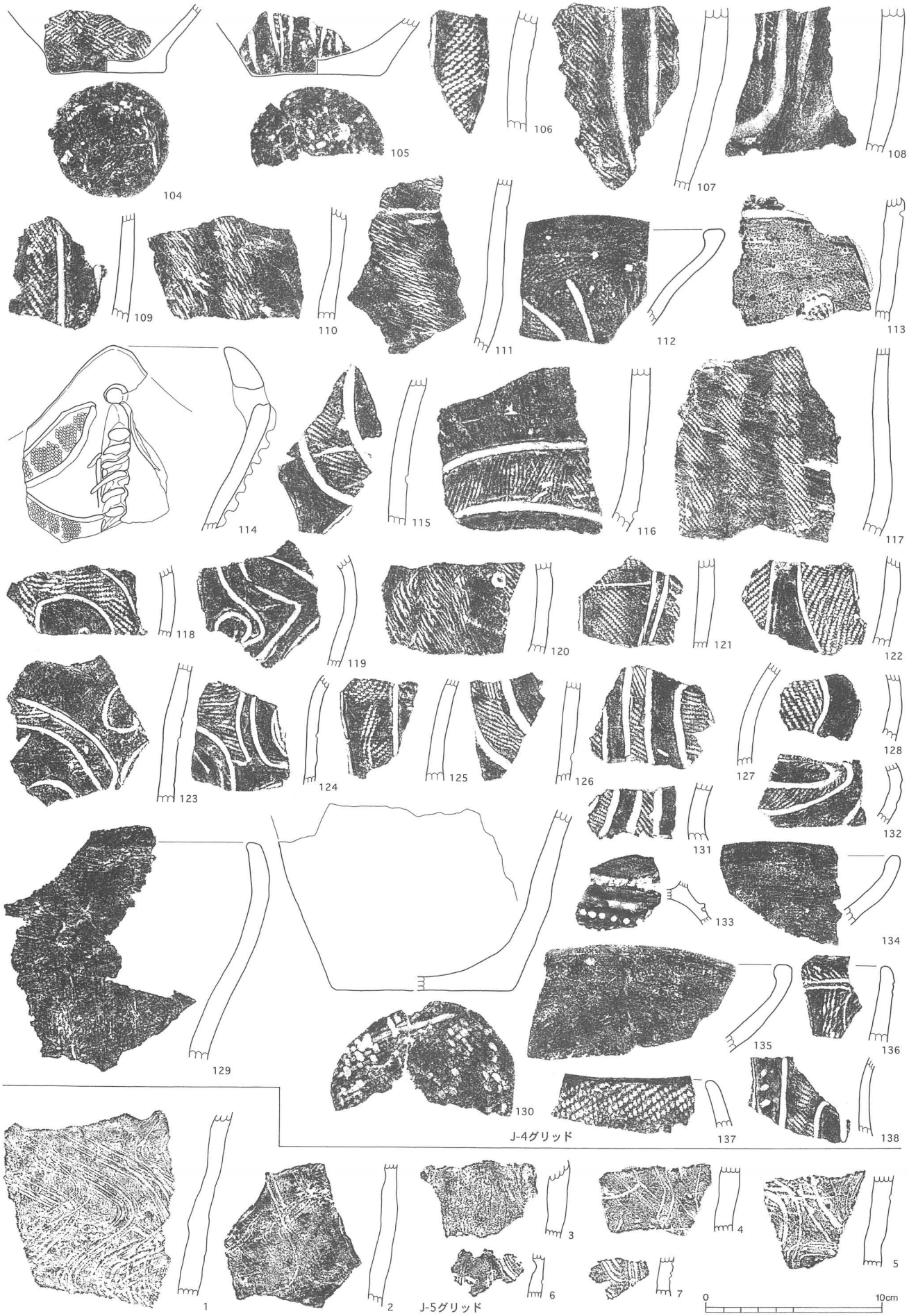


図73　遺構外出土土器(19)

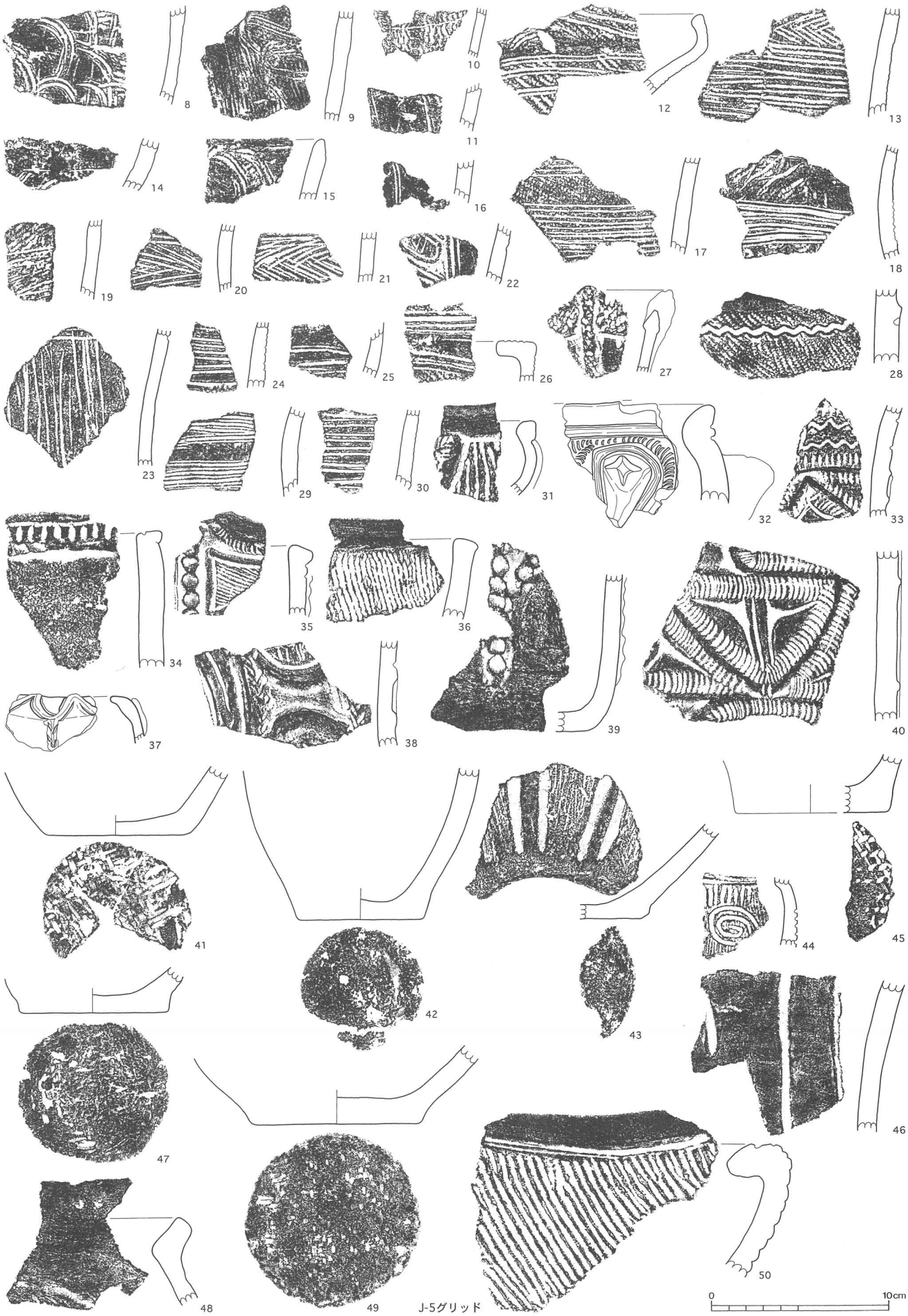


図74　遺構外出土土器⑳

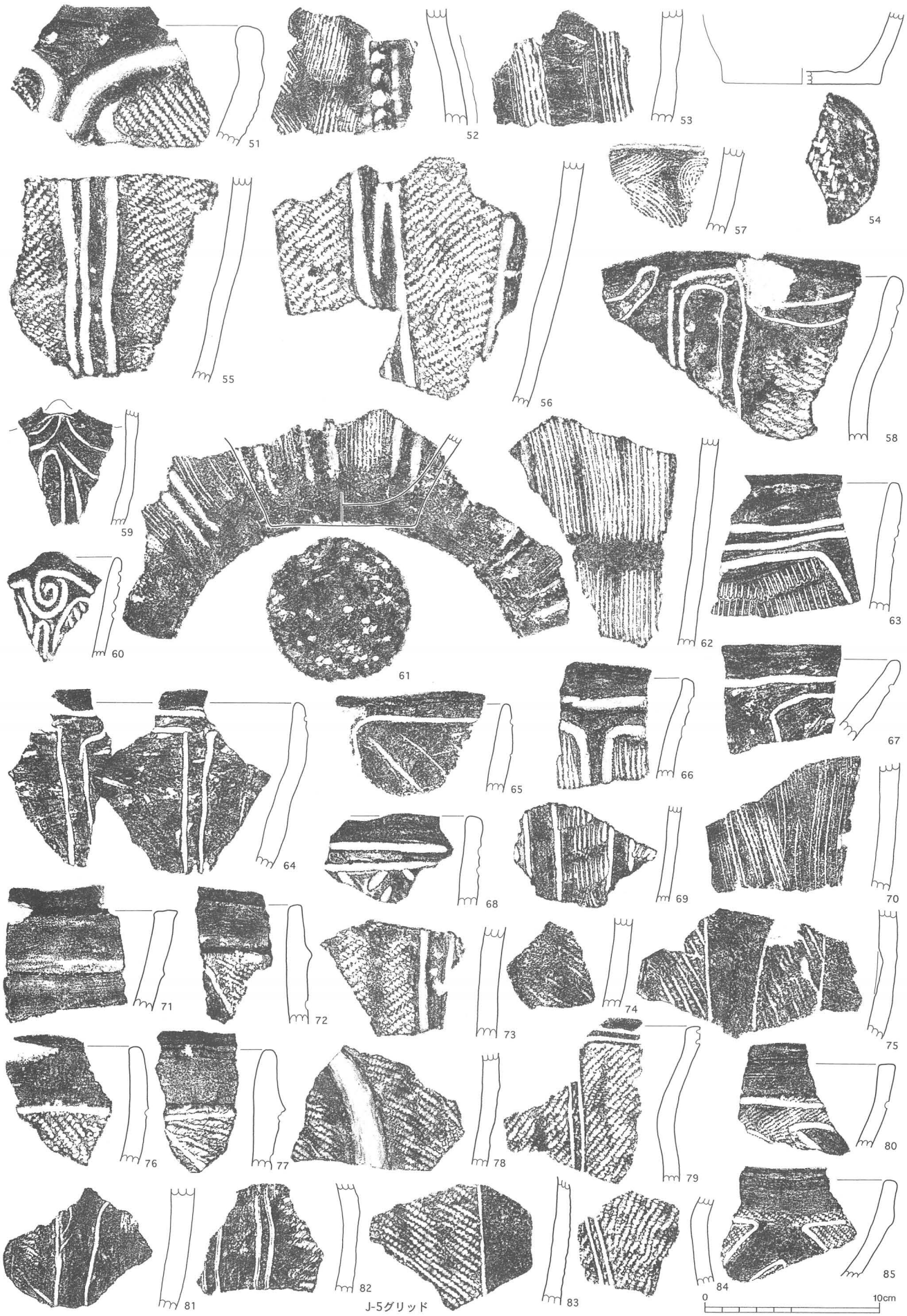


図75　遺構外出土土器(21)

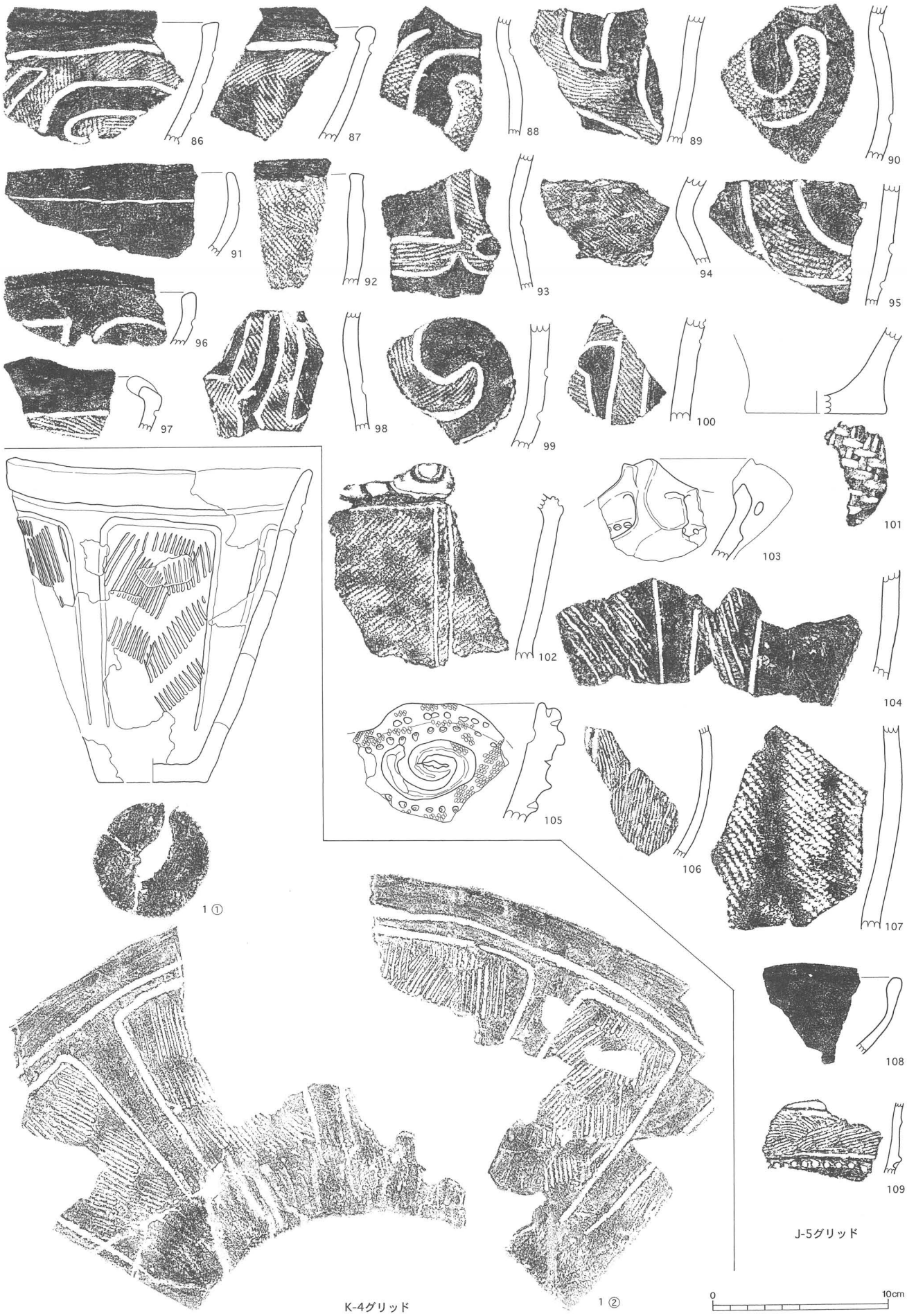


図76　遺構外出土土器(22)

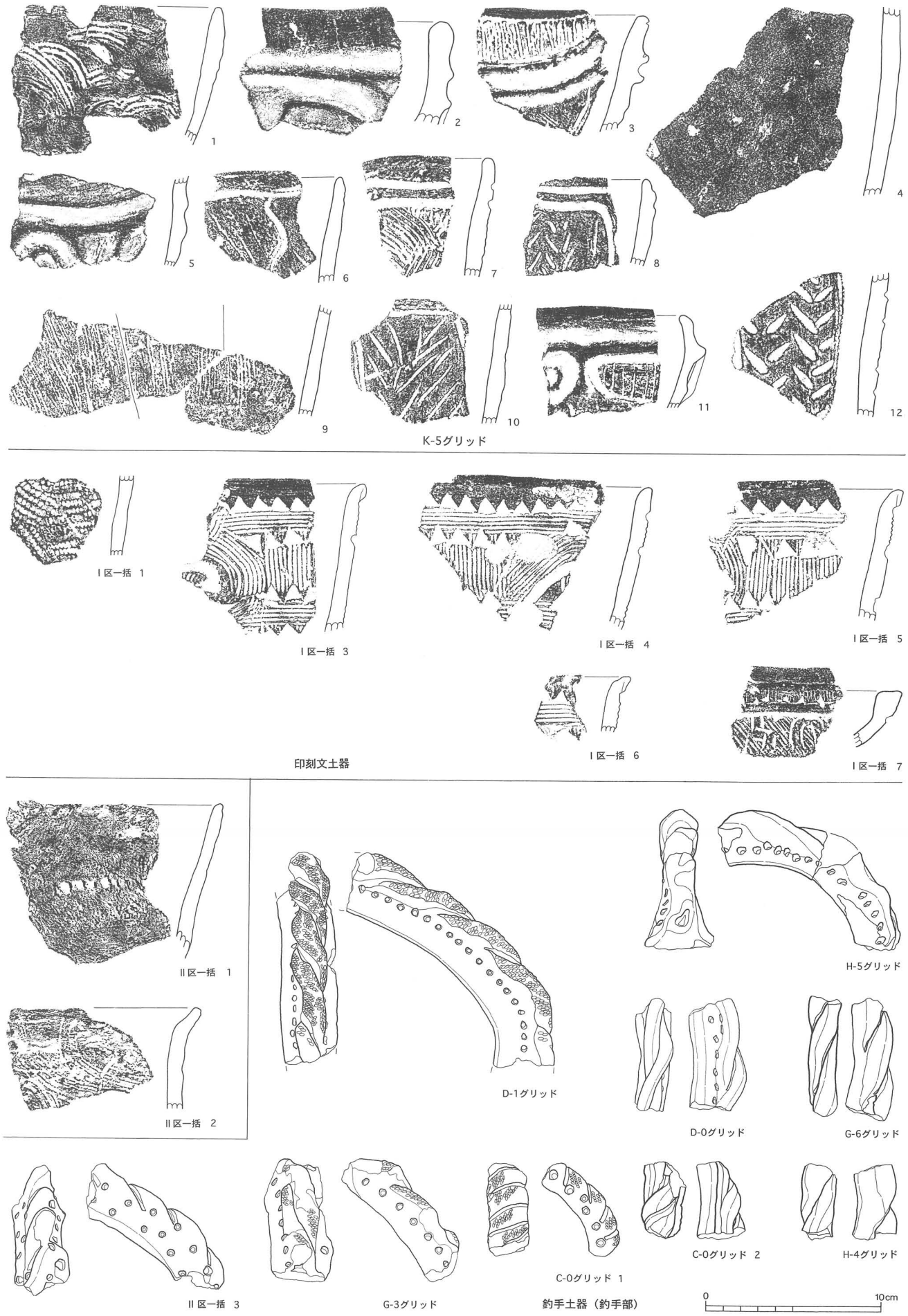


図77　遺構外出土土器(23)

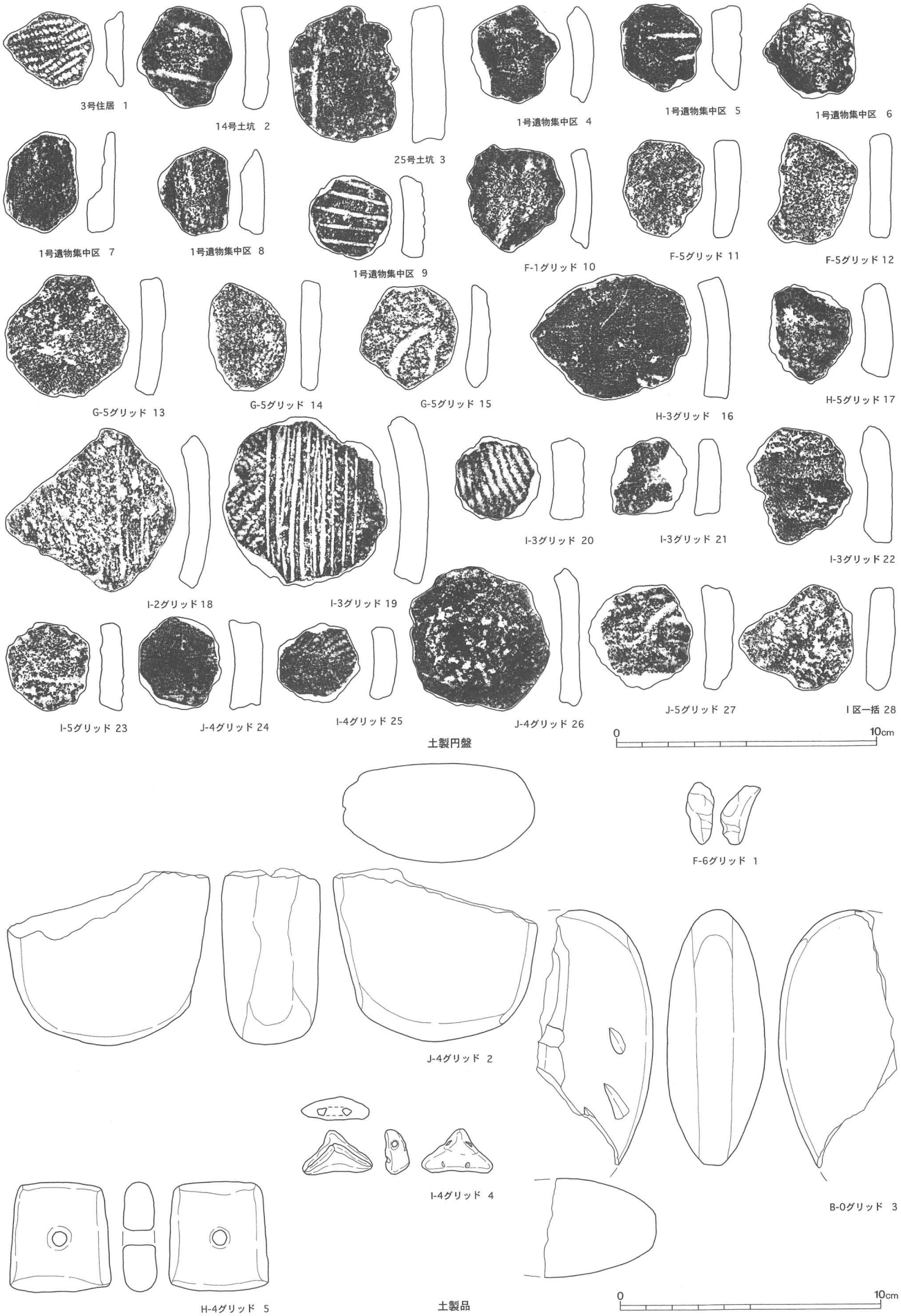


図78　土製円盤、土製品、石製品

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
0
5cm

図79　出土石器(1)

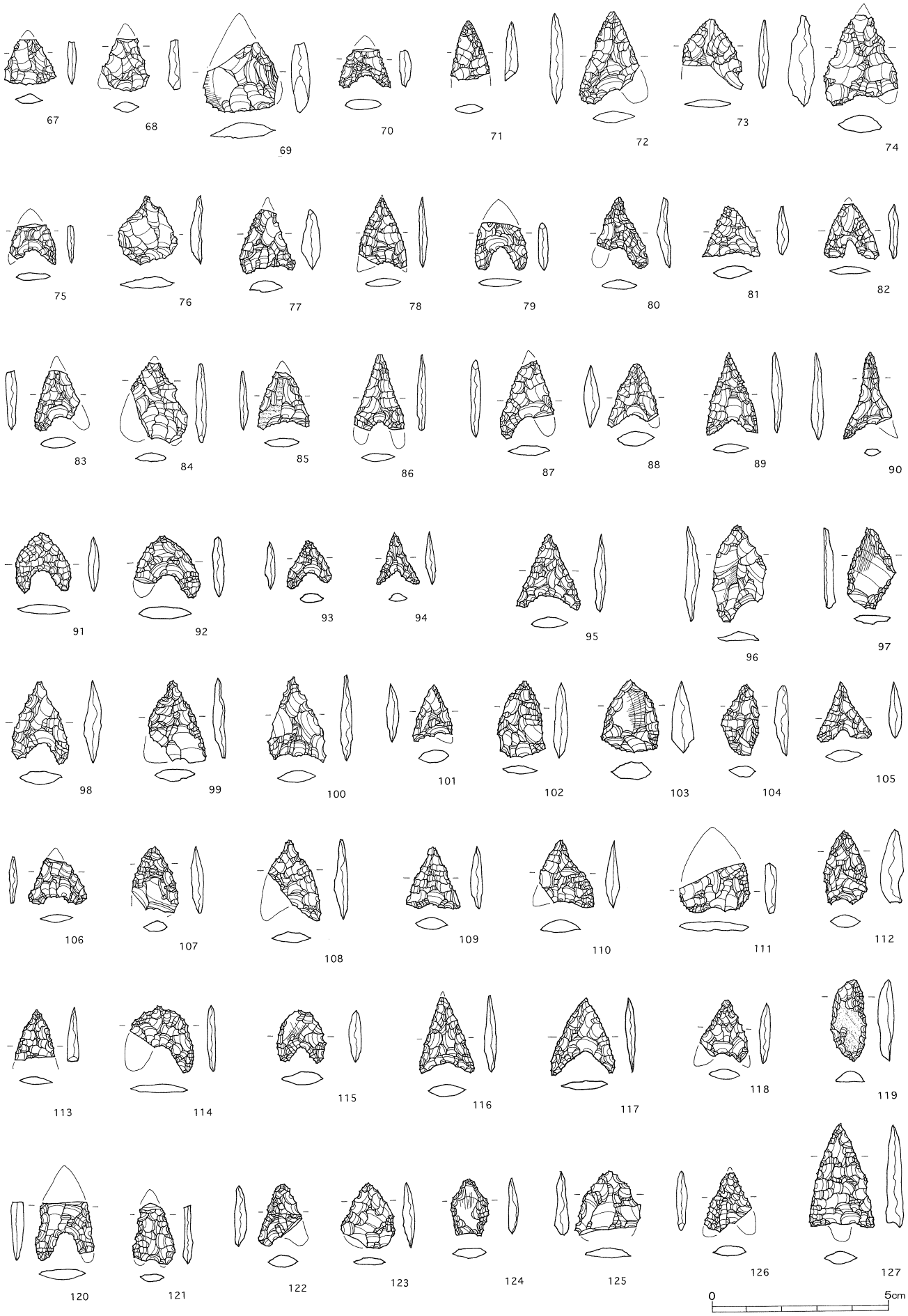

67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
0
5cm

図80　出土石器(2)

128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
0
5cm

図81　出土石器(3)

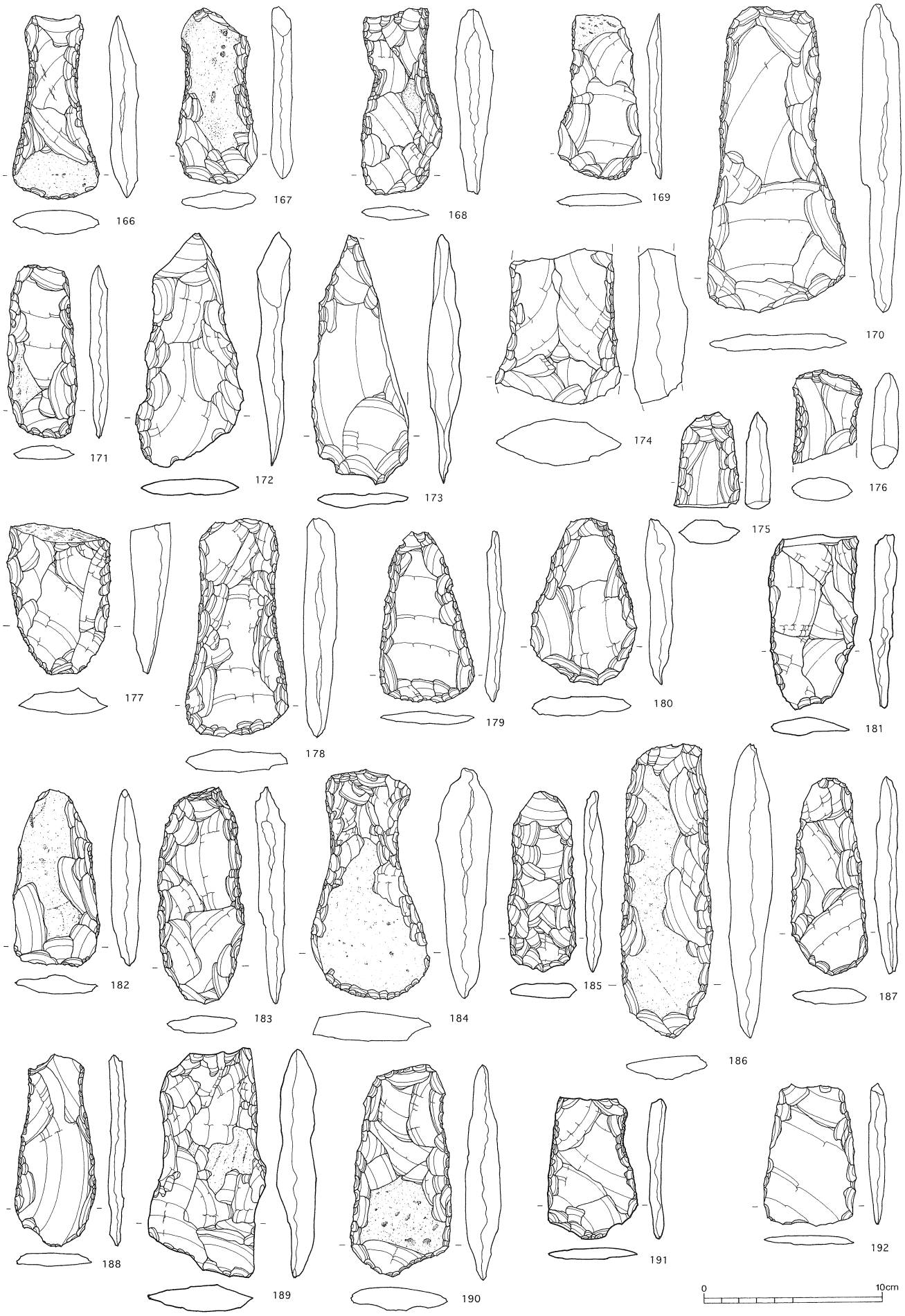

166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
0
10cm

図82　出土石器(4)

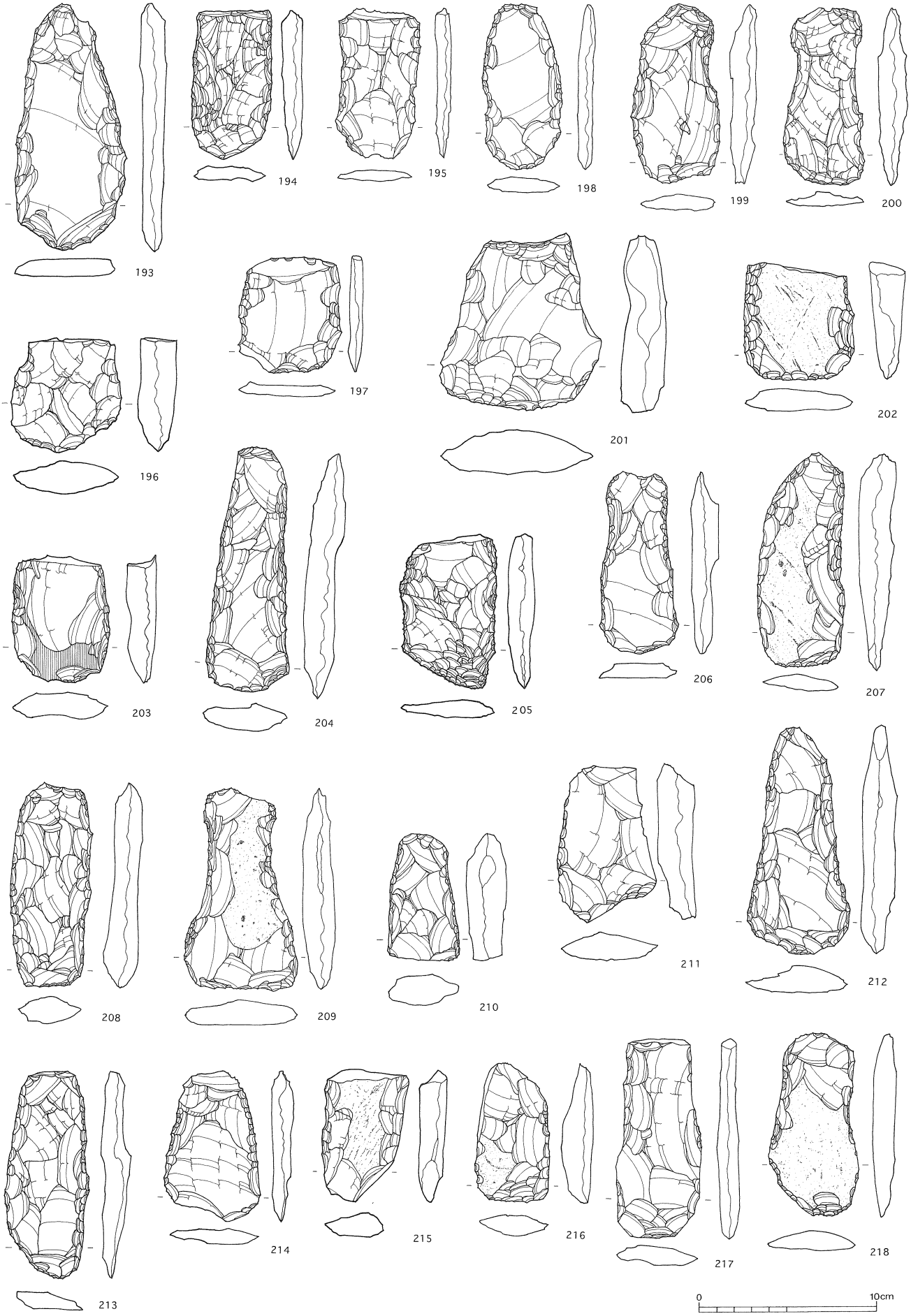

193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
0
10cm

図83　出土石器(5)

219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
0
10cm

図84　出土石器(6)

図85　出土石器(7)

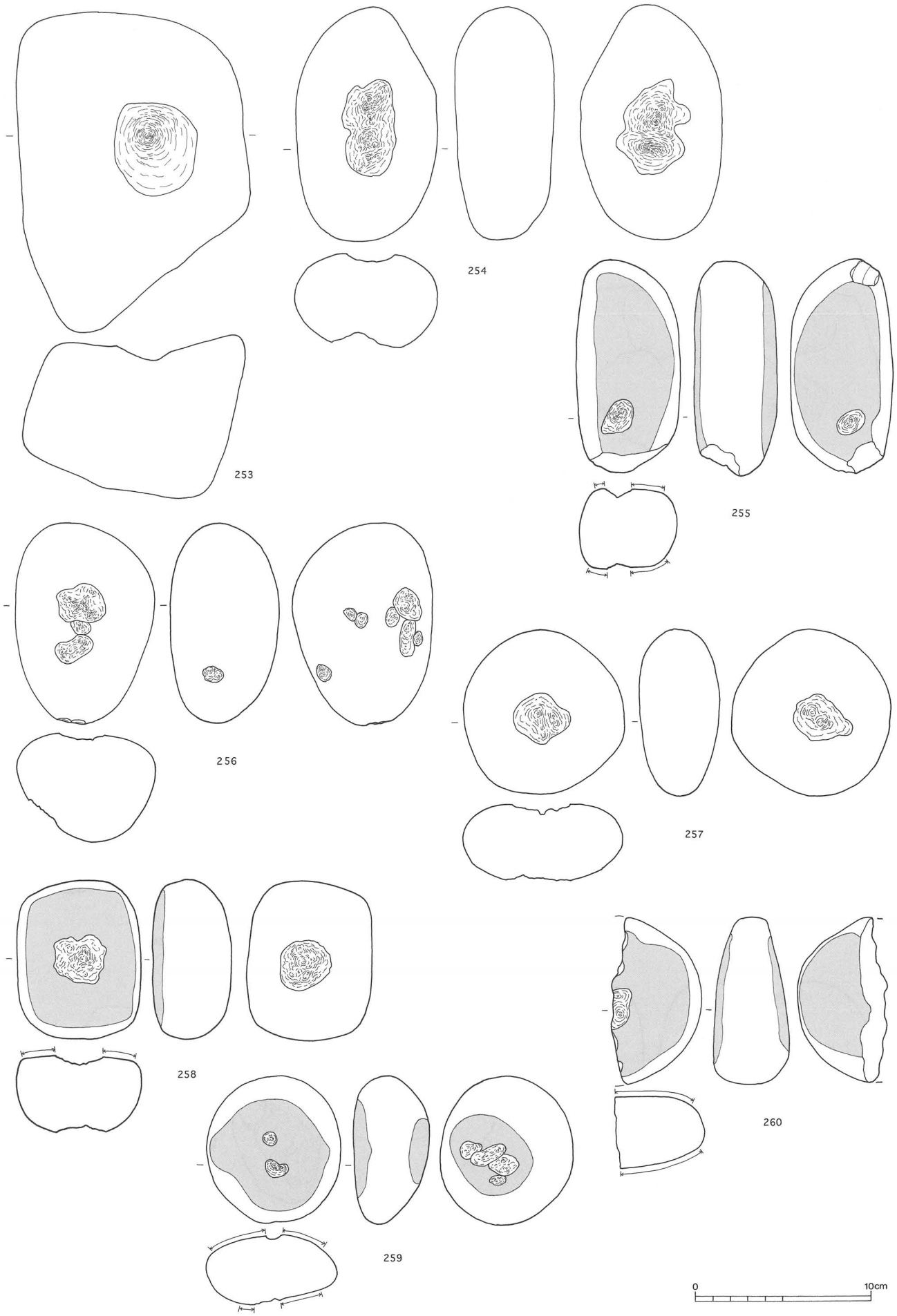


図86　出土石器(8)

図87　出土石器(9)

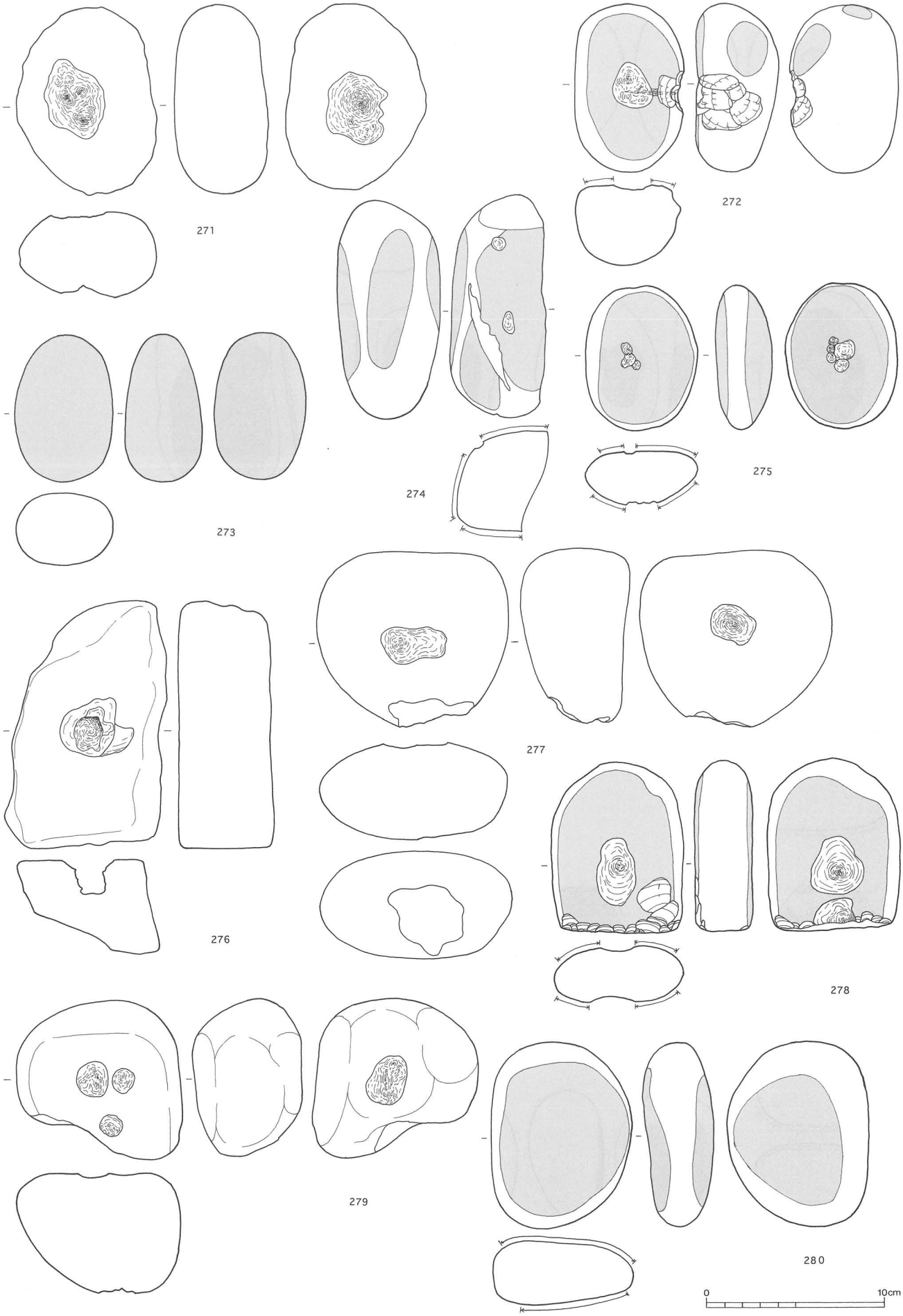


図88　出土石器(10)

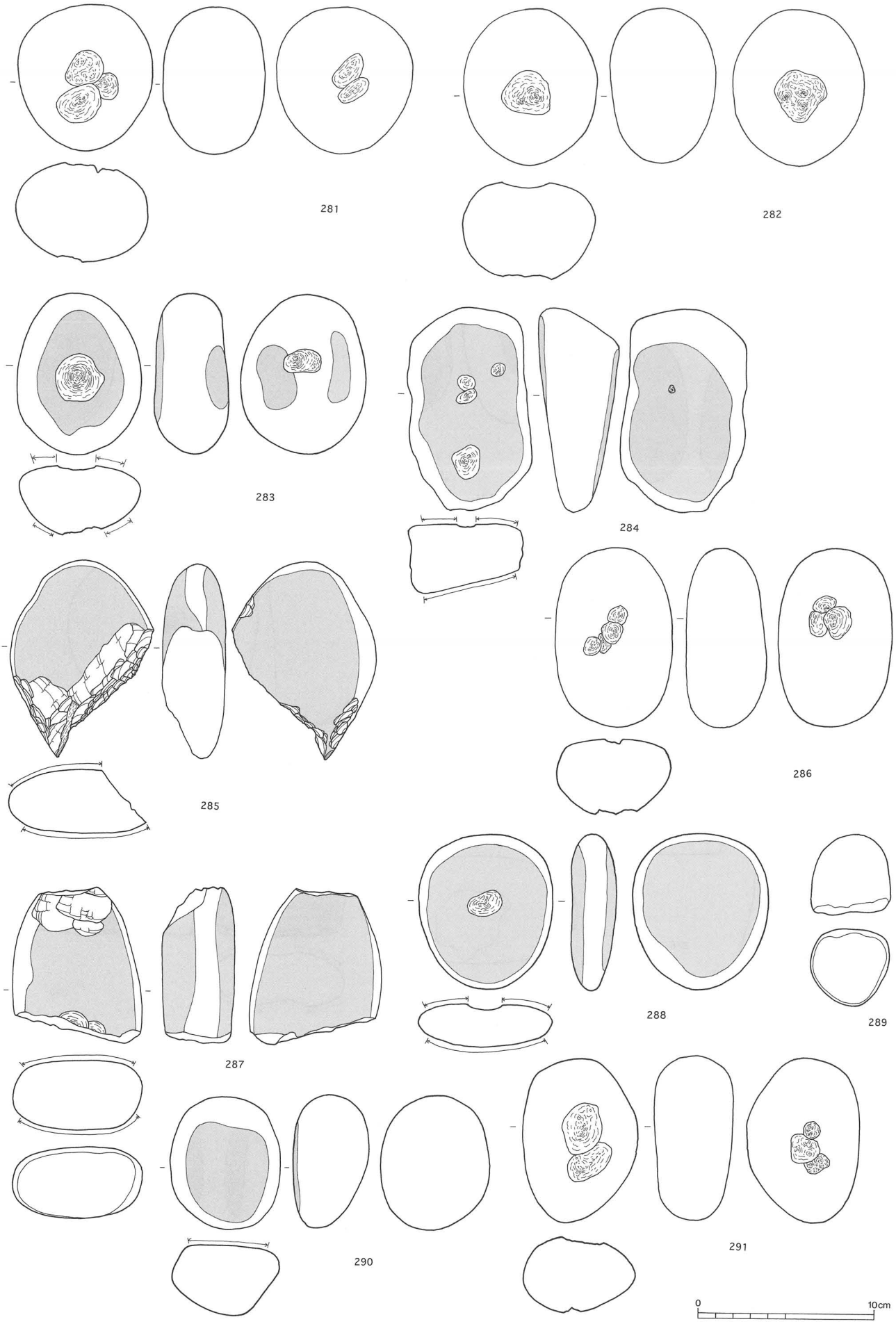


図89　出土石器(11)

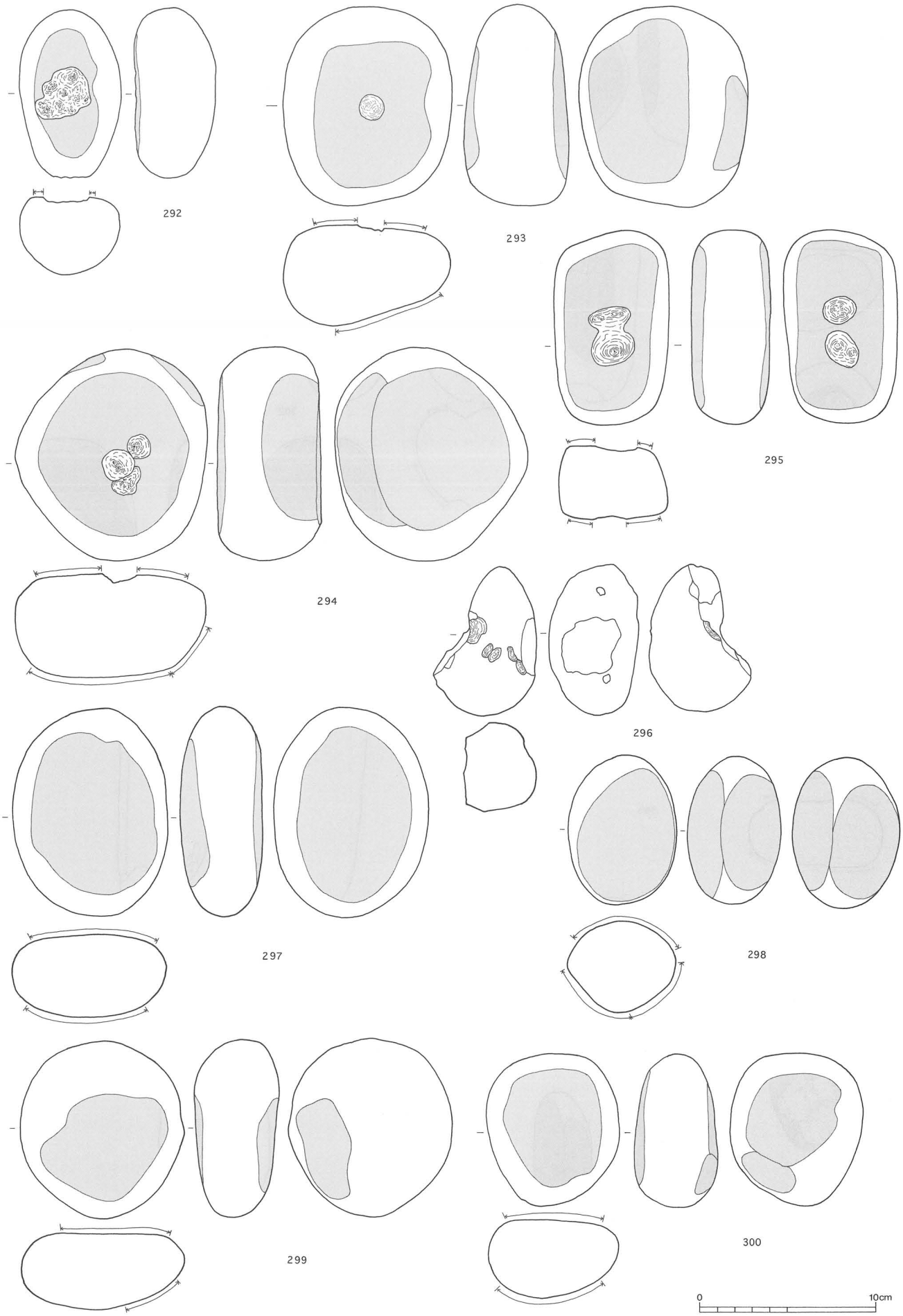


図90　出土石器(12)

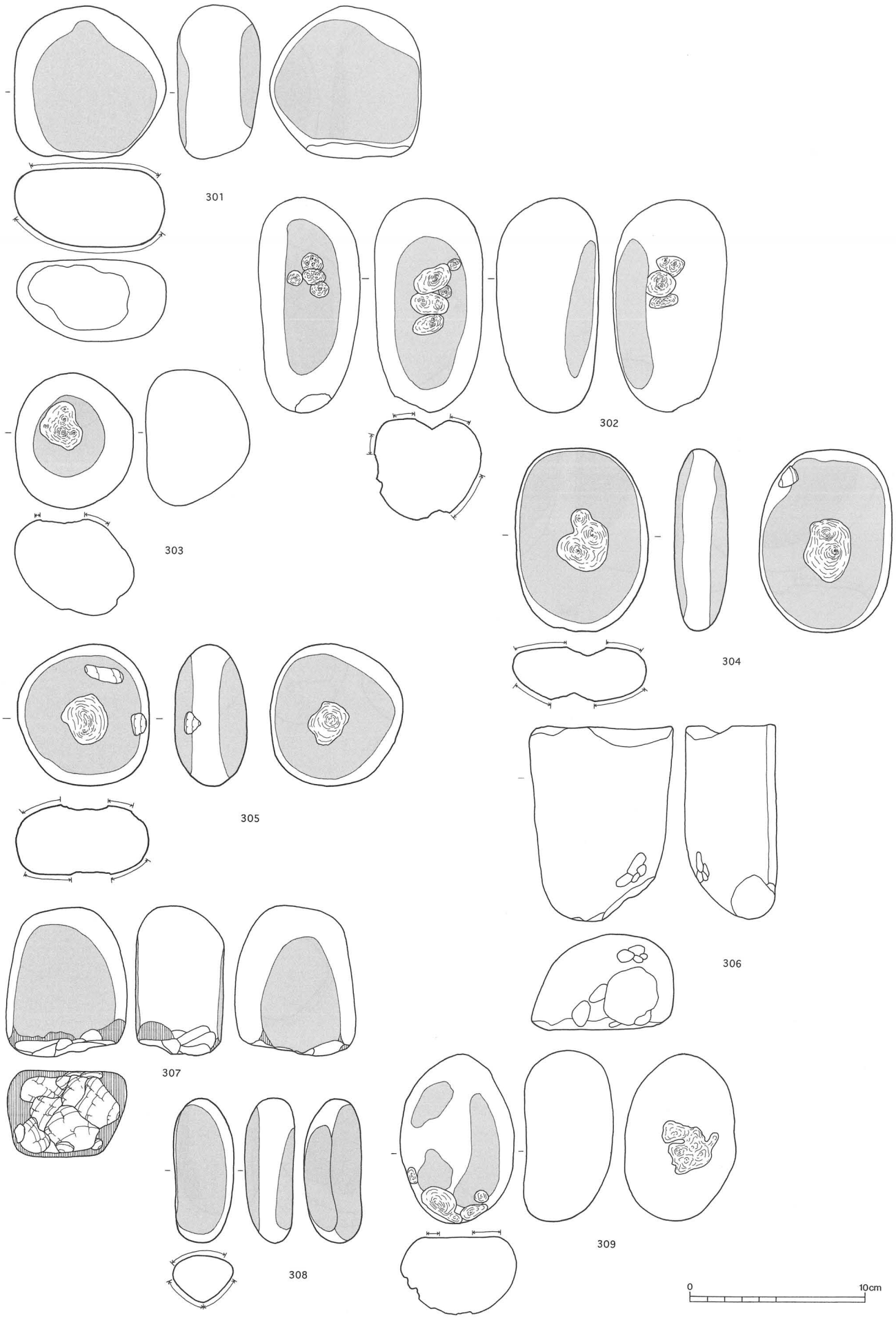


図91　出土石器(13)

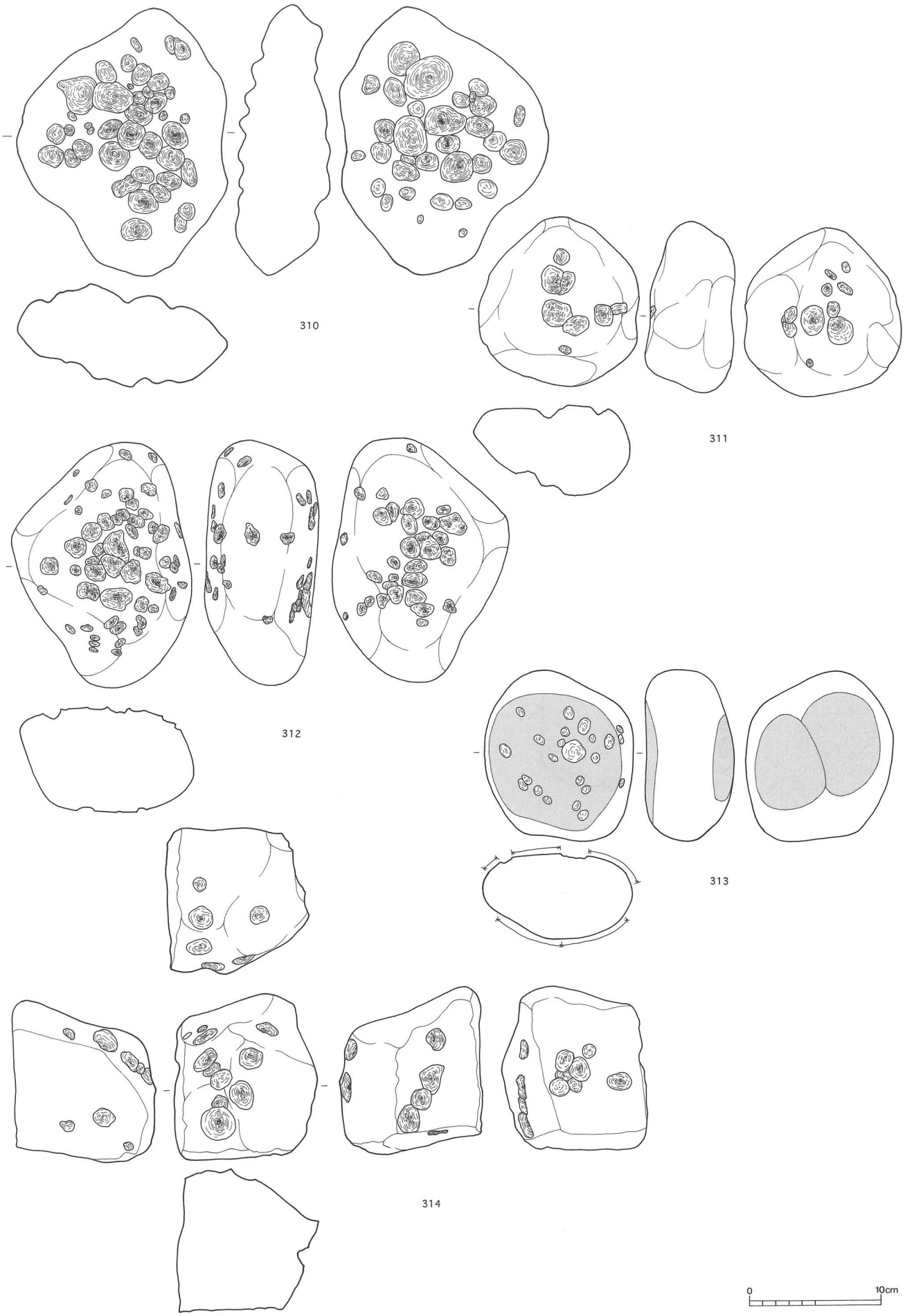


図92　出土石器(14)

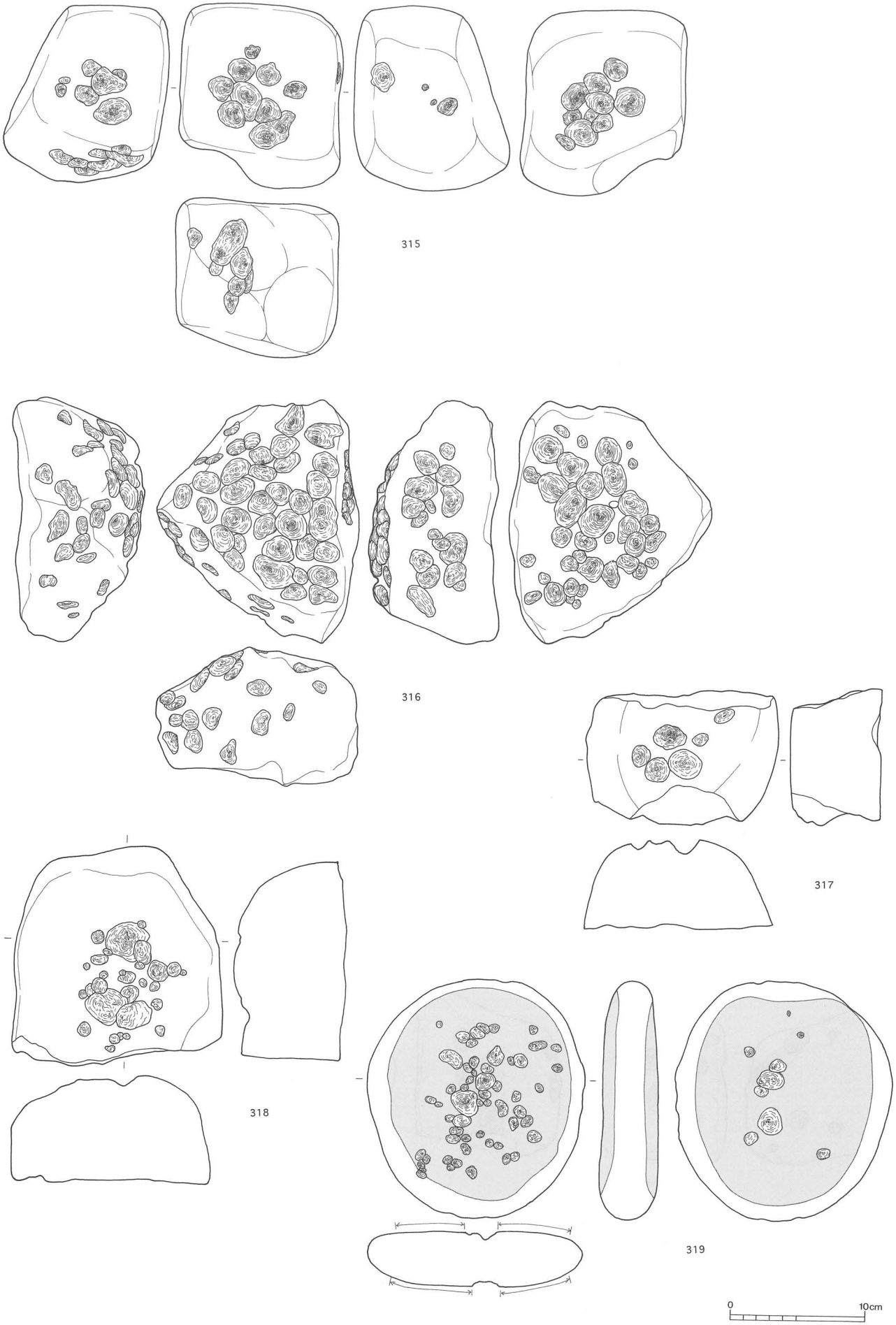
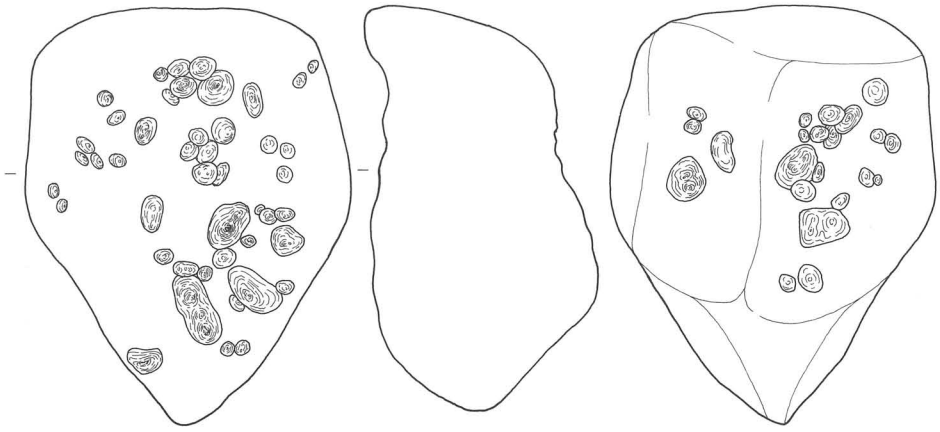
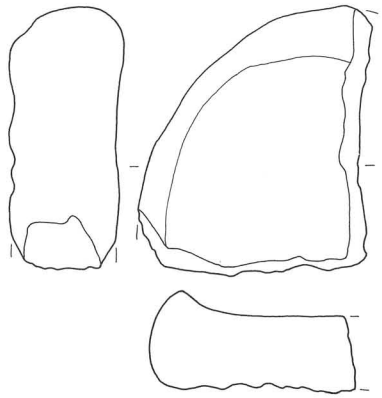


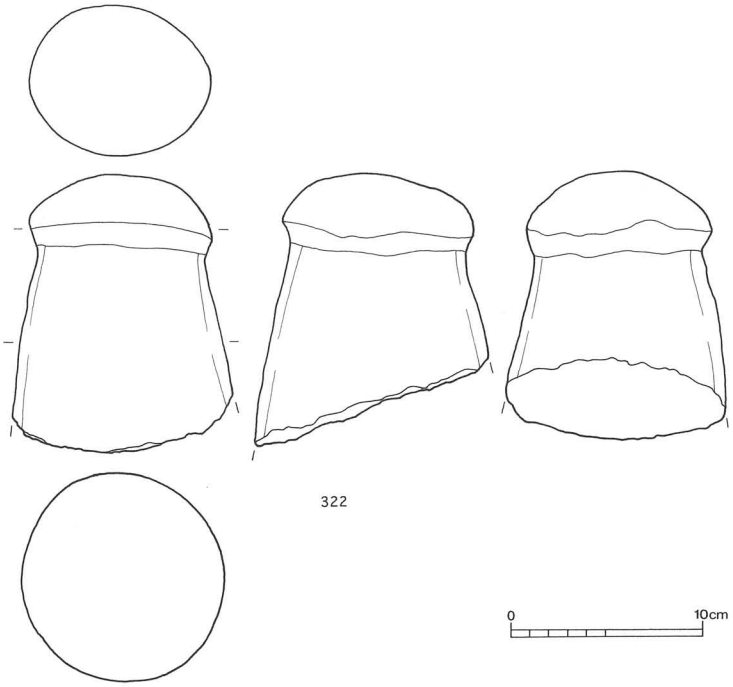
図93　出土石器(15)



320

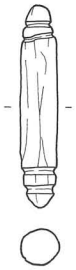


321

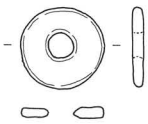


322

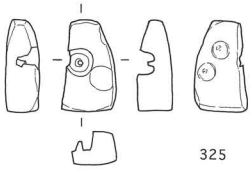
0 10cm



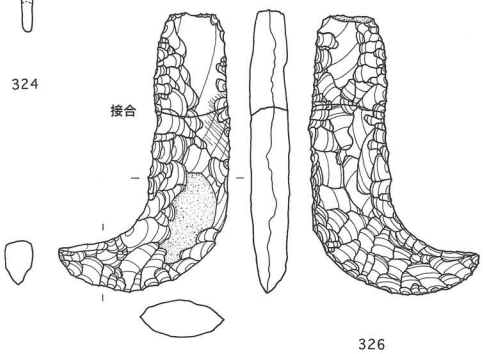
323



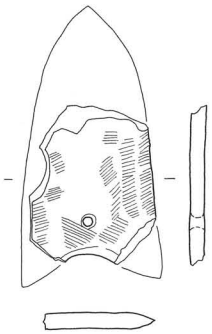
324



325



326



327

0 5cm

図94　出土石器(16)

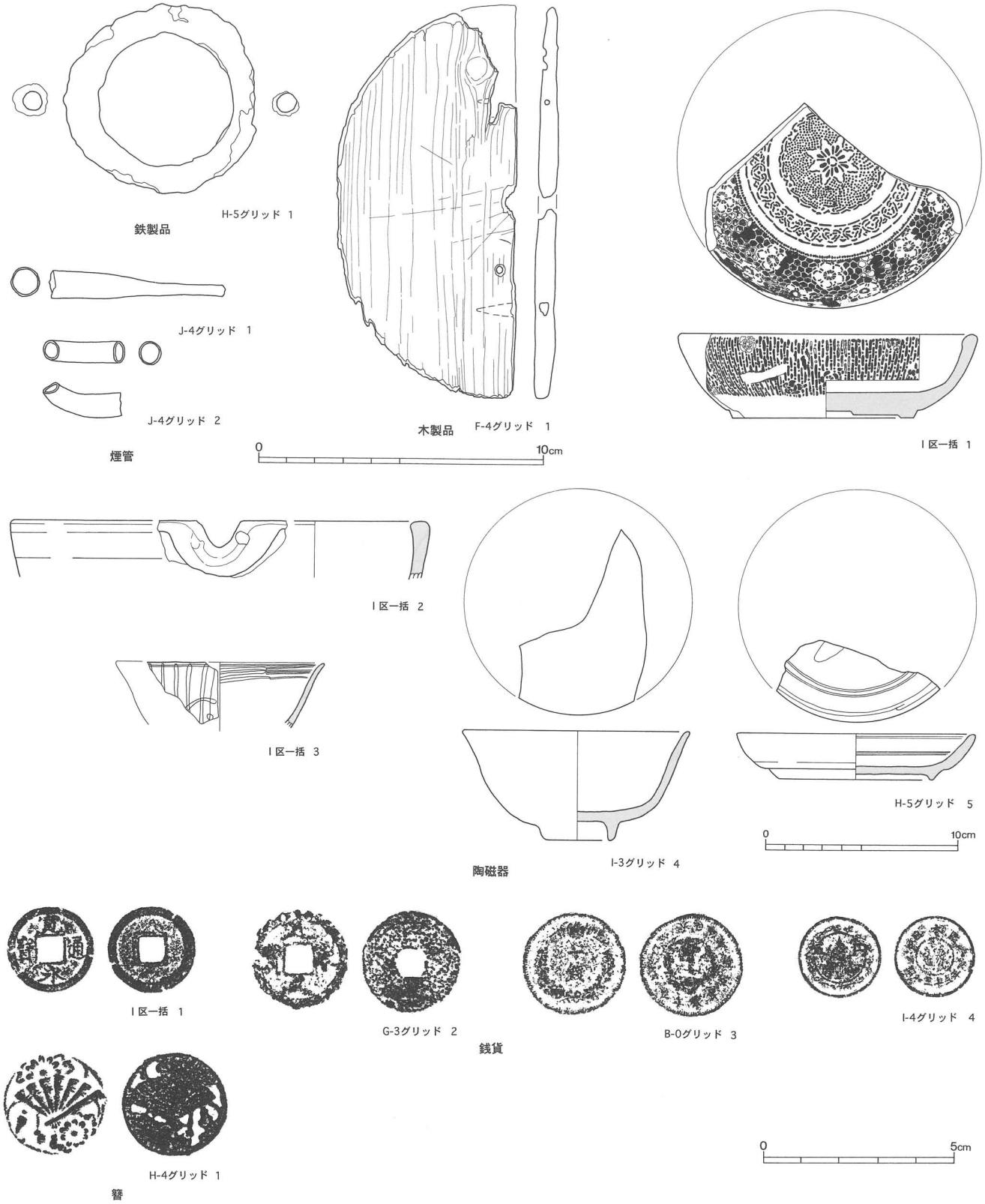


図95　鉄製品、煙管、木製品、磁器、陶器、銭貨、簪

縄文時代全出土器片

10000g以下
10001～20000g
20001～30000g
30001～40000g
40001g以上

早期～前期前葉

100g以下
101～300g
301～600g
601～900g
901g以上

前期後葉

100g以下
101～300g
301～600g
601～900g
901以上

中期前葉

100g以下
101～1000g
1001～2000g
2001～3000g
3001g以上

中期中葉

100g以下
101～1000g
1001～2000g
2001～3000g
3001g以上

K3 K4 K5
J2 J3 J4 J5
I2 I3 I4 I5
H2 H3 H4 H5
G1 G2 G3 G4 G5 G6
F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7
E0 E1 E2 E3 E4 E5 E6 E7 E8
D0 D1 D2 D3 D4 D5 D7 D8 D9
C0 C1 C2 C3 C4
B0 B1 B2
A0 A1

図96　時期別土器分布(1)

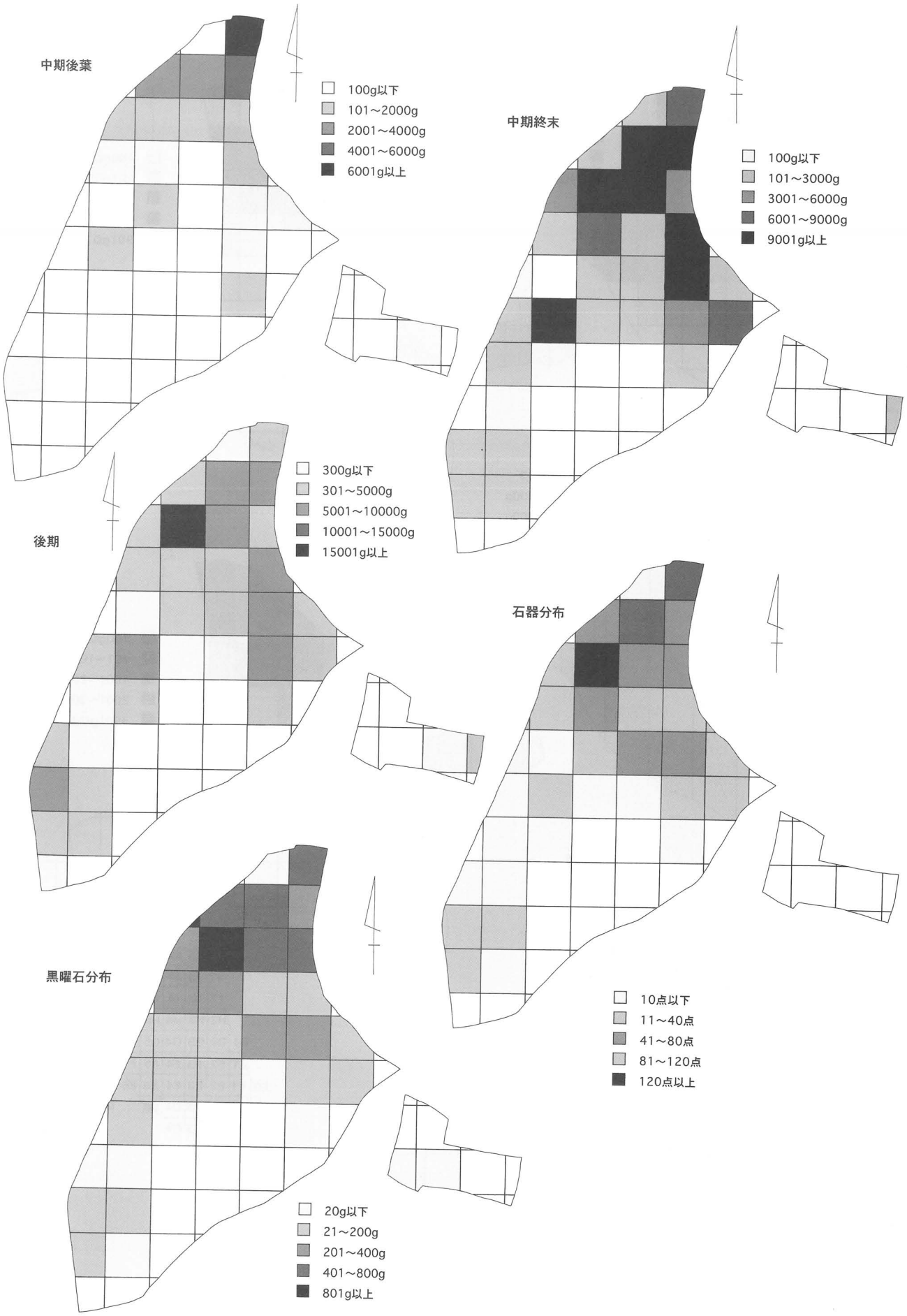


図97　時期別土器分布(2)

表２　竪穴住居跡一覧表

遺構名	時　期	形態	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)	柱　穴	炉	備　考
１号住居跡	曽利Ⅱ式期	円形	N－55°－W	3.30	3.07	0.18	7.56	pit1,2,3,4,5,6,7,8,9	石囲炉、方形、0.74×0.68	
２号住居跡	曽利Ⅱ式期	円形	N－52°－W	(4.44)	(3.88)	0.44	(13.40)	pit1,5,7,8	石囲炉、方形、0.70×0.68	焼失住居、炉の隅に石棒
３号住居跡	曽利Ⅱ式期	円形	N－12°－W	(6.44)	(5.78)	0.36	(28.80)	pit5,8,11,19		
４号住居跡	曽利Ⅳ式期	円形	S－63°－W	4.38	3.90	0.26	13.70	pit2,3,5,7,8,9,10	石囲炉、円形、0.66×0.63	

表３　掘立柱建物跡一覧表

遺　構　名	pit番号	位　置	形　態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備　考
１号掘立柱建物跡	1	Ⅰ－３	方形	0.97	0.82	0.60	土器６点（加曽利ＥⅣ）
	2	Ⅰ－３	円形	0.89	0.85	0.68	土器１点
	3	Ｈ－3，Ⅰ－３	楕円形	0.73	0.65	0.55	
	4	Ｈ－2，Ｈ－３	長楕円形	0.86	0.60	0.51	
	5	Ⅰ－２	楕円形	0.91	0.71	0.60	
	6	Ⅰ－２	楕円形	0.66	0.54	0.73	
２号掘立柱建物跡	1	Ⅰ－２	楕円形	0.95	0.83	0.82	
	2	Ｈ－２	方形	0.91	1.05	0.67	土器１点（加曽利ＥⅣ）
	3	Ｈ－２	円形	0.90	0.85	0.48	
	4	Ｈ－２	楕円形	0.86	0.79	0.45	

表４　土坑一覧表

番号	位置	重複	時期	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備　考
1	Ⅰ－３			円形	0.96	0.94	0.57	礫32点
2	Ｈ－3，Ｈ－4，Ⅰ－3，Ⅰ－４			円形	1.63	1.63	0.45	土器１点
3	Ｇ－３		縄文中期	楕円形	(0.72)	0.95	0.41	石器１点
7	Ｈ－２	38土		楕円形	1.00	0.69	0.27	
8	Ⅰ－２			楕円形	1.03	0.81	0.28	土器７点
13	Ⅰ－３			円形	1.02	0.78	0.52	
14	Ｆ－２		縄文中期末	円形	1.60	1.60	0.41	土器187点、石器２点、礫45点
15	Ｆ－２		縄文中期末	楕円形	1.46	1.25	0.35	土器54点、礫25点
16	Ｋ－５			楕円形	0.98	0.90	0.52	
17	Ｆ－２		縄文中期末	楕円形	1.06	0.98	0.20	土器３点
18	Ⅰ－３		縄文後期初頭	楕円形	1.07	0.61	0.35	土器49点
19	Ⅰ－３			楕円形	(1.22)	0.93	0.20	
20	Ⅰ－3，Ｊ－３			長楕円形	1.87	1.28	0.32	
21	Ⅰ－４			楕円形	0.99	0.89	0.17	土器２点
22	Ⅰ－４			楕円形	1.05	0.75	0.16	
23	Ｋ－５			円形	1.27	0.10	1.09	土器３点
24	Ｆ－5，Ｆ－６		縄文後期初頭	楕円形	1.64	1.40	0.55	土器45点
25	Ｆ－５		縄文後期初頭	楕円形	1.84	1.69	0.77	土器63点、石器４点
26	Ｊ－４			円形	0.93	0.93	0.32	
27	Ｊ－４			長楕円形	1.08	0.69	0.16	
28	Ｊ－４			円形	0.85	0.83	0.20	
29	Ｈ－５	39土		円形	0.88	0.82	0.82	土器14点
30	Ｈ－５			円形	0.85	0.84	0.67	
31	Ｈ－５			楕円形	1.10	0.90	0.47	土器２点、礫16点
32	Ｈ－５	３土		楕円形	0.96	(0.70)	0.19	礫１点
34	Ⅰ－2，Ⅰ－３			長楕円形	1.04	0.71	0.26	
37	Ｈ－５	32土		楕円形	(1.30)	0.93	0.35	礫２点
38	Ⅰ－２	７土		楕円形	1.09	0.60	0.16	
39	Ｈ－５	29・30土		楕円形	(1.00)	(0.80)	(0.19)	
40	Ｃ－０			楕円形	1.00	0.82	0.24	礫16点

表5　ピット一覧表

番号	位置	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
1	J－4	円形	0.66	0.63	0.31	
2	J－3	不整円形	0.53	0.42	0.22	
3	H－3	楕円形	0.66	0.55	0.51	
4	H－3	楕円形	0.32	(0.32)	0.11	
5	H－3	楕円形	(0.39)	(0.35)	0.22	
6	H－3	楕円形	(0.56)	0.50	0.08	土器1点
7	H－3	楕円形	0.67	0.52	0.25	
8	H－3	楕円形	(0.63)	0.55	0.18	
9	H－3	方形	0.75	0.71	0.14	
10	H－3	方形	0.68	0.53	0.23	
11	H－3	円形	0.44	0.40	0.14	
12	H－3	楕円形	(0.62)	0.52	0.14	
13	H－3	円形	0.45	0.42	0.22	
14	H－3	円形	0.40	0.38	0.17	
15	H－3	楕円形	0.53	0.48	0.21	
16	H－3	円形	0.39	0.38	0.21	
17	H－3	方形	0.49	0.41	0.25	
18	H－3	楕円形	0.70	0.62	0.15	
19	H－3	円形	0.31	0.30	0.16	
20	H－3	円形	0.42	0.38	0.22	
21	H－3	円形	0.41	0.36	0.32	
22	H－3	楕円形	0.25	0.21	0.11	
23	H－3	楕円形	0.25	0.21	0.11	
24	H－3	円形	0.38	0.38	0.21	
25	H－3	円形	0.26	0.26	0.11	
26	H－3	円形	0.36	0.35	0.15	
27	H－3	円形	0.29	0.29	0.16	
28	H－3	円形	0.30	0.28	0.12	
29	H－3	円形	0.32	0.29	0.21	
30	H－3	長楕円形	0.66	0.48	0.24	
31	H－3	円形	0.41	0.38	0.21	
32	H－3	円形	0.41	0.40	0.26	
33	H－3	円形	0.36	0.35	0.19	
34	H－3	円形	0.39	0.37	0.23	
35	H－3	円形	0.39	0.39	0.26	
36	H－3	長楕円形	0.65	0.42	0.11	
37	H－3	円形	0.39	0.38	0.13	
38	H－3	楕円形	0.61	0.54	0.19	
39	H－3	楕円形	0.63	0.45	0.12	
40	H－3	楕円形	0.43	0.33	0.12	
41	H－3	楕円形	0.43	0.36	0.14	
42	H－3	長楕円形	0.52	0.37	0.08	
43	H－3	楕円形	(0.44)	0.38	0.16	
44	H－3	楕円形	(0.45)	(0.35)	0.17	
45	H－3	長楕円形	0.47	(0.29)	0.13	
46	H－3	円形	0.39	0.35	0.28	
47	H－3	楕円形	0.31	(0.26)	0.21	
48	H－3	楕円形	(0.38)	0.33	0.12	土器1点
49	H－3	楕円形	0.45	(0.38)	0.23	
50	H－3	楕円形	(0.37)	0.26	0.17	
51	H－3	楕円形	0.35	0.27	0.19	
52	H－3	方形	0.68	0.58	0.21	
53	H－3	楕円形	0.49	0.41	0.15	
54	H－3	円形	0.49	0.49	0.11	
55	H－3	円形	0.42	0.39	0.21	
56	H－3	楕円形	0.49	0.44	0.24	
57	H－3	楕円形	0.61	0.51	0.21	
58	H－3	楕円形	(0.50)	0.42	0.21	
59	H－3	円形	(0.39)	0.39	0.22	
60	H－3	円形	0.46	0.46	0.21	
61	H－3	楕円形	(0.44)	0.37	0.20	
62	H－3	楕円形	0.42	(0.34)	0.15	
63	H－3	楕円形	(0.36)	(0.29)	0.11	
64	H－3	円形	0.38	0.38	0.17	
65	H－3	楕円形	0.54	0.46	0.12	
66	H－3	楕円形	(0.70)	0.64	0.15	
67	H－3	楕円形	(0.50)	0.46	0.19	
68	H－3	楕円形	0.69	0.57	0.18	
69	H－3	楕円形	(0.45)	(0.38)	0.13	
70	H－3	楕円形	0.42	(0.34)	0.10	
71	H－3	円形	(0.50)	0.47	0.38	
72	H－3	楕円形	0.43	0.42	0.13	
73	H－3	楕円形	0.51	0.42	0.45	
74	H－3	楕円形	0.50	(0.45)	0.21	
75	H－3	楕円形	(0.80)	(0.60)	0.16	
76	H－3	楕円形	(0.80)	(0.59)	0.16	
77	H－3	楕円形	(0.60)	0.49	0.19	
78	H－3	方形	0.44	(0.32)	0.14	
79	H－3	不整円形	(0.58)	0.48	0.18	
80	H－3	円形	0.36	0.36	0.14	
81	H－3	不整円形	0.61	0.60	0.18	
82	H－3	楕円形	0.57	0.48	0.20	
83	G－3	楕円形	0.57	0.51	0.24	
84	G－3	円形	0.64	0.64	0.30	
85	G－3	不整円形	0.52	0.43	0.30	
86	G－3	不整楕円形	0.75	0.53	0.39	土器3点
87	G－3	楕円形	0.40	0.34	0.29	
88	G－3	楕円形	(0.45)	0.41	0.31	
89	G－3	楕円形	(0.54)	0.41	0.23	
90	G－3	円形	0.61	0.55	0.30	
91	G－3	楕円形	0.44	0.34	0.09	
92	G－3	円形	0.49	0.43	0.15	
93	G－3	楕円形	0.40	0.32	0.19	
94	G－3	楕円形	0.37	0.33	0.21	
95	G－3	方形	0.75	0.70	0.30	
96	G－3	方形	0.51	0.41	0.07	土器2点
97	G－3	楕円形	0.48	0.38	0.06	
98	H－4	楕円形	0.50	0.40	0.43	土器1点
99	G－4	円形	0.42	0.40	0.38	
100	G－4	楕円形	0.55	0.47	0.34	
101	G－4	円形	0.59	0.55	0.39	
102	H－2	円形	0.60	0.53	0.24	
103	H－2	円形	0.54	0.48	0.24	
104	G－3	楕円形	(0.81)	0.68	0.33	
105	G－3	楕円形	(0.71)	0.53	0.31	
106	H－3	円形	0.38	0.38	0.17	
107	H－2	円形	0.40	0.38	0.13	
108	H－2	円形	0.35	0.30	0.24	
109	H－2	円形	0.56	0.53	0.07	
110	G－3	楕円形	0.50	0.45	0.31	
111	G－3	円形	0.53	0.45	0.27	
112	I－2	円形	0.43	0.42	0.25	土器1点
113	I－2	楕円形	0.50	0.45	0.25	土器3点
114	H－2	楕円形	0.71	0.68	0.19	
115	I－2	長楕円形	0.71	(0.48)	0.28	土器1点
116	I－2	長楕円形	(0.65)	(0.35)	0.20	
117	I－2	円形	0.63	0.62	0.19	
118	I－2	楕円形	0.58	0.54	0.20	
119	I－2	楕円形	0.76	0.69	0.16	
120	I－2	不整円形	0.64	0.58	0.24	
121	I－2	楕円形	0.55	0.44	0.26	
122	I－2	円形	0.78	(0.77)	0.15	
123	I－2	楕円形	0.48	0.40	0.14	
124	I－2	円形	0.48	0.43	0.12	
125	I－2	楕円形	0.44	0.39	0.10	
126	I－2	方形	0.64	0.47	0.14	
127	I－2	方形	0.94	0.81	0.14	土器2点
128	I－2	円形	0.52	0.46	0.10	
129	I－2	円形	0.57	0.54	0.11	土器1点
130	I－2	不整円形	0.62	0.59	0.27	
131	I－3	円形	0.85	0.84	0.11	
132	I－2	円形	0.33	0.30	0.11	
133	I－2	楕円形	0.55	0.49	0.09	
134	I－3	円形	0.43	0.42	0.09	
135	I－3	円形	0.51	0.51	0.14	
136	J－3	円形	0.66	0.60	0.15	
137	I－3	円形	0.51	0.51	0.27	
138	I－3	円形	0.40	0.39	0.17	土器1点
139	I－3	円形	0.35	0.35	0.14	
140	I－3	円形	0.36	0.36	0.13	
141	I－3	円形	0.77	0.72	0.15	
142	I－3	円形	0.56	0.54	0.30	
143	I－3	円形	0.43	0.42	0.30	
144	I－2	楕円形	0.57	0.50	0.16	
145	G－4	円形	0.55	0.53	0.37	
146	G－4	円形	0.62	0.60	0.34	
147	G－5	円形	0.39	0.39	0.29	
148	G－5	不整円形	0.43	0.41	0.34	
149	G－5	円形	0.39	0.38	0.62	土器3点
150	I－3	楕円形	0.62	0.55	0.18	
151	I－3	楕円形	0.61	0.52	0.20	
152	I－3	楕円形	0.51	0.40	0.14	
153	I－3	楕円形	0.55	0.50	0.44	
154	I－3	楕円形	0.54	0.47	0.65	
155	I－4	楕円形	0.57	0.51	0.19	
156	I－4	楕円形	0.61	0.54	0.30	
157	I－4	楕円形	0.51	0.44	0.30	
158	I－4	楕円形	0.49	0.38	0.25	
159	I－4	楕円形	0.58	0.50	0.50	
160	I－4	楕円形	(0.75)	0.63	0.29	
161	I－4	長楕円形	0.69	0.48	0.21	
162	I－4	楕円形	0.60	0.49	0.40	
163	I－3	楕円形	0.52	0.42	0.22	
164	H－5	円形	0.54	0.51	0.26	土器6点
165	H－5	楕円形	(0.72)	0.52	0.40	土器2点
166	H－5	楕円形	(0.55)	(0.46)	0.36	
167	H－5	円形	0.61	0.61	0.14	
168	H－5	円形	0.38	0.38	0.15	
169	H－5	楕円形	0.51	0.43	0.12	
170	H－5	楕円形	0.57	0.51	0.15	
171	H－5	円形	0.36	0.34	0.12	
172	H－5	円形	0.44	0.42	0.15	
173	H－5	円形	0.73	0.73	0.30	
174	H－4	円形	0.72	0.69	0.34	
175	H－5	円形	0.28	0.27	0.14	
176	H－5	円形	0.31	0.31	0.18	
177	H－5	円形	0.42	0.37	0.12	
178	H－5	円形	0.67	0.67	0.23	
179	H－5	楕円形	0.55	0.50	0.28	
180	I－5	楕円形	(0.45)	(0.35)	0.16	
181	I－5	楕円形	0.67	0.57	0.10	
182	I－5	長楕円形	1.00	0.67	0.23	
183	I－5	楕円形	0.34	(0.27)	0.11	
184	I－5	方形	0.45	(0.39)	0.22	
185	I－5	円形	0.41	0.38	0.09	
186	I－5	楕円形	0.55	0.49	0.35	
187	I－5	円形	0.54	0.47	0.28	
188	I－5	方形	0.63	0.45	0.21	
189	I－5	方形	0.48	0.40	0.10	
190	I－5	円形	0.44	0.40	0.07	
191	H－5	楕円形	0.45	0.40	0.15	
192	H－5	円形	0.38	0.37	0.12	
193	H－5	不整方形	0.62	0.57	0.17	
194	H－5	円形	0.53	0.51	0.21	土器3点
195	H－5	楕円形	0.51	0.45	0.11	土器1点
196	H－5	楕円形	0.40	0.34	0.25	
197	H－5	楕円形	0.40	0.33	0.13	
198	I－5	楕円形	0.45	0.38	0.10	
199	H－4	不整楕円形	0.53	0.48	0.37	
200	I－4	楕円形	0.39	0.33	0.37	
201	I－2	円形	0.62	0.55	0.28	
202	I－2	円形	0.51	0.48	0.16	

表6　土器観察表

出土地点	番号	時期	器種	口径（cm）	底径（cm）	高径（cm）	色調（表／裏）	胎土
1号住居	2	縄中	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい橙	長・石・安・金雲・白色・赤色
1号住居	5	縄中後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号住居	6	縄中中	深鉢底	－	－	－	暗黄褐／暗黄褐	長・石・安・白色・赤色
2号住居	1	縄中中	深鉢胴	－	－	－	暗赤褐／暗褐	長・石・金雲・白雲・角
2号住居	4	縄中中	深鉢胴	－	－	－	暗褐／褐灰	長・石・黒雲・白色
2号住居	6	縄中後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・・金雲・白色・赤色
2号住居	7	縄中後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・黒雲・角・黒色
2号住居	8	縄中後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・黒雲・角・黒色
2号住居	14	縄中後	深鉢口	－	－	－	黒／赤褐	長・石・金雲・白色
2号住居	17	縄中中	深鉢胴～底	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・黒雲・白色・赤色
2号住居	20	縄中後	深鉢底	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・黒雲・黒色・白色
2号住居	23	縄中末	埋甕胴～底	－	8.5	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・金雲・黒雲・黒色・赤色
2号住居	25	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒／暗褐	長・石・金雲・角・白色・赤色
2号住居	26	縄中	深鉢口	－	－	－	暗褐／褐	長・石・金雲・黒雲・白色
3号住居	5	縄前末	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい黄橙	長・石・安・金雲・赤色
3号住居	8	縄中中	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・金雲
3号住居	9	縄中中	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・金雲・角
3号住居	11	縄中中	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・白色
3号住居	13	縄中中	深鉢胴	－	－	－	暗褐／褐	長・石・白色・赤色
3号住居	19	縄中中	深鉢胴～底	－	10.0	－	赤褐／黒褐	長・石・安・角・黒色・赤色
3号住居	22	縄中後	深鉢口～底	(22.6)	8.0	28.9	褐灰／褐灰	長・石・金雲・黒色・赤色
3号住居	39	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒／褐	長・石・黒雲・黒色・白色・赤色
3号住居	42	縄中後	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
3号住居	43	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／褐	長・石・金雲・黒雲・黒色・白色
3号住居	44	縄中末	深鉢口、把手	(39.0)	－	－	黒褐／赤褐	長・石・黒雲・黒色・赤色
3号住居	46	縄後	深鉢口	－	－	－	明橙／明橙	長・石・黒雲・白色
4号住居	1	縄中末	埋甕口～胴	22.3	(8.4)	(24.0)	灰黄／にぶい黄橙	長・石・金雲・黒雲・黒色・赤色
6号土坑	1	縄中末	深鉢把手	－	－	－	黒／黒	長・石・安・角・白色
8号土坑	1	縄中末	深鉢口～胴	(31.4)	－	－	暗褐／褐	長・石・安・角・白色・赤色
8号土坑	3	縄中末	深鉢口～胴	(14.0)	－	－	黒／褐	長・石・安・金雲・角・白色
10号土坑	3	縄前末	深鉢胴	－	－	－	黒／褐	長・石・金雲・白色
10号土坑	4	縄中末	深鉢胴	－	－	－	黄褐／褐	長・石・安・角・白色
10号土坑	6	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／褐	長・石・安・角・赤色
12号土坑	1	縄中初	深鉢胴	－	－	－	暗褐／褐	長・石・金雲・白色
13号土坑	1	縄中初	深鉢胴	－	－	－	暗褐／赤褐	長・石・安・角・白色
13号土坑	2	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／褐灰	長・石・安・角・白色・赤色
14号土坑	1	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／暗褐	長・石・安・角
14号土坑	2	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
14号土坑	3	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・金雲・黒色
14号土坑	6	縄中末	深鉢口～胴	(30.0)	－	－	褐灰／褐	長・石・金雲・赤色
14号土坑	9	縄中末	台付深鉢胴～底	－	9.8	－	にぶい橙／灰褐	長・石・金雲・黒雲・赤色
14号土坑	10	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／灰	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
14号土坑	11	縄中末	深鉢口～胴	(26.6)	9.6	43.9	明赤褐／明赤褐	長・石・黒雲・黒色・赤色
14号土坑	12	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／にぶい黄橙	長・石・安・角・黒色・赤色
14号土坑	13	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／灰白	長・石・安・角・黒色・赤色
14号土坑	15	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒／黒	長・石・安・角・白色・赤色
14号土坑	16	縄中末	深鉢口	－	－	－	灰／灰	長・石・安・角・白色
14号土坑	26	縄中後	深鉢口	(32.0)	－	－	暗橙／にぶい橙	長・石・安・角・白色
14号土坑	27	縄中後	深鉢底	－	5.0	－	褐／褐	長・石・安・角・金雲・黒色
14号土坑	28	縄中後	深鉢口	(24.8)	－	－	暗橙／暗黄褐	長・石・安・角
14号土坑	30	縄中後	深鉢口	(40.0)	－	－	暗橙／暗橙	長・石・安・角・白色
14号土坑	32	縄不明	深鉢底	－	(8.0)	－	にぶい橙／灰白	長・石・安・角・白色・赤色
14号土坑	37	縄後	深鉢口～胴	－	－	－	暗褐／黄褐	長・石・安・角・白色
14号土坑	38	縄不明	深鉢底	－	8.5	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・安・角・赤色
14号土坑	39	縄不明	深鉢底	－	6.8	－	黄褐／黄褐	長・石・安・角・白色
14号土坑	41	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・角・白色
15号土坑	7	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／明褐	長・石・黒雲・白色
15号土坑	9	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／黒褐	長・石・安・白色
15号土坑	12	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗赤／黒	長・石・安・金雲・黒雲・白色
15号土坑	13	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／灰	長・石・金雲・白雲・白色
15号土坑	14	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・黒雲・黒色・白色・赤色
18号土坑	3	縄中後	深鉢台	－	(9.3)	－	赤褐／黒	長・石・安・角・白色
18号土坑	4	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／明褐	長・石・安・角・白色
18号土坑	6	縄晩	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色
18号土坑	15	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
18号土坑	16	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／にぶい橙	長・石・安・角・白色・赤色
18号土坑	17	縄後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
18号土坑	24	縄後	深鉢胴	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
23号土坑	1	縄中後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
24号土坑	14	縄中末	深鉢胴	－	－	－	灰褐／黒	長・石・安・角・白色・赤色
24号土坑	15	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
24号土坑	16	縄後	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・黒雲・黒色・赤色
24号土坑	19	縄後	深鉢口、把手	－	－	－	暗褐／黒褐	長・石・金雲・白色・赤色
24号土坑	32	縄後	深鉢口	(34.8)	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・黒雲・黒色・白色
25号土坑	1	縄中中	深鉢胴	－	－	－	赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
25号土坑	9	縄中終	深鉢胴	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・金雲・白色・赤色
25号土坑	12	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・白色・赤色
25号土坑	13	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・金雲・白色・赤色
25号土坑	14	縄中末	深鉢胴	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色
25号土坑	15	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
25号土坑	22	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・黒雲・白色
25号土坑	24	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・金雲・白色
25号土坑	29	縄不明	深鉢底	－	7.8	－	黒褐／赤褐	長・石・安・黒雲・角・白色
25号土坑	34	縄後	深鉢口	－	－	－	暗橙褐／暗橙褐	長・石・金雲・黒色・白色
25号土坑	39	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・金雲・黒雲・白色
25号土坑	54	縄後	深鉢口	－	－	－	黒／暗褐	長・石・黒雲・白色
25号土坑	55	縄後	深鉢口	－	－	－	褐／褐	長・石・金雲・白色
25号土坑	57	縄後	深鉢口	－	－	－	黒／暗褐	長・石・金雲・白色
25号土坑	58	縄後	深鉢口～胴	(21.1)	－	－	にぶい褐／灰褐	長・石・黒雲・黒色・赤色
29号土坑	1	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗灰／暗灰	長・石・安・角・白色
29号土坑	11	縄不明	深鉢胴	－	－	－	暗褐／褐	長・石・白色・赤色
31号土坑	1	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・安・白雲・白色・赤色
ピット149	1	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
ピット115	1	縄中末	深鉢胴	－	－	－	赤褐／暗褐	長・石・黒雲・黒色・白色
ピット194	2	縄後	深鉢胴	－	－	－	灰白／灰白	長・石・安・角・白色
ピット195		縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色
1号遺物集中区	1	縄前	深鉢口	(27.2)	－	－	暗赤褐／褐	長・石・金雲・白色
1号遺物集中区	2	縄前	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・金雲・白色
1号遺物集中区	11	縄前	深鉢尖底	－	－	－	褐／褐	長・石・黒色・赤色
1号遺物集中区	12	縄前	深鉢口～尖底	(29.0)	－	(30.8)	にぶい褐／灰黄褐	長・石・黒色・赤色
1号遺物集中区	14	縄前	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
1号遺物集中区	15	縄前	深鉢胴	－	－	－	にぶい黄橙／にぶい黄橙	長・石・安・角・赤色
1号遺物集中区	19	縄前末	深鉢胴	－	－	－	黒褐／赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
1号遺物集中区	32	縄中中	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・黒色・赤色
1号遺物集中区	33	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	34	縄中中	深鉢口	－	－	－	赤褐／暗褐	長・石・安・角
1号遺物集中区	35	縄中中	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・黒色・赤色
1号遺物集中区	50	縄中	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤／にぶい赤	長・石・白色・赤色
1号遺物集中区	52	縄中	深鉢底	－	(8.0)	－	黒／にぶい赤	長・石・白色
1号遺物集中区	54	縄中末	深鉢底	－	(9.5)	－	黒赤褐／黒	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	56	縄中後	深鉢胴	－	－	－	褐灰／褐灰	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	79	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	88	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	89	縄中末	深鉢口	(29.0)	－	－	暗赤褐／褐	長・石・白色・赤色
1号遺物集中区	94	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	96	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／褐	長・石・金雲・白色・赤色
1号遺物集中区	97	縄中末	壺形口	－	－	－	暗褐／灰褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	109	縄中後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・金雲・白色
1号遺物集中区	114	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	126	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	145	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい赤／にぶい赤	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	146	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
1号遺物集中区	149	縄中末	深鉢口	－	－	－	褐／赤褐	長・石・白色
1号遺物集中区	150	縄中末	深鉢胴～底	－	7.8	－	橙／にぶい黒褐	長・石・金雲・黒雲・黒色・赤色
1号遺物集中区	151	縄中末	深鉢口～胴	－	－	－	黒褐／黒褐	長・石・安・角・白色

出土地点	番　号	時　期	器　種	口径（cm）	底径（cm）	高径（cm）	色調（表／裏）	胎　　土
1号遺物集中区	157	縄後初	深鉢胴	－	－	－	赤褐／黒褐	長・石・安・角
1号遺物集中区	164	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／赤褐	長・石・白色
1号遺物集中区	165	縄後	深鉢口	－	－	－	明赤褐／明赤褐	長・石・金雲・黒色・白色・赤色
1号遺物集中区	170	縄後	深鉢胴～底	－	7.2	－	赤褐／にぶい赤	長・石・白色・赤色
1号遺物集中区	171	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
1号遺物集中区	175	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
1号遺物集中区	181	縄後	深鉢口	－	－	－	褐／暗赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
1号遺物集中区	183	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／黄褐	長・石・金雲・白色・赤色
1号遺物集中区	184	縄後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／暗赤灰	長・石・安・金雲・角・白色・赤色
1号遺物集中区	189	縄後	深鉢口～胴	(30.4)	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・黒雲・黒色・赤色
1号遺物集中区	202	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい赤	長・石・安・角・白色・赤色
1号遺物集中区	205	縄後	深鉢口～胴	(24.9)	－	－	褐灰／にぶい赤褐	長・石・黒色・赤色
1号遺物集中区	207	縄後	深鉢口～胴	－	－	－	暗褐／褐灰	長・石・白色
1号遺物集中区	209	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
2号遺物集中区	14	縄前初	深鉢胴	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・黒色・白色
2号遺物集中区	20	縄後初	深鉢胴	－	－	－	暗赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	23	縄中中	浅鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	24	縄中初	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角
2号遺物集中区	26	縄中初	深鉢口	－	－	－	黒／褐	長・石・金雲・白色
2号遺物集中区	36	縄中	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい赤	長・石・金雲・白色・赤色
2号遺物集中区	37	縄中	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	41	縄中中	深鉢胴、把手	－	－	－	にぶい赤褐／褐	長・石・金雲・赤色
2号遺物集中区	86	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	87	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	89	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／暗褐	長・石・安・角
2号遺物集中区	91	縄中末	深鉢口～胴	(41.2)	12.4	49.5	灰褐／にぶい赤褐	長・石・黒色・赤色
2号遺物集中区	92	縄中末	深鉢口～胴	(21.5)	－	－	にぶい橙／灰褐	長・石・金雲・黒雲・黒色・赤色
2号遺物集中区	96	縄中末	深鉢胴	－	－	－	黒褐／黒褐	長・石・安・白色・赤色
2号遺物集中区	97	縄中末	深鉢口～底	(16.3)	(7.8)	21.9	褐灰／灰褐	長・石・金雲・黒雲・黒色
2号遺物集中区	119	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・金雲・白色
2号遺物集中区	120	縄中末	深鉢胴	－	－	－	灰白／灰白	長・石・金雲・黒色・白色
2号遺物集中区	126	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗赤褐	長・石・安・角・赤色
2号遺物集中区	130	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／赤黒	長・石・金雲・白色
2号遺物集中区	133	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／黒褐	長・石・安・角・赤色
2号遺物集中区	134	縄中末	深鉢口～胴	－	－	－	黒褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	145	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・白色・赤色
2号遺物集中区	147	縄後初	深鉢胴～底	－	－	－	にぶい黄橙／にぶい橙	長・石・黒色・赤色
2号遺物集中区	148	縄後	深鉢口	－	－	－	褐／褐灰	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	149	縄後	深鉢口～胴	21.8	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・黒雲
2号遺物集中区	150	縄後	深鉢口～胴	(14.0)	－	－	にぶい褐／にぶい赤褐	長・石・黒色・赤色
2号遺物集中区	151	縄後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角
2号遺物集中区	153	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色
2号遺物集中区	156	縄後	深鉢口～胴	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
遺構外出土Ｂ－０	7	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／橙	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｂ－０	8	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｄ－１	3	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい橙	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ｅ－１	6	縄後	深鉢口	－	－	－	褐／灰褐	長・石・安・角
遺構外出土Ｅ－１	7	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／褐	長・石・白色・赤色
遺構外出土Ｅ－５	9	縄不明	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい褐	長・石・安・黒雲・黒色・白色
遺構外出土Ｅ－５	10	縄不明	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／黒	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｅ－５	20	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｅ－５	21	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・金雲・白色・赤色
遺構外出土Ｆ－３	2	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｆ－３	5	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角
遺構外出土Ｇ－３	2	縄中	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角
遺構外出土Ｇ－３	14	縄中後	深鉢胴	－	－	－	褐灰／褐灰	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－３	18	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－３	20	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／黒褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－３	22	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－３	23	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角
遺構外出土Ｇ－４	2	縄後	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・金雲・赤色
遺構外出土Ｇ－４	3	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－４	7	縄中晩	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角
遺構外出土Ｇ－４	10	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－４	11	縄後	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｇ－５	3	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい褐／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｇ－５	5	縄後	深鉢把手	－	－	－	赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｇ－５	8	縄中末	深鉢口	－	－	－	褐灰／にぶい黄橙	長・石・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｇ－５	9	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／明褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｇ－５	10	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｇ－６	1	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／褐灰	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｇ－６	4	縄後初	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－２	1	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－２	2	縄中中	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／にぶい褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－２	5	縄中末	深鉢把手	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｈ－２	10	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｈ－２	13	縄中末	深鉢口	－	－	－	褐／褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－２	14	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい黄橙	長・石・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－２	17	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角
遺構外出土Ｈ－２	19	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／灰褐	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	6	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／灰黄褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	7	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	8	縄中中	深鉢胴	－	－	－	にぶい褐／にぶい黄褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	9	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	14	縄中後	深鉢胴	－	－	－	にぶい黄橙／橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	16	縄中末	深鉢口	－	－	－	灰黄褐／にぶい黄褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	17	縄中末	深鉢口	－	－	－	灰黄褐／にぶい黄褐	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	19	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｈ－３	20	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／にぶい黄褐	長・石・安・角・黒色・白色
遺構外出土Ｈ－３	21	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｈ－３	22	縄中末	深鉢口	－	－	－	明黄褐／にぶい黄橙	長・石・角・赤色
遺構外出土Ｈ－３	24	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい黄褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｈ－３	43	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｈ－３	44	縄中末	深鉢口～胴	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｈ－３	48	縄後	深鉢把手	－	－	－	黒褐／灰褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	1	縄中末	深鉢口	－	－	－	褐／黒褐	長・石・安・角・黒色
遺構外出土Ｈ－５	3	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・金雲・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	5	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	6	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい橙	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	12	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・黒雲・黒色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	14	縄後	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ｈ－５	15	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	17	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい橙	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｈ－５	23	縄後	壺形口	－	－	－	にぶい赤／にぶい赤	長・石・白色・赤色
遺構外出土Ｈ－５	24	縄後	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・黒雲・赤色
遺構外出土Ｉ－２	2	縄前	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・白色・繊維
遺構外出土Ｉ－２	3	縄前	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／灰褐	長・石・安・角・白色・赤色・繊維
遺構外出土Ｉ－２	7	縄前	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／明褐灰	長・石・金雲・赤色・繊維
遺構外出土Ｉ－２	8	縄前	深鉢胴	－	－	－	赤褐／暗赤褐	長・石・黒雲・赤色
遺構外出土Ｉ－２	15	縄前末	深鉢口	－	－	－	暗黒褐／暗赤褐	長・石・金雲・黒雲
遺構外出土Ｉ－２	16	縄前末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・黒色・白色
遺構外出土Ｉ－２	21	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・金雲・黒色
遺構外出土Ｉ－２	22	縄中末	深鉢口～胴	(10.0)	－	－	赤褐／にぶい橙	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｉ－２	33	縄中後	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｉ－２	34	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・金雲・黒雲
遺構外出土Ｉ－２	35	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	36	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤灰／にぶい橙	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｉ－２	46	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／黒褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ｉ－２	50	縄後	深鉢口	－	－	－	黒／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	54	縄後	深鉢口	－	－	－	褐／褐	長・石・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	56	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／赤褐	長・石・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	57	縄後	深鉢口	－	－	－	褐／にぶい褐	長・石・角・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	59	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	60	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／灰黄褐	長・石・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－２	62	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｉ－３	1	縄前	深鉢口	－	－	－	黒／褐灰	長・石・黒雲・白色・繊維

出土地点	番　号	時　期	器　種	口径（cm）	底径（cm）	高径（cm）	色調（表／裏）	胎　土
遺構外出土Ⅰ－3	4	縄前	深鉢口	－	－	－	黒褐／黒褐	長・石・安・角・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－3	9	縄前	深鉢口	－	－	－	黒褐／褐灰	長・石・安・角・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－3	10	縄前	深鉢胴	－	－	－	茶褐／黒	長・石・黒色・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－3	21	縄前	深鉢底	－	(18.0)	－	暗褐／黒褐	長・石・金雲
遺構外出土Ⅰ－3	42	縄中初	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・金雲・白色
遺構外出土Ⅰ－3	43	縄中初	深鉢口	－	－	－	黒褐／赤褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	44	縄中末	浅鉢胴	－	－	－	灰白／灰白	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	45	縄中初	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗赤褐	長・石・金雲・角
遺構外出土Ⅰ－3	52	縄中中	深鉢口	－	－	－	橙／橙	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	58	縄中中	深鉢口～胴	12.4	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・黒色・白色
遺構外出土Ⅰ－3	67	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／黒褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	68	縄中中	深鉢口	－	－	－	褐灰／褐灰	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	88	縄中後	深鉢底	－	(11.0)	－	褐／褐灰	長・石・金雲・白色
遺構外出土Ⅰ－3	101	縄中末	深鉢口	－	－	－	褐／褐黒	長・石・安・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	104	縄中後	深鉢底	－	(6.9)	－	赤褐／黒	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	114	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	115	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・金雲・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	117	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒／赤褐	長・石・金雲・白色
遺構外出土Ⅰ－3	132	縄中末	深鉢口	－	－	－	赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角
遺構外出土Ⅰ－3	133	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／黒褐	長・石・金雲・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	135	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒／黒褐	長・石・安・金雲・角
遺構外出土Ⅰ－3	150	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	155	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい褐	長・石・金雲・黒雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	185	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	190	縄後初	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／にぶい橙	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－3	199	縄後	深鉢底	－	6.6	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・黒色・白色
遺構外出土Ⅰ－3	215	縄後	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	216	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	217	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／褐灰	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	218	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／赤褐	長・石・安・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	220	縄後	深鉢口	－	－	－	黒／赤褐	長・石・安・白雲・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	221	縄後	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－3	226	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／褐	長・石・黒色・白色
遺構外出土Ⅰ－3	234	縄後	ミニチュア口	－	－	－	にぶい褐／褐灰	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	237	縄後	深鉢胴	－	－	－	黒褐／赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	246	縄後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	252	縄後	深鉢胴	－	－	－	にぶい褐／褐灰	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	257	縄後	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	3	縄前	深鉢胴	－	－	－	明黄褐／黒	長・石・安・角・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－4	4	縄前	深鉢口	－	－	－	明黄褐／明黄褐	長・石・繊維
遺構外出土Ⅰ－4	19	縄前末	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・金雲・黒雲・白色
遺構外出土Ⅰ－4	22	縄中初	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／黄褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	27	縄中初	深鉢胴	－	－	－	暗褐／黒褐	長・石・金雲
遺構外出土Ⅰ－4	29	縄中初	深鉢胴	－	－	－	褐灰／にぶい褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	45	縄中中	浅鉢口	(42.0)	－	－	赤褐／赤褐	長・石・黒雲・黒色・白色
遺構外出土Ⅰ－4	51	縄中中	深鉢口	－	－	－	灰白／灰白	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	53	縄中中	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい赤褐	長・石・安・角
遺構外出土Ⅰ－4	55	縄中中	深鉢胴	－	－	－	褐／黒褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	82	縄中後	深鉢口～底	17.0	9.0	21.5	にぶい赤褐／褐灰	長・石・黒雲・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	88	縄中後	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい橙	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	138	縄中後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／黒	長・石・金雲
遺構外出土Ⅰ－4	139	縄中後	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	153	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	154	縄中末	深鉢口	－	－	－	灰褐／黒褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	155	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	172	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	173	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	183	縄中末	深鉢口～胴	(21.0)	－	－	黒褐／黒褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	186	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	192	縄中末	深鉢口～胴	－	－	－	黒／黒褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	202	縄後	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	203	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	204	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角
遺構外出土Ⅰ－4	209	縄後	深鉢口	－	－	－	黒／にぶい橙	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－5	8	縄後	深鉢胴	－	－	－	にぶい黄褐／にぶい黄褐	長・石・金雲・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－3	1	縄前	深鉢胴	－	－	－	暗黒褐／暗褐	長・石・黒雲・白色・赤色・繊維
遺構外出土Ⅰ－3	3	縄前	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／灰褐	長・石・安・角・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－3	11	縄前	深鉢胴～尖底	－	－	－	にぶい赤褐／黒褐	長・石・角・白色
遺構外出土Ⅰ－4	1	縄前	深鉢口	－	－	－	灰褐／褐灰	長・石・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－4	3	縄前	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／暗褐	長・石・安・角・白色・赤色・繊維
遺構外出土Ⅰ－4	17	縄前	深鉢尖底	－	－	－	暗褐／黒	長・石・白色・赤色・繊維
遺構外出土Ⅰ－4	23	縄前	深鉢胴～底	－	－	－	にぶい黄橙／にぶい橙	長・石・黒雲・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	28	縄中初	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・金雲・黒雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	32	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／褐灰	長・石・黒雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	33	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	35	縄中後	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・黒雲・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	36	縄中後	深鉢口	－	－	－	黒褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	48	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	61	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗赤褐	長・石・黒雲・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	62	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／褐灰	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	67	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／にぶい赤褐	長・石・金雲・黒雲・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	71	縄中末	深鉢口	－	－	－	橙／橙	長・石・安・角・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	72	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／赤褐	長・石・金雲・黒雲・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	77	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	78	縄中末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・黒雲・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	81	縄中末	深鉢胴	－	－	－	暗褐／にぶい橙	長・石・金雲・黒雲・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	98	縄中末	深鉢胴	－	－	－	褐／灰褐	長・石・金雲・黒雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	101	縄中末	深鉢胴	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	112	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	114	縄後	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	117	縄後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	119	縄後	深鉢胴	－	－	－	橙／橙	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	124	縄後	深鉢胴	－	－	－	灰褐／褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－4	129	縄後	深鉢口～胴	－	－	－	黒褐／褐	長・石・安・金雲・黒雲
遺構外出土Ⅰ－4	135	縄後	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／黒褐	長・石・黒雲・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	1	縄前初	深鉢胴	－	－	－	にぶい褐／灰褐	長・石・安・角・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－5	5	縄前初	深鉢胴	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・黒色・繊維
遺構外出土Ⅰ－5	8	縄前初	深鉢胴	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・繊維
遺構外出土Ⅰ－5	9	縄前初	深鉢胴	－	－	－	褐／褐	長・石・安・角・白色・繊維
遺構外出土Ⅰ－5	12	縄前末	深鉢口	－	－	－	暗赤褐／暗赤褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	15	縄前	深鉢口	－	－	－	黒褐／褐	長・石・安・角・繊維
遺構外出土Ⅰ－5	31	縄中中	深鉢口	－	－	－	暗褐／褐灰	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	34	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	35	縄中中	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい橙	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	39	縄中中	深鉢胴～底	－	－	－	にぶい橙／黒褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	40	縄中中	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	42	縄中後	深鉢胴～底	－	7.0	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	49	縄中後	深鉢底	－	9.4	－	にぶい赤褐／にぶい赤褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	50	縄中後	深鉢口	－	－	－	褐灰／褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	51	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい黄褐／にぶい黄褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	56	縄中後	深鉢胴	－	－	－	にぶい橙／にぶい褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	58	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／褐灰	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	61	縄中末	深鉢底	－	8.2	－	赤褐／暗褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	63	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	64	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい褐／にぶい橙	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ⅰ－5	66	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	67	縄中末	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／褐灰	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	79	縄中末	深鉢口	－	－	－	黒褐／黒褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	80	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／赤褐	長・石・金雲・黒雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	85	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	86	縄後	深鉢口	－	－	－	暗褐／にぶい赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	90	縄後	深鉢胴	－	－	－	暗赤褐／黒褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	91	縄後	深鉢口	－	－	－	赤褐／赤褐	長・石・安・角・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	93	縄後	深鉢胴	－	－	－	赤褐／黒褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	102	縄後初	深鉢胴	－	－	－	褐／褐灰	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ⅰ－5	104	縄後初	深鉢胴	－	－	－	明褐／にぶい褐	長・石・安・金雲・角・黒色・白色・赤色

出土地点	番号	時期	器種	口径（cm）	底径（cm）	高径（cm）	色調（表／裏）	胎土
遺構外出土Ｊ～５	109	縄後	深鉢胴	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・安・角・白色
遺構外出土Ｋ－４	1	縄中末	深鉢口～底	(17.4)	6.3	18.8	褐灰／褐灰	長・石・金雲・黒雲・黒色・赤色
遺構外出土Ｋ－５	1	縄前	深鉢口	－	－	－	黒褐／にぶい赤褐	長・石・赤色・繊維
遺構外出土Ｋ－５	2	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい黄／灰黄	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｋ－５	3	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい黄橙／にぶい黄橙	長・石・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｋ－５	6	縄中末	深鉢口	－	－	－	灰黄褐／にぶい黄褐	長・石・金雲・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｋ－５	7	縄中後	深鉢口	－	－	－	にぶい橙／にぶい褐	長・石・安・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｋ－５	11	縄中後	深鉢口	－	－	－	黄褐／にぶい褐	長・石・角・黒色・赤色
遺構外出土Ⅰ区一括	1	縄前末	深鉢胴	－	－	－	にぶい赤褐／黒褐	長・石・安・角・白色・赤色・繊維
遺構外出土Ⅰ区一括	3	縄前末	深鉢口	－	－	－	黒褐／暗赤褐	長・石・金雲・黒色
遺構外出土Ⅰ区一括	4	縄前末	深鉢口	－	－	－	黒／暗赤褐	長・石・金雲・黒色
遺構外出土Ⅰ区一括	7	縄前末	深鉢口	－	－	－	暗褐／暗褐	長・石・金雲・黒色・白色
遺構外出土Ⅱ区一括	1	縄前	深鉢口	－	－	－	橙／橙	長・石・赤色・繊維
遺構外出土Ⅱ区一括	2	縄前	深鉢口	－	－	－	褐灰／褐灰	長・石・安・角・赤色・繊維
遺構外出土Ⅱ区一括	3	縄後	釣手	－	－	－	にぶい黄褐	長・石・金雲・角・黒色・赤色
遺構外出土Ｄ－１		縄後	釣手	－	－	－	明褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｈ～５		縄後	釣手	－	－	－	にぶい褐	長・石・安・角・白色・赤色
遺構外出土Ｄ－０		縄後	釣手	－	－	－	褐	長・石・安・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｇ～６		縄後	釣手	－	－	－	にぶい褐	長・石・角・黒色・白色・赤色
遺構外出土Ｃ－０		縄後	釣手	－	－	－	明褐	長・石・金雲・角・黒色・白色・赤色

［胎土］長：長石、石：石英、安：安山岩、金雲：金雲母、黒雲：黒雲母、白雲：白雲母、角：角閃石、黒色：黒色粒子、白色：白色粒子、赤色：赤色粒子を示す。

表７　土製円盤一覧表

番号	出土地点	時期	縦（cm）	横（cm）	厚さ(cm)	重さ(ｇ)	色調（表／裏）	胎土
1	３号住居	縄後	2.9	3.5	3.7	7.3	にぶい赤褐	長・石・角・安・黒色・赤色
2	14号土坑	縄後	4.6	3.6	0.9	15.7	暗灰	長・石
3	25号土坑	縄中後	5.3	4.1	1.3	39.4	黒／暗橙褐	石・角・安・白色
4	１号遺物集中区	縄中末	3.7	3.1	0.7	9.7	明赤褐	長・石・黒色・白色
5	１号遺物集中区	縄中末	3.3	3.1	1.1	14.5	灰	石・角・安・黒色・白色
6	１号遺物集中区	縄後	3.5	3.7	0.7	11.2	明灰褐	石・角・黒雲・黒色・白色
7	１号遺物集中区	縄後	3.9	2.8	1.0	7.0	茶褐	長・石・白色
8	１号遺物集中区	縄中中	3.3	2.7	0.9	9.6	黒褐	長・石・黒雲・角・黒色・白色
9	１号遺物集中区	縄中初	3.2	3.2	0.8	10.3	赤褐	長・石・金雲
10	Ｆ－１	縄中末	3.9	3.8	0.6	10.7	赤褐	長・石・黒色・白色・赤色
11	Ｆ－５	縄後	3.8	3.0	1.0	11.3	褐	石・角・黒色・白色・赤色
12	Ｆ－５	縄中中	3.7	3.2	1.1	13.2	赤褐	長・石・黒色・白色
13	Ｇ－５	縄中末	4.5	4.3	0.8	22.6	黒褐	長・石・角・安・黒色・白色
14	Ｇ－５	縄後	3.0	4.2	0.7	10.6	にぶい黄褐	長・石・黒色・白色・赤色
15	Ｇ－５	縄中末	4.0	3.5	0.8	11.7	にぶい褐	長・石・黒色
16	Ｈ－３	縄中後	6.0	4.7	0.9	32.0	赤褐	長・石・黒雲・黒色・白色・赤色
17	Ｈ－５	縄中中	3.7	3.2	1.1	13.2	赤褐	長・石・黒色・白色
18	Ｉ－２	縄中初	5.8	6.2	0.7	27.5	赤褐	長・石・金雲・黒色
19	Ｉ－３	縄中初	6.5	6.3	1.1	53.0	黒褐	長・石・黒色・白色
20	Ｉ－３	縄中後	3.1	3.2	1.2	15.8	暗褐	長・石・黒色・赤色
21	Ｉ－３	縄中末	3.9	2.7	0.9	7.9	暗赤褐	長・石・金雲・白色・赤色
22	Ｉ－３	縄中後	4.5	4.1	1.1	20.7	黒褐	長・石・安・金雲・黒雲・角・赤色
23	Ｉ－５	縄中末	3.4	3.1	0.8	9.8	黄褐	長・石・黒雲・黒色・白色

表８　土製品一覧表

番号	種　　類	出土地点	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重さ(ｇ)	色　調	胎　　土
1	焼成粘土塊	Ｆ－６	3.5	1.7	1.5	8.8	にぶい褐	長・石・角・黒色・赤色
2	土玉	Ｊ－４	6.7	7.7	3.8	187.7	にぶい褐	長・石・黒色・輝石
3	土玉	Ｂ－０	9.7	4.2	3.8	131.3	黄褐	長・石・金雲・角・黒色・輝石
4	垂飾（孔径0．2）	Ｉ－４	1.6	2.7	0.9	2.6	赤褐	長・石・金雲

表10　鉄製品

番号	種類	出土地点	外径	内径	重さ
1	馬具	Ｈ－５	6.5	4.8	43.2

表11　煙管

番号	部位	出土地点	材質	長さ	火皿径
1	吸口	Ｊ－４	銅	(6.0)	－
2	雁首	Ｊ－４	銅	(2.7)	－

表12　木製品

番号	部位	出土地点	材種	長さ	幅	厚さ
1	蓋か底板	Ｆ－４	杉	13.1	(6.0)	0.7

表13　磁器・陶器

番号	時期	出土地点	性質	器形	口径	器高	底径	釉薬
1	近代	一括	磁器	皿	15.8	4.4	9.4	染付
2	近代	一括	陶器	片口鉢	(22.0)	－	－	灰釉
3	近代	一括	磁器	碗	(11.0)	－	－	染付
4	近代	Ｉ－３	磁器	碗	(12.0)	(4.0)	－	染付
5	近代	Ｈ－５	陶器	皿	(12.4)	(2.4)	8.0	鉄釉

表14　銭貨

番号	銭貨名	出土地点	材質	外径	穿径	初鎮年
1	寛永通宝	一括	銅	2.3	0.7	不明
2	文久永宝	Ｇ－３	銅	2.6	0.8	1863
3	一銭	Ｂ－０	銅	2.6	－	明治
4	五円	Ｉ－４	銅	2.1	－	昭和

表15　簪

番号	材質	出土地点	種類	外径	重さ
1	銅	Ｈ－４	平打ち	2.7	(7.1)

※単位：外径、内径、長さ、幅、厚さ、口径、器高、底径、穿径cm
重さｇ

表9　石器観察表

番号	出土地点	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材
1	2号住	石鏃	(1.90)	1.90	0.50	(1.30)	黒曜石
2	1号集中区	石鏃	1.60	(1.20)	0.25	(0.20)	黒曜石
3	1号集中区	石鏃	(1.50)	(1.20)	0.25	(0.30)	黒曜石
4	1号集中区	石鏃	1.80	1.75	0.30	0.50	黒曜石
5	1号集中区	石鏃	1.72	1.61	0.32	0.70	黒曜石
6	1号集中区	石鏃	(2.00)	1.25	0.42	(0.90)	黒曜石
7	1号集中区	石鏃	2.10	1.40	0.45	1.30	黒曜石
8	1号集中区	石鏃	(2.25)	(1.50)	0.35	(1.00)	黒曜石
9	1号集中区	石鏃	(1.30)	(1.30)	(0.30)	(0.40)	黒曜石
10	1号集中区	石鏃	1.80	1.80	0.30	(0.60)	黒曜石
11	1号集中区	石鏃	(1.83)	1.50	0.34	(0.70)	黒曜石
12	1号集中区	石鏃	(1.50)	(1.20)	0.18	(0.30)	黒曜石
13	1号集中区	石鏃	1.70	1.00	0.28	(0.40)	黒曜石
14	1号集中区	石鏃	1.60	1.70	0.45	(1.00)	黒曜石
15	1号集中区	石鏃	1.80	(1.60)	0.38	(0.60)	黒曜石
16	2号集中区	石鏃	2.50	1.60	0.50	1.90	黒曜石
17	B－0	石鏃	2.30	1.50	0.40	1.30	黒曜石
18	C－0	石鏃	2.70	1.50	0.45	1.20	黒曜石
19	C－0	石鏃	(2.10)	(1.30)	0.25	(0.40)	黒曜石
20	C－0	石鏃	(2.10)	(1.20)	0.30	(0.60)	黒曜石
21	C－0	石鏃	2.20	1.70	0.42	1.30	黒曜石
22	C－1	石鏃	2.00	1.40	030	0.70	黒曜石
23	D－1	石鏃	(1.60)	(1.20)	0.30	(0.40)	黒曜石
24	E－1	石鏃	2.20	(1.20)	0.32	(0.50)	黒曜石
25	E－1	石鏃	2.10	1.60	0.30	0.60	黒曜石
26	F－1	石鏃	1.50	1.10	0.23	0.20	黒曜石
27	F－2	石鏃	1.60	1.30	0.37	0.50	黒曜石
28	F－2	石鏃	(1.80)	(1.50)	0.28	(0.50)	黒曜石
29	F－2	石鏃	1.20	1.30	0.20	0.30	黒曜石
30	F－2	石鏃	1.80	1.10	0.28	0.50	黒曜石
31	F－2	石鏃	2.70	1.30	0.30	(1.30)	黒曜石
32	F－3	石鏃	2.80	1.40	0.70	(2.00)	黒曜石
33	G－3	石鏃	2.10	(1.00)	0.20	(0.30)	黒曜石
34	G－3	石鏃	1.60	(1.60)	0.30	(0.60)	黒曜石
35	G－3	石鏃	1.90	1.80	0.45	1.00	黒曜石
36	G－3	石鏃	(1.30)	(1.50)	0.30	(0.50)	黒曜石
37	G－3	石鏃	2.23	1.60	0.40	(1.50)	黒曜石
38	G－4	石鏃	2.30	1.70	0.30	0.70	黒曜石
39	G－4	石鏃	1.80	1.50	0.30	(0.50)	黒曜石
40	G－4	石鏃	(1.30)	1.50	0.20	(0.40)	黒曜石
41	G－4	石鏃	(1.25)	1.00	0.20	(0.30)	黒曜石
42	G－4	石鏃	1.80	(1.30)	0.30	(0.50)	黒曜石
43	G－4	石鏃	2.00	1.60	0.45	1.20	黒曜石
44	G－4	石鏃	2.30	1.60	0.65	(1.70)	黒曜石
45	G－5	石鏃	(1.50)	(1.40)	(0.30)	(0.50)	黒曜石
46	G－5	石鏃	1.70	1.70	0.50	(1.50)	黒曜石
47	G－6	石鏃	1.80	(1.30)	0.30	(0.40)	黒曜石
48	H－3	石鏃	2.00	1.25	0.35	0.80	黒曜石
49	H－3	石鏃	1.80	2.00	0.29	0.60	黒曜石
50	H－3	石鏃	1.40	1.70	0.30	0.60	黒曜石
51	H－3	石鏃	(2.00)	1.60	0.38	(0.80)	黒曜石
52	H－3	石鏃	1.50	(1.40)	0.25	(0.50)	黒曜石
53	H－3	石鏃	1.57	1.10	0.30	0.40	黒曜石
54	H－3	石鏃	(1.70)	1.70	0.25	(0.70)	黒曜石
55	H－3	石鏃	(1.70)	1.90	0.30	(0.90)	黒曜石
56	H－3	石鏃	(2.00)	1.50	0.45	(1.40)	黒曜石
57	H－3	石鏃	2.40	2.10	0.40	1.00	黒曜石
58	H－3	石鏃	(1.60)	(1.50)	0.30	(0.60)	黒曜石
59	H－3	石鏃	(1.70)	1.60	0.37	(0.90)	黒曜石
60	H－3	石鏃	(1.65)	1.65	0.38	(0.80)	黒曜石
61	H－3	石鏃	2.50	(1.30)	0.25	(0.40)	黒曜石
62	H－3	石鏃	(2.14)	1.85	0.33	(0.90)	黒曜石
63	H－3	石鏃	(2.60)	1.90	0.51	(1.80)	黒曜石
64	H－4	石鏃	(1.60)	(1.20)	0.25	(0.30)	黒曜石
65	H－4	石鏃	2.50	(1.70)	0.30	(0.80)	黒曜石
66	H－4	石鏃	(2.30)	(1.90)	0.45	(1.60)	黒曜石
67	H－4	石鏃	(1.30)	1.50	0.30	(0.60)	黒曜石
68	H－4	石鏃	(1.50)	(1.40)	0.25	(0.60)	黒曜石
69	H－4	石鏃	(2.00)	(2.00)	0.45	(1.90)	黒曜石
70	H－4	石鏃	(1.10)	1.50	0.30	(0.40)	黒曜石
71	H－4	石鏃	(1.70)	(1.10)	0.38	(0.50)	黒曜石
72	H－5	石鏃	2.60	(1.60)	0.33	(1.10)	黒曜石
73	H－5	石鏃	(2.00)	(1.70)	0.28	(0.60)	黒曜石
74	H－5	石鏃	(2.60)	2.00	0.22	(3.10)	黒曜石
75	I－2	石鏃	(1.10)	(1.30)	0.20	(0.20)	黒曜石
76	I－2	石鏃	2.00	1.60	0.30	0.90	黒曜石
77	I－2	石鏃	(1.80)	1.50	0.52	(1.00)	黒曜石
78	I－3	石鏃	(2.00)	(1.40)	0.22	(0.50)	黒曜石
79	I－3	石鏃	(1.40)	1.50	0.22	(0.40)	黒曜石
80	I－3	石鏃	2.00	(1.30)	0.25	(0.50)	黒曜石
81	I－4	石鏃	1.40	1.60	0.35	0.60	黒曜石
82	I－4	石鏃	(1.55)	1.50	0.23	(0.40)	黒曜石
83	I－4	石鏃	(1.70)	(1.20)	0.30	(0.70)	黒曜石
84	I－4	石鏃	(2.30)	(1.40)	0.30	(1.00)	黒曜石
85	I－4	石鏃	(1.65)	1.50	0.25	(0.50)	黒曜石
86	I－4	石鏃	(2.10)	1.40	0.22	(0.50)	黒曜石
87	I－4	石鏃	(2.20)	(1.50)	0.25	(0.60)	黒曜石
88	I－4	石鏃	1.70	(1.50)	0.45	(0.70)	黒曜石
89	I－4	石鏃	2.30	1.50	0.30	0.60	黒曜石
90	I－4	石鏃	2.50	(1.20)	0.35	(0.50)	チャート
91	I－5	石鏃	1.70	1.50	0.25	0.50	黒曜石
92	I－5	石鏃	1.80	(1.90)	0.33	(0.80)	黒曜石
93	I－5	石鏃	1.35	1.25	0.28	0.30	黒曜石
94	I－5	石鏃	1.47	1.20	0.27	0.20	黒曜石
95	I－5	石鏃	2.10	1.80	0.34	0.70	黒曜石
96	I－5	石鏃	2.80	1.50	0.40	1.00	黒曜石
97	I－5	石鏃	2.30	1.20	0.25	0.90	黒曜石
98	J－3	石鏃	2.30	1.60	0.50	1.10	黒曜石
99	J－3	石鏃	(2.40)	(1.70)	0.36	(0.90)	黒曜石
100	J－3	石鏃	2.47	1.70	0.39	1.10	黒曜石
101	J－3	石鏃	1.20	1.10	0.36	(0.40)	黒曜石
102	J－3	石鏃	2.20	1.40	0.35	0.90	黒曜石
103	J－3	石鏃	2.00	1.60	0.62	1.80	黒曜石
104	J－3	石鏃	2.00	1.10	0.40	0.80	黒曜石
105	J－4	石鏃	1.60	1.50	0.32	0.50	黒曜石
106	J－4	石鏃	(1.30)	1.60	0.25	(0.40)	黒曜石
107	J－4	石鏃	1.90	1.30	0.30	0.70	黒曜石
108	J－4	石鏃	2.30	(1.40)	0.35	(0.70)	黒曜石
109	J－4	石鏃	1.80	1.55	0.35	0.60	黒曜石
110	J－4	石鏃	1.95	1.10	0.38	0.70	黒曜石
111	J－4	石鏃	(1.40)	2.00	0.30	(0.80)	黒曜石
112	J－4	石鏃	2.10	1.20	0.65	1.30	黒曜石
113	J－5	石鏃	(1.50)	(1.10)	0.30	(0.30)	黒曜石
114	J－5	石鏃	1.90	(1.60)	0.20	(0.60)	黒曜石
115	J－5	石鏃	1.50	1.40	0.36	0.60	黒曜石
116	J－5	石鏃	(2.20)	1.55	0.36	(1.00)	黒曜石
117	J－5	石鏃	2.10	1.80	0.30	0.60	黒曜石
118	K－5	石鏃	(1.75)	(1.40)	0.30	(0.60)	黒曜石
119	K－5	石鏃	2.30	0.90	0.45	0.90	黒曜石
120	I区	石鏃	(1.70)	1.60	0.30	(0.80)	黒曜石
121	I区	石鏃	(1.60)	1.20	0.25	(0.50)	黒曜石
122	I区	石鏃	1.80	(1.00)	0.38	(0.50)	黒曜石
123	I区	石鏃	1.90	1.50	0.32	(0.80)	黒曜石
124	I区	石鏃	1.60	1.10	0.30	0.60	黒曜石
125	I区	石鏃	(1.80)	1.80	(0.35)	(1.20)	黒曜石
126	I区	石鏃	(1.60)	(1.40)	0.30	(0.50)	黒曜石
127	I区	石鏃	(2.90)	1.80	0.45	(1.90)	黒曜石
128	K－5	石匙	4.40	7.30	0.70	19.60	砂岩
129	I－4	石匙	6.00	6.20	0.90	(66.40)	砂岩
130	G－3	石匙	10.80	5.50	1.10	77.30	頁岩
131	G－2	石匙	4.70	1.70	0.70	5.50	黒曜石
132	E－1	石匙	1.90	(2.40)	0.55	(2.50)	黒曜石
133	I－2	石匙	1.10	2.10	0.25	0.50	黒曜石
134	I－2	石匙	1.20	1.50	0.45	0.50	黒曜石
135	J－4	石匙	0.90	2.70	0.30	0.50	黒曜石
136	J－4	石匙	2.90	5.80	0.94	10.20	チャート
137	I－4	石錐	3.60	1.90	0.37	3.10	珪質頁岩
138	1号集中区	石錐	4.40	1.20	0.62	4.10	黒曜石
139	J－4	石錐	3.00	1.10	0.63	1.60	黒曜石
140	I－4	石錐	2.60	0.90	0.32	1.40	黒曜石
141	J－4	石錐	2.40	1.00	0.35	1.20	黒曜石
142	J－5	石錐	2.70	0.80	0.55	1.40	黒曜石
143	I区	石錐	3.70	1.30	0.40	3.50	黒曜石
144	F－1	石錐	2.10	0.90	0.34	1.00	黒曜石
145	1号集中区	石錐	2.00	1.10	0.30	1.00	黒曜石
146	I－3	石錐	1.90	1.00	0.45	1.20	黒曜石
147	I－4	石錐	2.90	1.40	0.60	4.20	黒曜石
148	I－4	石錐	2.40	1.60	0.40	2.30	黒曜石
149	F－2	石錐	3.00	1.70	0.48	3.50	黒曜石
150	J－3	石錐	1.90	1.10	0.40	1.10	黒曜石
151	G－4	石錐	2.30	1.60	0.25	1.60	黒曜石
152	I－2	石錐	2.40	1.30	0.36	1.90	黒曜石
153	G－5	石錐	3.20	1.70	0.30	4.00	黒曜石
154	H－2	石錐	3.40	1.60	0.40	3.80	黒曜石
155	I区	石錐	3.40	1.60	0.42	4.40	黒曜石
156	G－4	石錐	2.90	0.90	0.40	1.70	黒曜石
157	J－4	石錐	4.10	1.80	0.40	4.40	黒曜石
158	J－4	楔形石器	1.90	1.10	0.90	1.60	黒曜石
159	3号住	二次加工片	3.50	1.80	0.50	2.90	黒曜石
160	1号集中区	二次加工片	2.80	2.50	0.50	2.90	黒曜石
161	3号住	二次加工片	2.70	2.20	0.80	3.50	黒曜石
162	I－5	二次加工片	2.80	1.60	0.40	1.30	黒曜石
163	H－5	二次加工片	2.80	1.80	0.60	3.20	黒曜石
164	K－5	二次加工片	3.20	1.30	0.55	2.00	黒曜石

番号	出土地点	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材
165	G－4	二次加工片	2.10	4.20	0.80	6.10	黒曜石
166	3号土坑	打製石斧	10.5	4.9	1.6	98.9	砂岩
167	1号集中区	打製石斧	10.0	4.6	1.2	78.0	頁岩
168	1号集中区	打製石斧	10.7	4.7	2.1	120.2	砂岩
169	1号集中区	打製石斧	9.5	4.7	0.8	37.2	粘板岩
170	1号集中区	打製石斧	17.7	7.7	2.3	377.0	ホルンヘルス
171	1号集中区	打製石斧	10.0	3.8	1.0	61.4	砂岩
172	2号集中区	打製石斧	13.5	5.7	1.9	123.5	ホルンヘルス
173	2号集中区	打製石斧	13.2	5.4	1.9	102.0	ホルンヘルス
174	2号集中区	打製石斧	(8.9)	(7.2)	(2.8)	(228.0)	頁岩
175	2号集中区	打製石斧	(5.5)	(3.7)	(1.4)	(41.7)	ホルンヘルス
176	2号集中区	打製石斧	(5.6)	3.9	1.6	(37.0)	砂岩
177	2号集中区	打製石斧	(9.7)	(5.8)	(2.3)	(137.4)	ホルンヘルス
178	B－0	打製石斧	13.5	5.8	1.9	183.3	砂岩
179	B－0	打製石斧	9.8	5.4	0.9	66.0	砂岩
180	C－0	打製石斧	9.9	4.9	1.2	82.5	ホルンヘルス
181	C－1	打製石斧	9.5	6.0	2.0	106.2	ホルンヘルス
182	D－2	打製石斧	10.1	4.7	1.6	105.2	片麻岩
183	E－1	打製石斧	13.3	4.9	1.6	131.5	千枚岩
184	E－1	打製石斧	13.2	6.7	2.9	255.0	砂岩
185	E－2	打製石斧	10.3	3.9	1.1	57.9	ホルンヘルス
186	F－1	打製石斧	16.8	5.2	2.5	299.0	ホルンヘルス
187	F－3	打製石斧	11.2	4.2	1.2	76.5	ホルンヘルス
188	G－4	打製石斧	10.9	4.5	0.9	63.5	砂岩
189	G－5	打製石斧	4.1	6.1	2.3	241.0	ホルンヘルス
190	G－5	打製石斧	12.3	5.6	2.0	173.1	砂岩
191	G－5	打製石斧	8.1	5.1	0.9	49.0	ホルンヘルス
192	G－5	打製石斧	8.0	5.1	0.9	53.8	頁岩
193	G－6	打製石斧	14.1	6.7	1.4	161.4	ホルンヘルス
194	G－6	打製石斧	8.5	4.4	1.2	72.4	ホルンヘルス
195	H－3	打製石斧	8.6	4.5	0.9	52.5	ホルンヘルス
196	H－3	打製石斧	6.4	6.8	2.0	116.5	砂岩
197	H－3	打製石斧	6.6	5.8	0.7	45.0	ホルンヘルス
198	I－2	打製石斧	9.4	4.3	0.8	54.6	ホルンヘルス
199	I－2	打製石斧	10.1	5.1	1.5	89.3	頁岩
200	I－3	打製石斧	10.1	4.4	1.5	79.2	頁岩
201	I－4	打製石斧	5.1	4.5	1.2	36.0	チャート
202	I－4	打製石斧	6.7	5.8	2.0	116.0	砂岩
203	I－4	打製石斧	7.2	5.5	1.6	114.0	擬灰岩
204	I－4	打製石斧	13.9	4.6	1.8	160.0	頁岩
205	I－5	打製石斧	8.7	5.4	1.4	84.1	粘板岩
206	I－5	打製石斧	10.3	4.4	1.6	76.9	砂岩
207	I－5	打製石斧	12.2	4.8	2.0	145.0	砂岩
208	I－5	打製石斧	11.5	4.6	2.1	122.8	砂岩
209	I－5	打製石斧	11.3	6.3	1.8	127.4	頁岩
210	I－5	打製石斧	(7.3)	(3.8)	(2.3)	(90.5)	砂岩
211	I－5	打製石斧	(8.8)	5.4	2.1	128.8	ホルンヘルス
212	J－3	打製石斧	12.9	5.8	1.9	147.1	砂岩
213	J－4	打製石斧	11.8	4.7	1.5	110.5	ホルンヘルス
214	J－4	打製石斧	8.6	5.1	1.3	68.7	ホルンヘルス
215	J－5	打製石斧	7.5	4.7	1.6	77.0	砂岩
216	J－5	打製石斧	7.9	4.2	1.7	74.6	砂岩
217	K－4	打製石斧	11.3	4.9	1.2	86.1	ホルンヘルス
218	I区	打製石斧	10.3	5.1	1.2	96.7	砂岩
219	3号住	横刃形石器	(3.8)	(6.8)	1.4	(42.3)	頁岩
220	1号集中区	横刃形石器	3.9	9.2	0.7	34.1	ホルンヘルス
221	1号集中区	横刃形石器	4.9	12.0	1.3	49.3	ホルンヘルス
222	2号集中区	横刃形石器	3.7	10.0	2.1	110.2	粘板岩
223	B－0	横刃形石器	3.5	7.5	2.1	63.1	砂岩
224	B－1	横刃形石器	4.2	10.4	1.5	60.1	ホルンヘルス
225	C－1	横刃形石器	5.4	8.6	1.5	45.0	ホルンヘルス
226	E－1	横刃形石器	4.9	11.0	1.6	86.3	頁岩
227	F－3	横刃形石器	4.2	10.2	1.3	70.0	砂岩
228	G－5	横刃形石器	3.9	9.6	1.4	62.3	ホルンヘルス
229	H－4	横刃形石器	2.5	7.1	1.0	21.7	安山岩
230	I－2	横刃形石器	10.1	4.9	1.5	89.3	頁岩
231	I－3	横刃形石器	(6.1)	(7.5)	(0.8)	(52.6)	砂岩
232	I－4	横刃形石器	4.4	8.8	0.7	42.2	粘板岩
233	J－3	横刃形石器	3.6	4.2	0.6	8.3	砂岩
234	I区	横刃形石器	3.9	12.4	1.8	87.5	ホルンヘルス
235	2号住	磨製石斧	11.2	5.2	2.3	240.0	蛇紋岩
236	1号集中区	磨製石斧	5.6	4.9	2.6	114.9	緑色片岩
237	1号集中区	磨製石斧	5.4	2.6	1.1	23.7	チャート
238	1号集中区	磨製石斧	5.3	5.1	2.7	66.8	擬灰岩
239	1号集中区	磨製石斧	3.2	1.7	0.6	5.1	擬灰岩
240	G－5	磨製石斧	11.7	5.0	1.4	(128.8)	千枚岩
241	G－5	磨製石斧	(11.3)	(4.3)	2.8	(187.5)	角礫岩
242	I－4	磨製石斧	(3.4)	(2.8)	(0.9)	(12.6)	緑色片岩
243	I－4	磨製石斧	3.3	1.9	0.7	7.7	蛇紋岩
244	J－5	磨製石斧	(9.8)	(4.5)	(1.7)	(104.0)	緑色擬灰岩
245	1号住	凹石＋敲石	12.1	6.0	6.0	723.0	安山岩
246	3号住	凹石＋磨石	11.3	9.6	4.5	52.0	輝石安山岩
247	3号住	凹石	12.8	7.3	5.3	443.0	輝石安山岩

番号	出土地点	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材
248	3号住	磨石	13.9	6.0	5.6	666.0	輝石安山岩
249	14号土坑	凹石	11.7	7.2	4.6	463.0	輝石安山岩
250	14号土坑	凹石	12.7	6.6	5.5	549.0	輝石安山岩
251	25号土坑	凹石	(6.1)	(8.4)	(4.1)	(262.0)	輝石安山岩
252	25号土坑	凹石＋敲石	15.1	8.5	3.7	669.0	デイサイト
253	25号土坑	凹石	18.5	13.0	10.3	2820.0	デイサイト
254	1号集石	凹石	13.5	8.1	5.7	751.0	輝石安山岩
255	1号集石	凹石＋磨石	12.3	5.8	4.8	520.0	玄武岩
256	1号集中区	凹石＋磨石	8.5	7.5	4.3	361.0	安山岩
257	1号集中区	凹石	9.5	8.9	4.5	443.0	輝石安山岩
258	1号集中区	凹石＋磨石	11.2	7.0	4.5	405.0	輝石安山岩
259	1号集中区	凹石＋敲石	11.5	8.0	6.2	646.0	輝石安山岩
260	1号集中区	凹石＋磨石	9.6	(5.0)	4.2	(260.5)	安山岩
261	1号集中区	磨石	12.3	4.8	2.4	306.0	砂岩
262	1号集中区	磨石＋敲石	9.9	6.1	3.2	307.0	輝石安山岩
263	1号集中区	敲石	6.2	9.3	5.3	523.0	花崗岩
264	2号集中区	凹石	10.8	10.0	7.6	759.0	安山岩
265	2号集中区	磨石＋敲石	7.3	5.7	3.7	196.7	砂岩
266	2号集中区	磨石＋敲石	11.8	11.9	5.6	759.0	輝石安山岩
267	2号集中区	凹石＋磨石	11.0	6.8	4.6	477.0	輝石安山岩
268	B－0	凹石	(9.4)	7.4	3.5	(272.0)	玄武岩
269	B－0	凹石	10.8	6.3	5.3	533.0	輝石安山岩
270	C－0	凹石	11.1	8.9	5.0	607.0	輝石安山岩
271	D－1	凹石	10.7	7.9	5.2	514.0	輝石安山岩
272	F－2	凹石＋磨石	9.5	6.1	4.5	378.0	輝石安山岩
273	F－2	磨石	8.3	5.5	4.3	230.0	輝石安山岩
274	F－3	磨石	12.8	(5.4)	5.6	(580.5)	砂岩
275	F－4	凹石＋磨石	8.1	6.3	3.1	214.0	玄武岩
276	F－6	凹石	14.1	8.6	5.3	1147.5	安山岩
277	G－3	凹石＋敲石	10.1	10.9	6.2	872.0	輝石安山岩
278	G－3	凹石＋敲石	9.9	7.5	3.2	406.0	安山岩
279	G－4	凹石	9.1	9.2	6.2	559.0	安山岩
280	G－5	磨石	10.6	8.0	3.9	443.0	玄武岩
281	H－2	凹石	8.4	7.7	5.8	446.0	玄武岩
282	H－2	凹石	9.0	7.5	5.4	480.0	安山岩
283	H－2	凹石＋磨石	10.3	7.1	4.2	318.0	輝石安山岩
284	H－3	凹石＋磨石	11.7	6.9	4.4	524.0	輝石安山岩
285	H－3	凹石＋敲石	(11.3)	(8.1)	3.6	(350.4)	砂岩
286	H－5	凹石	10.2	6.5	4.7	400.0	輝石安山岩
287	I－2	凹石＋磨石	8.9	7.3	4.1	353.0	安山岩
288	I－4	凹石＋磨石	8.8	7.6	2.5	243.0	安山岩
289	I－4	敲石	4.6	4.5	4.4	133.3	玄武岩
290	I－4	磨石	6.7	6.2	4.2	281.0	擬灰岩
291	I－4	凹石	8.4	6.4	4.3	334.0	玄武岩
292	I－5	凹石＋磨石	11.4	9.5	5.9	821.0	玄武岩
293	J－3	凹石＋磨石	9.8	5.8	4.6	3.4	玄武岩
294	J－4	凹石＋磨石	12.2	10.9	5.9	1185.0	輝石安山岩
295	J－4	凹石＋磨石	11.2	6.3	4.5	612.0	輝石安山岩
296	J－4	凹石＋敲石	8.5	(5.9)	5.1	(239.4)	玄武岩
297	J－4	磨石	11.9	8.8	4.7	691.0	玄武岩
298	J－4	磨石	10.2	9.3	4.7	564.0	玄武岩
299	J－4	磨石	8.8	7.4	4.7	395.0	玄武岩
300	J－4	磨石	8.5	6.1	5.3	364.0	流紋岩
301	J－4	磨石＋敲石	8.8	8.6	4.7	548.0	輝石安山岩
302	J－5	凹石＋磨石	12.3	6.2	5.8	603.0	輝石安山岩
303	K－4	凹石＋磨石	8.0	6.8	5.8	391.0	石英安山岩
304	K－5	凹石＋磨石	10.5	7.5	3.1	349.0	輝石安山岩
305	I区	凹石＋磨石	8.2	7.6	4.1	570.0	輝石安山岩
306	I区	敲石	11.3	8.2	(5.9)	(239.4)	玄武岩
307	I区	敲石	8.6	6.9	5.0	544.0	輝石安山岩
308	I区	磨石	8.3	3.2	2.9	119.8	砂岩
309	II区	凹石＋磨石	9.7	6.5	4.9	374.5	輝石安山岩
310	3号住	多孔石	20.6	15.9	6.8	2030.0	輝石安山岩
311	25号土坑	多孔石	13.0	11.8	6.7	1204.0	輝石安山岩
312	1号集中区	多孔石	18.6	13.2	8.3	2500.0	玄武岩
313	1号集中区	多孔石	9.8	8.4	8.4	575.0	輝石安山岩
314	1号集中区	多孔石	12.7	10.6	11.2	2000.0	安山岩
315	2号集中区	多孔石	15.0	12.2	11.7	3000.0	輝石安山岩
316	G－6	多孔石	18.5	15.3	10.4	2600.0	輝石安山岩
317	H－3	多孔石	10.3	14.5	6.7	1500.0	安山岩
318	J－4	多孔石	16.2	15.8	8.0	3320.0	輝石安山岩
319	J－5	多孔石	18.2	16.3	4.5	1811.0	輝石安山岩
320	J－5	多孔石	22.2	17.1	12.1	4200.0	輝石安山岩
321	1号集中区	石皿	(13.9)	(11.8)	(6.0)	(1185.0)	安山岩
322	2号住	石棒	(14.8)	(11.5)	9.2	2500.0	輝石安山岩
323	I－4	石棒	4.0	0.7	0.7	3.3	頁岩
324	I－4	玉	径1.65	孔径0.5	0.2	0.7	粘板岩
325	I区	玉未製品	1.8	1.1	0.7	2.6	ヒスイ
326	I－3	カギ状石器	3.8	1.6	0.8	7.1	黒曜石
	H－3		2.1	1.5	0.6	2.1	
327	A－2	磨製石鏃	3.2	2.6	0.3	3.3	粘板岩
図8-5	H－4	軽石製品	4.2	3.9	1.3	16.8	軽石

図　　版

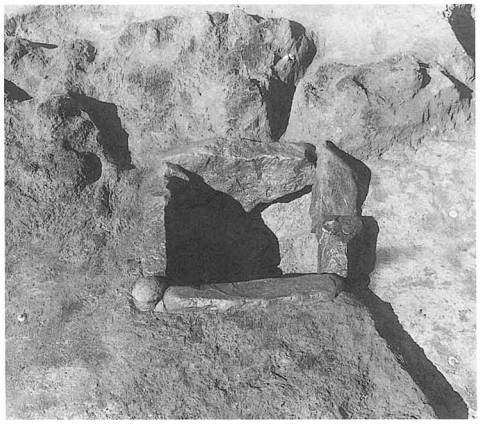
図版１　越中久保遺跡調査区全景

図版２　１号住居跡

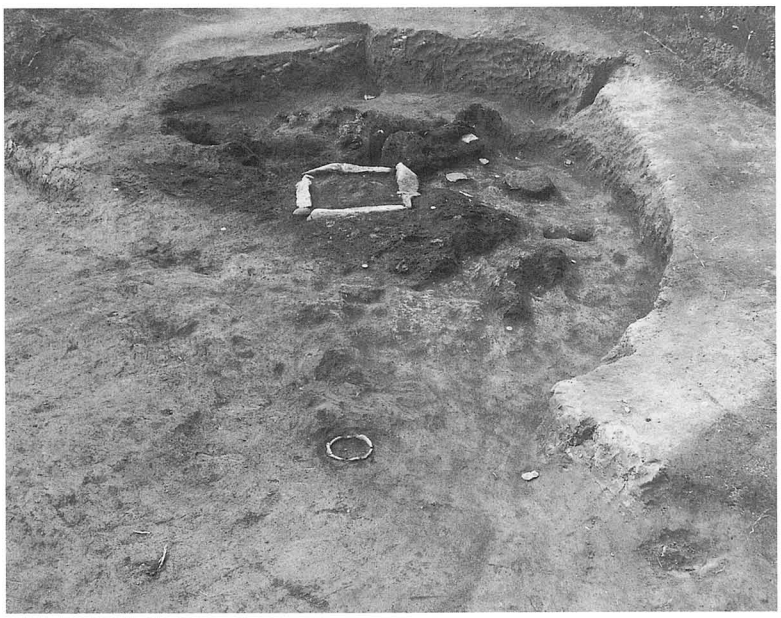
図版４　１号住居跡炉

図版３　１号住居跡上層遺物出土状況

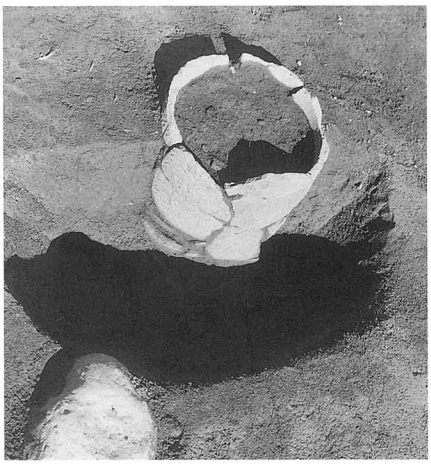
図版 5　2 号住居跡（東から）



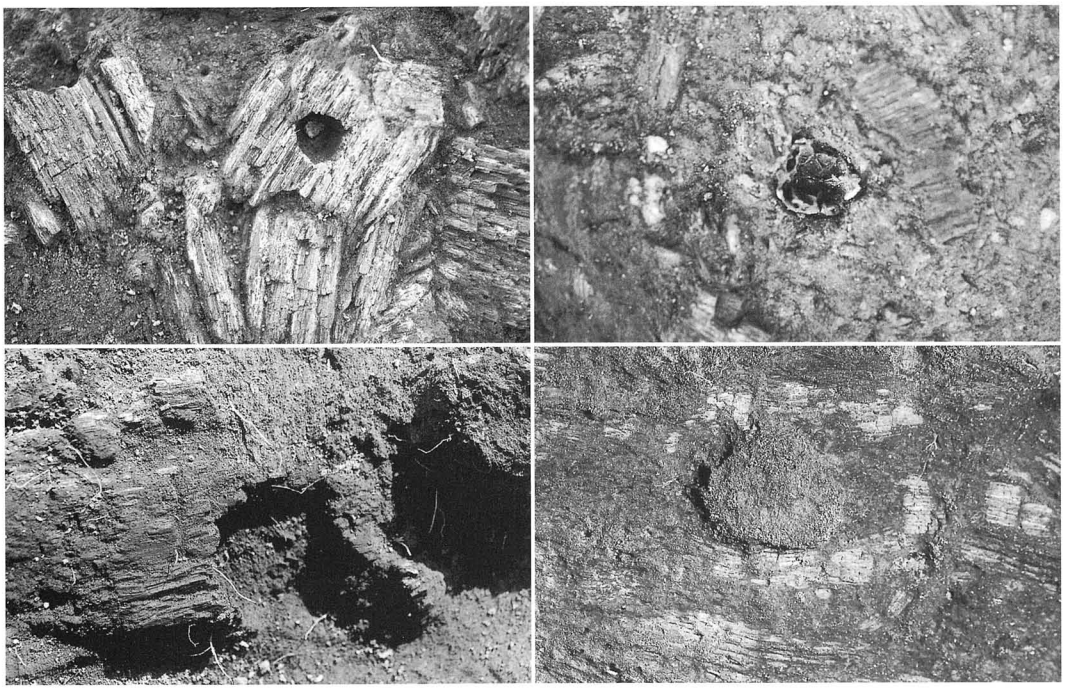
図版 7　2 号住居跡炉（東から）



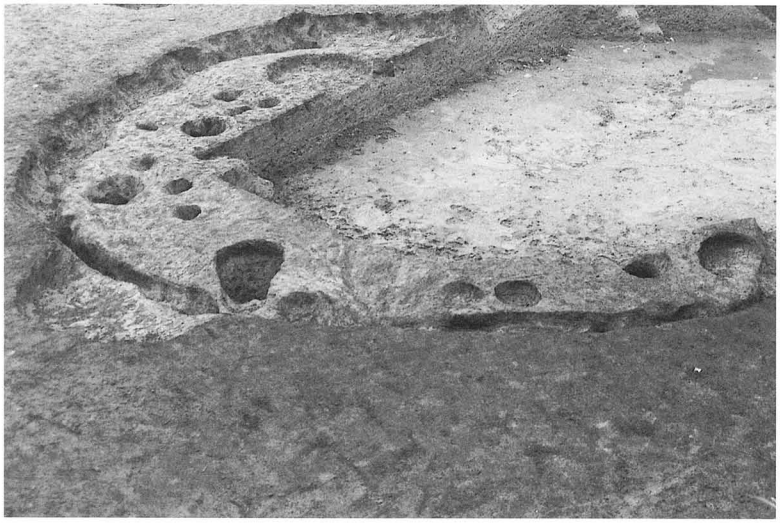
図版 6　2 号住居跡炭化材・遺物出土状況（東から）



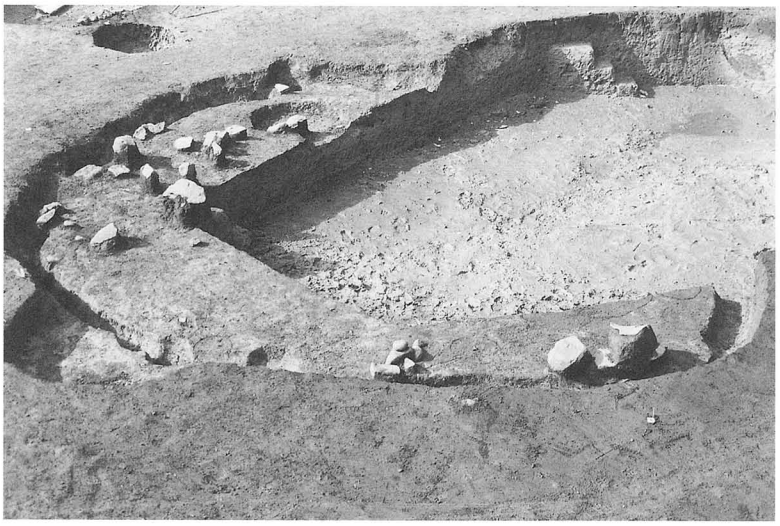
図版 8　2 号住居跡埋甕



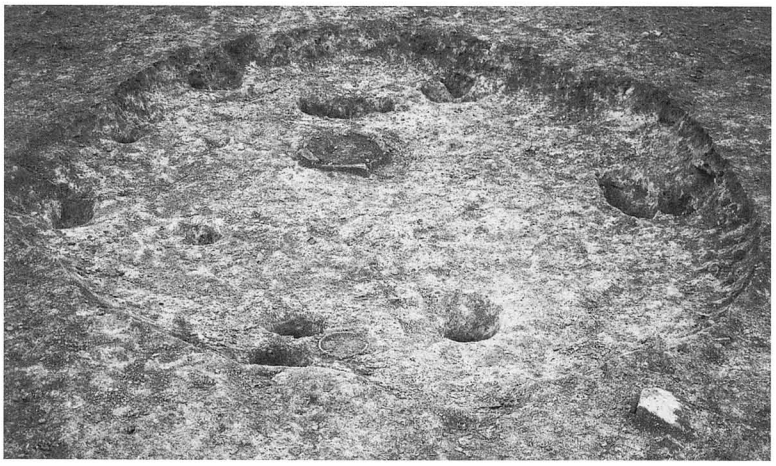
図版 9　2 号住居跡炭化材



図版10　3号住居跡（南から）



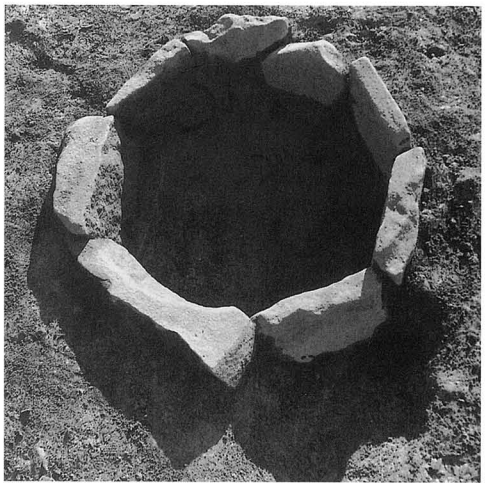
図版11　3号住居跡遺物出土状況



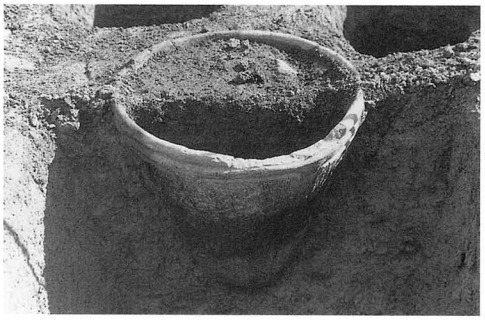
図版14　4号住居跡（東から）

図版12　3号住居跡上層遺物出土状況

図版13　3号住居跡1号土坑



図版15　4号住居跡炉



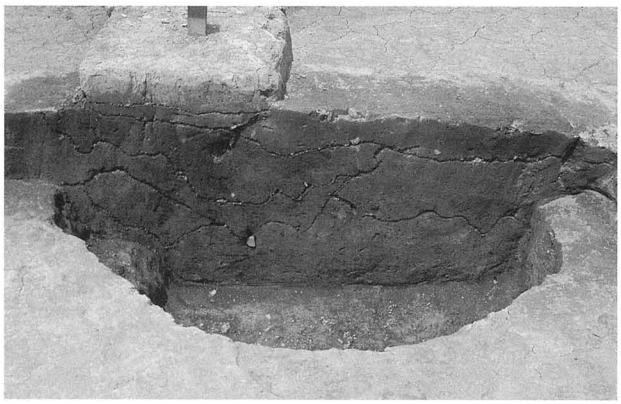
図版16　4号住居跡埋甕

図版17　1号掘立柱建物跡（北から）

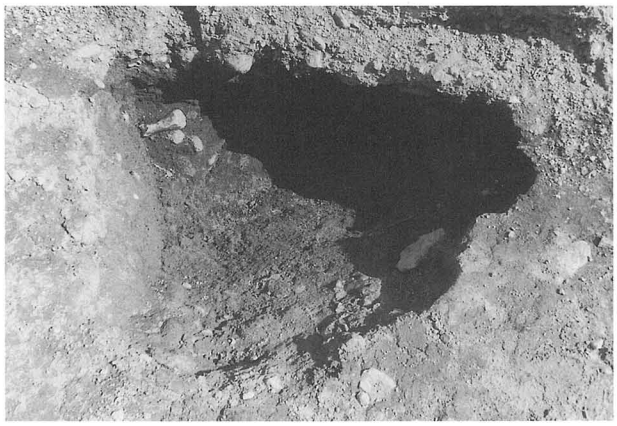
図版19　トータルステーション作業風景

図版18　2号掘立柱建物跡（南から）

図版20　1号土坑



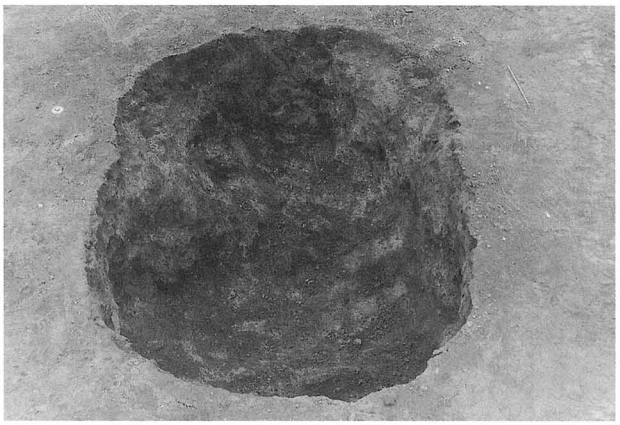
図版21　2号土坑



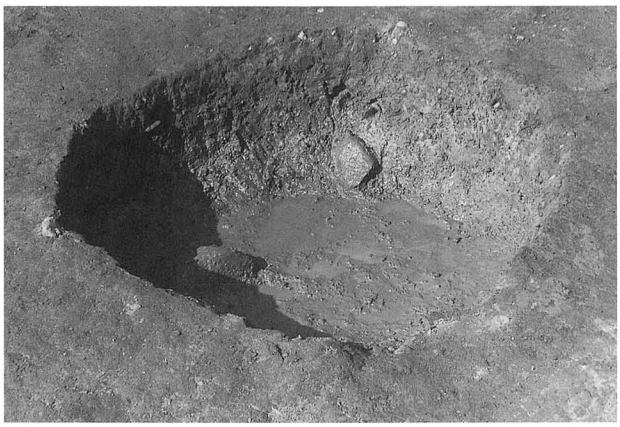
図版22　3号土坑

図版23　7号土坑

図版24　8号土坑



図版25　13号土坑



図版26　14号土坑

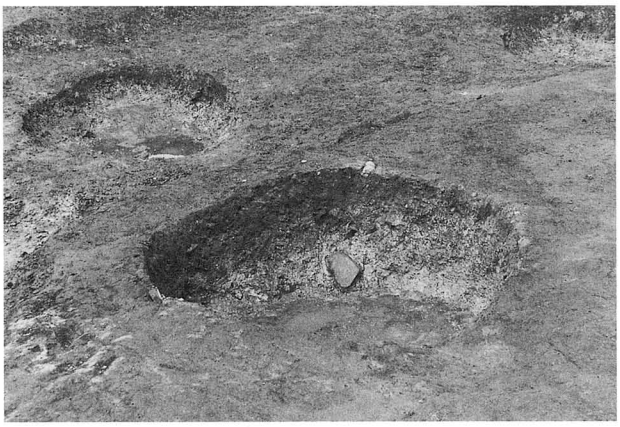
図版27　14号土坑礫出土状況

図版28　14号土坑遺物出土状況

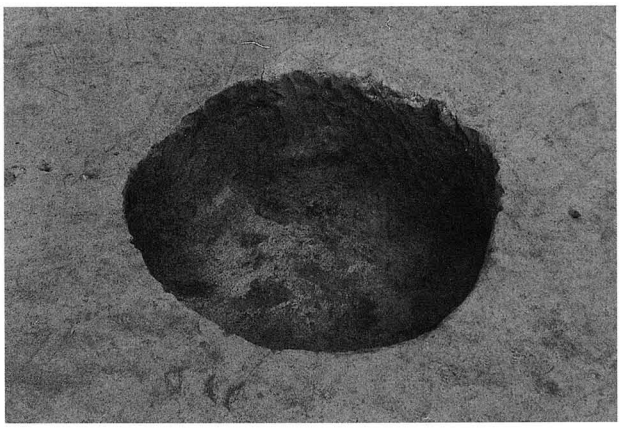
図版29　15号土坑

図版30　15号土坑礫出土状況

図版31　15号土坑遺物出土状況

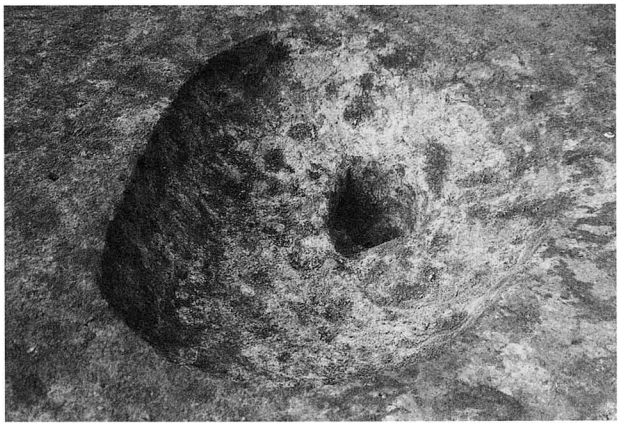


図版32　14・15・17号土坑

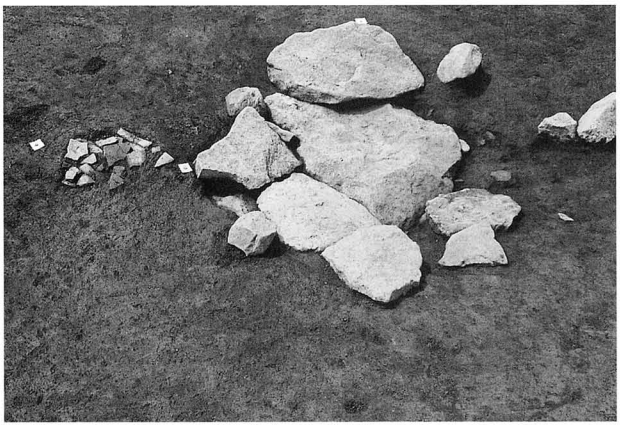


図版33　16号土坑

図版34　17号土坑



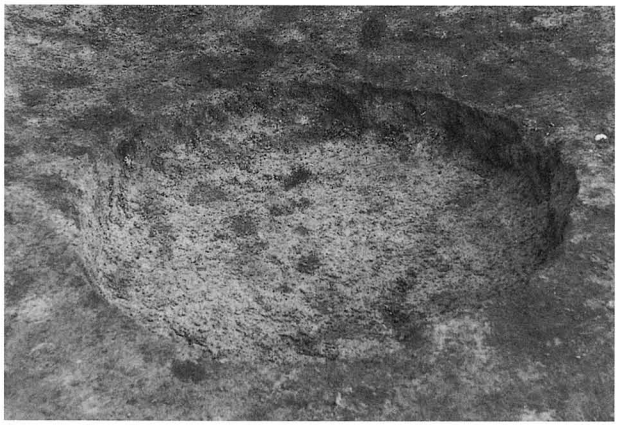
図版35　18号土坑



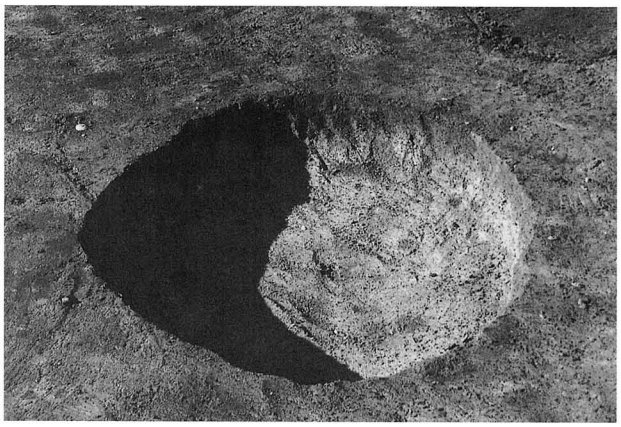
図版36　18号土坑上層礫出土状況

図版37　19号土坑

図版38　20号土坑

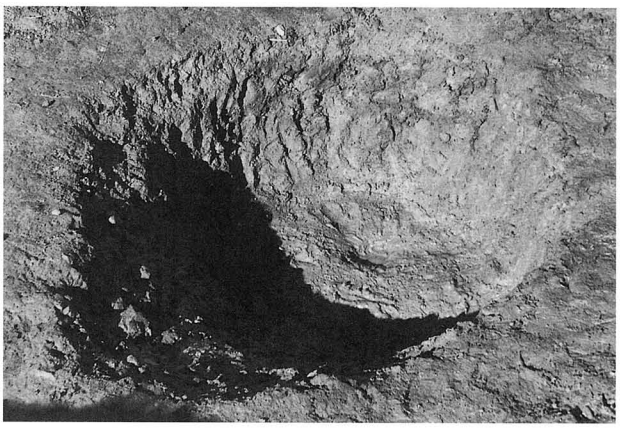


図版39　21号土坑



図版40　22号土坑

図版41　23号土坑

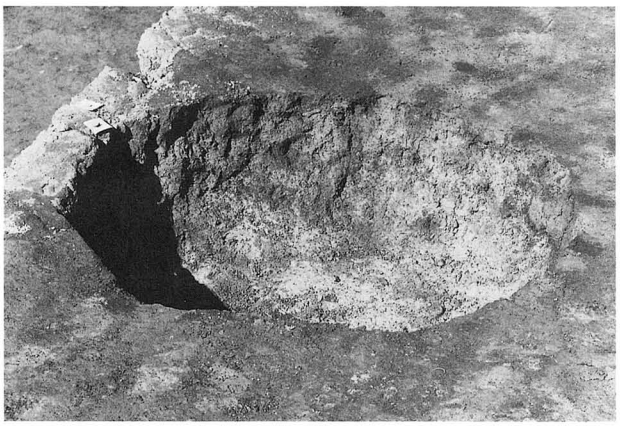


図版42　24号土坑

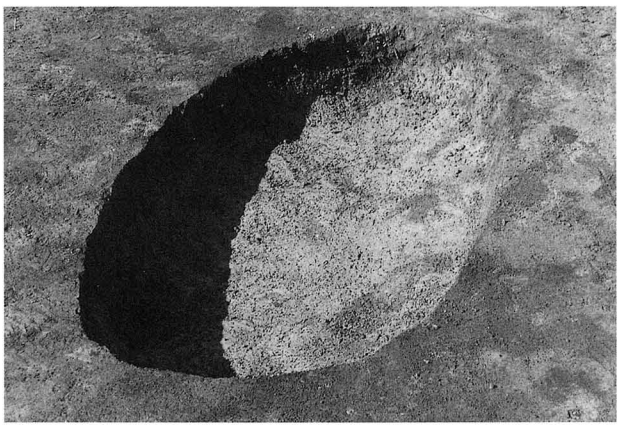
図版43　24号土坑遺物出土状況

図版44　25号土坑

図版45　25号土坑遺物遺物出土状況

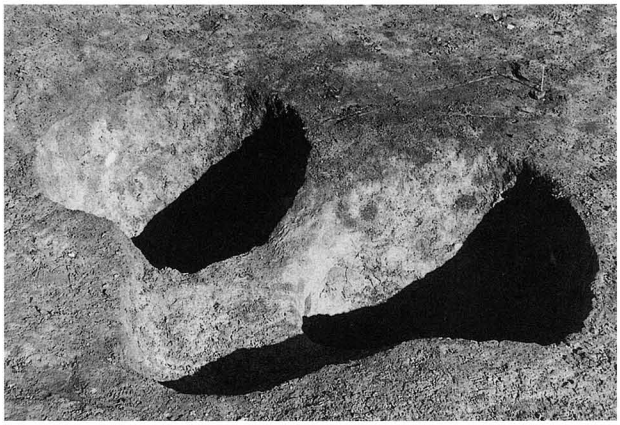


図版46　26号土坑

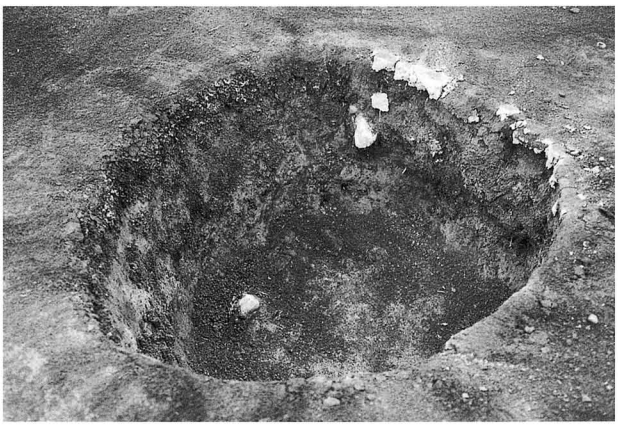


図版47　27号土坑

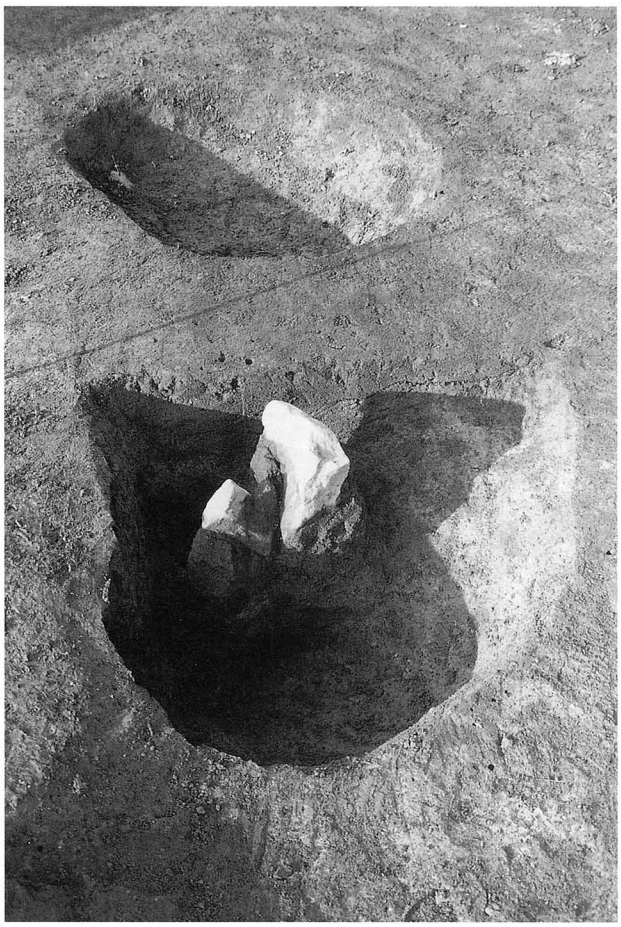
図版48　28号土坑



図版49　29号（下）・30号（上）土坑



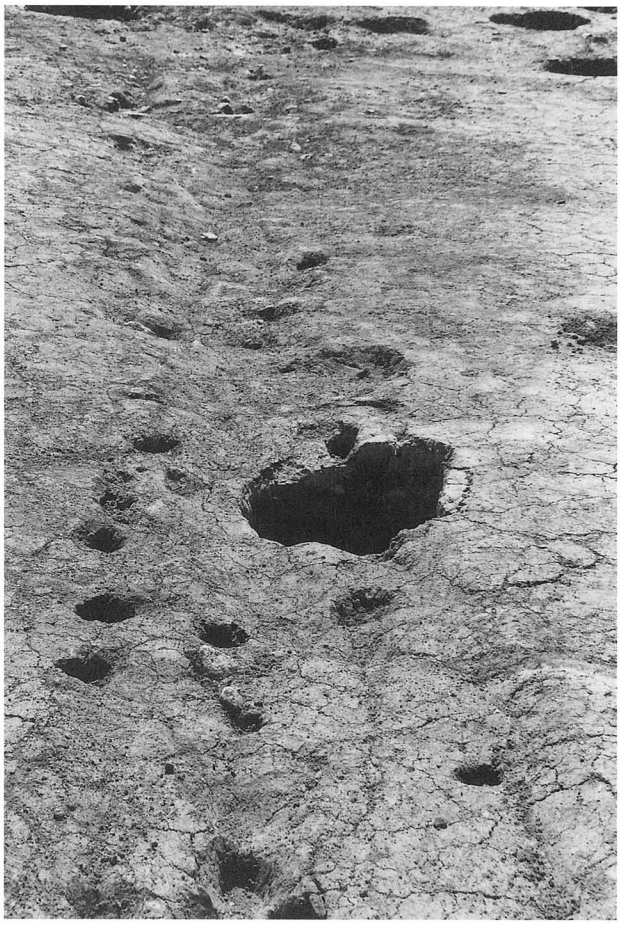
図版50　31号土坑



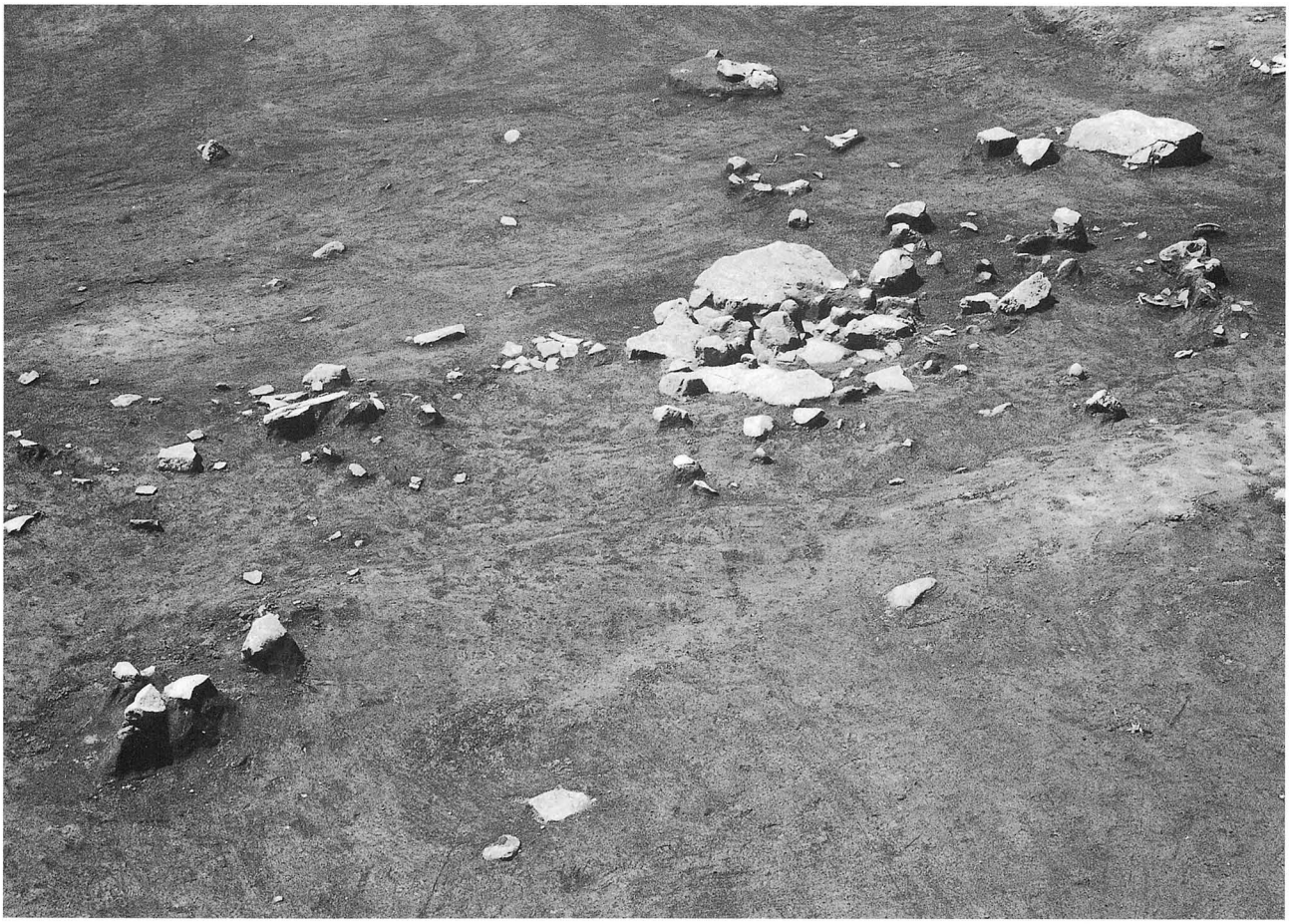
図版51　32号（上）・37号（下）土坑

図版52　40号土坑

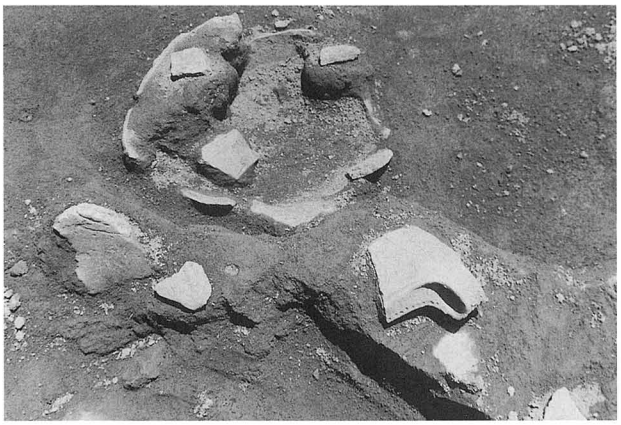
図版53　40号土坑礫出土状況



図版54　1号溝

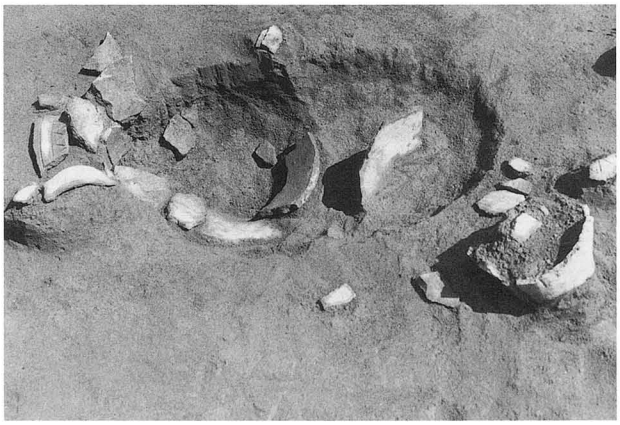


図版55　1号遺物集中区



図版56　1号遺物集中区出土状況

図版57　2号遺物集中区出土状況（1）



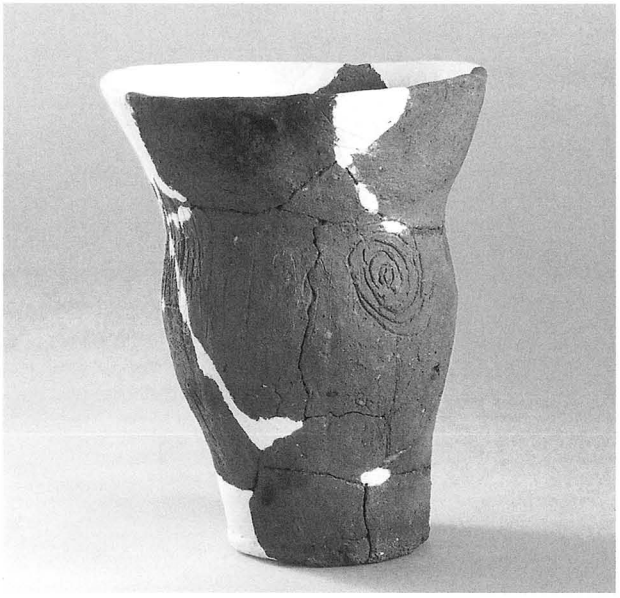
図版58　2号遺物集中区出土状況（2）

図版60　秋田小学校体験発掘

図版59　2号遺物集中区出土状況（3）

図版61　英和中学・高校体験発掘

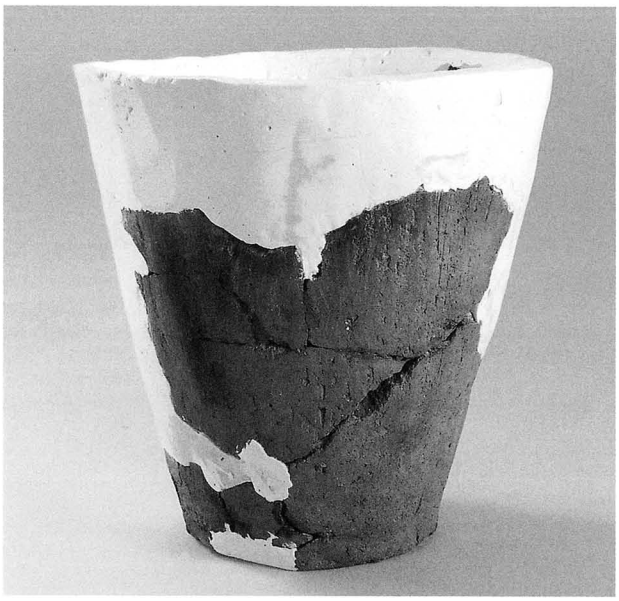
図版62　発掘調査作業員一同



図版63　1号住居跡上層出土土器

図版64　2号住居跡埋甕

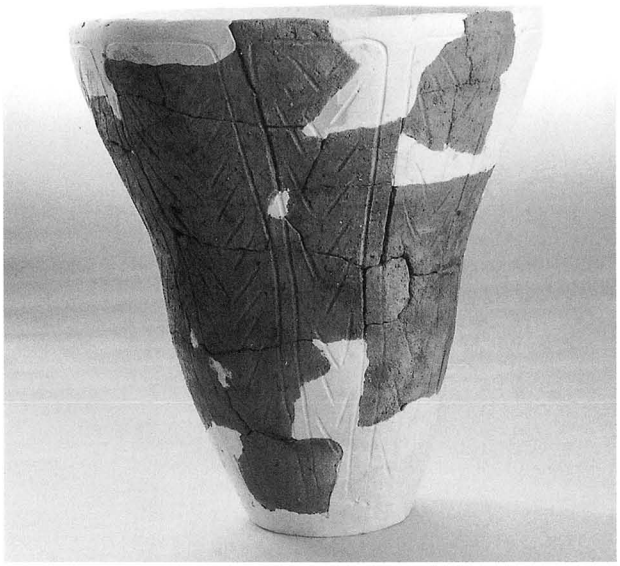
図版65　3号住居跡上層出土土器



図版66　3号住居跡出土土器

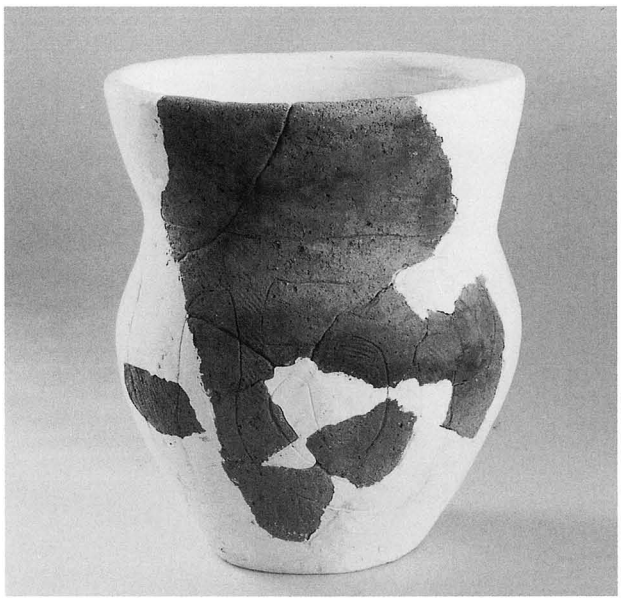
図版67　4号住居跡埋甕

図版68　14号土坑出土土器（1）



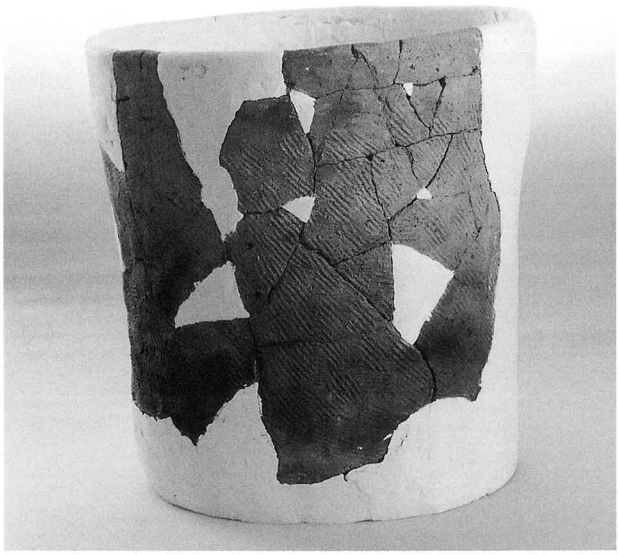
図版69　14号土坑出土土器（２）

図版70　14号土坑出土土器（３）



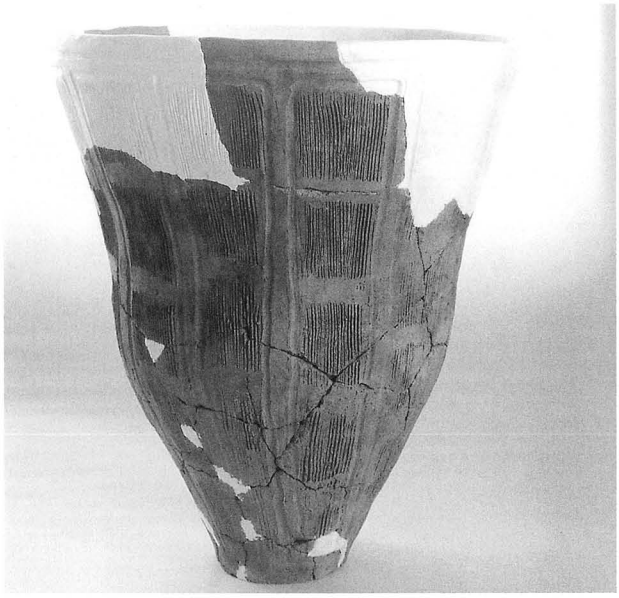
図版71　25号土坑出土土器

図版72　１号遺物集中区出土土器（１）

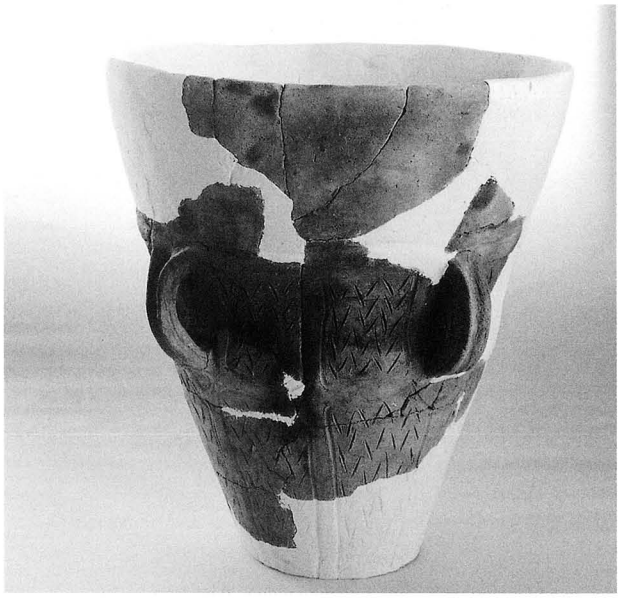


図版73　１号遺物集中区出土土器（２）

図版74　１号遺物集中区出土土器（３）

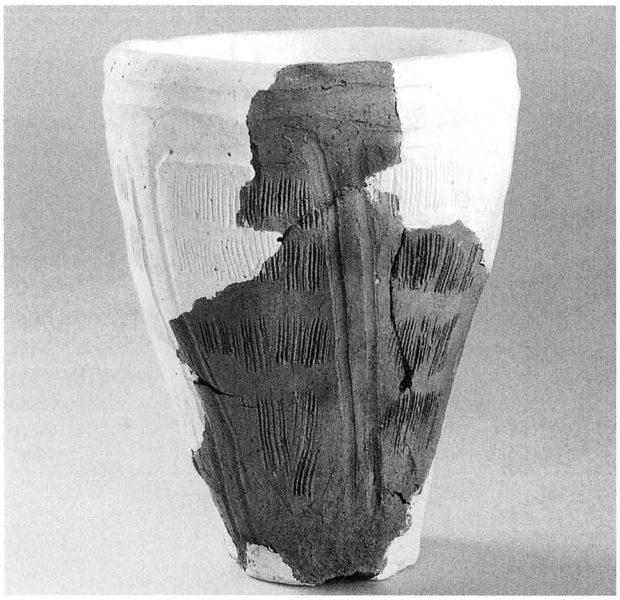


図版75　2号遺物集中区出土土器（1）

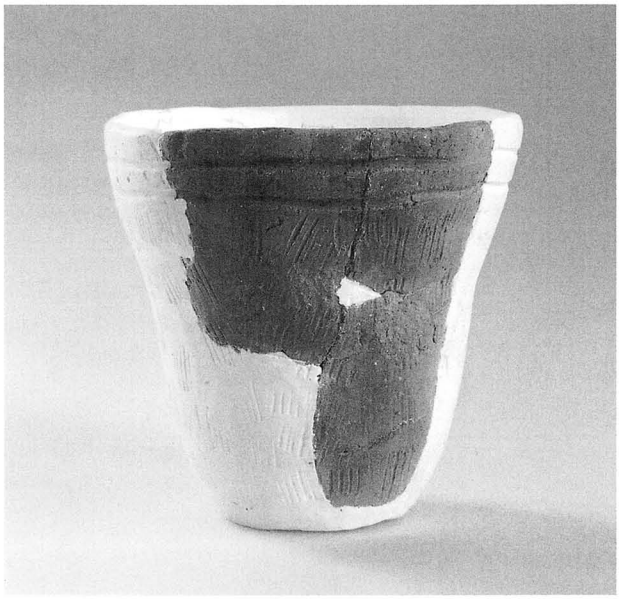


図版76　2号遺物集中区出土土器（2）

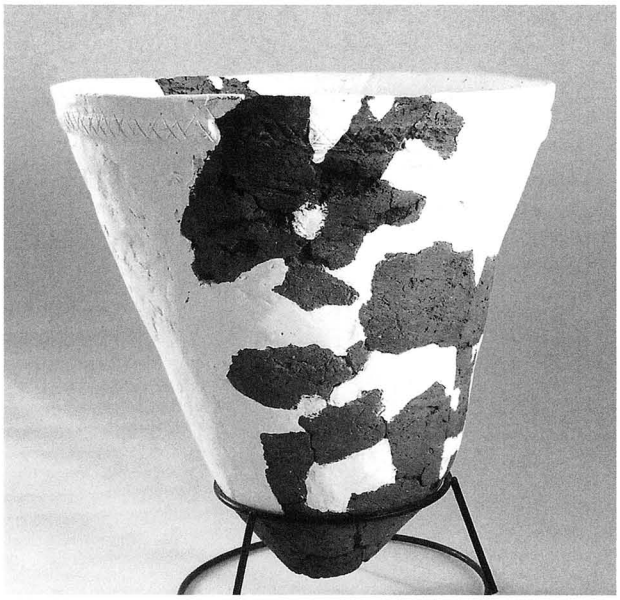
図版77　2号遺物集中区出土土器（3）



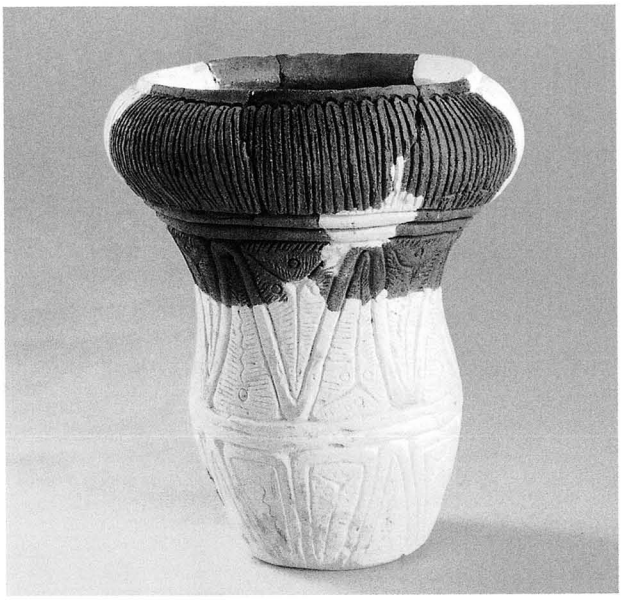
図版78　2号遺物集中区出土土器（4）



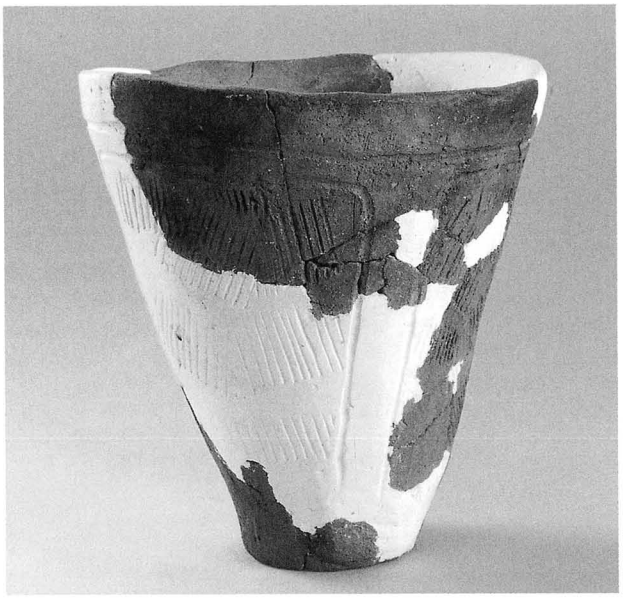
図版79　遺構外出土土器（1）



図版80　遺構外出土土器（2）

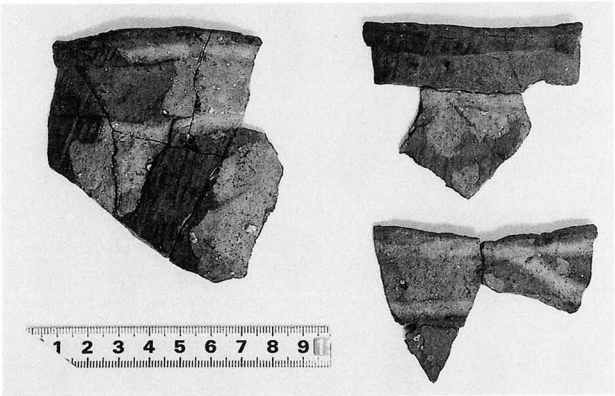


図版81　遺構外出土土器（3）

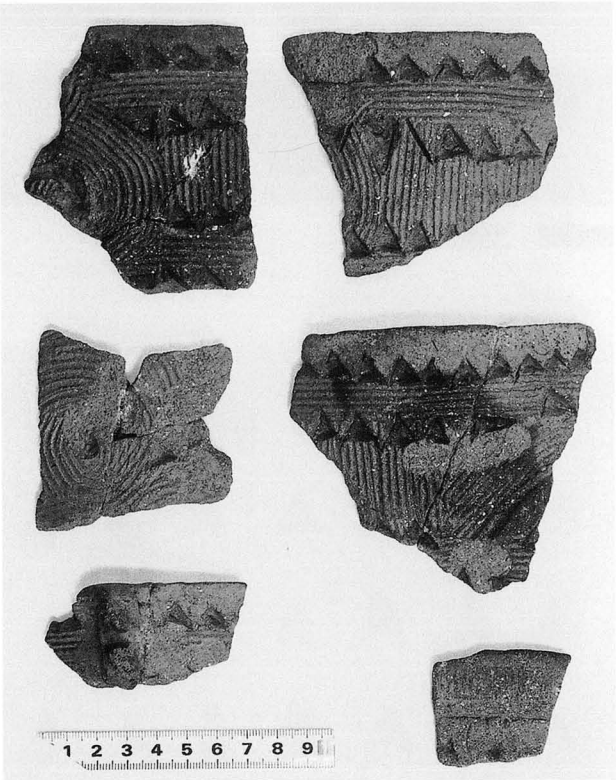


図版82　遺構外出土土器（4）

図版83　遺構外出土土器（5）

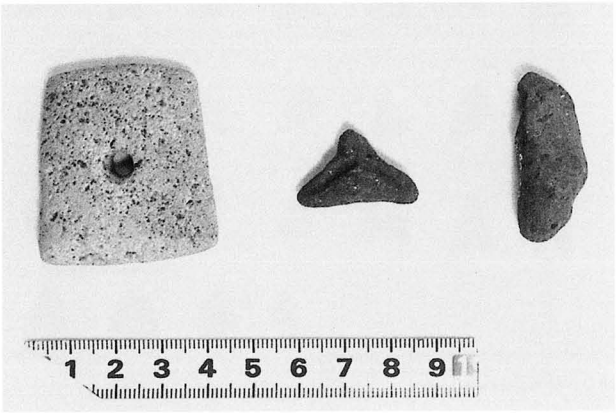


図版84　遺構外出土土器（6）

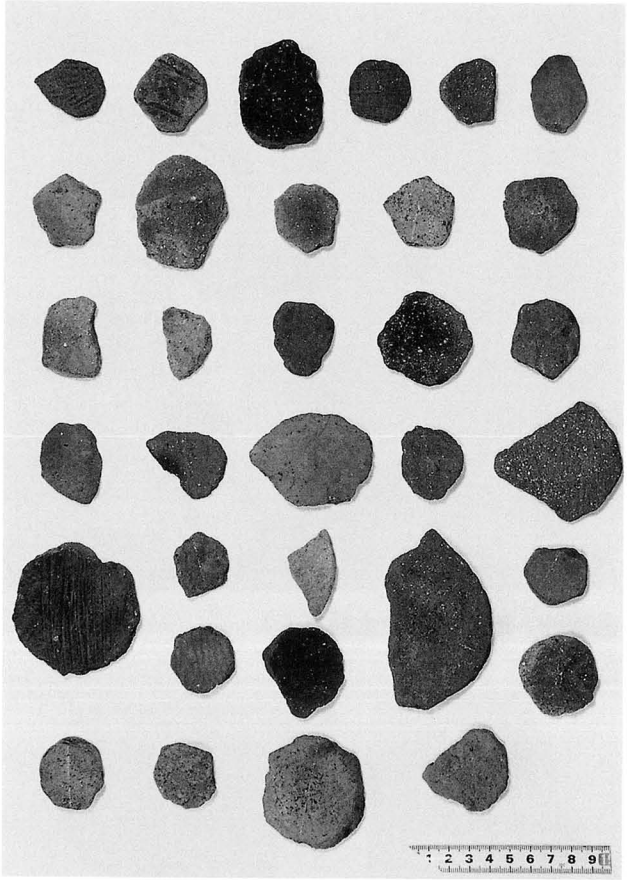


図版85　遺構外出土土器（7）

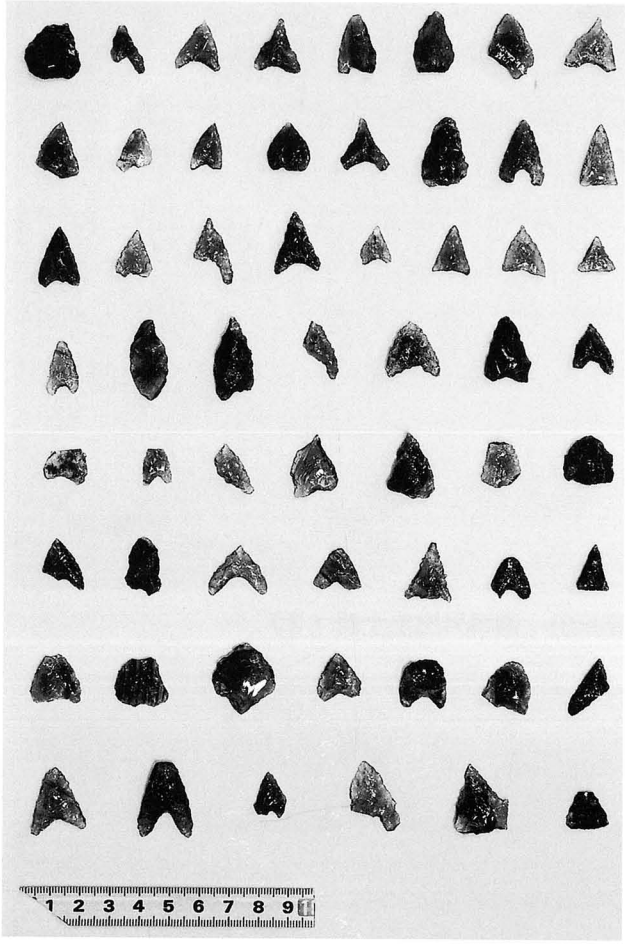
図版86　遺構外出土土器（8）、土製品



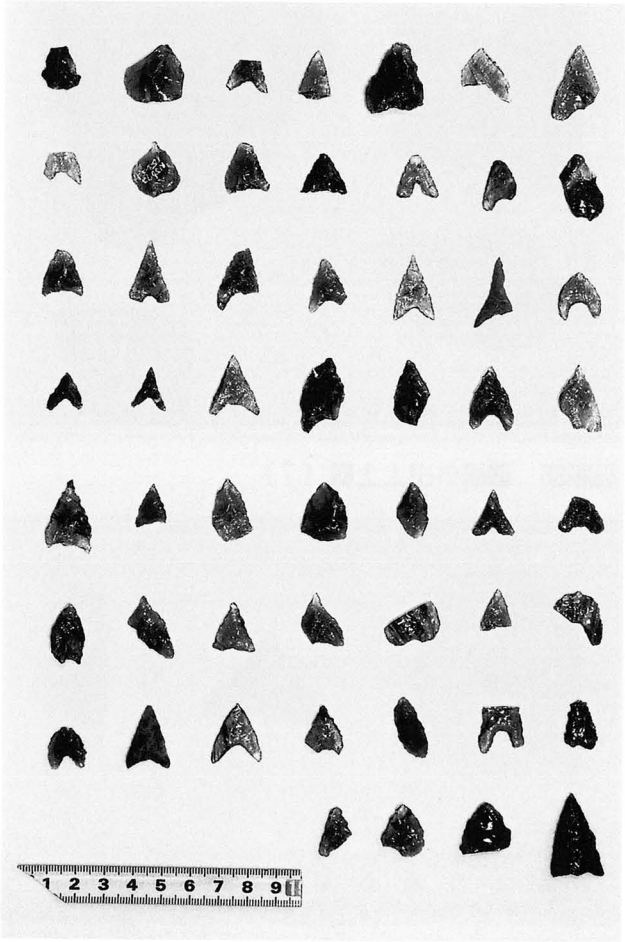
図版87　土製品、軽石製品



図版88　土製円盤



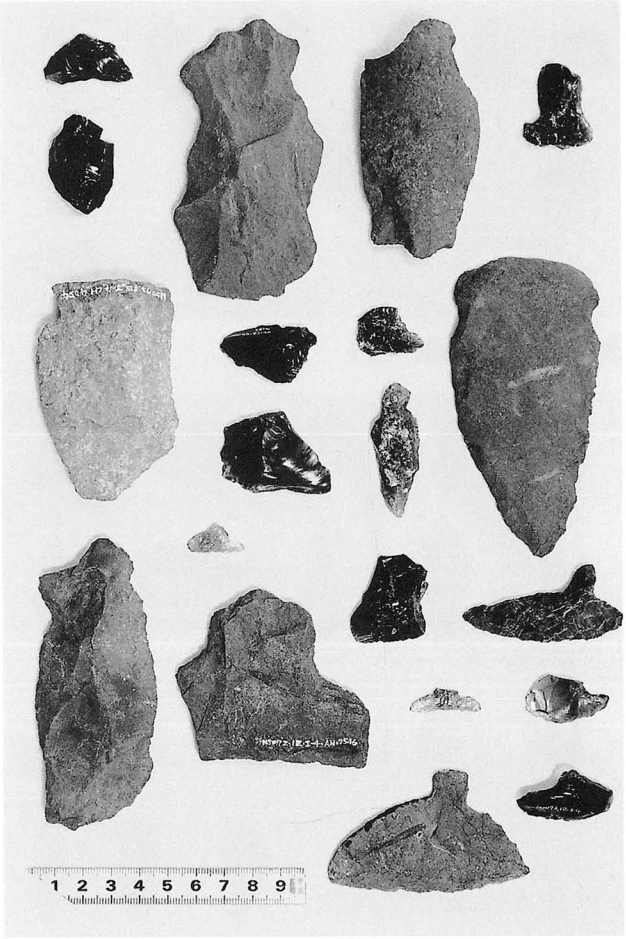
図版89　出土石器（1）



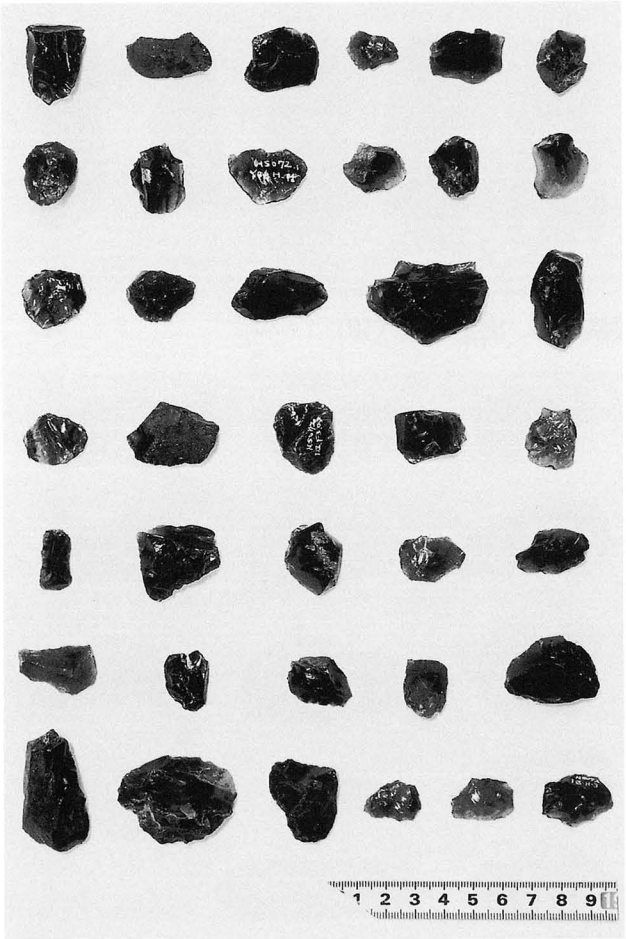
図版90　出土石器（2）

図版91　出土石器（3）

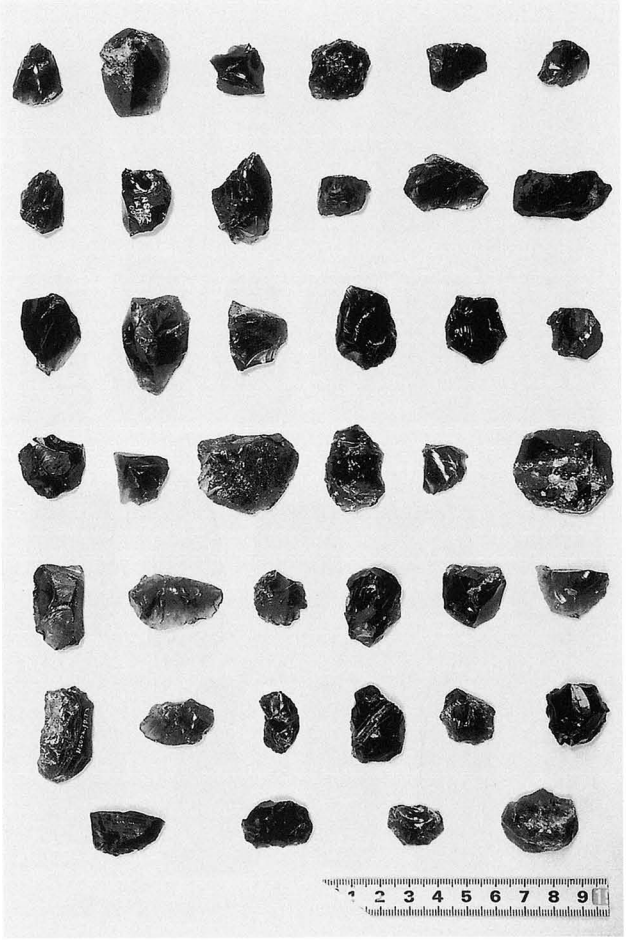
図版92　出土石器（4）



図版93　出土石器（5）



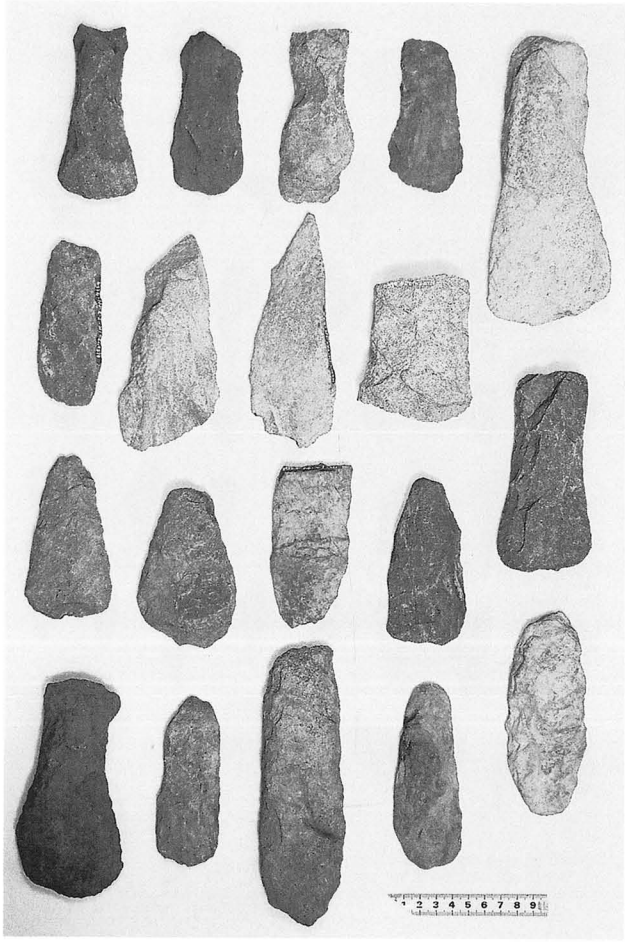
図版94　出土石器（6）



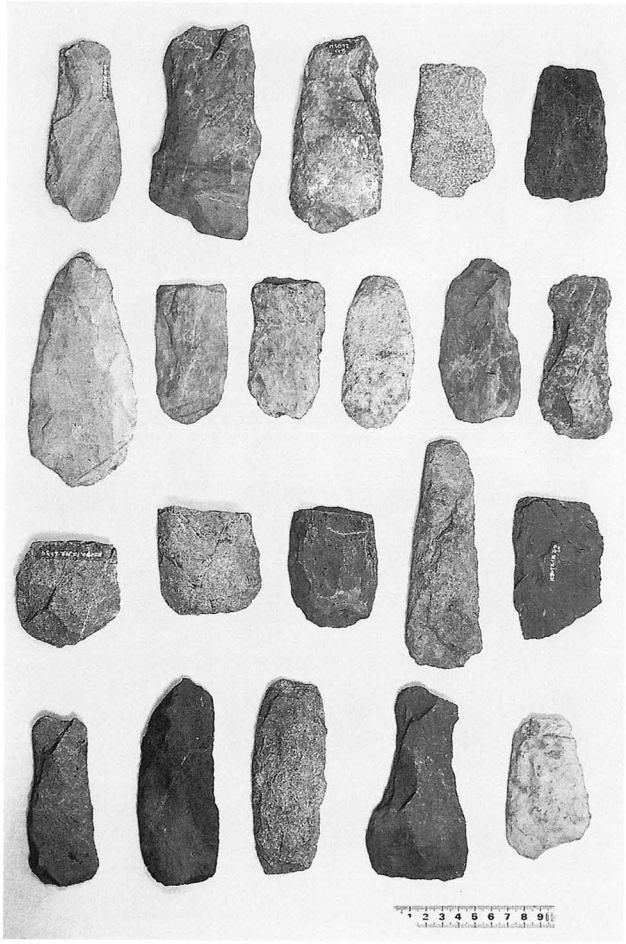
図版95　出土石器（7）

図版96　出土石器（８）

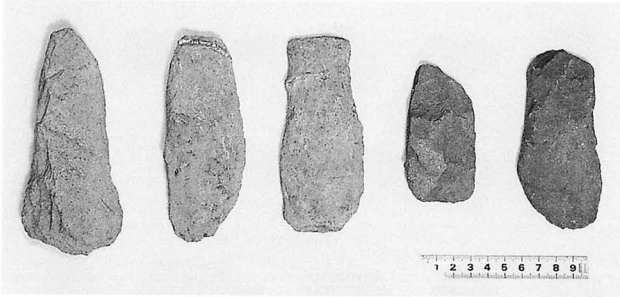
図版97　出土石器（９）



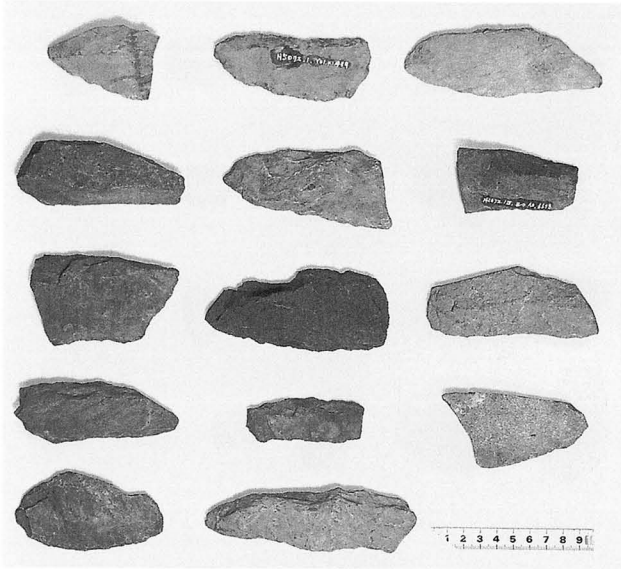
図版98　出土石器（10）



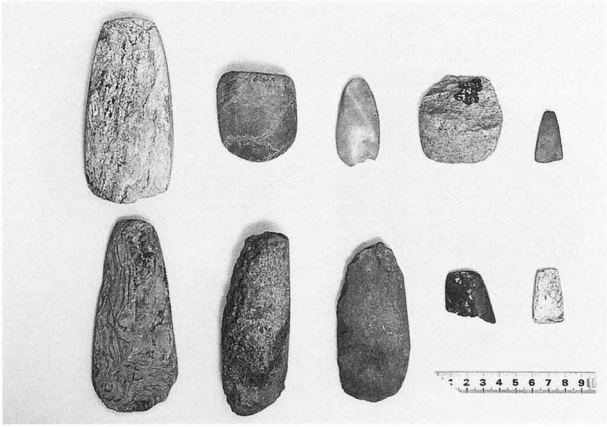
図版99　出土石器（11）



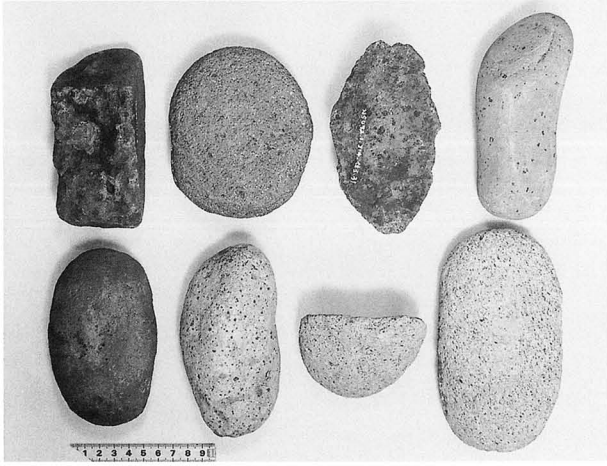
図版100　出土石器（12）



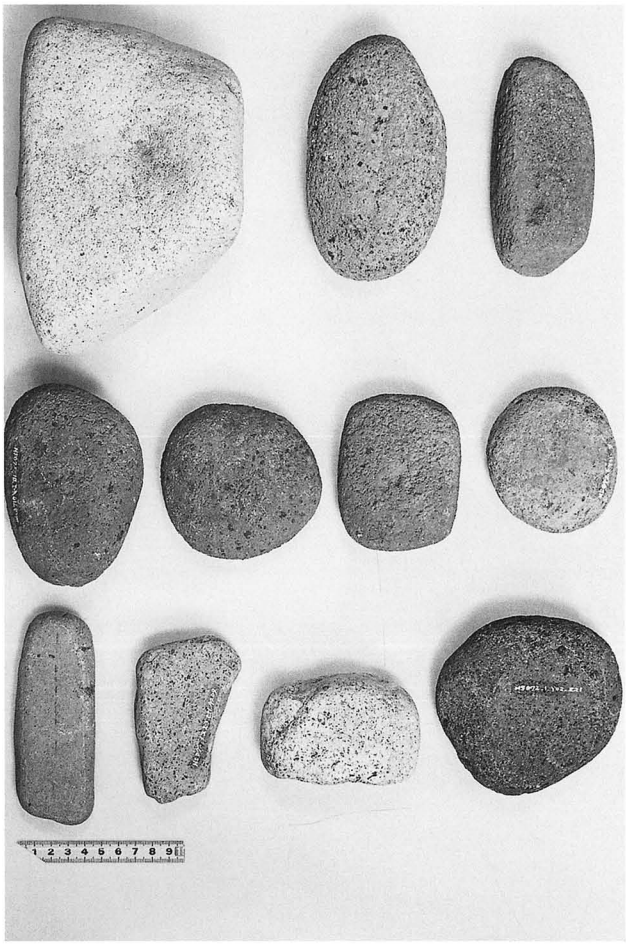
図版101　出土石器（13）



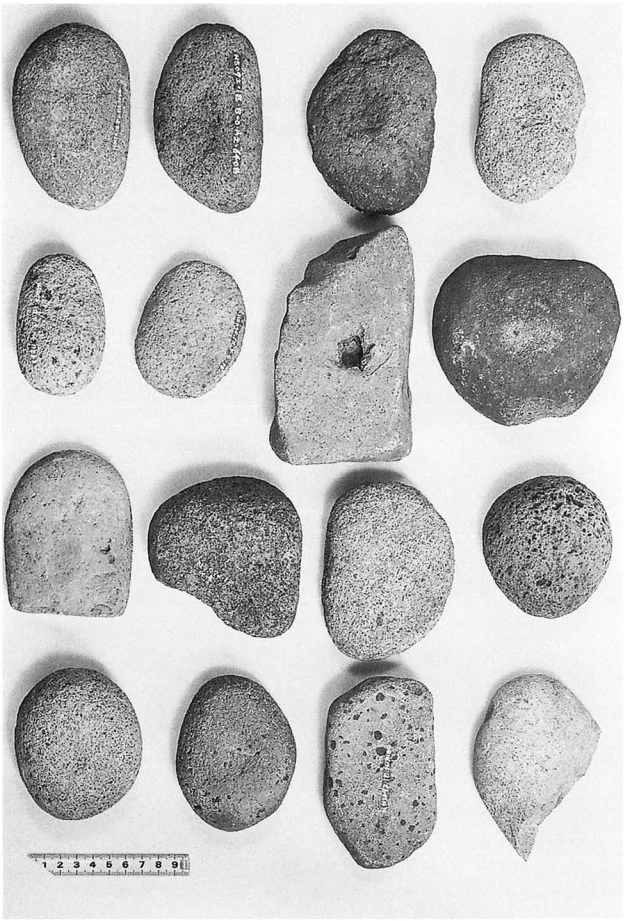
図版102　出土石器（14）



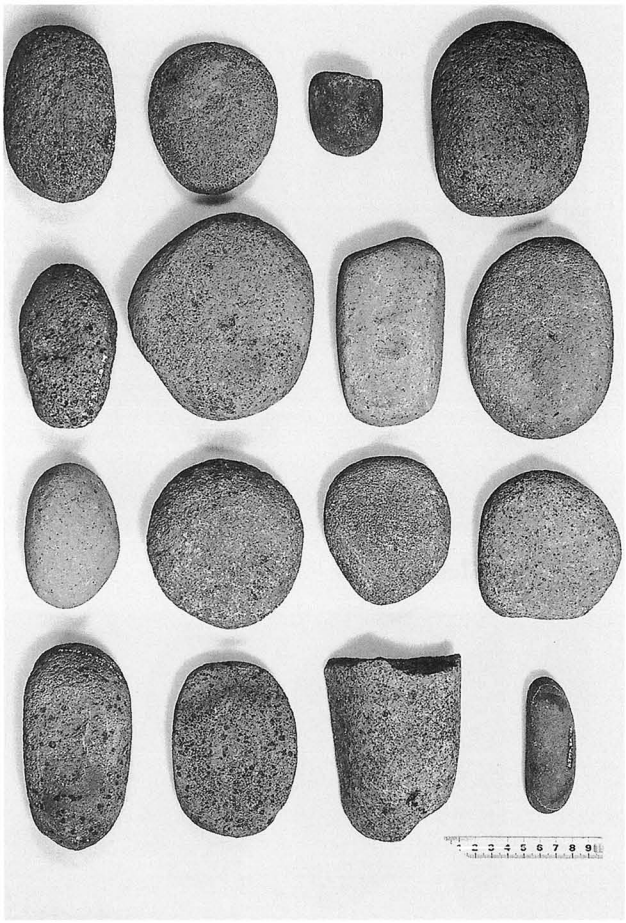
図版103　出土石器（15）



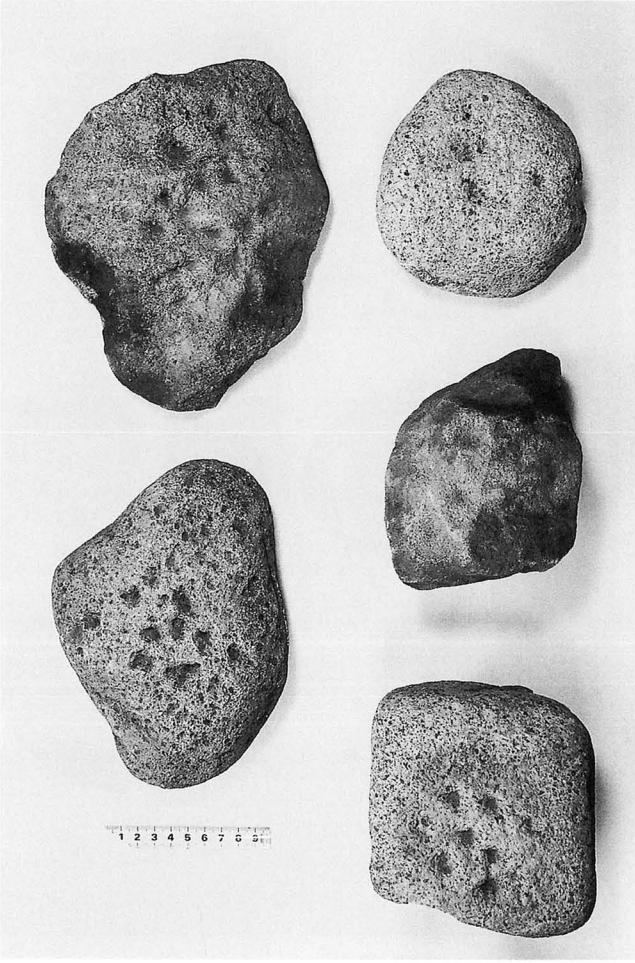
図版104　出土石器（16）



図版105　出土石器（17）

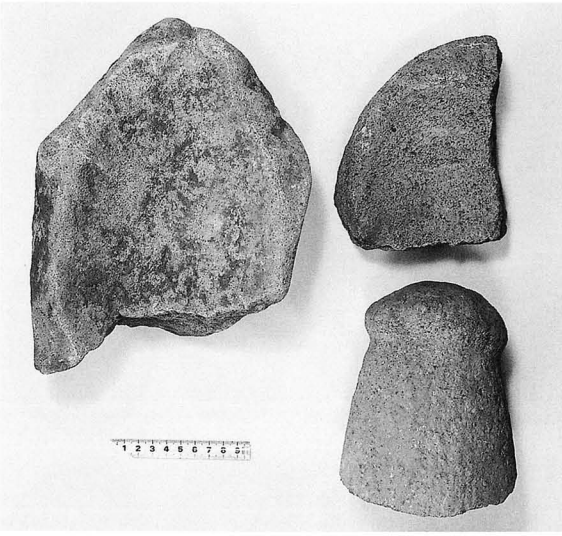


図版106　出土石器（18）



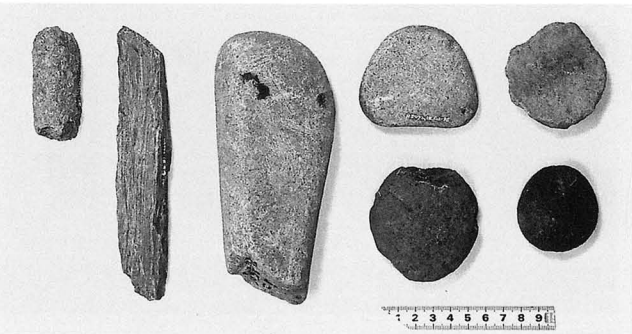
図版107　出土石器（19）

図版108　出土石器（20）

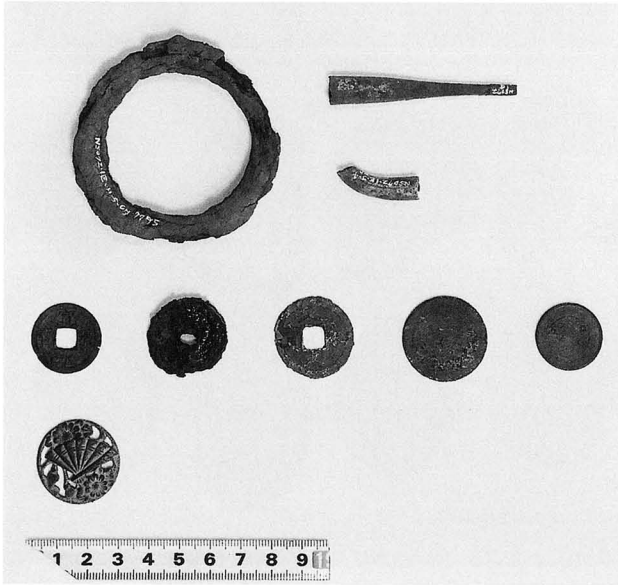


図版109　出土石器（21）

図版111　出土石器（23）



図版110　出土石器（22）



図版112　鉄製品、煙管、銭貨、簪

報告書抄録

フリガナ	エッチュウクボイセキ
書名	越中久保遺跡
副題	中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集
著者名	小宮山隆、吉田光雄
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19 ℡　0551－32－2111
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381－0012　長野県長野市柳原2133－５
発行日	2002年３月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町中丸字越中久保
遺跡番号	長坂町　No072
1／25,000地図名 位置・標高	長坂上条 北緯　35°54′37″　　東経　138°22′03″ 標高　787m
調査原因	中山間地域総合整備事業（八ヶ岳西部地区）
調査期間	1999年４月22日～1999年11月20日
調査面積	Ⅰ区：3,969m²、Ⅱ区：379m²、合計：4,348m²
主な時代	縄文時代、中世、近代以降
主な遺構	縄文時代（中期の竪穴住居跡４軒、掘立柱建物跡２棟、土坑30基、ピット202基） そ の 他（溝２条）
主な遺物	縄文時代（土器、石器、土製品、ヒスイ製玉未製品） 弥生時代（磨製石鏃） 中　　世（内耳土器） 近代以降（鉄製品、木製品、陶磁器、銭貨、煙管、簪）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書　第23集

越中久保遺跡

2002年３月25日　印刷
2002年３月31日　発行

編集・発行　長坂町教育委員会
〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19
TEL　0551－32－2111
印　　刷　鬼灯書籍株式会社
〒381－0012　長野県長野市柳原2133－5
TEL　026－244－0235㈹